



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Operations Manager i

ソフトウェア・バージョン:10.10

OMi ユーザ・ガイド

ドキュメント・リリース日 :2016 年 03 月 02 日
ソフトウェア・リリース日 :2015 年 12 月(英語版)

利用条件

保証

Hewlett Packard Enterprise の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限ります。本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。HPE は、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、HPE からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

著作権について

© Copyright 2015 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

AMD, AMD の矢印記号, および ATI は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Citrix® および XenDesktop® は Citrix Systems, Inc. および / またはその子会社の登録商標で、米国特許商標庁およびその他の国で登録されている可能性があります。

Google™ および Google Maps™ は、Google Inc. の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, および Intel® Xeon® は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

iPad® および iPhone® は、Apple Inc. の商標です。

Java は、Oracle およびその関連企業の登録商標です。

Linux® は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Lync®, Windows NT®, Windows® XP, Windows Vista®, および Windows Server® は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国の登録商標または商標です。

NVIDIA® は、NVIDIA Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。

Red Hat® は Red Hat, Inc. の米国およびその他の国の登録商標です。

SAP® は、SAP SE のドイツおよびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

文書の更新

本書のタイトル・ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す、ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、次の URL にアクセスしてください：
[https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=.](https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=)

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントを持っていない場合は、HP Passport の [サイン イン] ページで [アカウントを作成] ボタンをクリックします。

サポート

次の HPE ソフトウェア・サポート Web サイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com>

この Web サイトでは、連絡先情報と、HPE ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートについての詳細が掲載されています。

HPE ソフトウェア・サポートではセルフソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な、インタラクティブなテクニカル・サポート・ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。有償サポートをご利用のお客様は、サポート Web サイトの次の機能をご利用いただけます。

- 関心のある内容の技術情報の検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPE サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論に参加
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。HP Passport ID を登録するには、 <https://softwaresupport.hp.com> に移動して [登録] をクリックします。

アクセス・レベルの詳細に関しては次を参照してください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HPE ソフトウェア・ソリューション & 統合 およびベスト・プラクティス

HPE ソフトウェア・カタログの製品がどのように連動し、情報を交換し、ビジネス・ニーズを解決するかを調べるには、HPE Software Solutions Now (<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result-/facetsearch/document/KM01702710>) にアクセスします。

広範なベスト・プラクティス関連の文書および資料にアクセスするには、Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpin.hp.com/group/best-practices-hpsw>) にアクセスします。

コンテンツ

第1部: はじめに	9
第1章: OMi の移動および使用	11
第2章: OMi へのログイン	12
第3章: マイ・アカウント	16
第4章: ユーザ・エンゲージメント	17
第5章: イベント	22
イベントの優先度	23
イベント相関	25
イベント履歴	25
第6章: イベント・ブラウザ	28
イベント・ブラウザの設定	44
ビューおよびビューに基づく承認によるフィルタリング	46
ユーザまたはユーザ・グループへのイベントの割り当て	46
手動でのイベントの関連付け	48
手動で関連付けたイベントからの相関ルールの作成	48
Operations Orchestration ラン・ブックの起動	53
クローズしたイベントの表示	54
イベント・データのエクスポート	56
イベント詳細	58
全般	58
追加情報	62
ソース情報	63
アクション	64
注釈	66
カスタム属性	67
関連イベント	69
履歴	71
解決ヒント	72
命令	74
転送	75
イベント・フィルタ	78
フィルタリングの方法	79
ビューを使用したイベントのフィルタ方法	80
構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法	81
イベント・フィルタの表示および適用方法	81
シンプル・イベント・フィルタの定義方法	82
詳細なイベント・フィルタの定義方法	83
イベント・フィルタを共有する方法	85
フィルタ・マネージャのユーザ・インタフェース	85

[イベントフィルタの選択]ダイアログ・ボックスおよび[イベントフィルタの管理]ダイアログ・ボックス	86
[シンプルフィルタ]設定ダイアログ・ボックス	87
[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックス	90
詳細フィルタの[正規表現を編集]ダイアログ・ボックス	95
[フィルタ構成]ダイアログ・ボックスで使用する演算子	99
トラブルシューティングおよび制限事項	102
イベントの終了とアーカイブ用のツール	102
opr-archive-events コマンドライン・ツール	102
opr-close-events コマンドライン・ツール	105
第7章: 状況	109
イベント・タイプ・インジケータ	109
状況インジケータ	110
HI ベースの KPI の計算	111
注釈ツール	114
SiteScope へのドリルダウン	117
表示状態または非表示状態の子 CI の検索方法	118
サービス状況コンポーネント	119
ビジネス影響度コンポーネント	121
変更およびインシデント・コンポーネント	123
カスタム・イメージ・コンポーネント	127
地理マップ・コンポーネント	130
状況インジケータ・コンポーネント	138
状況トップ・ビュー・コンポーネント	141
Java ベースの状況トップ・ビュー・コンポーネント	145
階層コンポーネント	148
隣接マップ・コンポーネント	159
トップ・ビュー・コンポーネント	163
Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネント	171
トポロジ・マップ・コンポーネント	176
ビュー・エクスプローラ・コンポーネント	183
監視リスト・コンポーネント	186
第8章: アクション	190
第9章: ツール	194
第10章: 表示	198
第II部: マイ・ワークスペース	200
第11章: [マイワークスペース]を使用した環境の監視	201
定義済みページ	202
利用可能なコンポーネント	204
[マイワークスペース]のユーザ・インターフェース	209
マイ・ワークスペース	209
[ページギャラリー]ダイアログ・ボックス	212
[コンポーネントギャラリー]ダイアログ・ボックス	214

[新規コンポーネント]/[コンポーネントの編集]ダイアログ・ボックス	216
[ワイヤリング]ダイアログ・ボックス	218
第12章: [マイワークスペース]のセットアップ方法	220
ワークスペースでのユーザ権限	222
ページ・レイアウトの設定方法 - 使用例のシナリオ	222
外部コンポーネントの作成方法	225
動的 URL を使用したコンポーネントの作成方法 - 使用例のシナリオ	226
コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法	227
ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更方法	228
最大ページ数の変更方法	229
画面キャプチャ用アプレットを有効にする方法	229
[マイワークスペース]のトラブルシューティング	230
[マイワークスペース]のページおよびコンポーネントが欠落している	230
第III部: ダッシュボード	231
第13章: 監視ダッシュボード	233
第14章: 360° View	242
第15章: 経過時間ごとのKPI ダッシュボード	243
第16章: 投資利益率ダッシュボード	247
第IV部: 操作コンソール	252
第17章: イベント パースペクティブ	253
第18章: 状況 パースペクティブ	254
第19章: パフォーマンス パースペクティブ	255
OMi パフォーマンス・ダッシュボードについて	255
ビュー・エクスプローラ	256
[パフォーマンス]表示枠	256
パフォーマンス・ダッシュボードの設定	257
行およびグラフの設定	259
行の設定	260
グラフの設定	261
日付範囲パネルのオプション	262
グラフの編集	264
はじめに	274
タスク1: パフォーマンス・ダッシュボードの作成	274
タスク2: パフォーマンス・ダッシュボードの設定	274
タスク3: パフォーマンス・ダッシュボードの起動	274
パフォーマンス・ダッシュボードの設計	275
パフォーマンス・ダッシュボードの作成	275
パフォーマンス・ダッシュボードの設定	275
グラフの編集	276
パフォーマンス・ダッシュボードでのイベントの視覚化	281

インスタンスのパラメータ化を使用して、システム全体のさまざまなインスタンスを管理する	281
パフォーマンス・ダッシュボードの管理	283
パフォーマンス・ダッシュボードの起動	283
パフォーマンス・ダッシュボードの保存	284
パフォーマンス・ダッシュボードのエクスポート	285
グラフ・テンプレートのインポート	285
グラフの複製	286
パフォーマンス・ダッシュボードのインポート	286
パフォーマンス・ダッシュボードの共有	287
お気に入りの追加と使用	287
Business Value Dashboard(BVD)へのデータ転送	288
日付範囲パネルを使用して時間指定データを視覚化する	289
ダッシュボード JSON の使用	290
パフォーマンス・ダッシュボードの削除	291
リアルタイム・データの視覚化	291
データ・ソース	293
メトリクス	293
トラブルシューティング	294
追跡	294
ログ・ファイル	294
トラブルシューティング・シナリオ	294
第 20 章: OMi 状況ステータス	305
 ドキュメントのフィードバックの送信	 308

第1部: はじめに

OMi ユーザは、[ワークスペース]領域を使用して、環境の監視、イベントの管理、問題の解決を行います。OMi の[ダッシュボード]および[操作コンソール]ワークスペースには、これらを行うための標準設定ページがあります。ただし、管理者は、オペレータ用に特別に設計したページを提供することもできます。または、[マイワークスペース]に独自のページを作成する権限がユーザに付与されている場合もあります。

ワークスペースでは、各ページの設計ごとに異なる方法で情報が提供されます。これらのページ内で表示できる情報の種類は、管理者から割り当てられるユーザ・ロールによって決まります。たとえば、オペレータの Dave は自分の割り当てられているイベントと、表示が許可されているその他のイベントをドメイン間ビューに表示できます。たとえば、彼は企業の電子メール・サーバの保守を行います。別のオペレータに割り当てられているイベントを表示できる場合があります。

詳細

ワークスペースについて

[ワークスペース]領域は、次の主要セクションに分かれています。

- **マイワークスペース**:[マイワークスペース]では、ユーザおよび管理者は、OMi から標準設定ページを表示し、OMi コンポーネントや外部コンポーネントを含む新しいページを作成できます。各ページは[マイワークスペース]内にタブとして表示されます。詳細については、「[マイワークスペース\(209ページ\)](#)」を参照してください。
- **ダッシュボード**:ダッシュボードには、環境の状況の概要がグラフィック形式で表示されます。データはリアルタイムで更新されるため、常に最新の情報が表示されます。OMi には標準設定で次のダッシュボードがあります。
 - **監視ダッシュボード**:(以前のイベント・ダッシュボード)監視ダッシュボードには、監視対象となっている環境内のイベントの概要が表示されます。監視ダッシュボードの使用により、環境の状況をすばやく評価でき、また、注意を要する領域を特定できます。詳細については、「[監視ダッシュボード\(233ページ\)](#)」を参照してください。
 - **360°**:このページには、選択したビューの CI のステータスに関する概要が表示されます。ビュー内の CI の階層、各 CI に割り当てられた KPI、それらの KPI ステータスが表示されます。詳細については、「[360° View\(242ページ\)](#)」を参照してください。
 - **経過時間ごとの KPI**:経過時間ごとの KPI ダッシュボードでは、選択した KPI および CI のステータスまたは値を、経過時間ごとに表示できます。このレポートでは、多数のレイアウトから選択してステータスと値を一目で監視できます。詳細については、「[経過時間ごとの KPI ダッシュボード\(243ページ\)](#)」を参照してください。
 - **ROI ダッシュボード**:(投資利益率)ROI ダッシュボードには、OMi が受信したイベントと、オペレータによる介入が必要であったイベントで自動処理したものの比率が表示されます。自動処理されたイベントの比率が高いほど、OMi によるインフラストラクチャ管理への貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動で処理するコストがわかっている場合、この値を OMi に入力できます。この値

に基づき、OMiによって達成されたコスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMiによってIT環境が監視されている間の任意の指定期間について表示できます。詳細については、「[投資利益率ダッシュボード](#)」(247ページ)を参照してください。

- **操作コンソール**:[操作コンソール]ワークスペースは、オペレータが日常タスクを行う場所です。OMiには、理想的な作業ワークスペースのサンプルとして、事前定義された3つのパースペクティブが用意されています。
 - **イベント・パースペクティブ**:[Event Perspective]ページには、イベント関連の情報が別々の表示枠で表示されます。詳細については、「[イベント パースペクティブ](#)」(253ページ)を参照してください。
 - **状況パースペクティブ**:[Health Perspective]ページには、選択したイベントのトポロジ情報および状況インジケータが表示されます。この表示では、イベントを別の複数の観点から同時に確認でき、複雑な関係および依存関係をより明確にします。詳細については、「[状況パースペクティブ](#)」(254ページ)を参照してください。
 - **パフォーマンス・パースペクティブ**:[Performance Perspective]ページでは、パフォーマンス・ダッシュボードを作成、カスタマイズできます。詳細については、「[パフォーマンス パースペクティブ](#)」(255ページ)を参照してください。

第1章: OMi の移動および使用

OMi は、Web ブラウザで実行され、Web ブラウザのナビゲーション機能を使用します。たとえば、Web ブラウザの[戻る]ボタン、[進む]ボタン、ブックマーク、履歴、更新、全画面表示、印刷の機能を使用できます。

各 OMi UI には専用の URL があります。この URL をブックマークすれば、個々の UI にすばやくアクセスできます。


詳細

タイトル・バーとメニュー・バー

タイトル・バーには、ロゴ、Operations Manager i 製品の名前、メニューが表示されます。

[ワークスペース]および[管理]メニューのサブメニューは、展開したり、折りたたんだりできます。各サブメニューの展開や折りたたみの状態は、OMi で記録されているため、簡単に戻ることができます。

[メニュー項目の検索]フィールドを使用して、特定の項目のメニューを検索できます。入力内容に一致したメニュー項目が OMi によって提案されます。



 ユーザ・メニューには、現在ログインしているユーザの名前が表示されます。このメニューを使用して、すべてのユーザ固有の領域(アカウントまたはパスワード情報など)にアクセスできます。また、ユーザ・メニューを使用して、OMi からログアウトすることもできます。

[ヘルプ]メニューでは、OMi オンライン・ヘルプやインターネットのほかのリソースにアクセスできます。さらに、このメニューから OMi のバージョンを調べることもできます。

ブレッドクラム

ブレッドクラムは、OMi での現在位置を追跡できます。ブレッドクラムでは、現在のページまでに移動してきた各ページに戻るためのリンクが提供されます。

ブレッドクラムのいずれかのリンクをクリックして、複数レベルのコンテキスト内で以前のページを表示できます。

ブレッドクラムを非表示にするには、[ヘルプ]メニューの左側にある[折りたたむ]ボタンをクリックします。再度表示するには、[展開]をクリックします。

第2章：OMi へのログイン

本項では、OMi へのログイン手順について説明します。

詳細

本項の内容

- 「OMi へのアクセス」(12ページ)
- 「要件」(12ページ)
- 「オートコンプリート」(12ページ)

OMi へのアクセス

OMi へのアクセスは、OMi サーバにネットワーク接続されている任意のコンピュータから、サポートされている Web ブラウザを使用して行います。

ユーザに許可されるアクセス・レベルは、ユーザ権限によって異なります。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

標準設定では、OMi でのシングル・サインオン(SSO)は無効になっています。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

要件

ブラウザ要件および OMi を表示するための最低要件の詳細については、OMi インストールとアップグレード・ガイドを参照してください。

オートコンプリート

主要なブラウザでは、それぞれ Web フォームで autocomplete=off を無視するという仕様を採用しています。

Internet Explorer : <http://blogs.msdn.com/b/ieinternals/archive/2013/09/24/internet-explorer-11-changelist-change-log.aspx>

Firefox : https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=956906

このため、OMi にログインすると、ブラウザの設定に応じて、ログイン資格情報を記憶するかどうかを尋ねるメッセージが表示されることがあります。

OMi のエンド・ユーザで、ログイン資格情報を記憶することを望まない場合は、記憶する必要はありません。ブラウザによってメッセージが表示されたら、ログインとパスワードをブラウザに保存しないと答えてください。多くの場合、ブラウザに、今後このサイトではこのメッセージを表示しないように指示できます。

この機能(ログイン情報の記憶)を完全に無効にするには、多くの場合、パスワードを記憶するかどうかを尋ねるメッセージを表示しないようにブラウザを設定できます。この設定を行うには、ブラウザ自体に指定する方法と、会社の IT ポリシーとして策定する方法があります。詳細については、ブラウザのドキュメントを参照するか、システム管理者にお問い合わせください。

タスク

本項の内容

- [「OMi へのログイン方法」\(13ページ\)](#)
- [「OMi からログアウトする方法」\(13ページ\)](#)

OMi へのログイン方法

1. ブラウザで、次の URL を入力します。

`https://<server_name>.<domain_name>/omi`

説明

<server_name> と <domain_name> は、OMi サーバの完全修飾ドメイン名 (FQDN) です(例: `https://server1.domain1.ext/omi`)。サーバが複数ある場合、または OMi が分散アーキテクチャにデプロイされている場合は、必要に応じて、ロード・バランサまたはゲートウェイ・サーバの URL を指定します。

注: ログオン・バナー機能が有効になっている場合は、この時点で、攻撃を防ぐため作業内容が監視されることを伝える免責条項が表示されることがあります。この通知を確認してログオンページに進むには、[OK] ボタンをクリックします。

2. ログオン・ページで、ログオン名とパスワードを入力します。初回アクセスの場合は、管理者のユーザー名 (「admin」) とパスワードを使用できます。

注意: 初回のログインが完了したら、不正な侵入を防ぐためにシステムのスーパーユーザーがこのパスワードをすぐに変更することをお勧めします。ユーザー・パスワードの変更方法の詳細については、[「マイ・アカウント」\(16ページ\)](#)を参照してください。ログイン名は変更できません。

注: パスワードは構成ウィザードで設定します。

ログインすると、ページの右上 (上部のメニュー・バーの下) にログイン名が表示されます。

注: Lightweight シングル・サインオン (LW-SSO) が無効になっている場合、ログイン URL に <ドメイン名> 構文を追加する必要はありません。LW-SSO の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

OMi からログアウトする方法

セッションが完了したら、不正な侵入を防ぐためにログアウトすることをお勧めします。

 ユーザー・メニューの[ログアウト]をクリックします。

ヒントとトラブルシューティング

ログイン・トラブルシューティング

ログインの問題を解決するには、エラー警告ダイアログ・ボックスに表示されるエラー番号を使用して、次の表の考えられるログイン・エラーの原因を参照します。トラブルシューティング情報の詳細については、「[セルフソルブ技術情報の検索](#)」を参照してください。

エラー番号	問題 / 考えられる原因	解決方法
LI001	OMi からゲートウェイ・サーバで実行されているアプリケーション・サーバに接続できない。次のような原因が考えられます。 <ul style="list-style-type: none"> アプリケーション・サーバがダウンしている。 OMi サービスに問題がある。 アプリケーション・サーバから要求されたポートが別のアプリケーションで使用されている。 	<p>解決策 1: ゲートウェイ・サーバ上のすべてのアプリケーションを閉じて、マシンを再起動します。</p> <p>解決策 2: ゲートウェイ・サーバ・マシンで実行されているほかのアプリケーション(スタートアップ・ディレクトリから実行されるアプリケーション、アプリケーション・サーバの別のインスタンス、MSDE または Microsoft SQL Server、そのほかのプロセスなど)でこのポートが使用されていないことを確認します。</p>
LI002	ゲートウェイ・サーバで実行されているアプリケーション・サーバが応答しない、または適切にインストールされない。	OMi を再起動します。
LI003	管理データベースが壊れている(ユーザ・レコードが誤ってデータベースから削除された場合など)	別のユーザとしてログインするか、OMi 管理者に新しいユーザを作成してもらいます。
LI004	RMI(Remote Method Invocation)例外が原因で Tomcat サブレット・エンジンとアプリケーション・サーバ間の接続に失敗する。これは、アプリケーション・サーバへの RMI 呼び出しの問題に原因があると考えられます。	<p>どのアプリケーション・サーバ・ポートも別のプロセスで使用されていないことを確認します。また、RMI ポートがバインドされていることも確認します。</p> <p>ポートの詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p>


エラー番号	問題 / 考えられる原因	解決方法
LI005	<p>OMi ログインに失敗またはハングする。次のような原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理データベースに接続できない。 • 現在のユーザにプロファイルへのアクセス権がない。 • 認証方法が適切に設定されていない。 	<p>管理データベースへの接続が良好であることを確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Web ブラウザで、 https://localhost:29000 と入力して JMX コンソールに接続します。 2. リンク[System]> [JMX MBeans]> [Topaz]> [Topaz:service=Connection Pool Information]をクリックします。 3. java.lang.String showConfigurationSummary() を探して、[起動]をクリックします。 4. [Active configurations in the Connection Factory]で、管理データベースの該当する行を見つけます。 5. 管理データベースのカラム[Active Connection]や[Idle Connection]の値が0よりも大きいことを確認します。 6. データベース接続に問題がある場合は、データベース・マシンが起動して実行されていることを確認します。必要に応じ、セットアップおよびデータベース設定ユーティリティを再実行します。 <p>解決策 3: ユーザに OMi にアクセスするための適切な権限があることを確認します。ロールおよび権限の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p> <p>解決策 4: 認証方法が適切に設定されていることを確認します。認証方法の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p>

第3章: マイ・アカウント

[マイアカウント]ダイアログ・ボックスを使用して、個々のユーザは名前やタイム・ゾーンを変更できます。また、電子メール・アドレスを入力することもできます。

ここで行った変更は、[ユーザ、グループ、およびロール]のユーザの設定にも適用されます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

利用方法

 ユーザ・メニューの[マイアカウント]をクリックします。

タスク

[マイアカウント]の情報を更新する方法


1. [名前]フィールドに新しい表示名を入力します。
2. 任意指定。[電子メール]アドレスを入力します。現在、この電子メール・アドレスは OMi で使用されません。
3. 自分の場所に応じて、[タイムゾーン]を選択します。タイム・ゾーンは、イベントの日時([受信時間]や[作成時間]など)を表示するためにイベント・ブラウザで使用される形式に影響します。[「イベント・ブラウザ」\(28ページ\)](#)も参照してください。
4. [適用]をクリックして、変更内容を保存します。

第4章: ユーザ・エンゲージメント

ユーザ・エンゲージメントでは、ゲーミング・テクノロジーを使用して、作業に対する関心を高め、OMi の使用方法を学習して徐々に知識が増えていく過程で自分の業績を確認できます。

ユーザ・エンゲージメントの通常のすべての参加者(ユーザ・エンゲージメント管理権限のない OMi ユーザ)は、[ワークスペース]領域の[ユーザエンゲージメント]ページから[タイムライン]、[エキスパート]、[業績]ページにアクセスできます。

利用方法

 ユーザ・メニューの[ユーザエンゲージメント]をクリックします。


詳細

本項の内容

- 「エキスパート」(17ページ)
- 「業績」(18ページ)
- 「タイムライン」(18ページ)
- 「[参加者の詳細]ページ」(19ページ)
- 「プライバシーおよび通知」(19ページ)

エキスパート

利用方法

 ユーザ・メニューの[ユーザエンゲージメント]をクリックします。

[ユーザエンゲージメント]ページまたはユーザ・エンゲージメント・エキスパート・コンポーネントから[エキスパート]を選択します。

現在の参加者の[プライバシー]設定ページで、エキスパート・ボードに参加することを選択している場合にのみ、参加者はエキスパート・ボードを表示できます。

エキスパート・ボードを使用すると、OMi のさまざまな範囲で最も経験豊富なユーザを組織内で特定し、連絡を取ることができます。ユーザ・エンゲージメントの[エキスパート]ページには、全体的に最も経験豊富なユーザと、選択したカテゴリについて最も経験豊富なユーザが表示されます。各カテゴリにドリルダウンして、エキスパート・ボードのすべての参加者のリストを表示できます。

- **エキスパート全体** : すべてのアクティビティで獲得したポイントの合計に基づいて、最も経験豊富なユーザが表示されます。

アクティビティは複数のカテゴリに含まれることがありますが、特定のアクティビティで獲得したポイントは、エキスパート全体ボードで1回しかカウントされません。エキスパート全体の上位3名が表示され、現在のユーザのランクがリストに追加されます。ユーザが上位5名に入っている場合、上位5名のすべての参加者がリストに表示されます。エキスパート全体ボードにドリルダウンして、参加者と獲得ポイント

の完全なリストを表示できます。参加者は、電子メール・アドレスを共有できます。これにより、ほかの参加者はエキスパートと簡単に連絡を取ることができ、同僚間のコラボレーションが促進されます。

ユーザエンゲージメントおよびエキスパート・ボードに参加する方法や、電子メール・アドレスを共有する方法の詳細については、「[プライバシーおよび通知](#)」(19ページ)を参照してください。

- **カテゴリ・エキスパート** : 各カテゴリで最も経験豊富なユーザが表示されます。

各エキスパート・ボードには、各カテゴリで上位3名のエキスパートが強調表示されます。また、現在のユーザのランクも表示されます。ユーザが上位5名に入っている場合、上位5名のすべての参加者がリストに表示されます。各エキスパート・ボードにドリルダウンして、参加者と獲得ポイントの完全なリストを表示できます。参加者は、電子メール・アドレスを共有できます。これにより、ほかの参加者はさまざまなカテゴリのエキスパートと簡単に連絡を取ることができ、同僚間のコラボレーションが促進されます。

業績

利用方法

 ユーザ・メニューの[ユーザエンゲージメント]をクリックします。

[ユーザエンゲージメント]ダッシュボードページまたはユーザエンゲージメント業績コンポーネントから[業績]を選択します。

[業績]ページには、実行中のすべての業績の概要がカテゴリ別にグループ化され、表示されます。無効な業績および一時停止した業績は、表示されません。各カテゴリには、進行状況バーが表示されます。

割り当てられた業績により、現時点で最も関連性の高いOMi機能を集中的に詳しく掘り下げることができます。これは、所有者のみがアクセスできる個人用の業績リストです。ほかのユーザとは共有されません。また、「[タイムライン](#)」(18ページ)で完全な割り当て履歴を表示することもできます。

タイムライン

利用方法

 ユーザ・メニューの[ユーザエンゲージメント]をクリックします。

[ユーザエンゲージメント]ページまたはユーザエンゲージメント・タイムライン・コンポーネントから[タイムライン]を選択します。

[タイムライン]ページは、ユーザの業績の履歴を表示するために使用されます。タイムラインには、ユーザエンゲージメント参加の個人的な概要が表示され、ほかのユーザと共有されることはありません。

タイムラインは、次のビューに分かれています。


- **今日**
最新の業績が表示されます。
- **昨日**
前日の業績のサマリが表示されます。
- **最近**
— 昨日までの最近の業績および進行状況のサマリが表示されます。

- **以前**
過去数週間の業績および進行状況のサマリが表示されます。
- **今年**
今年の業績および進行状況のサマリが表示されます。
- **昨年**
前年の業績および進行状況のサマリが表示されます。

[参加者の詳細] ページ

利用方法

 ユーザメニューの[ユーザエンゲージメント]をクリックします。

 ボタンまたはアバター画像をクリックします。


[参加者の設定] ページでは、ログイン名、アバター名、電子メール・アドレスを指定します。


このページからアバターを変更できます。

- **[パスワードの変更]**には、[パスワードの変更]ダイアログ・ボックスが表示されます。ユーザエンゲージメントでユーザ・アカウントが作成されている場合、このダイアログ・ボックスでユーザ・アカウントのパスワードを変更できます。
[パスワードの変更]ダイアログ・ボックスは、ユーザがユーザエンゲージメントのスタンドアロンUI(通常、管理目的でのみ使用される)にログオンしている場合にのみ表示されますが、OMiのLightweightシングルサインオンを使用している場合は表示されません。また、OMi UIに統合されたユーザエンゲージメントの場合も表示されません。変更できるのは、OMiのパスワードではなく、ユーザエンゲージメントのパスワードです。
- **アバターのアップロード** : アバター画像を変更できる[アバターのアップロード]ダイアログ・ボックスが表示されます。匿名で参加する場合、自分自身を表す任意の画像を選択できます。
- **アバターの削除** : アバター画像を削除できる[確認]ダイアログ・ボックスが表示されます。これは、参加者のアバター画像がアップロードされている場合にのみ表示されます。
- **ログイン** : ユーザエンゲージメントのユーザ・インタフェースにログオンするために使用される一意のアカウント名。これはOMiと同じログインで、編集できません。
- **アバター名** : ユーザエンゲージメントに表示されるアバター名で、自分自身を表すために使用されます。匿名で参加する場合、自分自身を表す任意の名前を選択できます。
- **電子メール** : 電子メール・アドレスは、忘れたパスワードをリセットする場合などの管理情報として役立ちます。また、表示されるように選択している場合は、エキスパート・ボードでも使用されます。

プライバシーおよび通知

利用方法

 ユーザメニューの[ユーザエンゲージメント]をクリックします。

 ボタンをクリックします。

どのユーザ・エンゲージメント機能も使用するかどうかは完全に任意です。この機能を使用すると、個別に高レベルの制御を行うことができます。ユーザ・エンゲージメントの業績やエキスパート・ボードに参加して、アカウントをいつでも適切に設定できます。参加しない場合や、電子メール・アドレスをほかの参加者に表示しない場合、[プライバシー]および[通知]ページからこれらのオプションを無効にできます。エキスパート・ボードの詳細については、「[エキスパート](#)」(17ページ) およびOMi 管理ガイドの「ユーザエンゲージメント」の項を参照してください。

通知は、適切なタイミング(最初のツールの作成後など)で業績の肯定的なフィードバックを送信するために使用されます。経験を積み、業績のレベルが上がり、次第に深く関わるようになっていくと、通知の受信頻度は減りますが、より優れた業績が表示されるようになります。

タスク

本項の内容

- 「[完全なエキスパート・リストを表示する方法](#)」(20ページ)
- 「[特定のカテゴリの業績を表示する方法](#)」(20ページ)
- 「[業績を検索する方法](#)」(20ページ)
- 「[アバターをアップロードする方法](#)」(20ページ)
- 「[パスワードを変更する方法](#)」(21ページ)

完全なエキスパート・リストを表示する方法

エキスパートの完全なリスト(全体または特定のカテゴリ)を表示するには、関心のあるカテゴリに関連付けられている[\[詳細\]](#)リンクをクリックします。

エキスパートの完全なリストは、ポップアップ・ウィンドウに表示されます。このリストには、個々のスコアや電子メール・アドレス(利用可能な場合)が表示されます。

特定のカテゴリの業績を表示する方法

特定のカテゴリの実行中の業績をすべて表示するには、利用可能なすべての業績を表示するカテゴリのタイトルをクリックします。

そのカテゴリに関連付けられている現在アクティブな業績(完了した業績も含まれる)がドロップダウン・ボックスに表示されます。

業績を検索する方法

業績を検索するには、業績のタイトルに含まれるテキスト文字列を[\[検索\]](#)フィールドに入力します。

[検索]フィールドによって業績がフィルタされ、指定した文字列を含む業績のみが表示されます。フィルタをクリアするには、✖ をクリックします。

指定した文字列を含むすべての業績が検索されます。カテゴリを選択した場合、フィルタされた業績が表示されます。

アバターをアップロードする方法

1. [\[アバターをアップロード\]](#)をクリックします。

2. アップロードするアバター・ファイルの場所を参照し、ファイルを選択します。最適な画像サイズは 150 x 150 ピクセルです。

パスワードを変更する方法

[パスワードの変更]ダイアログ・ボックスは、ユーザがユーザ・エンゲージメントにログオンしている場合に表示されますが、OMi の Lightweight シングル・サインオンを使用している場合は表示されません。また、OMi UI に統合されたユーザ・エンゲージメントの場合も表示されません。変更できるのは、OMi のパスワードではなく、ユーザ・エンゲージメントのパスワードです。

1. [パスワードの変更]をクリックします。
2. 既存のパスワードを入力します。
3. 新しいパスワードを入力して確認します。

第5章: イベント

イベントは、管理対象環境での重要な発生イベントを報告し、ソース・マネージャによって生成されます。これらのイベントは OMi に転送され、解決するためにオペレータに割り当てられます。

詳細

本項の内容

- [「イベント・ソース」\(22ページ\)](#)
- [「イベントの同期」\(22ページ\)](#)
- [「通知」\(23ページ\)](#)

イベント・ソース

次のようなさまざまなソースが発生元となるイベントを処理できます。

- HPE ソフトウェア・アプリケーション:
 - OM for UNIX :
 - OM for Windows :
 - HPE Network Node Manager i(NNMI)
 - SiteScope
 - HPE Systems Insight Manager
- 通常、ほかのソリューション・コンポーネントで監視されない、特定の環境または特定のニーズの監視に使用される、次のようなサードパーティ製の管理ソフトウェア:
 - Microsoft Systems Center Operations Manager, Active Directory, Exchange
 - BlackBerry Enterprise Server
 - SAP

CI ステータス警告、イベント・ベースの警告などの警告からも、OMi にイベントを生成できます。

イベントの同期

イベント同期では、OMi や HPOM などのマネージャ間で、双方向の通信が可能になります。イベントへの更新および変更を交換できます。たとえば、イベントの所有者の変更または重要度ステータスへの変更がサーバ間で同期されます。OM サーバから転送されるイベントはすべて、読み取りと書き込みが許可されるものとして扱われます。イベントに対して変更が加えられると、転送元の HPOM サーバに対する逆同期が実行されます。

イベントの終了, 削除, アーカイブ

イベントの終了, 削除, アーカイブに, opr-close-events ツールおよび opr-archive-events ツールを使用した場合, HPOM イベントは更新されません。HPOM のイベントは影響を受けません。

同様に, OMi でのイベントの終了, 削除, アーカイブに, omwmsgutil ツール(OM for Windows), opcack および opchistdown ツール(OM for UNIX または Linux)を使用した場合にも, OM のイベントは影響を受けません。

これらすべてのツールはそれぞれのデータベースに直接作用し, 変更がワークフロー・プロセスを経ることがないため, 結果として OMi および OM 間で同期されません。

これらのツールを使用してあるシステム(OMi など)のイベントを終了, 削除, アーカイブした場合は, 適切なツールを使用して同一の変更をその他のシステム(OM など)でも行う必要があります。

通知

通知は, 事前定義した特徴のイベントを受信したときに OMi で送信できる, 電子メール, SMS, ページャのメッセージです。

たとえば, ビジネスに関係するサービスで一番緊急度の高いイベントを週末の任意のときに OMi で受信した場合は, 電子メール, SMS, ページャのメッセージ, またはこれらの任意の組み合わせで, サービスを担当するエンジニアに直ちに通知されるよう設定します。

イベントの優先度

イベントの優先度は, ビジネス・モデルおよびイベントの重要度から自動的に計算されます。イベントの優先度には, 最低, 低, 中, 高, 最高の値のいずれかが割り当てられます。

詳細

イベントの優先度の計算

イベントの優先度の計算は, 新しいイベントのイベント・パイプラインで実行されます。また, 多数のイベントのコンソール・ショートカット・メニューから手動で開始することも可能です。

計算は次の入力パラメータを使用して行われます。

- イベントの重要度
- 関連 CI (存在する場合)のビジネス上の緊急度

注: 選択したイベントに関連 CI がない場合, 優先度はなしです。

ビジネス影響度は Business Impact Service (BIS) によって提供され, 重要度はイベントの属性です。

優先度の計算には, 次の表の関係が使用されます。

影響	イベント重大度					
	不明	Normal	注意域	警戒域	重要警戒域	致命的

影響なし	最低	最低	低い	低い	中	中
低い	最低	最低	低い	低い	中	中
中低	低い	低い	低い	中	中	高
中	中	低い	中	中	高	高
中高	高	中	中	高	高	最高
高	最高	中	高	高	最高	最高

イベント転送の計算された優先度

計算された優先度は、イベントの転送時に受信アプリケーションに転送されます。イベントと関連するCIが受信アプリケーションで設定される場合、各受信アプリケーションによってイベントの優先度が再計算されます。イベントと関連するCIが受信アプリケーションで設定されない場合、転送されたイベントのイベント優先度が使用されます。


タスク

本項の内容

- [「優先度を手動で設定する方法」\(24ページ\)](#)
- [「イベント優先度の再計算方法」\(24ページ\)](#)

優先度を手動で設定する方法

このタスクでは、自動的に割り当てられたイベントの優先度を、手動で変更する方法について説明します。

1. イベント・ブラウザを開き、既知のイベント一覧を開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
2. イベント・ブラウザで、優先度の値を変更するイベントを選択します。
3. [イベント詳細]表示枠を開きます。
4. [優先度]一覧から優先度を選択します。
5.  [保存]をクリックします。

イベント優先度の再計算方法

このタスクでは、イベント・ブラウザで選択したイベントの優先度を手動で再計算する方法について説明します。これは、ビジネス上の緊急度の値が基礎となるビジネス・モデルで変更されて、これらの変更をアクティブなイベントに反映する場合に必要となります。

1. イベント・ブラウザを開き、既知のイベント一覧を開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
2. イベント・ブラウザで、優先度を再計算するイベントを選択します。
3. これらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから[再計算の優先度]を選択しま

す。
選択したイベントの優先度の値が更新されます。

イベント相関

イベント相関は、問題の真の要因を自動的に特定、表示するために使用します。Top Level Items フィルタを使用して、要因イベントの症状のみであるイベントを除外すると、解決の必要がある実際の問題の概要を明確にすることができます。イベント相関では、相関ルール間、イベントに関連付けられている EIT と ETI 値間、CI およびこれらの CI 間の関係を定義します。

トポロジベースのイベント相関プロセスが実行する内容は次のとおりです。

- 相関処理されているイベント間に関係が存在しているかどうかを確認する。
- 相関処理されているイベントに割り当てられた CI および ETI 値を監視する。
- イベントが関連付けられる CI のトポロジ・データベースに関係があるかどうかを確認することにより、2つのイベント間の関係を特定する。

イベント・ブラウザの C カラムには、相関処理プロセスの結果がアイコンで表示されます。

- - このイベントは別のイベントの要因である
- - このイベントは、あるイベントの要因であり、別のイベントの症状である
- - このイベントは、別のイベントの症状である

注: 相関ルール・マネージャを開く権限がない場合があります。ユーザ認証の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

選択したイベントとの相関処理の結果、関連付けられたイベントは[関連イベント]タブに表示されます。選択したイベントは症状イベントである場合もあり、その要因を[関連イベント]タブで確認できます。

従来より良い相関処理が得られ、その新しい相関処理の相関ルールの方が既存の相関処理を生成したルールより重み付けが高い場合、既存の相関処理は新しい相関処理に置き換えられます。

起こりうる相関処理の結果は記録され、[関連イベント]タブの[考えられる原因]サブタブに表示されます。このタブには、考えられる原因となるイベントが、その相関処理を生成した相関ルールへの参照とともに表示されます。ルールの重み要素、イベントが受信された時刻などの追加情報も表示されます。オペレータは、症状イベントの原因として考えられる原因をすべて調べ、マッチする相関ルールの理解を深めることができます。オペレータに適切な権限が与えられている場合は、問題を調査する際、そのイベントの原因を利用可能な他の原因に手動で変更できます。

相関処理済みのイベント、関連イベント、考えられる原因の詳細については、「[関連イベント](#)」(69ページ)を参照してください。

イベント・ブラウザのアイコンの詳細については、「[イベント・ブラウザ](#)」(28ページ)を参照してください。相関ルールの設定の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

イベント履歴

イベント履歴とは、OMi のイベントの値を変更した、ユーザまたはコンポーネントの情報が記載されたログです。この機能によりオペレータは、重要度の遷移の順序など、イベントの存続期間におけるイベント属

性値の遷移の過程を確認できます。イベントの履歴情報はイベント詳細表示枠内の別のタブに表示され、そのイベントにアクセス可能なユーザが表示できます。

詳細

本項の内容

- [「イベント履歴の作成」\(26ページ\)](#)
- [「イベント履歴の特徴」\(26ページ\)](#)

イベント履歴の作成

イベント履歴は次のときに作成されます。

- ユーザがイベント・ブラウザを使用してイベントの属性を変更したとき。
- 外部ユーザまたはアプリケーションによって、上位システムとのインターフェースを使用してイベントの属性が変更されたとき。
- OM または別の OMi インスタンスによって、OMi の属性の変更の同期が取られたとき。
- 重複抑制によって既存のイベントが変更されたとき。
- 関連イベントが自動終了したとき。
- コントロールが移行、キャンセル、戻されたとき。
- サーバがイベント転送リストに追加されたとき。

イベント履歴は次のときには作成されません。

- (CI 解決、ETI 解決などの)パイプライン手順でまだ処理中であるために、受信済みとマークされていないイベントがパイプラインで変更されたとき。
- opr-close-events ツールでイベントが変更されたとき。

イベント履歴の特徴

イベント履歴情報の主な技術的特徴の概要は次のとおりです。

- ユーザは既存の履歴情報を変更できない。
- イベントを終了、削除、アーカイブすると、履歴は削除されるが、opr-archive-events ツールによって生成される XML 出力の一部には履歴が含まれる。
- イベントあたりの履歴エントリ数に制限はない。

履歴は、イベントの次の1つ以上のプロパティが変更されると作成されます。

- 要因(要因と症状の関係)
- 重複数(オペレーション管理インフラストラクチャ設定の[重複イベント抑制設定]>[重複イベント抑制の履歴ラインの生成]で有効または無効にできる)
- 相関ルール
- 説明
- 重要度
- OM ユーザ
- 割り当てられたグループ

- カスタム属性
- 受信時間
- タイトル
- ライフサイクル状態
- 優先度
- 割り当てられたユーザ

また、イベント履歴ではイベントの注釈への変更も変更として追跡されます。

タスク

関連タスク

- [「クローズしたイベントの表示」\(54ページ\)](#)


第6章: イベント・ブラウザ

イベント・ブラウザには、監視しているIT環境に存在するアクティブなイベントの概要が表示されます。次のような詳細が含まれます。

- イベントの発生日時。
- イベントが発生したホスト・システム(ノード)。
- イベントの発生元のアプリケーション。
- イベントの重要度。
- イベントの発生原因の問題解決を担当するユーザが存在する場合は、そのユーザ。

標準設定では、イベントの全体の情報の一部のみが表示されます。

イベント・ブラウザのすべてのレイアウト変更は、変更を行ったユーザのアカウントに自動保存されます。次のイベント・ブラウザへのログイン時には、行った設定どおりの最新のイベント一覧が表示されます。たとえば、再ログインすると、前回選択したビューと[イベント ブラウザ]タブが選択された状態で開かれます。

イベント・ブラウザでイベントを選択すると、[詳細]表示枠が非表示になっていないかぎり、 [イベント詳細]表示枠を表示 / [イベント詳細]表示枠を非表示 ボタンを使用して[詳細]表示枠をトグルする)、イベントのプロパティが[詳細]表示枠に表示されます。[詳細]表示枠には、選択したイベントの一側面(イベント・プロパティ、注釈、カスタム属性、命令テキスト、優先度など)を表示、変更するタブが用意されています。

利用方法

[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>

詳細

本項の内容

- 「イベントに割り当てられた重要度」(28ページ)
- 「フィルタ」(29ページ)
- 「ライフサイクル管理」(29ページ)
- 「日付形式」(30ページ)

イベントに割り当てられた重要度

各イベントに重大度を割り当て、根本的な問題の重要度を示すことができます。値は次のとおりです。危険域、重要警戒域、警戒域、注意域、正常域、不明です。イベント・ブラウザではアイコンを使用してイベントの重大度を示します。

注: イベント・ブラウザの下部にある項目バーは、アクティブなイベント数を重要度別に示します。アクティブ・イベントとは、未解決で対応中のイベントのことを指します。

フィルタ

イベントによるフィルタリング: イベント・ブラウザの内容をフィルタリングすると、最も重要な情報に重点的に取り組むことができます。たとえば、重要度、割り当てられたユーザ、イベント・カテゴリ、またはライフサイクル状態で、イベントをフィルタして表示することができます。イベント・フィルタ選択フィールドには、アクティブなイベント・フィルタが表示されます。

新しいフィルタを設定したり、既存のフィルタを変更することにより、表示情報を変更したり、増やしたり、減らすことができます。詳細については、「[イベント・フィルタ](#)」(78ページ)を参照してください。

注: イベント・ブラウザでは、未解決のイベントとクローズしたイベントを同時に表示することはできません。クローズしたイベントの表示方法については、「[クローズしたイベントの表示](#)」(54ページ)を参照してください。

ビューまたは CI によるフィルタリング: CI ツリーで構成アイテムを1つ選択すると、OMiによりイベント・ブラウザにフィルタが自動適用され、選択した構成アイテムに関連するイベントのみが表示されるようになります。ビュー選択フィールドには、アクティブなビューが表示されます。

ライフサイクル管理



注: クローズ済み状態のイベントは、注釈とカスタム属性の追加を除き編集できません。解決済みのイベントを編集するには、そのイベントをもう一度未解決にする必要があります。

イベント・ブラウザでは、定義済みのライフサイクルにおけるイベントの状態を表示および追跡できます。ライフサイクルとは、イベントの存続期間全体を包含する、事前定義された一連の状態です。ライフスタイル状態は次のとおりです。

- **未解決:** イベントには、問題の要因の調査が必要であると指定がされています。イベントはまだユーザに割り当てられていないか、割り当てられてはいる場合でもまだ対応されていません。
- **実行中:** イベントを割り当てられたユーザが、根本的な問題の調査を開始しました。[ユーザ]列には、割り当てられたユーザの名前が表示されます。
- **解決済み:** 選択したイベントの根本的な問題の調査で、問題が判明し解決されました。
- **クローズ済み:** イベントは、イベント・ブラウザのアクティブ・イベント・リストから削除されます。

注: ライフサイクル状態とユーザに付与されている権限はリンクしています。たとえば、イベントが割り当てられたユーザは、割り当てられたイベントの状態を未解決から実行中や解決済みには変更できますが、クローズ済みには変更できません。より上位の権限を持つユーザのみがほかのユーザにイベントを割り当てたり、イベントのライフサイクル状態を解決済みからクローズ済みに変更できます。

イベントのライフサイクル状態には順番がありますが、状態は任意のときに設定できます。たとえば、ほかのユーザにイベントを割り当てたり、イベントの状態をクローズ済みから実行中に変更して調査を再開したりできます。

注: イベントのライフサイクル状態は、イベントを選択し、適切なボタン([未解決]または[作業]ボタンなど)を選択して、変更できます。

日付形式

イベント・ブラウザに表示される日付形式は、Web ブラウザの言語設定に対応します。たとえば、ブラウザが en-IN(英語(インド))に設定されていると、インドの日 / 月 / 年形式を使用して日付が表示されます(17/7/13 など)。

現在、次の日付形式がサポートされています。

de: ドイツ語

en: 英語

en-GB: 英語(英国)

en-IN: 英語(インド)

en-US: 英語(米国)

en-CA: 英語(カナダ)

es: スペイン語

fr: フランス語

ja: 日本語

ko: 韓国語

ru: ロシア語

zh-CN: 中国語(中国)

zh-HK: 繁体字中国語(香港)

zh-SG: 簡体字中国語(シンガポール)

優先言語の指定がない場合は、en-US が使用されます。

注: ドイツ語 やフランス語 など、特定の地域オプションなしでサポートされる基本言語では、Web ブラウザで地域設定を選択しても、日付形式は常に基本言語から取得されます。

たとえば、Web ブラウザの地域設定で fr-BE を選択すると、日付形式は fr 設定から取得されません。

UI 参照

本項の内容











- ・「[イベント・ブラウザのアイコン、ボタン、ショートカット・メニュー](#)」(30ページ)
- ・「[イベント・ブラウザのカラム](#)」(38ページ)
- ・「[クローズしたイベント・ブラウザ](#)」(43ページ)




イベント・ブラウザのアイコン、ボタン、ショートカット・メニュー

ショートカット・メニューに表示される一部のオプションとツールは、そのツールの起動権限を持つユーザとしてログオンしていないと起動できません。


特定の操作(たとえば[作業]または[閉じる])を実行する権限や、特定のアクション(たとえば[自動アクション]や[オペレータアクション])を実行する権限がユーザにない場合、イベント・ブラウザ内のショートカット・メニュー項目は無効になるか、完全に削除されます。










選択したCIに使用できるメトリクス・データが存在しない場合、パフォーマンス・グラフのショートカット・メニュー項目は完全に削除されます。これは、CIの[モニタ元]属性の値と、パフォーマンス・グラフのインフラストラクチャ設定[ショートカット メニューの確認]によって決まります。


UI 要素	説明
	再度開く : 選択したイベントのライフサイクル・ステータスを未解決に設定する。これによって、イベントを調査、解決のためにユーザに割り当てることが可能になる。
	作業 : 選択したイベントのライフサイクル・ステータスを進行中に設定する。このステータスは、イベントの根本的な問題が調査中であることを示します。
	解決 : 選択したイベントのライフサイクル・ステータスを解決済みに設定する。
	閉じる : 選択したイベントのライフサイクル・ステータスをクローズ済みに設定する。
	割り当て先 : [イベント割り当て]ダイアログ・ボックスを開く。このボックスでは、選択したイベントを特定のユーザまたはユーザ・グループに割り当てることができます。
	イベントを関連付け : [イベントを関連付け]ダイアログ・ボックスを開く。このボックスでは、1つのイベントを原因イベントとして割り当てることにより、選択したイベントどうしを手動で関連付けることができます。その他のすべてのイベントは症状イベントになる。 手動で関連付けたイベントは、相関ルールを自動生成するベースとすることもできる。詳細については、「 手動でのイベントの関連付け 」(48ページ)と「 手動で関連付けたイベントからの相関ルールの作成 」(48ページ)を参照してください。
	私に割り当てられたイベントを表示 : イベント・ブラウザで、現在のユーザに割り当てられているすべてのイベントを表示する。適用されていたフィルタとビューは非アクティブになります。選択するたびに、現在のユーザに割り当てられたイベントの表示と、最後に選択されたフィルタとビューによってフィルタされたイベントの表示が切り替わります。 [私に割り当てられたイベントを表示]を選択した場合、選択したモードが確認のため情報バーに表示されます。
	ブラウザ オプション : 現在の[イベント ブラウザ]タブから[ブラウザオプション]ダイアログ・ボックスを開く。表示オプションを変更および設定できます(たとえば、カラムの非表示や表示、データの表示順序の変更、イベント受信時のサウンドの再生など)。詳細については、「 イベント・ブラウザの設定 」(44ページ)を参照してください。
	イベント リストのエクスポート : 現在のイベント・ブラウザの[エクスポート イベント リスト]ダイアログ・ボックスを開きます。このボックスでは、外部ファイルにエクスポートするイベントの属性を指定できます。
	[イベント詳細]表示 枠を表示 /[イベント詳細]表示 枠を非表示: [イベント ブラウザ]ビューの[イベント詳細]表示 枠の表示、非表示を切り替える。ショートカット・メニュー項目の[表示]>[イベント詳細]を使用するか、またはイベントのダブルクリックにより、イベントの詳細をポップアップ・ウィンドウで開くこともできます。


UI 要素	説明
	<p>更新 : ユーザ・インタフェースに表示されたイベント・データを, サーバ上のデータベースの最新情報と同期し, 完全更新を強制的に実行する。</p> <p>自動更新間隔の設定の詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。</p>
	<p>クローズしたイベントを表示/クローズしたイベントを非表示:[クローズしたイベントのブラウザ構成]ウィンドウを表示する。このウィンドウを使用して, クローズしたイベントを[クローズしたイベント]ブラウザに表示する期間を指定します。[OK]をクリックすると, 現在のイベントの関連 CI に関連するクローズしたイベントが, イベント・ブラウザに, 選択した期間開かれて表示されます。</p> <p>[クローズしたイベントを非表示]ボタンをクリックすると, イベント・ブラウザに戻ります。</p> <p>[クローズしたイベントを表示]を選択した場合, 選択したモード, 表示中のクローズしたイベントの開始時刻と終了時刻, および[クローズしたイベント]リストの作成時刻が確認のため情報バーに表示されます。</p>
<p><フィルタなし></p>	<p>利用可能なビューの1つを選択するためのビュー・セレクトを開く。適切な権限を持っている場合, [<フィルタなし>]を選択して, 選択したビューの選択を解除できます。</p> <p>ユーザとグループを設定し, それらに関連するビューでフィルタされたイベントのみを見られるようにもできます。ユーザやグループで選択されたビューを解除し, イベントすべてを表示することもできます。</p> <p>イベント・ブラウザを最初ロードしたとき, ビューは選択されていません。選択されたビューは, イベント・ブラウザのインスタンスが再び開かれるときに復元されます。</p> <p>5つの最新の選択項目が, リストの最上部に表示されます。</p> <p>注: 事前に選択したビューに関連付けられているイベントのみが表示されるように, ロックされた[Event Browser]ページではイベント・ブラウザのビュー・セレクトが無効になっています。</p> <p>ヒント: [イベントの検索]機能と組み合わせることができます。</p>

UI 要素	説明
<p>...ビューの参照</p>	<p>[ビューの参照]ダイアログ・ボックスを開く。このボックスでは、適用するビューを選択できます。イベント・ブラウザに表示される内容は、ビューで選択したCIに限定されます。</p> <p>適切な権限を持っている場合、ビュー・フィルタをクリアすることもできます。この権限のないユーザは、選択したビューに表示されているCIに関連したイベントのみを見ることができます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p> <p>注: ビューをクリアする権限を持っていない場合に、イベント・ブラウザを開こうとすると、[ビューの選択]メッセージが表示されて、[クローズしたイベント ブラウザ]ボタンも無効になります。</p> <p>ビュー・ドロップダウン・リストからビューを選択した場合(または、ビュー・エクスプローラなどから、ビュー選択が外部的にトリガされた場合)、イベント・ブラウザが表示され、[クローズしたイベント ブラウザ]ボタンが有効になります。</p> <p>注: ロックされたイベント・ブラウザのページでは[ビューの参照]ボタンが無効になるため、事前に選択したビューに関連付けられているイベントのみが表示されます。</p> <p>[ビューの参照]ダイアログ・ボックスから[モデリングスタジオ]を開くことができ、そこからビューを管理できます。</p> <p>ビューの詳細については、「表示」(198ページ)を参照してください。</p>
<p><イベントフィルタを選択></p>	<p>利用可能なイベント・フィルタの1つを選択するためのイベント・フィルタ・セレクトアを開く。選択したフィルタの選択を解除するには、<フィルタなし>を選択します。</p> <p>5つの最新の選択項目が、リストの最上部に表示されます。</p> <p>ヒント: [イベントの検索]機能と組み合わせることができます。</p>
<p>...イベント・フィルタの管理</p>	<p>適用するイベント・フィルタを選択する[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスを開く。</p> <p>[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスから[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスをさらに開くと、イベント・フィルタの作成、既存のイベント・フィルタの編集または削除ができる。</p> <p>イベント・フィルタの詳細については、「イベント・フィルタ」(78ページ)を参照してください。</p>
<p><イベントの検索></p>	<p>イベント・ブラウザに表示されているテキストから入力したテキスト文字列を検索し、指定の文字列を含むイベントのみを表示する。このフィールドをクリアするとすべてのイベントが再度表示される。</p> <p>CIが基準のフィルタも実行する場合は、別のCIを選択すると検索フィールドがクリアされます。</p>
<p>注釈の追加</p>	<p>選択したすべてのイベントに対して[注釈の新規作成]ダイアログ・ボックスを開く。注釈は、保存時に選択したすべてのイベントに関連付けられます。</p>

UI 要素	説明
状況インジケータを終了して再設定	まだ終了していない選択したイベントのすべての症状イベントで、選択したイベントのライフサイクル・ステータスを解決に設定し、関連付けられている HI 値を選択したイベントの標準設定値に再設定します。
[設定]> [イベントタイプインジケータ]	インジケータ・マネージャを新しいウィンドウで開く。インジケータ・マネージャおよびその他の管理機能にアクセスするには、適切な権限が必要。
[設定]> [統合ポリシー]	ポリシー管理の UI を新しいウィンドウで開きます。
[設定]> [パフォーマンスグラフ]	存在する場合は、[グラフのデザイン] ウィザードを新しいウィンドウに表示します。このウィザードでは、後でテンプレートとして使用できるよう、グラフを設計して、その属性を指定して保存することが可能。
[設定]> [ポリシー]	<p>ポリシー・エディタが開き、ポリシー・テンプレートを編集できる。Monitoring Automation ポリシー・インベントリに含まれるポリシーのみを開いて編集できます。</p> <p>注: イベント・ブラウザから開始したポリシー・エディタで変更したポリシーを再デプロイする必要があります。更新したポリシーを自動で再デプロイすることはできません。</p> <p>ポリシー・テンプレートのデプロイ方法については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p>
[設定]> [監視]	関連 CI の CI ID を使用して、割り当てとチューニング UI を開く。特定の CI のすべての割り当てのリストが表示されます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
[設定]> [ツール]	ツール・マネージャを新しいウィンドウで開く。ツール・マネージャおよびその他の管理機能にアクセスするには、適切な権限が必要。
[設定]> [ビューマッピング]	ビュー・マッピング・マネージャを新しいウィンドウで開く。管理機能にアクセスするには適切な権限が必要。
項目	<p>重要度、個々のユーザ、個々のユーザ・グループへの割り当てごとのイベント数を示す。有効な重要度は、危険域、重要警戒域、警戒域、注意域、正常域、不明。</p> <p>フィルタ前の発生イベントの総数として表示されるイベント数が、選択したイベントの数を括弧で囲んで一緒に表示されます。たとえば、「40 の 25 (3)」は、現在のユーザが処理可能なイベントが 40 件存在し、そのうちの 25 件がイベント・ブラウザに表示される (15 件はフィルタによって削除された) ことを意味します。イベント・ブラウザでは 3 つのイベントが選択されます。</p> <p>次のアイコンはイベントのステータスを示す。</p> <p> - 危険域</p>

UI 要素	説明
	<p>  - 重要警戒域  - 警戒域  - 注意域  - 正常域  - 不明 </p> <p>注: また, イベントの重大度を表す背景色をイベントに適用するようにイベント・ブラウザを設定できます。詳細については, 「イベント・ブラウザの設定」(44ページ)を参照してください。</p> <p>通常, これは元のイベント(たとえば OM から受信したイベント)の重要度のステータスと同じです。</p> <p>重要度アイコンを選択すると, ほかのすべてのイベントがフィルタによって除去され, 選択した重要度のイベントのみが表示されます。フィルタは, アイコンをもう一度クリックしてクリアします。</p> <p>次のアイコンはイベントの割り当てステータスを示す。</p> <p> ! - イベントはログオン・ユーザに割り当てられている ! - イベントはログオン・ユーザが属しているグループの1つに割り当てられている  - イベントはほかのユーザに割り当てられている ? - イベントの割り当て先は不明 </p> <p>アクティブなフィルタで選択した設定によっては, フィルタで除外されるなどの理由で, 一部の項目値が0で表示されます。</p>
<p>[起動]> [カスタム アクション]</p>	<p>選択したイベントに関連付けられている CI タイプに設定されているカスタム・アクション一覧から, 選択可能なカスタム・アクション・メニューを開く。</p>
<p>[起動]> [ランブック]</p>	<p>選択したイベントに関連付けられている CI タイプに設定されているラン・ブック一覧から, 選択可能なラン・ブック・メニューを開く。</p>
<p>[起動]> [ツール]</p>	<p>複数のイベントが選択されている場合にのみ利用可能。[ツールの実行]ウィザードが開きます。このウィザードを使用して, 選択したイベントに関連付けられている CI タイプに対して設定されたツールのリストからツールを選択します。</p>
<p>[起動]> [ツール]</p>	<p>選択したイベントに関連付けられている CI タイプに設定されているツール一覧から, 選択可能な[ツール]メニューを開きます。</p>





UI 要素	説明
再計算の優先度	<p>イベント・ブラウザで選択したイベントの優先度を手動で再計算する。</p> <p>イベント・ブラウザ内のイベントと関連する1つ以上のCIのビジネスの緊急度が変更された場合は、再計算によりこれらのイベントに新しい優先度の値が割り当てられます。</p>
すべて選択	<p>イベント・ブラウザに表示されているすべてのイベントを選択する。</p> <p>注: CTRL + C のキーの組み合わせを使用して、選択したイベントの詳細をクリップボードにコピーできます。Ctrl+V を使用して、ターゲットの場所に貼り付けます。イベント・ブラウザで利用可能な情報は、表示されている順序にコピーされます。必要な情報が欠落している場合、関連するカラムがイベント・ブラウザに表示されるように設定されていることを確認してください。</p>
[表示]> [アプリケーション サマリレポート]	<p>存在する場合は、BPMによって作成された選択イベントのアプリケーション・サマリレポートが表示されます。</p>
[表示]> [BPM パフォーマンス アナリシスレポート]	<p>存在する場合は、BPMによって作成された選択イベントのBPMパフォーマンスアナリシスレポートが表示されます。</p>
[表示]> [BPM 選別レポート]	<p>存在する場合は、BPMによって作成された選択イベントのBPM選別レポートが表示されます。</p>
[表示]> [関連 CI に対するビジネス サービスの影響]	<p>選択したイベントに関連付けられているCIのビジネス・サービスに対する影響を、新しいウィンドウに表示する。</p>
[表示]> [関連 CI に対する変更]	<p>選択したイベントに関連したCIに対する最新の変更に関する情報を表示します。</p> <p>選択したCIとの間で影響関係を持つ子CIのデータも表示できます。[子のCIのデータを表示する]チェック・ボックスをクリアすると、選択したCIのデータのみが表示されます。</p> <p>標準設定では、過去1週間の実際の変更とインシデントが表示されます。変更の要求を示す領域には、前の週に計画されていた変更点と、次の週に計画されている変更点が表示されます。</p>
[表示]> [クローズしたイベント (ノード)]	<p>クローズしたイベント・ブラウザに、選択したイベントの発生場所であるホスト・システムに関連付けられたクローズしたイベントを表示する。</p> <p> [クローズしたイベントを非表示] ボタンをクリックすると、イベント・ブラウザに戻ります。</p>








UI 要素	説明
[表示]> [クローズしたイベント (関連 CI)]	選択したイベントに関連する CI に関連付けられている終了済みのイベントを示したクローズしたイベント・ブラウザを表示する。  [クローズしたイベントを非表示] ボタンをクリックすると、イベント・ブラウザに戻ります。
[表示]> [イベント 詳細]	ポップアップ・ウィンドウにイベントの詳細を開き、イベントに関して有効なすべての情報を表示する。
[表示]> [ソース マネージャの イベント]	BSM Connector を使用して、接続されたソース・マネージャ・ユーザ・インタフェースでイベントを開く。
[表示]> [外部の詳細]	イベントの管理を担う外部アプリケーションでイベントを開く。
[表示]> [フィルタされたブラウザ (ノード)]	選択したイベントに関連するノード CI のイベントのみを表示する。
[表示]> [フィルタされたブラウザ (関連 CI)]	選択した構成アイテムのみに関連するイベントを表示する。
[表示]> [パフォーマンス ダッシュボード (CI)]	存在する場合は、選択した CI のパフォーマンス・ダッシュボードを新しいウィンドウに表示する。
[表示]> [パフォーマンス ダッシュボード (隣接)]	存在する場合は、選択した CI および隣接 CI のパフォーマンス・ダッシュボードを新しいウィンドウに表示する。
[表示]> [RUM イベント サマリ レポート]	存在する場合は、RUM によって作成された選択イベントの RUM イベント・サマリ・レポートが表示されます。

UI 要素	説明
[表示]> [RUM パフォーマンスアナリシスレポート]	存在する場合は, RUM によって作成された選択イベントの RUM パフォーマンス・アナリシス・レポートが表示されます。
[表示]> [RUM 選別レポート]	存在する場合は, RUM によって作成された選択イベントの RUM 選別レポートが表示されます。
[表示]> [ソースマネージャのポリシー]	ポリシー管理 BSM Connector ユーザ・インタフェースでイベントを開く。
[表示]> [関連イベント]	[イベント詳細]ダイアログ・ボックスで, 選択したイベントとほかのイベントの関係を示す [関連イベント]タブを開く。表示される情報は, イベント詳細表示枠と同一。
コントロールを次に移す	選択したイベントを設定した外部マネージャ・アプリケーションに移す。オペレータが問題を解決できず, サービス・マネージャ・インシデントを作成するなどして問題をエスカレーションする必要がある場合に使用します。転送情報としてインシデント ID を OMi に返すよう, 外部マネージャを設定することが可能です。

イベント・ブラウザのカラム


次の表に, [イベント ブラウザ]表示枠に含まれるカラムを示します。カラム・コンテンツの簡単な説明については, ツールチップを確認してください。

UI 要素	説明
<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> すべてのイベントを選択/すべてのイベント選択をクリア: クリックすると, すべてのイベントのチェック・ボックスが選択またはクリアされる。一部が選択されている場合にイベント・ブラウザのヘッダのチェック・ボックスをクリアすると, すべてのチェック・ボックスがクリアされます。チェック・ボックスの選択の詳細については, 「イベント・ブラウザの設定」(44ページ)を参照してください。
A	<p>自動アクション: 次のアイコンで, イベント上の自動アクションの有無とそのステータスが示される。</p> <ul style="list-style-type: none">  - イベントに未実行の自動アクションがある  - 自動アクションは実行中  - 自動アクションは正常に実行された  - 自動アクションは正常に実行されなかった

UI 要素	説明
C	<p>相関: 相関処理の結果, 非表示になっている関連イベントがイベントにあるかどうかを示す。次のアイコンはイベントの連鎖におけるイベントの位置を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">  - イベントは相関における原因である。  - イベントはある相関では原因であり, ほかの相関では症状である。  - イベントは相関における症状である。 <p>相関処理済みのイベントの詳細については, 「関連イベント」(69ページ)を参照してください。</p>
D	<p>重複数: 存在する重複イベント数(2, 3など)を示す。</p>
I	<p>命令: イベントに命令が含まれているかどうかを示す。</p> <p>命令はイベントを生成するポリシーで設定され, 自動アクションおよびオペレータが開始するアクションの詳細や, 問題を解決するために実行する手作業による手順などが含まれることがあります。</p>
N	<p>注釈: イベントに注釈が含まれているかどうかを示す。注釈とは, 関連(または類似)イベントに関係するコメントまたは所見である。注釈の有無は次のアイコンによって示される。</p> <ul style="list-style-type: none">  - イベントに注釈がある <p>注釈の詳細については, 「注釈」(66ページ)を参照してください。</p>
O	<p>HPOM で所有: イベントがOMのユーザによって所有されているかどうかを示す(Y)。OMのユーザがイベントを所有している場合, [ユーザ]フィールド([イベントブラウザ]および[一般]タブ)に表示されるユーザ名は, たとえば「OM: データベース・オペレータ」のようにOM: で始まります。</p>
R	<p>ダウンタイムで受信済み: CI がダウンタイムのとき(スケジュールされた使用不可期間)にCIから受信したイベント。</p>
T	<p>移転されたコントロール: 関連付けられたイベントの担当が外部マネージャに転送されたかどうかを示します。</p>
U	<p>ユーザ・アクション: 次のアイコンで, イベント上のユーザ・アクションの有無とそのステータスが示される。</p> <ul style="list-style-type: none">  - イベントに未実行のユーザ・アクションがある  - ユーザ・アクションが実行中である  - ユーザ・アクションは正常に実行された  - ユーザ・アクションは正常に実行されなかった
アプリケーション	<p>アプリケーション: イベントの発生の要因のアプリケーション。</p>

UI 要素	説明
カテゴリ	カテゴリ : イベントが属している論理グループの名前 (データベース, セキュリティ, ネットワークなど)。イベント・カテゴリは, 概念的には OM のメッセージ・グループに似ています。
CI ヒント	CI ヒント : OM イベントのサービス名など, 関連 CI の解決に役立つ情報。
CI タイプ	CI タイプ : イベントに関連付けられている構成アイテム・タイプ。
会社	会社 : [利用可能なカスタム属性] インフラストラクチャ設定 ([管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] > [アプリケーション] > [オペレーション管理 - カスタム属性設定]) で設定される標準設定のカスタム属性。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
コア ID	コア ID : イベントが発生したホスト・システム。
顧客	顧客 : [利用可能なカスタム属性] インフラストラクチャ設定 ([管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] > [アプリケーション] > [オペレーション管理 - カスタム属性設定]) で設定される標準設定のカスタム属性。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
説明	説明 : イベントの元のタイトルや, イベント・ソースから取得したテキストに追加される, 元のイベントに関するオプション情報。
ETI	イベント・タイプ・インジケータ : 選択したイベントおよび現在の値によって報告されるイベント・タイプ・インジケータ (ETI) の表示名 (例: Web アプリケーションの状態: 低)。 WebAppState はイベント・タイプ・インジケータの名前。対応ラベルは [Web アプリケーションの状態] であり, [一般] タブに表示されます。現在の ETI 値のレベルは, [低] です。 イベント・タイプ・インジケータの割り当てがあるが ([ソース情報] タブを参照) 未解決の場合 ([一般] タブの [イベント タイプ インジケータ] フィールドが空である) は, 設定を修正する必要があります。
イベント有効期間	イベント有効期間 : イベントが作成されてからの経過時間を表示する。イベント有効期間は, イベント・ブラウザのデータが 1 分ごとにデータベースと自動的に同期されたとき, またはイベント・ブラウザを手動で更新したときに更新されません。
外部 ID	外部 ID : 外部マネージャによって割り当てられたイベントの ID。
[グループ]	割り当てられたグループ : 選択したイベントが割り当てられたグループ名。
ID	ID : イベントの ID。イベントが OMi に転送される場合は, OM 内のメッセージの ID と同じ。


UI 要素	説明
Manager	マネージャ: [利用可能なカスタム属性] インフラストラクチャ設定 ([管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] > [アプリケーション] > [オペレーション管理 - カスタム属性設定]) で設定される標準設定のカスタム属性。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
ノード	ノード: イベントが発生したホスト・システム。リンクをクリックすると, CI の[CI プロパティ]ダイアログ・ボックスが開きます。
ノードのヒント	ノードのヒント: ノード CI の特定に使用する情報。たとえば, RTSM でホストを検出するために使用する OM のホスト名。 <ul style="list-style-type: none"> • 起点サーバの DNS 名。 • 起点サーバのノード名。
オブジェクト	Object: コンピュータ, プリンタ, モデムなどのデバイス。
起点サーバ	起点サーバ: フレキシブル管理環境で設定されたサーバ連鎖内の, 元のイベントを最初に転送した管理サーバ。
優先度	優先度: 選択したイベントに割り当てられた優先度 (低, 中, 高など)。
地域	地域: [利用可能なカスタム属性] インフラストラクチャ設定 ([管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定] > [アプリケーション] > [オペレーション管理 - カスタム属性設定]) で設定される標準設定のカスタム属性。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。
Related CI	イベントが発生した, 障害のある構成アイテムの名前。 [関連 CI] がサブコンポーネントを含む場合は, 次のように表示されます。関連 CI: サブコンポーネント。例: Server1: CPU1。
関連 CI のヒント	関連 CI のヒント: イベントに関連する CI を識別するためのイベント情報。
送信サーバ	送信サーバ: OMi にイベントを転送した OM のフレキシブル管理チェーン内の最後のサーバ。

UI 要素	説明
重要度	<p>重要度 :選択したイベントに割り当てられた重要度。通常,これはたとえば OM から受信した元のイベントの重要度のステータスと同一。次のアイコンはイベントのステータスを示す。</p> <ul style="list-style-type: none">  - 危険域  - 重要警戒域  - 警戒域  - 注意域  - 正常域  - 不明 <p>注:また, イベントの重大度を表す背景色をイベントに適用するようにイベント・ブラウザを設定できます。詳細については,「イベント・ブラウザの設定」(44ページ)を参照してください。</p>
ソリューション	<p>解決策 :イベントが示す問題の解決に役立つソリューションが記述されたテキスト・フィールド。</p>
ソース CI	<p>ソース CI : 選択したイベントを生成した監視エージェントまたはプローブが実行されているノード。</p>
ソース CI のヒント	<p>ソース CI のヒント : ソース CI の特定に使用する情報。</p>
状態	<p>ライフサイクル状態 :選択したイベントが達したイベントのライフサイクル状態。</p> <ul style="list-style-type: none">  - 未解決  - 実行中  - 解決済み  - クローズ済み <p>イベントのライフサイクル状態を変更するには, イベントを選択して, イベント一覧の上にあるステータス・ボタンの1つを選択するか, またはショートカット・メニュー・オプションを使用する。ライフサイクル状態の変更権限は, ユーザ権限によって制御されます。</p>
サブカテゴリ	<p>サブカテゴリ : イベントが属している論理サブグループ(カテゴリ)の名前(Oracle (データベース), アカウント(セキュリティ), ルータ(ネットワーク)など)。</p>
作成時間	<p>作成時間 : イベントの作成日時。</p>
< 初回の受信時間 >	<p>初回の受信時間 : イベントの通知を OMi が最初に受信した日時。</p>

UI 要素	説明
受信時間	受信時間: イベント(最後の重複)の受信日時。
状態変化時間	ライフサイクル状態が変更された時間: ライフサイクル状態の最後の変更日時。
タイトル	タイトル: イベントの概要。
タイプ	タイプ: OM のメッセージの種類。イベント・カテゴリまたはサブカテゴリ内でさまざまなイベントの種類を編成するために使用する文字列。
ユーザ	割り当てられたユーザ: イベントの根本的な問題の解決を担当するネットワーク・ユーザの名前。たとえば、OMi ユーザがイベントを所有している場合、そのユーザ名が表示されます。OM ユーザがイベントを所有している場合は、OM: データベース・オペレータなど、OM: で始まるユーザ名が表示されます。

クローズしたイベント・ブラウザ

閉じられたイベントの履歴は、すべてまたは選択した CI のもののみ、指定した期間分だけ表示できます。クローズしたイベント・ブラウザでは、表示されている任意のイベントのライフサイクル状態を変更できません。詳細については、「[イベント パースペクティブ](#)」(253ページ)を参照してください。イベント・ブラウザ内の終了したイベントに関連したすべてのアクションには、クローズしたイベント・ブラウザからアクセスできます。

利用方法	[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択> 次に、[クローズしたイベントを表示]  ボタンをクリックする。
重要情報	インフラストラクチャ設定マネージャでは、クローズしたイベント・ブラウザに表示可能なイベントの最大数を設定できる。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
関連タスク	クローズしたイベントの表示の詳細については、「 クローズしたイベントの表示 」(54ページ)を参照してください。

注: 再度未解決にされたイベントは、[クローズしたイベント ブラウザ] ウィンドウから自動的に削除されます。ただし、クローズしたイベント・ブラウザが開かれた後に解決済みにされたイベントは、現在の [クローズしたイベント ブラウザ] ウィンドウには自動追加されません。更新を行う必要があります。[クローズしたイベント ブラウザ] ウィンドウには、スナップショットの取得時のタイムスタンプが表示されません。各ユーザが一度に開くことができるクローズしたイベント・ブラウザは 1 つのみです。

トラブルシューティング

サーバへの接続が切断された後に復元されたが、イベント・ブラウザが再接続されない

サーバへの接続が切断されると、イベント・ブラウザは自動的に 5 秒間隔で 10 回、接続を再試行します。接続が自動的に復元されない場合は、手動で接続できます。手動でも接続できない場合は、別

の OMi UI を開いてから、イベント・ブラウザに戻ります。たとえば、次のように戻ります。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザのステータス・バーのサマリが正しくない

イベント・ブラウザがページ・モードであり、メッセージ・ストームが現在発生している場合、イベント・ブラウザのステータス・バーに「Items: 32000 of 30000」などのサマリが表示される場合があります。

2 番目の数値は、確認できるイベントの総数です。この数値はサーバで計算され、ページ・モードの場合もそうでない場合も、常に正しい数値を示しています。

最初の数値は、現在ブラウザ内にあるイベントの数です。この数値は、イベントの実際の総数より大きくなる場合があります。これは、イベント・ストーム時に新規イベントを追加したためにイベント・ブラウザの負荷が許容量に達し、ページされたイベントが削除されていないためです。

イベント・ストームが終了した後すぐに、表示値を再度調整する必要があります。

メッセージの転送時に OM for Windows のユーザ名が切り捨てられる

標準設定では、OM for Windows の[サーバベースのフレキシブル管理]設定で OM for UNIX 互換性モードが有効(true)になっています。これによってユーザ名は切り捨てられます。

[一般サーバの設定]タブの[サーバによるフレキシブル管理]の名前空間で OM for UNIX 互換性モード設定を false に変更します。

イベント・ブラウザの設定

関心のある情報の詳細のみを表示するようにイベント・ブラウザを設定できます。たとえば、カラムの追加や削除、タブを追加するカスタマイズ、フィルタ設定を行うことにより、データの表示方法を変更したり、向上したりできます。





イベント・ブラウザのすべてのレイアウト変更は、変更を行ったユーザのアカウントに自動保存されます。次のイベント・ブラウザへのログイン時には、行った設定どおりの最新のイベント一覧が表示されます。たとえば、前回選択したビューが選択された状態で開きます。

利用方法

イベント・ブラウザで、 [ブラウザオプション] をクリックします。

タスク

イベント・ブラウザの設定方法

- [列]タブから、イベント・ブラウザに表示するカラムを選択して、[追加]  ボタンをクリックし、[表示カラム]ボックスにこれらのカラムを含めます。
利用可能な演算子の詳細については、「[イベント・ブラウザのカラム](#)」(38ページ)を参照してください。
- [表示カラム]ボックスから表示しないカラムを選択して、[削除]  ボタンをクリックします。
- カラム名を選択して、 ボタンおよび  ボタンを使用して表示位置を再調整します。

この一覧の最初のカラム項目がイベント・ブラウザの最初のカラムとして表示されます。後続のカラム項目は、[これらのカラムを表示]一覧の表示順で順次右に配置されます。

イベント・ブラウザに標準設定のカラムが表示されるように選択するには、[標準設定にリセット]をクリックします。

4. [その他]タブで、次のいずれかの追加オプションを設定します。
 - **新規イベントに音声通知を使用する**:新しいイベントのサウンド通知を有効にします。
 - **イベントのコンパクト・ビュー**:行の高さを最小にし、**フォント・サイズを小さくします**。イベント・ブラウザに表示されるイベントのコンパクト・ビューを有効にします。行の高さを最小にし、テキスト・サイズを小さくします。このオプションは、一度に表示するイベントの数を増やす場合に使用します。
 - **CI フィルタの子 CI を含む**:選択した CI およびその任意の子 CI を使ったイベントのフィルタを有効にします。
 - **選択チェックボックスを表示**:各イベントの横にチェック・ボックスを追加して、複数のイベント・ブロックを選択 / 選択解除できるようにします。選択チェック・ボックスを表示すると、次の機能も使用可能になります。
 - **Shift キーを押し下げたまま右 マウス・ボタンをクリックすると、直前にクリックしたイベントから現在クリックしたイベント間のすべてのイベントに、直前の操作(チェック・ボックスの選択または選択解除)が拡大適用されます。**たとえば、あるチェック・ボックスを選択 / 選択解除してから、**Shift キーを押し下げたまま別のイベントを選択 / 選択解除すると、その間にあるすべてのイベントが選択 / 選択解除されます。**
 - **イベント・ブラウザのカラム・ヘッダにあるチェック・ボックスをクリックすると、そのカラムのすべてのチェック・ボックスを選択 / 選択解除できます。**カラムの一部が選択されている状態で、ヘッダのチェック・ボックスを選択解除すると、すべてのチェック・ボックスが選択解除されます。
 - **イベント行(チェック・ボックスではない)をクリックすると、ほかのイベントが選択解除され、そのイベントのみ選択されます。**
 - **イベントの重要度に従ってイベントの背景カラーを指定**:イベント・ブラウザ内のイベントの背景がイベントの重要度に応じて色付けされて表示されます。イベント背景の彩色には、次のオプションがあります。
 - **すべてのイベント**:イベント・ブラウザに表示されるすべてのイベントが、イベントの重要度に応じて色付けされます。
 - **現在のユーザーに割り当てられたイベントのみ**:アクティブなユーザーに割り当てられているイベントが、イベントの重要度に応じて色付けされます。その他のすべてのイベントは、標準設定の淡色の背景で表示されます。
 - **未割り当てのイベントのみ**:現在のユーザーに割り当てられていないイベントが、イベントの重要度に応じて色付けされます。アクティブ・ユーザーに割り当てられているイベントは、薄いピンクの背景で表示されます。その他のユーザーに割り当てられているイベントは、薄い黄色の背景で表示されます。
5. [OK]をクリックします。

ビューおよびビューに基づく承認によるフィルタリング

ビューを使用して、イベント・ブラウザに表示されるイベントのセットを制限できます。ビュー・セレクタで利用可能なビューを1つ選択すると、利用可能なイベントのサブセットを表示します。このサブセットは、ビューに含まれる、関連するCIを持つイベントのみを含むようにフィルタされています。ビュー・セレクタは、ユーザーが権限のあるビューのみを表示します。

イベント・ブラウザを最初ロードしたとき、ビューは選択されていません。しかし、ビューを選択していた場合は、このイベント・ブラウザのインスタンスを再オープンしたときに再適用されます。設定は、イベント・ブラウザのインスタンスごとに独立に保管されます。

ヒント: [\[私に割り当てられたイベントを表示\]](#) (👤) アイコンを使用して、イベント・ブラウザで現在のユーザーに割り当てられたイベントをすべて表示します。適用されていたフィルタとビューは非アクティブになります。選択するたびに、現在のユーザーに割り当てられたイベントの表示と、最後に選択されたフィルタとビューによってフィルタされたイベントの表示が切り替わります。

ビューの詳細については、[「表示」\(198ページ\)](#)を参照してください。

表示権限

- **ロールへのビューの割り当て** : ユーザーが使用を許可されるビューを制限できます。ロールの特定のビューにアクセスを制限することによって、ユーザーが表示することを許可されるイベントを制御することもできます。
詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
- **ビュー・フィルタをクリアする権限** : [操作コンソール] > [イベント ブラウザ] リソースでの権限を設定し、ユーザーがビュー・フィルタをクリアしてイベントすべてを表示するようにできます。この権限のないユーザーは、選択されたビューに含まれるCIに関連したイベントのみを表示できます。
詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
- **ロックされたビュー** : 事前に選択したビューで[マイ・ワークスペース]の[イベント ブラウザ]ページを設定して、イベント・ブラウザのビュー・セレクタを無効にできます。ユーザーは、事前に選択したビューに関連付けられているイベントのみを表示できます。
詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

ユーザーまたはユーザー・グループへのイベントの割り当て

イベント・ブラウザには、イベントの調査および解決を担当するユーザーおよびグループの割り当てが示されます。イベントが未割り当ての場合は、[イベント詳細]表示枠の[一般]タブからイベントを割り当てることができます。

イベント・カテゴリを使用して、イベントへのユーザー・アクセスを制限できます。たとえば、一部のユーザーは、データベース・カテゴリのイベントのみ表示、操作できるよう制限できます。その他のユーザーは、システム・カテゴリのイベントのみにアクセスできるようにします。

詳細

イベント・カテゴリ

イベント・カテゴリとは、(同じ領域の問題など)類似点を持つイベントを論理的にグループ化したものです。イベント・カテゴリは、特定のイベント・タイプの調査担当をどのユーザまたはユーザ・グループに割り当てるか決定するプロセスを合理化するのに役立ちます。

イベント・ブラウザには、選択したイベントが属するカテゴリ(ストレージ、データベース(DB)、システム、WebApp(Web アプリケーション)など)が表示されます。

注: イベント・カテゴリごとにイベント・ブラウザの内容を表示するには、イベント・ブラウザの列オプションに[カテゴリ]を含め、[カテゴリ]列ヘッダを選択してアルファベット順に並べ替えます。

ユーザへのイベントの割り当て


また、受信したイベントを利用可能なユーザ・グループに自動的に割り当てる、ルールを設定することもできます。イベントの解決を担当するユーザ・グループにイベントが自動的に割り当てられるようにすると、イベント管理の効率が向上します。各イベントは受信されると直ちに適切なユーザ・グループに割り当てられます。ユーザ・グループ内のすべてのオペレータは、そのユーザ・グループに割り当てられたイベントの処理を許可されています。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。


注: イベント・ブラウザの内容をイベントが割り当てられているユーザごとに表示するには、[ユーザ]または[グループ]列ヘッダを選択します。ユーザおよびユーザ・グループを定義するには、次のメニュー・オプションを使用します。

[管理]> [ユーザ]> [ユーザ、グループ、およびロール]

タスク

イベントをユーザまたはユーザ・グループに割り当てる方法

1. イベント・ブラウザを開き、既知のイベント一覧を開きます。
[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>
2. [Event Browser]表示枠で、ユーザに割り当てるイベントを選択します。
3. 次のいずれかの方法で[イベント割り当て]ダイアログ・ボックスを開きます。
 - [イベント ブラウザ]表示枠で、[割り当て先]  ボタンをクリックします。
 - イベントを右クリックして、ショートカット・メニューから[割り当て先]を選択します。
4. [割り当てられたグループ]ボックスでは、選択したイベントを割り当てるユーザ・グループ(たとえば、データベース・エキスパート、アプリケーション・サーバ・オペレータなど)を選択します。
5. [割り当てられたユーザ]ボックスでは、選択したイベントを割り当てるユーザを選択します。
このメニューに表示されるユーザは、前の手順で選択したユーザ・グループを使用してフィルタされません。

注: または、[イベント詳細]表示枠の[一般]タブで、[割り当てられたグループ]および[割り当てられたユーザ]ボックスからユーザおよびグループを選択して、 **保存** ボタンをクリックします。

6. [OK]をクリックします。

手動でのイベントの関連付け

イベント・ブラウザで複数のイベントを選択して手動で関連付け、そのうちの1つを要因イベントとして割り当てます。その他のすべての関連イベントは症状イベントになります。

利用方法


イベント・ブラウザで、関連付けるイベントを選択し、それらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから[イベントを関連付け]を選択します。


タスク


イベントを手動で関連付ける方法

1. イベント・ブラウザで、関連付けるイベントを選択します。
2. これらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから[イベントを関連付け]を選択します。[イベントを関連付け]ダイアログ・ボックスが開きます。
3. イベントの1つを要因イベントとして選択します。その他のすべてのイベントは、選択した要因イベントの症状となります。

相関ルールの結果、非表示になっている関連イベントがイベントにあるかどうかを確認します。次のアイコンはイベントの連鎖におけるイベントの位置を示します。

 - イベントは相関ルール中の要因である

 - イベントはある相関ルールでは要因であり、ほかの相関処理では症状である

 - イベントは相関ルールでは症状である

相関処理済みのイベントの詳細については、「[関連イベント](#)」(69ページ)を参照してください。

4. 任意指定。手動で関連付けたイベントは、相関ルールを自動生成するベースとすることもできる。また、[相関ルールウィザードを開く]チェック・ボックスを選択して、現在の関係に基づいて相関ルールを作成することもできます。[相関ルールジェネレータ]を使用して相関ルールを作成する方法の詳細については、「[手動で関連付けたイベントからの相関ルールの作成](#)」(48ページ)を参照してください。
5. [OK]をクリックします。

手動で関連付けたイベントからの相関ルールの作成

手動で関連付けたイベントは、新しい相関ルールのベースとしたり、既存の相関ルールの向上に使用できます。イベント・ブラウザから、関連付けるイベントを選び、1つを要因イベントに選択してそれらを手動で関連付けて、イベントの関係を示す相関ルールの作成を選択します。

相関ルール生成ウィザードで新しいルールを作成する場合、使用されるイベントには関連 CI が含まれる必要があります。

注: 関連 ETI およびその値がない場合は、インジケータ・マッピング・ルールを定義してインジケータの状態を設定し(OMi 管理ガイドを参照)、相関ルールを作成することができます。また、この種類のイベントに適切な ETI および値が提供されるよう、OM でイベントを作成したイベント転送ポリシーを変更し、再デプロイする必要があります。次回のこのイベントを受信すると、イベントには ETI が含まれており、関連付けられている相関ルールが起動されます。


相関ルールの詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

利用方法

イベント・ブラウザで、関連付けるイベントを選択し、それらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから[イベントを関連付け]を選択します。イベントの1つを要因イベントとして選択して、[相関ルールウィザードを開く]を選択します。

タスク

手動で関連付けたイベントから相関ルールを作成する方法

1. イベント・ブラウザを開き、既知のイベント一覧を開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
2. イベント・ブラウザで、関連付けるイベントを選択します。イベントは 10 個まで選択できます。
3. これらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから[イベントを関連付け]を選択します。
[イベントを関連付け]ダイアログ・ボックスが開きます。
4. イベントの1つを要因イベントとして選択します。その他のすべてのイベントは、選択した要因イベントの症状となります。
5. [相関ルールウィザードを開く]を選択し、[OK]をクリックします。[相関ルールジェネレータ]ダイアログ・ボックスが開きます。
6.  [原因として使用]をクリックします。選択した要因を含むすべてのルールが表示されます。
7. [相関ルールを作成または強化するイベントを選択]セクションから、相関ルールに含めるイベントを追加選択します。
向上可能なルールは、選択した要因イベントの CI タイプによって異なります。
8. [作成]をクリックして指定した要因イベントおよび症状イベントに基づいて相関ルールを作成するか、既存の相関ルールを選択して、[機能強化]をクリックします。
[ルールプロパティ]ページが開きます。
9. 新しい相関ルールのプロパティを指定するか、既存の相関ルールに適切な変更を行います。
10. 任意指定。相関ルールを直ちに有効にするには、[アクティブ]をクリックします。
11. 任意指定。この相関ルールに代わりの時間ウィンドウを選択します。これによって既存のイベントにイベントを相関処理する期間が定義されます。この期間の経過後に受信したイベントは、元のイベントには相関処理されません。オペレーション管理の[インフラストラクチャ設定 マネージャ]ページに設定されたグローバルの標準設定は、代わりの時間ウィンドウで上書きされます。詳細については、

OMi 管理ガイドを参照してください。

12. [次へ]をクリックします。[ルールの詳細]ページが開きます。
13. 任意指定。グラフからノードを選択して、ルールにETIを追加できます。
14. [完了]をクリックして新しい関連ルールを作成するか、既存の関連ルールを変更します。





UI 参照

本項の内容

- 「イベントの選択/ルールの選択ページ」(50ページ)
- 「ルール・プロパティ・ページ」(51ページ)
- 「ルールの詳細ページ」(51ページ)

イベントの選択/ルールの選択ページ

関連ルール・ジェネレータ・ダイアログ・ボックスには、次の表のUI要素が表示されます。

UI 要素	説明
	原因として使用：要因イベントとして使用するイベントを選択する。
	イベント詳細を開く：選択したイベントの詳細をポップアップ・ウィンドウに開く。
	すべてのイベントを選択：[イベントの選択]表示枠ですべてのイベントを選択する。
	すべてのイベントを選択解除：[イベントの選択]表示枠ですべてのイベントをクリアする。
作成	選択したイベントを使用して新しい関連ルールを作成する。
CI タイプ	イベントに関連付けられている構成アイテム・タイプ。
説明	関連ルールの簡単な説明。
機能強化	有効な場合、選択済みの既存の関連ルールの変更が可能。
イベント タイトル	選択したイベントのタイトル。
含める	イベント一覧からイベントを選択またはクリアできます。
インジケータ	イベントに関連付けられているインジケータ。
インジケータ状態	イベントに関連付けられているインジケータの状態。

UI 要素	説明
名前	<p>選択した相関ルールの内部名。</p> <p>表示名の値から自動生成される。最初の文字は、文字 (A-Z, a-z) またはアンダースコア (_)。その他の文字は、文字 (A-Z, a-z)、数字 (0-9) またはアンダースコア (_)。手動で上書きすることが可能。</p> <p>注: 特定のロケールでは無効にできません (ja_JP, zh_CN, ko_KR など)。</p>
相関ルールを作成または強化するイベントを選択	相関ルールに基づき、要因イベントの症状となるように選択したイベント。
原因として使用	相関ルールに基づき、要因イベントとなるように選択したイベント。

ルール・プロパティ・ページ







ルール・プロパティ・ページには、次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
アクティブ	実行時にルールの有効化、無効化に使用する。これは標準設定では無効。
説明	相関ルールの簡単な説明。
表示名	グラフィカル・ユーザ・インタフェースで使用している選択した相関ルールの表示名。
名前	<p>選択した相関ルールの内部名。</p> <p>表示名の値から自動生成される。最初の文字は、文字 (A-Z, a-z) またはアンダースコア (_)。その他の文字は、文字 (A-Z, a-z)、数字 (0-9) またはアンダースコア (_)。手動で上書きすることが可能。</p> <p>注: 特定のロケールでは無効にできません (ja_JP, zh_CN, ko_KR など)。</p>
時間ウィンドウ	<p>選択した相関ルールに対する時間の具体的な指定。これは標準設定では無効になっており、グローバル値が使用されている。0 秒も、設定が無効でグローバル値が使用されていることを意味する。</p> <p>範囲は 0 ~ 9999 秒。</p>

ルールの詳細ページ

ルールの詳細ページには、次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
	最短のパスを使用し、要因に症状を1つ以上バインドする。ほかのすべてのバインディングは削除される。
	インジケータおよび値など、選択したCIタイプの詳細を表示する。
[ルールトポロジ]表示枠	
<濃い青のバックグラウンド>	症状のCIタイプ。
<薄い青のバックグラウンド>	要因または症状のCIタイプではなく、CIタイプはルールトポロジの一部。
<オレンジのバックグラウンド>	要因のCIタイプ。
<ピンクのフレーム>	選択されているCIタイプ。
<バックグラウンド色なし>	ルールの一部ではないCIタイプ。
	構成アイテムタイプのインジケータ状態が、選択した関連ルールで症状として設定されていることを示します。
	構成アイテムタイプのインジケータ状態が、選択した関連ルールで要因として設定されていることを示します。
	関連ルールにハイライトされたリンク(制約)を追加する。リンクを追加することによって、関連ルールのコンテキストで、トポロジベースのイベント関連の要件であるリンク・オブジェクト間のパスが有効になる。RTSMビュー・モデルにはいかなる変更もありません。

UI 要素	説明
	編集している相関ルールからハイライトされたリンク(制約)を削除する。これによって2つのオブジェクト間のリンクは相関ルールのコンテキストでは認識されなくなり、このルールに依存するすべてのルールは以降機能しなくなる。相関ルールからリンクを削除しても、RTSMビューモデルにはいかなる変更もありません。
レイアウト	ルールトポロジの図を表示する別の方法を選択します。これには、[階層的]、[円形]、[同心状の放射構造]の3つのオプションがあります。
レベル	ルールトポロジの図に表示されるトポロジ・レベルの深さを選択する。
ズーム	表示されているルールトポロジ図のサイズを制御する。
[症状と要因]表示枠	
	項目を削除 : 相関ルールに備えられたインジケータのリストから選択した症状または要因のインジケータを削除する。
CI タイプ	一覧のインジケータが割り当てられている構成アイテム・タイプ名。
インジケータ	選択した相関ルールが参照しているインジケータ名。
インジケータ状態	選択した相関ルールが参照しているインジケータの状態の名前。
タイプ	選択した相関ルールで、インジケータの定義が症状であるか要因であることを示す。
[インジケータ]表示枠	
	インジケータ・リストの内容を更新する。作業中に新しいインジケータが利用可能になった際に使用する。
	タイプによってインジケータをグループ化します 。全インジケータ一覧と、状況インジケータとイベント・タイプ・インジケータに分割されている一覧間をトグルする。
	要因として追加します : [ルールトポロジ]表示枠で選択した構成アイテム・タイプに、選択したインジケータ状態を要因として設定する。
	症状として追加します : [ルールトポロジ]表示枠で選択した構成アイテム・タイプに、選択したインジケータ状態を症状として追加する。

Operations Orchestration ラン・ブックの起動

オペレータの問題分析または問題解決作業を自動化するために HPE Operations Orchestration(OO)を使用している場合、これら OO ラン・ブックを OMi 内の CI タイプにマッピングできます。

詳細

Operations Orchestration ラン・ブック

ラン・ブックはイベントから開始できます(ショートカット・メニュー)。利用可能なフローのうちどのフローが適切であるかは、イベントに関連付けられている CI によって決まります。イベントからラン・ブックを起動する場合は、CI またはイベント自体から適切なフロー・パラメータが自動的に取得されます。

注: OO からラン・ブックを統合する場合は、各ラン・ブックが有効な CI タイプを指定し、ラン・ブックの入力パラメータとして使用できるイベント属性を定義する必要があります。

ラン・ブックの入力パラメータが CI 属性とイベント属性にマップされている場合は、(イベントから起動される場合)イベント属性が優先されます。

タスク

HPE Operations Orchestration ラン・ブックの起動方法

1. イベント・ブラウザを開き、既知のイベント一覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

2. イベントに実行するラン・ブックを選択します。

右クリック[起動] > [ラン・ブック] > <ラン・ブックを選択>

選択したラン・ブックは、選択したイベントに関連付けられているイベントまたは CI のコンテキストで起動されます。

注: このショートカット・メニュー項目は、ログオン・ユーザにラン・ブックを実行する権限がある場合のみ表示されます。[ユーザ、グループ、およびロール]で権限を設定できます。

[管理] > [ユーザ] > [ユーザ、グループ、およびロール]

ラン・ブックに適用する関連カテゴリについては、「権限リファレンス」の項を参照してください。

クローズしたイベントの表示

期間を指定して、クローズしたイベントの履歴を表示できます。この情報は長く続いている問題をより詳しく把握するのに役立ちます。クローズしたイベント・ブラウザでは、表示されている任意のイベントのライフサイクル状態を未解決などに変更できます。

利用方法

イベント・ブラウザで、 [クローズしたイベントを表示] をクリックします。

詳細

クローズしたイベント

クローズしたイベント・ブラウザには、クローズしたイベント・ブラウザを開いた時点の解決済みイベントのスナップショットのみが表示されます。再度未解決にされたイベントは、[クローズしたイベント ブラウザ] ウィンドウから自動的に削除されます。ただし、クローズしたイベント・ブラウザが開かれた後に解決済みにされたイベントは、現在の[クローズしたイベント ブラウザ] ウィンドウには自動追加されません。更新を行う必要があります。[クローズしたイベント ブラウザ] ウィンドウには、スナップショットの取得時のタイムスタンプが表示されます。

特定のCIなどを選択する場合、特定のイベントの抽出に役立つフィルタを作成できます。

クローズしたイベントは、データベースから手動で削除できます。**opr-archive-events** ツールを使用してデータベースから終了したイベントを削除し、アーカイブ・ファイルに追加します。詳細については、「[opr-archive-events コマンドライン・ツール](#)」(102ページ)を参照してください。

クローズしたイベントを、自動的にアーカイブすることもできます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

インフラストラクチャ設定 マネージャでは、クローズしたイベント・ブラウザに表示可能なイベントの最大数を設定できます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

タスク

本項の内容

- [「クローズしたイベントを表示する方法」](#)(55ページ)
- [「CI またはノードのクローズしたイベントの履歴を表示する方法」](#)(56ページ)

クローズしたイベントを表示する方法

1. [クローズしたイベントのブラウザ構成] ダイアログ・ボックスで、イベントを受信した時刻、またはライフサイクルの状態が終了に変わった時刻のどちらかに基づいてフィルタ処理を行うかを選択します。
2. 履歴を表示する期間を指定します。事前定義された期間を選択します。
 - 過去 1 時間
 - 過去 24 時間
 - 過去 3 日
 - 過去 7 日
 - 過去 14 日

または、[カスタム範囲を選択]を選択し、カスタム時間範囲を指定して、[適用]をクリックします。

3. 任意指定。リストからイベント・フィルタを選択して、選択した範囲のイベントの数をさらに減らします。

注: 次の警告は、選択したイベント・フィルタをクローズしたイベントに使用できないことを示しています(たとえば、一致演算子または不一致演算子が含まれているため)。

The selected filter cannot be applied to closed events.


別のフィルタを作成する場合、または既存のフィルタを変更する場合は、[参照](...)ボタンをクリックして[イベントフィルタを選択]ダイアログ・ボックスを開きます。フィルタの詳細については、「[シンプル・イベント・フィルタの定義方法](#)」(82ページ)を参照してください。

4. 選択した範囲のクローズしたイベントの数は、[クローズしたイベントのブラウザ構成]ダイアログ・ボックスの下部に表示されます。

[OK]をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じ、指定した期間とフィルタに一致するクローズしたイベントを含むクローズしたイベント・ブラウザを表示します。

期間を変更するには、クローズしたイベント・ブラウザで[再構成]をクリックして、[クローズしたイベントのブラウザ構成]ダイアログ・ボックスで選択内容を変更します。

イベント・フィルタをクリア、変更するには、[<フィルタなし>]を選択するか、イベント・フィルタ・ドロップダウン・リストから別のフィルタを選択します。

ヒント:  クローズしたイベントを非表示 ボタンをクリックすると、イベント・ブラウザに戻ることができます。

CI またはノードのクローズしたイベントの履歴を表示する方法

このタスクでは、現在のイベントの関連 CI またはノードに関連付けられている、選択した期間のすべてのクローズしたイベントが表示される[クローズしたイベント ブラウザ]ウィンドウを表示します。

1. イベント・ブラウザを開き、イベント一覧を開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
2. イベント履歴を表示するイベントを右クリックして、ショートカット・メニューから選択します。
 - [表示] > [クローズしたイベント (ノード)]: 選択したイベントが発生したホスト・システムに関連付けられているクローズしたイベント。
 - [表示] > [クローズしたイベント (関連 CI)]: 選択したイベントに関連する CI に関連付けられているクローズしたイベント。
3. [クローズしたイベントのブラウザ構成]ダイアログ・ボックスで、履歴を表示する期間を指定します。
[クローズしたイベントのブラウザ構成]ダイアログ・ボックスでの設定の詳細については、「[クローズしたイベントを表示する方法](#)」(55ページ)を参照してください。

または、ビュー・エクスプローラで選択した1つ以上のCIを右クリックして、[表示] > [クローズしたイベント]を選択します。クローズしたイベント・ブラウザに、選択したCI またはノードのいずれかに関連付けられているすべてのイベントが表示されます。

イベント・データのエクスポート

イベント・ブラウザのコンテンツは、外部ファイルにエクスポートできます。サポートされている形式には、Microsoft Excel リストやカンマ区切り値(.csv)リストがあります。イベント・ブラウザで表示するように選択された情報(標準設定)、その情報のサブセット、または使用されている属性の任意の組み合わせをエクスポートできます。








注: または、**Ctrl+C** のキーの組み合わせを使用して、選択したイベントの詳細をクリップボードにコピーすることもできます。**Ctrl+V** を使用して、ターゲットの場所に貼り付けます。イベント・ブラウザで利用可能な情報は、表示されている順序にコピーされます。必要な情報が欠落している場合、関連するカラムがイベント・ブラウザに表示されるように設定されていることを確認してください。

利用方法

イベント・ブラウザで、 [イベント リストのエクスポート] をクリックします。

タスク

イベント・ブラウザのコンテンツのエクスポート方法

1. 任意指定。イベント・ブラウザにフィルタを適用して、エクスポートするイベントのみを表示します。
2. イベント・ブラウザで、 [イベント リストのエクスポート] をクリックします。
[エクスポート イベント リスト] ダイアログ・ボックスが開きます。
3. [利用可能なカラム] タブで、エクスポートする属性カラムを選択して [追加]  ボタンをクリックし、[エクスポートするカラム] ボックスに含めます。
[エクスポートするカラム] ボックスにすべてのカラムを含めるには、[すべて追加]  ボタンを使用します。
4. [エクスポートするカラム] ボックスで、エクスポートしないカラムを選択し、[削除]  ボタンをクリックします。
[エクスポートするカラム] ボックスからすべてのカラムを削除するには、[すべて削除]  ボタンを使用します。
5. カラム名を選択し、[上へ]  ボタンと [下へ]  ボタンを使用してエクスポート順序を再調整します。
この一覧の最初のカラム項目が、エクスポートされたファイルの最初のカラムとして表示されます。後続のカラム項目は、[これらのカラムをエクスポート] 一覧の表示順で順次右に配置されます。
また、エクスポートするように標準設定されたカラムを選択するには、[標準設定にリセット] をクリックします。
6. [ファイルのフォーマット] 一覧で、作成されるエクスポート・ファイルの形式を選択します。
 - カンマ区切り値 (.csv)

注: .csv 形式のエクスポートされるイベント・リストのコンテンツは、セミコロンで区切ります。

 - Microsoft Excel 2007 ワークブック (.xlsx)
 - Microsoft Excel 97-2003 ワークブック (.xls)
7. [OK] をクリックします。
8. 名前を入力し、エクスポート・ファイルの場所を選択して、[保存] をクリックします。

注: カンマ区切り値 (.csv)形式を使用して非 ASCII 文字を含むイベント・ブラウザのコンテンツをエクスポートし、Microsoft Excel から直接開く場合は、文字化けする可能性があります。

ファイルは UTF-8 でエンコードされるため、次のいずれかの方法を使用して Microsoft Excel で読み込むことができます。

- UTF-8 文字セットで Excel にファイルをインポートする。
[データ] > [外部データのインポート] > [データのインポート]
テキスト・ファイル, 65001 エンコード (UTF-8)
- Notepad で CSV 形式ファイルを開き、UTF-8 エンコードで保存する。

イベント詳細

[イベント詳細]表示枠には、選択したイベントの情報が表示されます。

本項では、次の[イベント詳細]表示枠のタブについて説明します。

- 「全般」(58ページ)
- 「追加情報」(62ページ)
- 「ソース情報」(63ページ)
- 「アクション」(64ページ)
- 「注釈」(66ページ)
- 「カスタム属性」(67ページ)
- 「関連イベント」(69ページ)
- 「履歴」(71ページ)
- 「解決ヒント」(72ページ)
- 「命令」(74ページ)
- 「転送」(75ページ)

全般

[イベント詳細]表示枠の[一般]タブには、イベントの発生元、作成時間、イベントの問題解決を担当するユーザを含む、選択したイベントに関する詳細情報が表示されます。関連付けられている一覧からは、重要度、ライフサイクル状態、優先度、割り当てられたグループ、割り当てられたユーザの値を変更できます。

注: フィールドが空白の場合、選択した項目に情報はありません。

利用方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[一般]タブを選択します。

詳細

イベントの一般詳細

[イベント詳細]表示枠の[一般]タブでは、選択したイベントに関連付けられている最もよく利用される情報が表示されます。イベントの一般的な情報は、次のとおりです。

- **重要度**: 選択したイベントに割り当てられている問題のレベルを示します。通常、これは OM から受信した元のイベントの重要度のステータスと同じです。
- **ライフサイクル状態**: 選択したイベントが達したイベントのライフサイクル状態を示します(未解決, 実行中, 解決済み, 解決)。
- **優先度**: 選択したイベントに割り当てられた重要度(低, 中, 高など)。
- **元の問題が発生したネットワークの場所**(読み取り専用)。
- **問題の解決を担当するユーザ**。
- **タイトル・フィールドのメッセージ・テキスト**。このタイプのテキスト・フィールドには、URL およびハイパーリンク(**Ctrl** + クリック)も使用できます。

注: イベント・タイトルの一部となっている URL は、アクティブなリンクとしてイベント・ブラウザで表示されます。http://, https://, ftp://, https:// で始まる URL がサポートされています。

URL に「%」や「/」などの特殊文字が含まれている場合、「%25」や「%2f」のように自動的にエスケープされます。

この処理では、挿入された URL にエスケープ済みの文字(「%2f」)が含まれていた場合、これらの文字は再度エスケープされることになり(「%252f」), URL が無効になるという問題が生じます。



エスケープ済みの文字が含まれる URL をイベント・タイトルに格納する必要がある場合は、次の例で示すように山括弧で囲み、再度エスケープされないようにする必要があります。






```
<http://www.google.com/search?q=abc%2fdef>
```









一般タブに表示される情報には、元のイベントの最も重要な情報が要約されています。フィールドが空白な場合は、関係する情報がないことを示します。必要な特定の種類の情報が自動的に表示されないことがわかっている場合は、カスタム属性を使用してその情報を表示することができます。

UI 参照

[イベント詳細]の[一般]タブ

UI 要素	説明
	保存 : 変更した値を保存する。
	変更を元に戻す : 変更した値を破棄する。
割り当てられたグループ	選択したイベントの割り当て済みユーザが属しているグループの名前。

UI 要素	説明
割り当てられたユーザ	イベントの根本的な問題の解決を担当するユーザの名前。たとえば、OMi ユーザがイベントを所有している場合、そのユーザ名が表示されます。OM ユーザがイベントを所有している場合は、OM:データベース・オペレータなど、OM: で始まるユーザ名が表示されます。
カテゴリ	イベントが属している論理グループの名前(データベース、セキュリティ、ネットワークなど)。イベント・カテゴリは、概念的には OM のメッセージ・グループに似ています。
移転されたコントロール	関連付けられたイベントの担当が上位のマネージャにエスカレーションされたかどうかを示します。
重複数	選択したイベントに関連付けられている重複イベントの数。
イベントタイプインジケータ	<p>選択したイベントおよび現在の値によって報告されるステータスを計算するために使用されるイベント・タイプ・インジケータ(ETI)の表示名(たとえば、Web アプリケーションの状態 : 低)。</p> <p>WebAppState はイベント・タイプ・インジケータの名前。対応ラベルは[Web アプリケーションの状態]であり、[一般]タブに表示されます。現在の ETI 値のレベルは、[低]です。</p> <p>イベント・タイプ・インジケータの割り当てがあるが([ソース情報]タブを参照)未解決の場合([一般]タブの[イベントタイプインジケータ]フィールドが空である)は、設定を修正する必要があります。</p>
ID	選択したイベントの ID。イベントでは運用環境で発生したイベントをレポートします。
ライフサイクル状態	<p>選択したイベントが達したイベントのライフサイクル状態。</p> <p> - 未解決</p> <p> - 実行中</p> <p> - 解決済み</p> <p> - 解決</p> <p>イベントのライフサイクル・ステータスを変更するには、リストからライフサイクル状態を選択して、[保存]をクリックします。ライフサイクル状態の変更権限は、ユーザ権限によって制御されます。</p> <p>受信メッセージでの状態と OMi での状態の相関関係は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> メッセージ = 確認済み; ライフサイクル状態 = 解決済み メッセージ = 所有済み; ライフサイクル状態 = 実行中 メッセージ = 確認済みまたは所有済みでない; ライフサイクル状態 = 未解決
ノード	イベントが発生したホスト・システム。リンクまたは  ボタンを使用して、CI の[CI プロパティ]ダイアログ・ボックスを開きます。

UI 要素	説明
優先度	<p>選択したイベントに割り当てられた優先度(低, 中, 高など)。</p> <p>イベントの優先度を変更するには, リストから優先度を選択して, [保存]をクリックします。</p>
関連 CI	<p>イベントが発生した, 障害のある構成アイテムの名前。リンクをクリックするとCIのプロパティがポップアップ・ウィンドウに表示されます。</p> <p>[関連 CI]がサブコンポーネントを含む場合は, 次のように表示されます。関連 CI [追加情報]:サブコンポーネント。例: Server1[Windows]: CPU1。</p> <p>リンクまたは  ボタンを使用して, CI の[CI プロパティ]ダイアログ・ボックスを開きます。</p>
重要度	<p>選択したイベントに割り当てられた重要度。通常, これは OMi から受信した元のイベントの重要度のステータスと同一です。次のアイコンはイベントのステータスを示す。</p> <ul style="list-style-type: none">  - 危険域  - 重要警戒域  - 警戒域  - 注意域  - 正常域  - 不明(重要度を不明には変更できない) <p>注: また, イベントの重大度を表す背景色をイベントに適用するようにイベント・ブラウザを設定できます。詳細については, 「イベント・ブラウザの設定」(44 ページ)を参照してください。</p>
ソース CI	<p>選択したイベントを生成した監視エージェントまたはプローブが実行しているホスト・システム。</p> <p>リンクまたは  ボタンを使用して, CI の[CI プロパティ]ダイアログ・ボックスを開きます。</p>
サブカテゴリ	<p>イベントが属している論理サブグループ(カテゴリ)の名前(Oracle(データベース), アカウント(セキュリティ), ルータ(ネットワーク)など)。</p>
作成時間	<p>選択したイベントの作成日時。</p>
<初回の受信時間>	<p>選択したイベントの通知を OMi が最初に受信した日時。</p>
受信時間	<p>選択したイベントの受信日時(重複イベントの場合, 最後の重複イベントを受信した日時)。</p>

UI 要素	説明
状態変化時間	ライフサイクル状態の最後の変更日時。
タイトル	選択したイベントの特性についての簡単な説明。

追加情報

イベント詳細表示枠の追加情報タブには、選択したイベントの属性の詳細情報があります。

利用方法

[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[追加情報]タブを選択します。

詳細



追加情報

イベントの追加情報は、次のとおりです。

- アプリケーション名
- オブジェクト
- キー
- キーの付いたイベントを終了
- 重複抑制をスキップ
- ダウンタイムで受信済み
- イベントの説明
- イベントのソリューション

UI 参照

[イベント詳細]の[追加情報]タブ

UI 要素	説明
	保存 : 変更した値を保存する。
	変更を元に戻す : 変更した値を破棄する。

UI 要素	説明
アプリケーション	イベントの発生の要因のアプリケーション。 RTSM の CI と直接関係する OMi の関連 CI 属性とは異なり、アプリケーション属性は、OM の単純な文字列タイプの属性です。 アプリケーション属性の例は Oracle や OS。
キーの付いたイベントを終了	重複したイベントの自動確認に使用する文字列。
説明	イベントの元のタイトルや、イベント・ソースから取得したテキスト以外の、元のイベントに関するオプション情報。
キー	元の OM イベントに関連付けられていたキー。メッセージ・ポリシーの特定に使用される。重複およびキーの付いたイベントを終了に使用される。
オブジェクト	コンピュータ、プリンタ、モデムなどのデバイス。 RTSM の CI と直接関係する OMi の関連 CI 属性とは異なり、オブジェクト属性は、OM の単純な文字列タイプの属性です。 オブジェクト属性の例は、orainst, C:, /dev/spool など。
ダウンタイムで受信済み	CI がダウンタイムのとき(スケジュールされた使用不可期間)に CI から受信したイベントであるかを示す。
重複抑制をスキップ	重複抑制が非アクティブかどうかを示す。新しいイベントが選択したイベントと重複する場合に自動的に破棄されないようにします。属性を設定して、イベントの重複は抑制できる。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
ソリューション	イベントが示す問題の解決に役立つソリューションが記述されたテキスト・フィールド。
タイプ	イベント・カテゴリまたはサブカテゴリ内のさまざまなイベント・タイプを編成するために使用する文字列(users, ユーザやアプリケーション, アカウント, セキュリティなど)。

ソース情報

[イベント詳細]表示枠の[ソース情報]タブには、受信したイベントのソースCIのIDに関連する情報の概要が表示されます。

利用方法

[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[ソース情報]タブを選択します。

UI 参照

[イベント詳細]の[ソース情報]タブ

UI 要素	説明
一致情報	イベントが一致する次のポリシーの詳細が表示される。 <ul style="list-style-type: none">• ポリシー名• ポリシー・タイプ• 条件
元のイベント	元のイベントの次の詳細を表示する。 <ul style="list-style-type: none">• 元の ID - メッセージを生成したメッセージ・ポリシーが元の OM メッセージに割り当てた固有 ID。• 元のデータ - OM メッセージに書式設定される前の、HPE Operations Agent から取得した元のイベント・テキスト。 HPE Operations Agent のポリシーを使用してメッセージに標準化する前の、元の入力情報が含まれます。通常、ノード名、メッセージ・グループ、アプリケーション、オブジェクト、重要度、メッセージ・テキストなどの情報が示されます。
起点サーバ	フレキシブル管理環境で設定されたサーバ・チェーンに従って、元の OM イベントを転送した管理サーバ。 <ul style="list-style-type: none">• 転送元の管理サーバの DNS 名。• 転送元の管理サーバの IP アドレス。
送信サーバ	OMi にイベントを転送した OM のフレキシブル管理チェーン内の最後のサーバ。 <ul style="list-style-type: none">• 最後の OM 管理サーバの DNS 名。• OM 管理サーバの IP アドレス。

アクション

OMi が OM から受信したイベントには、イベントに関連付けられているアクションが含まれる場合があります。イベント詳細表示枠のアクション・タブには、イベントにあるこれらのアクションが表示されます。指定できるアクションには、ユーザ・アクションと自動アクションの2つのタイプがあります。

アクションを実行するには、[開始]ボタンをクリックします。[停止]ボタンではアクションの実行を完了前に停止します。

利用方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[アクション]タブを選択します。

詳細

アクション

OM のアクションは、アクションの関連付けがある任意のイベントから手動で開始できます。アクションは、イベントの要因となった問題を解決したり、問題の存在を通知などの手段で知らせる場合に使用できます。

イベント・ブラウザの A 列にアイコンがある場合には、選択したイベントに自動アクションがあることを意味します。U 列にアイコンがある場合には、選択したイベントにユーザ・アクションがあることを意味します。イベント・ブラウザのアイコンの詳細については、「[イベント・ブラウザ](#)」(28ページ)を参照してください。





タスク

関連タスク

- 「[イベント関連のアクションの実行方法](#)」(192ページ)
- 「[カスタム・アクションの起動方法](#)」(192ページ)

UI 参照

[イベント詳細]の[アクション]タブ

UI 要素	説明
アクション	アクションの仕様の概要。
ノード	アクションを実行できるターゲット・システム。
開始	選択したイベントに関連付けられている CI にアクションを開始する。
状態	利用可能なアクションのステータスを示す。次の状態がある。  👤 - 利用可能  👤 - 実行中  👤 - 成功  👤 - 失敗
停止	現在のアクションを停止する。

注釈

イベント詳細表示枠の注釈タブには、選択したイベントに添えられている注釈の一覧があります。注釈とは、イベントの所有者が根本的な問題およびその解決方法を理解するのを助ける、イベントに関連するコメントおよび所見です。選択したイベントに注釈を追加するには、[追加]ボタンをクリックします。

注: [イベント詳細]表示枠では、101,298文字を超える注釈は切り捨てられます。

利用方法

[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[注釈]タブを開きます。

詳細

注釈

注釈とは、そのイベントの要因の解決に役立つ可能性のある情報をイベントに追加する、自由形式の説明です。[イベント詳細]表示枠の[注釈]タブでは、イベントへの注釈の関連付けを追加、表示および管理できます。注釈のテキスト・フィールドには、URL およびハイパーリンク(**Ctrl** + クリック)も使用できます。

イベント・ブラウザの注釈列 N にアイコンがある場合には、選択したイベントに注釈があることを意味します。イベント・ブラウザのアイコンの詳細については、「[イベント・ブラウザ](#)」(28ページ)を参照してください。

タスク

本項の内容

- 「[イベントへの注釈の追加方法](#)」(66ページ)
- 「[選択したすべてのイベントへの注釈の追加方法](#)」(66ページ)

イベントへの注釈の追加方法

1. イベント・ブラウザを開き、既知のイベント一覧を開きます。
[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>
2. イベント・ブラウザでイベントを選択します。
3. [イベント詳細]表示枠で、[注釈]タブを開きます。
[注釈]ツールバーから * [注釈の追加]をクリックして、[注釈の新規作成]ダイアログ・ボックスを開きます。
4. 情報テキストを入力します。
5. [OK]をクリックします。

選択したすべてのイベントへの注釈の追加方法




1. イベント・ブラウザを開き、既知のイベント一覧を開きます。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

2. イベント・ブラウザで、注釈を追加するすべてのイベントを選択します。
3. 選択したイベントのいずれかを右クリックし、[注釈] ツールバーの * [注釈の追加] をクリックして、[注釈の新規作成] ダイアログ・ボックスを開きます。
4. 情報テキストを入力します。
5. [OK] をクリックします。

UI 参照

[イベント詳細] の [注釈] タブ

UI 要素	説明
	[注釈の新規作成] ダイアログ・ボックスを開く。[テキスト] フィールドには注釈テキストを追加する。 注釈を保存するには、[OK] をクリックする。
	[注釈の編集] ダイアログ・ボックスを開く。[テキスト] フィールドでは注釈テキストを編集する。 注釈を保存するには、[OK] をクリックする。
	[注釈の削除] ダイアログ・ボックスを開く。 注釈を削除するには、[はい] をクリックする。
テキスト	注釈の内容テキスト。
作成時間	イベントに選択した注釈を追加した日時。
ユーザ	イベントに選択した注釈を追加したユーザの名前。

カスタム属性

[イベント詳細] 表示枠の [カスタム属性] タブには、管理者または担当ユーザのいずれかが、手動で設定して選択したイベントに追加した属性の一覧が表示されます。カスタム属性を設定して、選択したイベントにその属性を追加するには、[追加] ボタンをクリックします。

注: カスタム属性を追加または変更するには、カスタム属性を追加、更新、削除する権限を持つユーザとしてログオンする必要があります。

利用方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで [カスタム属性] タブを選択します。

詳細

本項の内容

- [「カスタム属性」\(68ページ\)](#)
- [「OM のトラブル・チケット・フラグと通知フラグ」\(68ページ\)](#)

カスタム属性

カスタム属性とは、OM などの監視アプリケーションから転送される元のイベントに含まれる追加情報です。たとえば、カスタム属性を定義すると、問題の要素の場所や問題解決を担当するチームの連絡先詳細を添えることができます。

[イベント詳細] 表示枠の [カスタム属性] タブでは、イベントに利用可能なカスタム属性を表示および管理できます。

また、イベント・ブラウザにカスタム属性列を追加できます。

OM のトラブル・チケット・フラグと通知フラグ

OM で設定されるポリシーでは、トラブル・チケット・フラグと通知フラグを設定できます。これらのフラグを設定すると、OMi で次のカスタム属性が生成されます。

- ForwardToTroubleTicket(値 = true)
- NotifyUser(値 = true)

適切に設定されたイベント・フィルタを使用することにより、転送ルールを使用して値が true のこれらのカスタム属性を含むイベントを外部マネージャに自動的に転送したり、通知ルールを使用して通知を送信したりできます。




タスク

イベントへのカスタム属性の追加方法

1. イベント・ブラウザを開き、既知のイベント一覧を開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
2. イベント・ブラウザでイベントを選択します。
3. [イベント詳細] 表示枠で、[カスタム属性] タブを選択します。
4. * [カスタム属性の追加] をクリックして、[カスタム属性の追加] ダイアログ・ボックスを開きます。
5. カスタム属性名と値を入力します。
6. [OK] をクリックします。

UI 参照

[イベント詳細]の[カスタム属性]タブ

UI 要素	説明
	[カスタム属性の新規作成]ダイアログ・ボックスを開く。カスタム属性の名前と値を追加できる。 カスタム属性を保存するには、[OK]をクリックする。
	[カスタム属性の編集]ダイアログ・ボックスを開く。カスタム属性を編集できる。 カスタム属性を保存するには、[OK]をクリックする。
	[カスタム属性の削除]ダイアログ・ボックスを開く。 カスタム属性を削除するには、[はい]をクリックする。
名前	選択したイベントに定義した選択したカスタム属性の名前。
値	選択したカスタム属性に割り当てられた値。

関連イベント

[イベント詳細]表示枠の[関連イベント]タブには、イベント・ブラウザで選択したイベントに関連するすべてのイベントの概要が表示されます。イベントの表示方法によって、関連処理プロセスでイベントが症状としてみなされるか、要因としてみなされるかがわかります。[関連イベント]タブで太字で表示されるイベントは、[Event Browser]表示枠で選択されているイベントです。

利用方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[関連イベント]タブを選択します。

詳細

関連イベント

複数のソースからの情報を管理する場合、重複や過負荷の問題を減らすために、トポロジベースのルールを設定できます。これらのルールでは、症状イベントと要因イベントを区別して関連処理し、監視している運用環境の状態を明確に示します。

トポロジベースのイベント関連では指定した症状と可能性のある要因を併用して、イベントの要因を特定します。その後、イベント・ブラウザでフラグを付けます。イベント・ブラウザのCカラムのアイコンは、選択したイベントが関連処理されていることを示します。イベント関連の一般的な詳細については、「[イベント関連](#)」(25ページ)を参照してください。

タスク

関連タスク

[「手動でのイベントの関連付け」\(48ページ\)](#)

UI の説明


[イベント詳細]の[関連イベント]タブ

UI 要素	説明
	イベント間の関係を削除する。 選択したイベントを OMi が誤って相関処理したと考えられる場合に役立つ。関連付けを解除アクションは、イベントの関係を作成した関連処理ルールには影響しない。今後このイベントの関連付けがされないようにするには、関連付けられている相関ルールを変更する。
<重大度>	関連イベントに割り当てられた重要度。 ヒント: イベントの重要度を示すアイコンの簡潔な説明については、ツールチップを確認。
割り当てられたユーザ	関連イベントの根本的な問題の解決を担当するユーザの名前。
相関ルール	関係の作成に使用する相関ルールへのリンク。
Related CI	イベントが発生した、障害のある構成アイテムの名前。
状態	イベントのライフサイクル状態(未解決、実行中、解決済みなど)。
受信時間	関連イベントに関連付けられた元のメッセージを OMi から受信した日時。
タイトル	イベント・テキスト・カラムのプラス記号(+)アイコンは、標準設定では関連イベント・タブに表示されない、相関処理されたイベントがあることを示す。プラス記号(+)またはマイナス記号(-)アイコンを使用して、相関処理されたイベントを表示または非表示にする。

[考えられる原因]タブ

すべての考える相関処理の結果は記録されて、[考えられる原因]タブに表示されます。このタブには、考えられる原因となるイベントが、その相関処理を生成した相関ルールへの参照とともに表示されます。ルールの重み係数、関連イベントを OMi から受信した時刻など、追加情報も表示されます。オペレータは、症状イベントの原因として考えられる原因をすべて調べ、マッチする相関ルールの理解を深め

ることができます。オペレータに適切な権限が与えられている場合は、問題を調査する際、そのイベントの原因を利用可能な他の原因に手動で変更できます。

UI 要素	説明
	<p>関連付け: 現在の原因を、[考えられる原因]リストで選択した原因イベントに置き換える。</p> <p>OMi が誤ったイベントを相関処理したと考えられる場合に役立つ。関連アクションは、関連する相関ルールに対して何の影響も与えません。今後は代替の原因イベントに自動的に関連付けられるようにするには、関連付けられている相関ルールを変更します。</p>
重要度	<p>関連イベントに割り当てられた重要度。</p> <p>ヒント: イベントの重要度を示すアイコンの簡潔な説明については、ツールチップを確認。</p>
タイトル	<p>OMi から送信されたメッセージのテキスト。</p> <p>太字のテキストは、イベントが現在の要因として設定されていることを示す。</p> <p>[考えられる原因]リストのイベントの1つを原因として設定する場合は、[関連付け]ボタンを使用して手動で設定できる。</p>
Related CI	イベントが発生した、障害のある構成アイテムの名前。
受信時間	関連イベントに関連付けられた元のイベントを OMi から受信した日時。
状態	イベントのライフサイクル状態(未解決、実行中、解決済みなど)。
割り当てられたユーザ	関連イベントの根本的な問題の解決を担当するユーザの名前。
相関ルール	考えられる関係の作成に使用する相関ルールへのリンク。
ルールの重み	<p>選択した相関ルールの重みを指定する。標準設定の値は正常です。</p> <p>相関ルールの重みを増大すると、それより小さい重みを使用する別の相関ルールによって前に作成された既存の症状関係がオーバーライドされる可能性があります。</p>

履歴

イベント履歴とは、OMi のイベントの値を変更した、ユーザまたはコンポーネントの情報が記載されたログです。この機能によりオペレータは、重要度の遷移の順序など、イベントの存続期間におけるイベント属性値の遷移の過程を確認できます。イベントの履歴情報はイベント詳細表示枠内の別のタブに表示され、そのイベントにアクセス可能なユーザが表示できます。

利用方法

[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[履歴]タブを選択します。

詳細


履歴情報

イベント・コンソールでイベントを手動で変更した場合、またはイベントが、クローズした関連イベント(新しい受信イベントに関連する既存のすべてのイベントを終了する)によって自動的に変更された場合、または抑制された重複イベント(元のイベントを保持および更新して、新しい方の重複イベントを終了する)が存在する場合、[履歴]タブには次の情報が表示されます。

- 変更に関するサーバのタイムスタンプ。
- 変更した属性の新旧の値。
- イベントを変更したユーザの情報。次のいずれかの種類の情報があります。
 - OMi のユーザがイベントを変更した場合、または外部ユーザが変更を行った場合、そのユーザ名。
 - 関連イベントの自動終了または重複イベントの自動抑制による変更が要約されたタイトル行。
 - イベントがOMからのデータ同期によって変更される場合、OM同期の統合ユーザ名。
- 注釈およびカスタム属性に対する、削除、変更などのアクション。履歴行に表示されます。

UI 参照

[イベント詳細]の[履歴]タブ

UI 要素	説明
アクション	イベントへの変更の説明。
変更時間	関連付けられた変更をイベントに行った日時。
変更元	関連付けられた変更をイベントに行ったユーザ。
<検索フィールド>	イベント履歴内の文字列の検索に使用するテキスト・フィールド。  ボタンを使用すると、検索文字列がクリアされ、すべての履歴情報が表示される。

解決ヒント

[解決ヒント]タブには、受信したイベントのノード、ソースCI、関連CI、およびETIに関連する情報が表示されます。

利用方法

[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[解決ヒント]タブを選択します。

UI 参照

[イベント詳細]の[解決ヒント]タブ

UI 要素	説明
ETI 解決	<p>ETI 解決のヒント : OM のカスタム・メッセージ属性内などで、外部マネージャから提供された元の文字列。イベントを ETI に関連付けるために使用できる。</p> <p>イベントには、このインジケータにマップできる属性を設定する必要がある。これを行うには、ETIHint というカスタム・メッセージ属性を OM ポリシーで設定する。CPULoad などインジケータの名前に一致する名前空間を CMA に指定します。高などのインジケータ状態に一致するインスタンスを指定します。CPULoad: 高の ETIHint CMA 値を含むイベントを受信し、ETI および値が存在する場合は、イベント属性のイベント・タイプ・インジケータが設定されます。</p>
ノード	<p>選択したイベントに関連付けられている RTSM でホスト・システムの特定に使用する次の情報。</p> <ul style="list-style-type: none">• ノードのヒント : RTSM のノードの検索に使用するホスト名。• DNS 名 : 起点システムの DNS 名。• IP アドレス : 起点システムの IP アドレス。• コア ID : 起点システムの ID。
Related CI	<p>イベントが発生した、障害のある構成アイテムの名前。</p> <ul style="list-style-type: none">• 関連 CI のヒント : イベントに関連する CI の識別に使用するイベント情報• HPOM サービス ID : イベントに関連するサービスの識別に使用するサービス ID

UI 要素	説明
関連 CI 解決情報	<p>選択したイベントに関連付けられている次の情報：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一致したヒントのカウント：RTSM データベースで選択した CI に一致した、識別されたヒントの数。この値はイベントから抽出された利用可能な識別子に占める割合として表示される。利用可能な識別子は、[解決ヒント]タブの次のセクションに表示される。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 関連 CI のヒント - コロンで区切られた CI ヒント一覧が含まれ、ホスト識別子が併記されている必要がある。 ○ HPOM サービス ID - イベントに関連するサービスの識別に使用する、サービス ID とオブジェクトおよびアプリケーション。 ○ ETI のヒント - 各 CI の ETI の特定に使用する。ETI 解決が正常に完了した場合、CI には ETI が割り当て済みと仮定され、この CI にはより上位の一致順位が割り当てられる。 ● ステータス：関連 CI の解決に使用された一致の情報を示す。一致に関する情報を表示する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 成功 - 一致したことを示し、使用されたヒントを表示する。 ○ 失敗した CI 解決 - 解決できなかったヒントを表示するか、評価に使えるヒントがなかったことを示す。一致できなかったことを示し、Fallback to host などの実行アクションを示す。
ソース CI	<p>選択したイベントに関連付けられている、イベントのソースである RTSM の CI の特定に使用する次の情報。</p> <p>ソース CI のヒント：RTSM から CI を検索するために使用する OMi のイベント属性の説明。</p>

命令

[イベント詳細]表示枠の[命令]タブには、関連イベントをオペレータが処理するのに役立つ命令情報が表示されます。

利用方法

[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[命令]タブを選択します。

詳細

命令

命令の設定

命令は、イベントを生成するポリシーで設定します。命令では、指定したタイプのイベントの受信時に自動アクションを記述したり、オペレータ起動アクションの実行方法の詳細を提供したり、問題を解決する手順を詳細に説明したりできます。

命令テキストは、ポリシー・エディタの[命令テキスト]フィールドに直接入力することも、外部命令インタフェースを使用して生成することもできます。外部で生成された命令を取得するには、関連するポリシーのポリシー・エディタで命令インタフェース名およびパラメータ文字列を指定する必要があります。

注: 標準設定では、OM for Windows, OM for UNIX, または Linux ソースからのイベントによってのみ、[Event Perspective]の[命令]タブのデータがポップアップされます。ほかのイベント・ソース (SiteScope, BSM Connector など)を含めるように OMi を拡大し、そのデータで[命令]タブをポップアップするには、OMi 拡張性ガイド(「Groovy スクリプト」>「スクリプトの開発およびデプロイメント」>「外部命令取得スクリプト」)を参照してください。

命令へのアクセス

[命令]タブを選択すると、命令がイベント・ブラウザで動的に取得されます。

命令は、プレーン・テキストまたは HTML で出力できます。命令テキストに URL が含まれている場合、自動的にハイパーリンクに変換されます。http://, https://, ftp://, fhttps://, telnet://, mailto: で始まる URL がサポートされています。ハイパーリンクをクリックすると、新しいウィンドウが開き、スクリプトによって返されたページが表示されます。HTML 出力の場合、URL をクリックすると、命令テキストが含まれている新しい HTML ページが開きます。

注: イベントの発生元が OM またはほかの OMi サーバの場合は、このサーバを接続サーバとして設定する必要があります。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。


イベントが複数のサーバで発生する可能性があるフレキシブルな管理環境では、イベントを生成するポリシーがデプロイされているサーバに接続する必要があります。これは、命令を使用できるのがこのサーバのみであるためです。

UI 参照

[イベント詳細]の[命令]タブ

UI 要素	説明
命令	イベントに対して生成された命令テキスト。命令は関連ポリシーで設定され、通常、関連イベントをオペレータが処理するのに役立つように設計されています。

転送

[転送]タブは、外部マネージャに所有権が移ったイベントで表示されます。このタブの表示内容は、タブが開かれたときに外部マネージャから動的にロードされます。外部マネージャから利用可能な最新情報をロードするには、[転送]タブの  **更新** ボタンをクリックします。

たとえば、組織で中央のサービス・デスクとして HPE Service Manager を使用している場合、イベントのコントロールをイベント・ブラウザから HPE Service Manager に移すことができます。これは、OMi のオペレータ

が問題を解決できず、問題をエキスパートに割り当てる必要がある場合によく行われます。HPE Service Manager ではインシデント ID を作成し、それを OMi に戻します。これは、外部マネージャからのイベントに関する追加情報とともに[転送]タブに表示されます。

利用方法

[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで[転送]タブを開きます。

詳細

外部ターゲット・サーバ

外部マネージャ・サーバは、接続サーバ・マネージャでターゲットとして指定する必要があります。

問題があってコントロールの移転先のシステムに接続できない場合、イベント転送要求またはイベント更新同期要求がキューに保持されます。指定時間内に要求をターゲット・サーバに配信できない場合は、要求はこのキューから自動的に削除されます。

イベント転送の有効期間の設定方法については、OMi 管理ガイドを参照してください。標準設定の値は2時間で、最小値は1時間です。

タスク



外部マネージャにコントロールを移す方法

1. 外部マネージャにコントロールを移すイベントをイベント・ブラウザから選択します。
2. これらのイベントの1つを右クリックして、ショートカット・メニューから次の選択を行います。

[コントロールを次に移す]> <マネージャを選択>

UI 参照

[イベント詳細]の[転送]タブ

UI 要素	説明
	[転送]タブのコンテンツを更新する。
	保留中のコントロールの移転要求を削除する。移転要求が完了している場合、キャンセルは不能で、[コントロールの転送を取り消す]は無効になる。
割り当てられたグループ	外部マネージャがイベントに割り当てたグループ。

UI 要素	説明
割り当てられたユーザ	外部 マネージャがイベントに割り当てたユーザ。
外部 ID	外部 マネージャがイベントに割り当てた ID。このリンクにより、イベントを管理する外部 アプリケーションにイベントが開きます。
外部 サーバ	外部 マネージャをホストしているノード。
ライフ サイクル状態	外部 マネージャがイベントに割り当てたライフサイクル状態。
優先度	外部 マネージャがイベントに割り当てた優先度。
重要度	外部 マネージャがイベントに割り当てた重要度。
転送ステータス	<p>[転送コントロール] 要求のステータス。次の状態があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • キャンセルが要求されました: キュー内でまだ処理を待っている、コントロールを移す要求に対して、コントロールの転送をキャンセルする要求が出された。 • 転送済み: 選択したイベントのコントロールが、選択した外部サーバに移された。 • キューに登録済み: 選択したイベントのコントロールを移す要求がキューに入れられて処理を待っている。
転送規則	外部 アプリケーションにイベントのコントロールを移す際の転送規則。
転送開始元	外部 アプリケーションにイベントのコントロールを移したユーザ。

UI 要素	説明
タイプ	<p>特定のサーバへのイベントの転送方法を指定する。オプション:</p> <ul style="list-style-type: none">• 通知 - ターゲット・サーバは元のイベントを受信するが、それ以降の更新を受信しない。• 通知して更新: ターゲット・サーバは元のイベントとそれ以降の更新をすべて受信します。• 同期: ターゲット・サーバは元のイベントとそれ以降のすべての更新を受信し、すべての更新を返送します。• 同期してコントロールを移す: ターゲット・サーバは元のイベントと更新を受信し、すべての更新を返送します。イベントの所有権は別のサーバに移転される。特別な権限がある OMi ユーザ(管理者など)のみが、コントロールが移された後にイベントをクローズすることが許されます。 <p>このオプションは、選択した接続サーバで[同期および転送コントロールを有効化]が有効になっている場合のみ利用可能です。オペレータはイベント・ブラウザのショートカット・メニューを介して手動で制御を転送できます。</p> <p>注: 転送テーブル内の転送エントリを別のサーバから受信した場合、このエントリを送信したサーバが転送規則によって特定されます。</p> <p>詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p>

イベント・フィルタ

フィルタを定義して、利用可能なイベントの一部のみがイベント・ブラウザに表示されるよう制限することができます。たとえば、重要度、割り当てられたユーザ、イベント・カテゴリ、またはライフサイクル状態で、イベントをフィルタして表示することができます。また、フィルタしたイベントは別のページに表示することもできます。イベント・ブラウザは動的に更新されます。関連時間フィルタに一致しなくなったイベントはイベント・ブラウザから削除され、一致する新しいイベントが追加されます。

定義するフィルタは、[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスまたはイベント・ブラウザのフィルタ選択のドロップダウン・ボックスにあります。フィルタ選択のドロップダウン・ボックスには、常にアクティブなフィルタが表示されます。

詳細

本項の内容

- [「フィルタの作成」\(78ページ\)](#)
- [「フィルタの可用性」\(79ページ\)](#)
- [「クローズしたイベント・ブラウザのフィルタ」\(79ページ\)](#)

フィルタの作成

フィルタの定義および編集は、イベント・ブラウザの[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスから行います。サンプル・フィルタの情報は、[一般]、[日付]、[追加のイベント プロパティ]タブの下にグループ化されています。サンプル・フィルタの定義とは、3つのタブで指定したすべての情報の組み合わせです。

より複雑なフィルタを定義する詳細モードも使用できます。フィルタの詳細な定義は、プロパティと演算子を組み合わせて[フィルタ定義]表示枠で定義します。

フィルタの可用性

標準設定では、イベント・ブラウザ用のフィルタは作成したユーザのみに表示され、そのユーザのみが使用できます。適切な OMi 管理権限を持つユーザは、既存のフィルタをユーザすべてが利用できるようにしてフィルタを共有できます。

イベント・ブラウザ、クローズしたイベント・ブラウザ、監視ダッシュボード、OMi の多数の管理領域で使用できるフィルタを作成できます。

たとえば、[転送ルール]や[通知]の管理で使用されるフィルタはその管理領域に拘束され、ほかのコンテキストでは表示することも、使用することもできません。1つの観点の各インスタンスには、別のフィルタを適用することが可能です。イベント・ブラウザ用に定義したフィルタはクローズしたイベント・ブラウザで利用でき、またその逆も可能です。ただし、イベント・ブラウザでは、未解決のイベントとクローズしたイベントを同時に表示することはできません。

クローズしたイベント・ブラウザのフィルタ

クローズしたイベント・ブラウザを使用して、クローズしたイベントを調査する場合は、選択した範囲のイベントの数を減らすために、関心のある期間、および必要に応じてイベント・フィルタを指定します。すべてのイベント・フィルタをクローズしたイベントに適用できるわけではありません。たとえば、一致演算子または不一致演算子を含むフィルタは適用できません。イベント・フィルタと一致するクローズしたイベントのみがデータベースからロードされます。

フィルタリングの方法

大規模な IT 環境では当然多数のイベントが生成されます。イベント・ブラウザには、アクティブなすべてのイベントが表示されるので、通知されるイベント数の増大に伴い、注意を要するイベント全体を明確に理解することは次第に難しくなってゆきます。

存在する場合に次を組み合わせて、[Event Perspective]や[Health Perspective](またはイベント・ブラウザおよびビュー・エクスプローラを含むパースペクティブ)などで使用すると、イベント・ブラウザのコンテンツをフィルタできます。

• 表示

ビューでは、構成アイテムを論理的なセットとしてグループ化できます。ビューを選択すると、イベント・ブラウザには選択したビューで指定した CI と関連するイベントしか表示されません。

• 構成アイテム

CI ツリーから1つ以上の CI を選択すると、選択した CI と関連するイベントしかイベント・ブラウザに表示されません。

• 構成アイテムのコレクション

CI ツリーで CI のコレクションを選択すると、イベント・ブラウザには選択したコレクションに含まれる CI と関連するイベントしか表示されません。

• イベント・フィルタ

イベント・フィルタを適用すると、重要度、ライフサイクル状態、割り当て(所有権)などの条件でイベントをフィルタするルールを定義して、イベント・ブラウザに表示されるイベントのタイプを制限できます。

イベント・ブラウザで、すべてのユーザがイベント・フィルタにアクセスできるように、イベント・フィルタを共有できます。フィルタを共有するには、適切な権限を持っている必要があります。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。共有フィルタは、監視ダッシュボードのウィジェットで必要です。

• クイック・フィルタ

イベント・ブラウザのステータス・バーには、重要度別と、個々のユーザおよび個々のユーザ・グループへの割り当て別のイベント数の要約が示されます。ステータス・バーの各重要度アイテムもクイック・フィルタとして使用できます。これを選択して、選択した重要度に対応するイベントを表示できます。複数のアイテムを選択して、複数の重要度をもったすべてのイベントを表示できます。

• 検索

イベントはまた、検索文字列によってフィルタすることもできます。イベント・ブラウザに表示されているテキストから入力したテキスト文字列を検索し、指定の文字列を含むイベントのみを表示する。このフィールドをクリアするとすべてのイベントが再度表示される。

利用可能なフィルタリング方法を組み合わせて適用すると、担当している最重要イベントのみを表示できます。オペレータの担当に合わせた CI ツリー・リストを表示するビューを作成することができます。その後、オペレータは CI ツリーから CI を選択してすべての関連イベントを表示できます。または、オペレータがフィルタを定義して、危険域および重要警戒域というラベルの付いたイベントのみを表示するようにもできます。CI の選択と、同フィルタの適用を併用すると、選択した CI 中の危険域および重要警戒域のラベルが付いているすべてのイベントを表示できます。

フィルタの選択

[Event Browser] 表示枠の内容は、選択したビューまたは構成アイテム、および選択したイベント・フィルタによってフィルタできます。

イベント・ブラウザの内容のフィルタに使用したアクティブなビューまたは構成アイテムは、イベント・ブラウザのタイトルに示されます。たとえば、[Host Resources] というビューを選択した場合、「Event Browser title」には [ホスト リソースのイベント ブラウザ] と表示されます。選択したビューの名前も、イベント・ブラウザのステータス・バーに表示されます。

イベント・ブラウザを初めて開いたときは、フィルタは適用されません。[イベント フィルタの選択] が [Event Browser] のフィルタ適用済みリストに表示され、[フィルタなし] がイベント・ブラウザのビュー・セレクト・リストに表示されています。フィルタを選択すると、アクティブなイベント・フィルタの名前がフィルタの選択フィールドに表示されます。フィルタの選択をクリアするには、[フィルタなし] を選択します。イベント・ブラウザに対するフィルタはクリアされますが、必要に応じて再適用できます。ビューを選択すると、アクティブなビューの名前がビュー・セレクト・フィールドに表示されます。ビューの選択をクリアするには、[フィルタなし] を選択します。イベント・ブラウザからはビューはクリアされますが、必要に応じて再適用できます。管理者は、イベント・ブラウザのビューを事前に選択できます。事前に選択したビューに関連付けられているイベントのみが表示されるように、ロックされた [Event Browser] ページではビュー・セレクトが無効になっています。

ビューを使用したイベントのフィルタ方法

このタスクでは、ビューを使用して、イベント・ブラウザに表示されるイベントをフィルタする方法を説明します。イベント・ブラウザには、選択したビューに含まれる構成アイテムと関連するイベントのみが表示されません。

ビューを使用してイベントをフィルタするには、次の手順を実行します。

1. 次の手順に従って [Event Perspective] または [Health Perspective] を開始します。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

2. 次のいずれかを実行します。

- ビュー・エクスプローラの[ビューの参照]タブのビュー一覧から、適用するビューを選択します。
- イベント・ブラウザで、ビュー・セクタからビューを選択します。5つの最新の選択項目が、リストの最上部に表示されます。

イベント・ブラウザに表示されるイベントは、選択したビューに関連するイベントに制限されます。イベント・ブラウザのタイトルは、選択したビューを示すように変更されます。

注:

- イベント・ブラウザのビュー・セクタでビューを選択すると、ビュー・エクスプローラで選択したCIが無効になるように、OMiのパースペクティブが接続されます。
- 事前に選択したビューに関連付けられているイベントのみが表示されるように、ロックされた[Event Browser]ページではイベント・ブラウザのビュー・セクタが無効になっています。

構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法

このタスクでは、構成アイテムを使用して、イベント・ブラウザに表示されるイベントをフィルタする方法を説明します。イベント・ブラウザには、選択した構成アイテムと関連するイベントのみが表示されます。

構成アイテムでイベントをフィルタするには、次の手順を実行します。

1. 次のように[Event Perspective]または[Health Perspective]など、イベント・ブラウザおよびビュー・エクスプローラが含まれるパースペクティブを開始します。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

ビュー・エクスプローラの[ビューの参照]タブのビュー一覧から、適用するビューを選択します。

2. イベント・フィルタで使用する1つ以上の構成アイテム、CIコレクション、またはこれらの組み合わせを[ビューエクスプローラ]表示枠で選択します。

イベント・ブラウザには、ビュー・エクスプローラで選択したCIと関連するイベントのみが表示されます。

イベント・ブラウザに表示されるイベントは、選択したCIに関連するイベントに限定されます。イベント・ブラウザのタイトルは、選択したCIを示すように変更されます。

選択したCIは、イベント・ブラウザのステータス・バーに表示されます。

注: ビュー・エクスプローラでCIを選択すると、イベント・ブラウザのビュー・セクタで選択したビューが無効になるように、OMiのパースペクティブが接続されます。

イベント・フィルタの表示および適用方法

このタスクでは、設定済みのイベント・フィルタを表示し、イベント・ブラウザに適用する方法を説明します。


設定済みのイベント・フィルタを一覧表示するには、次の手順を実行します。

1. 次のように[Event Perspective]または[Health Perspective]など、イベント・ブラウザおよびビュー・エクスプローラが含まれるパースペクティブを開始します。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

[フィルタ]リストからフィルタを選択します。

注: ビュー・リストからビューを選択した場合、その選択したビューによってイベント・ブラウザもフィルタされます。


2. イベント・ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザから、[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックス(...)を開きます。
[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスが開き、利用可能なイベント・フィルタが表示されます。
3. 適用するイベント・フィルタを選択します。
4. 任意指定。  **項目の編集** ボタンを使用して[イベントフィルタの編集]ダイアログ・ボックスを開き、選択したフィルタを変更して[OK]をクリックします。
5. [OK]をクリックして選択したイベント・フィルタを有効にします。
フィルタを有効にすると、ブラウザの内容が直ちに更新されます。
6. 選択したフィルタで必要な結果が表示されない場合、選択したイベント・フィルタを再定義するか、別のイベント・フィルタを選択します。

注: フィルタの選択をクリアするには、フィルタの選択ボックス(ビューおよびフィルタ)で[フィルタなし]を選択します。イベント・ブラウザのフィルター一覧から選択したフィルタを削除すると、イベント・ブラウザには[フィルタなし]が自動適用されます。

シンプル・イベント・フィルタの定義方法

このタスクでは、[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスを使用して、イベント・ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザのシンプル・フィルタを設定する方法を説明します。

イベント・フィルタを定義するには、次の手順を実行します。

1. イベント・ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザから、[イベント フィルタの管理](...)ボタンを使用して[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスを開きます。
[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスが開き、利用可能なイベント・フィルタが表示されます。
2. [イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスの[項目の新規作成]  ボタンを使用し、[新規シンプルフィルタ]を選択して、[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスを開きます。
[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。
3. 新しいフィルタの表示名と説明を入力します。
4. 表示されたタブ([一般], [日付], [追加のイベント プロパティ])を使用して新しいフィルタを設定します。

イベントの重大度が[危険域]であるなど、[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスのフレーム内のいずれかの選択条件と一致するイベントがフィルタで選択されます。

イベントがフィルタで選択されるには、重要度が[危険域]で[割り当て先]が[自分]であるなど、フレーム内での選択およびその他のすべてのフィルタ条件が一致する必要があります。

たとえば、同じ表示枠で危険域および重要警戒域の重要度が選択されている場合、いずれかの重要度のイベントが表示されます。別の表示枠で[割り当てなし]も選択されている場合、ユーザへの割り当てがなく、しかも選択した重要度のいずれかを示すイベントのみが表示されます。

注:


- 少なくとも1つのライフサイクル状態を選択する必要があります。
- 一致条件[一致]と[次と一致しない]を使用して、フィルタでイベントと比較される正規表現を指定できます。

パターンは、Java 正規表現クラス `java.util.regex` の構文を使用します。このクラスの正確な構文については、Java のオンライン・ドキュメントを参照してください。

正規表現を含むフィルタの処理には、正規表現のないフィルタよりも多くのリソースが使用されるため、より簡単な別の方法を使用できない場合にのみ正規表現を使用することをお勧めします。

5. 任意指定。[詳細に変換]を選択して詳細フィルタの定義モードに切り替え、さらにフィルタの条件を細かく設定します。詳細については、「[詳細なイベント・フィルタの定義方法](#)」(83ページ)を参照してください。

注: 詳細フィルタを変換してサンプル・フィルタに戻すことはできません。

6. [OK]をクリックして変更を保存します。
[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスが閉じられ、新しいイベントのフィルタが[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスのフィルター一覧に追加されます。
7. 任意指定。新しく作成したイベント・フィルタを選択して、[一致するイベントを検索]ボタンをクリックします。これによって、新しく定義したフィルタの結果を反映する新しい[Event Browser]ウィンドウが開きます。必要な結果がフィルタに表示されない場合、フィルタを再定義します。

[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスの詳細については、「[\[シンプルフィルタ\]設定ダイアログ・ボックス](#)」(87ページ)を参照してください。

詳細なイベント・フィルタの定義方法

このタスクでは、[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスを使用して、イベント・ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザに詳細なイベント・フィルタを設定する方法を説明します。

詳細なイベント・フィルタを定義するには、次の手順を実行します。

1. イベント・ブラウザまたはクローズしたイベント・ブラウザから、[イベント フィルタの管理](...)ボタンを使用して[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスを開きます。
[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスが開き、利用可能なイベント・フィルタが表示されます。
2. [イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスの[項目の新規作成] * ボタンを使用し、[新規詳細フィルタ]を選択して、[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスを開きます。
[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。


注: または、[新規シンプルフィルタ]を選択し、表示されたタブを使用して新しいフィルタ(一般、日付、および追加のイベント・プロパティ)に適したシンプルな設定を行います。これらの設定は、[詳細に変換]を選択して詳細フィルタの定義モードに切り替えた後に行う、詳細フィルタの設定の開始点となります。詳細については、「[シンプル・イベント・フィルタの定義方法](#)」(82ページ)を参照してください。

3. 新しいフィルタの表示名と説明を入力します。
4. 任意指定。シンプル・フィルタから開始した場合は、[詳細に変換]を選択して詳細フィルタの定義

モードに切り替えます。

[詳細モード]では、演算子、プロパティ、式を組み合わせることで正確にフィルタを指定できます。

注: 新規詳細なフィルタは新規サンプル・フィルタ・ビューで表示することができず、新規詳細なフィルタ・ビューから新規サンプル・フィルタ・ビューに切り替えることはできません。

5. [説明]などのプロパティと演算子を[フィルタ定義]表示枠にドラッグして、フィルタの作成を開始します。あるいは、要素または演算子を選択し、[追加]  ボタンを使用して、アクティブなフィルタの仕様に追加します。

[正規表現を編集]ダイアログ・ボックスに選択したプロパティ・タイプ用のエディタが開きます。

6. [説明を編集]ダイアログ・ボックスには、次の2つの基本タイプがあります。文字列フィルタおよび事前指定フィルタ:

- **文字列フィルタを定義するには、次の手順を実行します。**

選択したプロパティに[次を含む]などの一致条件を選択し、検索するテキスト文字列を指定します。

一致条件[一致]と[次と一致しない]を使用して、フィルタでイベントと比較される正規表現を指定できます。

パターンは、Java 正規表現クラス `java.util.regex` の構文を使用します。このクラスの正確な構文については、Java のオンライン・ドキュメントを参照してください。


正規表現を含むフィルタの処理には、正規表現のないフィルタよりも多くのリソースが使用されるため、より簡単な別の方法を使用できない場合にのみ正規表現を使用することをお勧めします。

任意指定。[大文字と小文字を区別しない]を選択し、式で大文字と小文字を区別しないようにします。

- **事前定義されたフィルタを指定するには、次の手順を実行します。**

事前定義されたフィルタは、重要度、優先度、ライフサイクル状態、日付など、既知の範囲の値を持つ属性の選択に使用します。

[次と等しい]、[が次のうちの1つ]、[true である]、[次以前]、[次以内]など、選択したプロパティの一致条件を選択し、該当する場合は、重要度の値、優先度の値、日時、またはライフサイクル状態など1つ以上のオプションを選択します。

7. [OK]を選択して[正規表現を編集]ダイアログ・ボックスを閉じます。
8. 5~7の手順を繰り返して、フィルタの仕様に追加するフィルタ・コンポーネントを指定します。
エントリを変更する場合、それをダブルクリックします。式の仕様を変更する[説明を編集]ウィンドウが開きます。
9. [OK]をクリックして変更を保存します。
[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスが閉じられ、新しいイベントのフィルタが[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスのフィルター一覧に追加されます。
10. 任意指定。新しく作成したイベント・フィルタを選択して、 [一致するイベントを検索] ボタンをクリックします。これによって、新しく定義したフィルタの結果を反映する新しい[Event Browser]ウィンドウが開きます。必要な結果がフィルタに表示されない場合、フィルタを再定義します。

[イベント フィルタの新規作成]ダイアログ・ボックスの詳細については、「[\[詳細フィルタ\]設定ダイアログ・ボックス](#)」(90ページ)を参照してください。

イベント・フィルタを共有する方法

このタスクでは、既存のイベント・フィルタを共有する方法について説明します。

注:

[イベント ブラウザ]では、すべてのユーザが適用できるように共有フィルタは利用可能になっていません。共有フィルタを作成する権限をもったユーザのみが、共有フィルタを変更または削除できます。[イベント フィルタ]のセレクトに表示されるイベント・フィルタのリストには、すべての共有フィルタと、現在のユーザによって作成されたフィルタが含まれます。共有フィルタは、監視ダッシュボード用に使用する必要があります。

共有フィルタは、コンテンツ・マネージャを使用してエクスポートできます。非公開フィルタをエクスポートすることはできません。

イベント・フィルタを共有するには、次の手順を実行します。

1. フィルタを共有する権限を持っていることを確認します。この権限は、次のように設定できます。


[管理] > [ユーザ] > [ユーザ、グループ、およびロール]

フィルタの共有を有効にするには、[共有フィルタ]を選択し、[フルコントロール]の下の[操作]タブで[許可]を選択します。

2. 共有するフィルタをイベント・ブラウザで選択します。

[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>

イベント・ブラウザで、[イベント フィルタの管理](...)ボタンを使用して[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスを開きます。[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスには、利用可能なイベント・フィルタのリストが表示されます。フィルタを選択します。

3. [共有項目]  ボタンを使用して、フィルタを共有します。

注: 共有フィルタを非公開フィルタに戻すことはできません。共有フィルタを削除することはできません。ただし、他のどのユーザがすでにそれを使用中であるかはわかりません。共有フィルタを非公開フィルタとして使用する場合は、複製してから削除します。

フィルタ・マネージャのユーザ・インタフェース

[イベント フィルタの選択]および[イベント フィルタの管理]ダイアログ・ボックスには、アクティブなユーザが現在のブラウザまたはマネージャに設定したフィルタの一覧が表示されます。フィルタは、設定済みのイベント・フィルタ一覧から選択および適用したり、既存のフィルタを編集または削除して新しいフィルタを作成したり、テストすることができます。







そのほかのフィルタのインタフェース要素の詳細については、次のトピックで説明します。



- 「[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスおよび[イベント フィルタの管理]ダイアログ・ボックス」(86ページ)
- 「[シンプルフィルタ]設定ダイアログ・ボックス」(87ページ)
- 「[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックス」(90ページ)
- 「詳細フィルタの[正規表現を編集]ダイアログ・ボックス」(95ページ)
- 「[フィルタ構成]ダイアログ・ボックスで使用する演算子」(99ページ)

[イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスおよび [イベント フィルタの管理] ダイアログ・ボックス

利用方法	[ワークスペース]>[操作コンソール]> <パースペクティブの選択> [イベント フィルタの管理] (...) ボタンを使用して [イベント フィルタの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。
関連タスク	イベントのフィルタ方法については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 「ビューを使用したイベントのフィルタ方法」(80ページ)。 「構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法」(81ページ)。 「イベント・フィルタの表示および適用方法」(81ページ)。 「シンプル・イベント・フィルタの定義方法」(82ページ)。 「詳細なイベント・フィルタの定義方法」(83ページ)。
関連情報	イベントのフィルタの詳細については、「フィルタリングの方法」(79ページ)および「イベント・フィルタ」(78ページ)を参照してください。

[イベント フィルタの選択] および [イベント フィルタの管理] ダイアログ・ボックスには、次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
	利用可能なフィルタの一覧に表示されるフィルタ・データを、データベース内の最新の情報と同期する。
	選択ボックスが開き、指定するフィルタのタイプとして [シンプル フィルタ] または [詳細フィルタ] を選択できる。 [イベント フィルタの新規作成] ダイアログ・ボックスが開き、新しいイベント・フィルタを作成および定義できます。 新しいフィルタを保存するには、 [OK] をクリックする。
	選択したフィルタのコピーを作成し、 [イベント フィルタの新規作成] 設定ダイアログ・ボックスを開く。
	変更するために選択したイベント・フィルタを変更する [イベント フィルタの編集] ダイアログ・ボックスを開く。 [OK] をクリックし、選択したイベント・フィルタに加えた変更を保存する。
	選択したイベント・フィルタ用に [イベント フィルタの削除] ダイアログ・ボックスを開く。 選択したフィルタの注釈を削除するには、 [はい] をクリックする。
	標準設定に復元 : カスタマが変更した出荷時の事前定義されたフィルタを、出荷時の標準設定バージョンに戻す。 このオプションは、純粋にカスタマによって定義されたルールには利用できません。

UI 要素	説明
	共有項目 : イベント・ブラウザ・フィルタのみ。すべてのユーザが使用できるよう、選択したイベント・フィルタを共有する。共有フィルタを作成する権限をもったユーザのみが、共有フィルタを変更または削除できます。[イベント フィルタの選択]に表示されるイベント・フィルタのリストの内容には、すべての共有フィルタと、現在のユーザによって作成されたフィルタが示されます。
	一致するイベントを検索 イベント・ブラウザのポップアップ・ウィンドウに選択したフィルタと一致するイベントを表示する。イベント・ブラウザに適用する前にイベント・フィルタをテストするのに便利。

[シンプルフィルタ] 設定ダイアログ・ボックス

[シンプルフィルタ] 設定ダイアログ・ボックスには、イベントを表示する前のフィルタの実行に使用する属性が表示されます。属性は1つのみ使用することも組み合わせて使用することもできます。

利用方法	[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択> [イベント フィルタの管理](...)ボタンを使用して[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスを開きます。
関連タスク	イベントのフィルタ方法については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 「ビューを使用したイベントのフィルタ方法」(80ページ) 「構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法」(81ページ) 「イベント・フィルタの表示および適用方法」(81ページ) 「シンプル・イベント・フィルタの定義方法」(82ページ) 「詳細なイベント・フィルタの定義方法」(83ページ) 「イベント・フィルタを共有する方法」(85ページ)
関連情報	イベントのフィルタの詳細については、「フィルタリングの方法」(79ページ)および「イベント・フィルタ」(78ページ)を参照してください。

フィルタ構成タブに表示される情報の詳細については、次の項を参照してください。

- 「共通のボタンおよびアイコン」(87ページ)
- 「[全般]タブ」(88ページ)
- 「[日付]タブ」(89ページ)
- 「[追加のイベント プロパティ]タブ」(89ページ)

共通のボタンおよびアイコン

フィルタ構成ウィンドウには、次の表のUI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
詳細に変換	より包括的なフィルタを定義する[詳細モード]を開く。詳細については、「 詳細なイベント・フィルタの定義方法 」(83ページ)を参照してください。 注: 詳細フィルタは[新規 サンプルフィルタ]ビューでは表示できません。

[全般]タブ

[シンプルフィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[一般]タブには、次の表のUI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
割り当て先	検索するイベントが割り当てられているユーザまたはユーザ・グループ。複数の割り当て先を選択できます。たとえば、[自身に割り当て済み]と[割り当てなし]を選択できます。
カテゴリ	フィルタ・オプションとして使用するイベントのカテゴリ。たとえば、DB、ストレージ、システム、WebApp などです。
関連処理	検索対象として全イベント、上位レベルのイベントのみ、要因イベントのみのオプションを選択します。 すべてのイベント :ほかのイベントの症状として関連処理されるイベントを含むすべてのイベント。 上位レベルのすべてのイベント :別のイベントの症状として分類されないすべてのイベント。 すべての要因イベント :根本要因イベントであるすべてのイベント。ほかの要因イベントの症状にすることはできません。
説明	元のイベントの説明フィールドの内容に表示されているイベントの説明。
ライフサイクル状態	検索しているイベントが到達している、未解決、実行中、解決済み、クローズ済みなどの問題のライフサイクルの段階。複数のライフサイクル状態が選択できます。
優先度	なし、低、中など、指定の優先度と一致するイベントを検索します。複数の優先度を選択できます。
重要度	フィルタ・オプションとして使用するイベントの重要度。複数の重要度を選択できます。
サブカテゴリ	検索しているイベントが属するイベント・サブカテゴリの名前。
タイトル	検索しているイベントのタイトル。
タイプ	フィルタで表示するイベントのタイプ。

[日付]タブ

[シンプルフィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[日付]タブには、次の表のUI要素が表示されます。

UI要素	説明
絶対時間	絶対(カレンダー)条件での日付と時刻を指定します。時刻は、カレンダー日付と時間値(時および分)を入力して指定できます。
関連時間	<p>イベントのフィルタで使用する時間点を指定します。指定した時刻の前または後のイベントは、次のような演算子を使用して選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次以上 次以内 <p>時間間隔は、分、時、日、または週単位で指定できます。</p> <p>注: イベント・ブラウザは動的に更新されます。関連時間フィルタに一致しなくなったイベントはイベント・ブラウザから削除され、一致する新しいイベントが追加されます。</p>
作成時間	検索しているイベントが発生した日時。
ライフサイクル状態が変更された時間	ライフサイクル状態の最後の変更日時。
受信時間	検索しているイベントの通知をOMiが最初に受信した日時。

[追加のイベント プロパティ]タブ

[シンプルフィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[追加のイベント プロパティ]タブには、次の表のUI要素が表示されます。

UI要素	説明
アプリケーション	指定したアプリケーションにリンクされているイベントを選択します。
CIタイプ	<p>指定したCIタイプまたは指定したCIタイプの子と関連するイベントを検索するオプションを選択します。CIタイプをフィルタする場合の専用演算子は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次と等しい: 関連CIが、指定したCIタイプと一致する 派生元: 関連CIが、指定したCIタイプから派生している

UI 要素	説明
カスタム属性	<p>フィルタリングで使用するカスタム属性、演算子、値を選択するカスタム属性エディタを選択します。</p> <p>カスタム属性のフィルタは、左のフィールドでカスタム属性名を指定し、リストからフィルタの一致条件を選択し、右のフィールドでカスタム属性値を指定して定義します。</p> <p>注: 詳細モードでは、さらにカスタム属性の仕様を指定できます。それには利用可能な任意の演算子を使用して関連付けを行います。</p>
キー	指定したキーへの参照を含むイベントを選択します。
オブジェクト	OM の元のメッセージで指定されているオブジェクトと関連するイベントを選択します。
元のデータ	<p>OM のメッセージにフォーマット化する前の、HPE Operations Agent からキャプチャしたイベントの元のテキスト。</p> <p>HPE Operations Agent のポリシーを使用してメッセージに標準化する前の、元の入力情報が含まれます。通常、ノード名、メッセージ・グループ、アプリケーション、オブジェクト、重要度、メッセージ・テキストなどの情報が示されます。</p>
ソリューション	<p>イベントで特定された問題を解決するために取られたソリューション手順を説明するテキスト・フィールド。</p> <p>ソリューション・テキストを、サービス・マネージャなどの外部マネージャに同期できません。</p>

[詳細フィルタ] 設定ダイアログ・ボックス

[詳細フィルタ] 設定ダイアログ・ボックスには、イベントを表示する前のフィルタの実行に使用する属性が表示されます。属性は1つのみ使用することも組み合わせ使用することもできます。





利用方法	<p>[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択></p> <p>[イベント フィルタの管理](...)ボタンを使用して[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスを開きます。</p>
関連タスク	<p>イベントのフィルタ方法については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ビューを使用したイベントのフィルタ方法」(80ページ) 「構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法」(81ページ) 「イベント・フィルタの表示および適用方法」(81ページ) 「シンプル・イベント・フィルタの定義方法」(82ページ) 「詳細なイベント・フィルタの定義方法」(83ページ) 「イベント・フィルタを共有する方法」(85ページ)
関連情報	<p>イベントのフィルタの詳細については、「フィルタリングの方法」(79ページ)および「イベント・フィルタ」(78ページ)を参照してください。</p>

フィルタ構成タブに表示される情報の詳細については、次の項を参照してください。

- 「詳細フィルタ設定」(91ページ)
- 「一般的なフィルタ要素」(91ページ)
- 「日付フィルタ要素」(92ページ)
- 「追加のイベント・プロパティ・フィルタ要素」(93ページ)
- 「詳細なプロパティ・フィルタ要素」(94ページ)

詳細フィルタ設定

フィルタの一致条件リストには、次の表のUI要素が表示されます。

UI 要素	説明
	変更するために選択したイベント・フィルタ要素を変更する[説明を編集]ダイアログ・ボックスを開きます。 [OK]をクリックすると、変更するイベント・フィルタ要素に適用できます。
	選択したイベント・フィルタ仕様から選択したイベント・フィルタ要素を削除します。
	トグルして、フィルタ仕様をフル・ビューまたはコンパクト・ビューで表示します。
	新しい要素を追加し、新しく追加された要素の[式]ダイアログ・ボックスを開きます。
説明を編集	記述するフィルタ・コンポーネントの定義(フィルタ定義に含める選択した属性の値など)を指定するためのダイアログ・ボックス。
フィルタ定義	フィルタを定義するために選択したコンポーネントが含まれます。プロパティは値と関連付けられ、演算子を使用して結合されます。
フィルタ要素	詳細なフィルタの指定に使用する、利用可能な演算子およびプロパティが含まれます。フィルタの定義表示枠に必要なプロパティまたは演算子をそれぞれドラッグし、フィルタの論理的な場所にドロップします。フィルタ定義のエントリを編集または削除するには、ボタンを使用するか、変更する式をダブルクリックします。

一般的なフィルタ要素

[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[一般]要素には、次の表のUI要素が表示されます。

UI 要素	説明
割り当て先	検索するイベントが割り当てられているユーザまたはユーザ・グループ。複数の割り当て先を選択できます。たとえば、[自身に割り当て済み]と[割り当てなし]を選択できます。
カテゴリ	フィルタ・オプションとして使用するイベントのカテゴリ。たとえば、DB、ストレージ、システム、WebApp などです。

UI 要素	説明
相関処理	検索対象として全イベント, 上位レベルのイベントのみ, 要因イベントのみのオプションを選択します。 すべてのイベント: ほかのイベントの症状として相関処理されるイベント。 上位レベルのすべてのイベント: 要因の割り当てがないすべてのイベント。 すべての要因イベント: 根本の要因イベントであるすべてのイベント。ほかの要因イベントの症状にすることはできません。
説明	元のイベントの説明フィールドの内容に表示されているイベントの説明。
ライフサイクル状態	検索しているイベントが到達している, 未解決, 実行中, 解決済み, クローズ済みなどの問題のライフサイクルの段階。複数のライフサイクル状態が選択できます。
優先度	なし, 低, 中など, 指定の優先度と一致するイベントを検索します。複数の優先度を選択できます。
重要度	フィルタ・オプションとして使用するイベントの重要度。複数の重要度を選択できます。
サブカテゴリ	検索しているイベントが属するイベント・サブカテゴリの名前。
タイトル	検索しているイベントのタイトル。
タイプ	フィルタで表示するイベントのタイプ。

日付フィルタ要素

[詳細フィルタ] 設定ダイアログ・ボックスの[日付]要素には, 次の表のUI要素が表示されます。

UI 要素	説明
<絶対時間>	絶対(カレンダー)条件での日付と時刻を指定します。時刻は, カレンダー日付と時間値(時および分)を入力して指定できます。指定した時刻の前または後のイベントは, 次のような演算子を使用して選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • 次の前 • 次の後

UI 要素	説明
< 関連時間 >	<p>イベントのフィルタで使用する, 現在の時刻を基準にした時間点を指定します。現在の時刻よりも古いまたは新しいイベントは, 次のような演算子を使用して選択できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次以上 • 次以内 <p>時間間隔は, 分, 時, 日, または週単位で指定できます。</p> <p>注: イベント・ブラウザは動的に更新されます。関連時間フィルタに一致しなくなったイベントはイベント・ブラウザから削除され, 一致する新しいイベントが追加されます。</p>
作成時間	検索しているイベントが発生した日時。
< 初回の受信時間 >	検索しているイベントの通知を OMi が最初に受信した日時。
受信時間	<p>検索しているイベントを受信した日時。</p> <p>重複イベントの場合は, 最後の重複イベントを受信した日時。</p>
ライフサイクル状態が変更された時間	ライフサイクル状態の最後の変更日時。

追加のイベント・プロパティ・フィルタ要素

[詳細フィルタ] 設定ダイアログ・ボックスの[追加のイベント プロパティ]要素には, 次の表の UI 要素が表示されます。

UI 要素	説明
アプリケーション	指定したアプリケーションにリンクされているイベントを選択します。
CI タイプ	<p>指定した CI タイプまたは指定した CI タイプの子と関連するイベントを検索するオプションを選択します。CI タイプをフィルタする場合の専用演算子は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次と等しい : 関連 CI が, 指定した CI タイプと一致する • 派生元 : 関連 CI が, 指定した CI タイプから派生している
カスタム属性	<p>フィルタリングで使用するカスタム属性, 演算子, 値を選択するカスタム属性エディタを選択します。</p> <p>カスタム属性のフィルタは, 左のフィールドでカスタム属性名を指定し, リストからフィルタの一致条件を選択し, 右のフィールドでカスタム属性値を指定して定義します。</p>

UI 要素	説明
イベントタイプインジケータ	イベント・タイプ・インジケータ(ETI)でフィルタできます。任意の演算子を使用して複数のインジケータを結合できます。
イベント・タイプ・インジケータの値	イベント・タイプ・インジケータ(ETI)値でフィルタできます。
キー	指定したキーへの参照を含むイベントを選択します。
オブジェクト	OM の元のメッセージで指定されているオブジェクトと関連するイベントを選択します。
元のデータ	OM のメッセージにフォーマット化する前の、HPE Operations Agent からキャプチャしたイベントの元のテキスト。 HPE Operations Agent のポリシーを使用してメッセージに標準化する前の、元の入力情報が含まれます。通常、ノード名、メッセージ・グループ、アプリケーション、オブジェクト、重要度、メッセージ・テキストなどの情報が示されます。
ソリューション	イベントで特定された問題を解決するために取られたソリューション手順を説明するテキスト・フィールド。 ソリューション・テキストを、サービス・マネージャなどの外部マネージャに同期できます。

詳細なプロパティ・フィルタ要素

[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックスの[詳細プロパティ]要素には、次の表のUI要素が表示されます。

UI 要素	説明
割り当てられたユーザ	ユーザに割り当てられているか割り当てられていないイベント、または特定のユーザに割り当てられているイベントを選択します。
割り当て済みワークグループ	グループに割り当てられているか割り当てられていないイベント、または特定のグループに割り当てられているイベントを選択します。
自動アクション状態	指定した自動アクション状態のいずれかを示すイベントを選択します。次の状態があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 利用可能 • 実行中 • 成功 • 失敗 • 利用不可
CI 解決の品質の測定値	指定したCI解決の品質の測定値に適合するイベントを選択します。

UI 要素	説明
CI 解決の成功のステータス	指定した CI 解決の成功のステータスのイベントを選択します。
移転されたコントロール	コントロールが外部サーバに移転されたか、または外部サーバに移転されなかったイベントを選択します。
ETI ヒント	指定した ETI 解決のヒントのイベントを選択します。
外部 ID	指定した外部 ID のイベントを選択します。
命令インタフェース名	指定した命令インタフェース名のイベントを選択します。
命令パラメータ文字列	指定した命令パラメータ文字列のイベントを選択します。
ダウンタイムで受信済み	ダウンタイム中に受信したイベント、またはダウンタイム中に受信しなかったイベントを選択します。
関連 CI のヒント	指定した関連 CI のヒントのイベントを選択します。
ユーザ・アクション状態	指定したユーザ・アクション状態のいずれかを示すイベントを選択します。次の状態があります。 <ul style="list-style-type: none"> • 利用可能 • 実行中 • 成功 • 失敗 • 利用不可

詳細フィルタの[正規表現を編集]ダイアログ・ボックス

[詳細フィルタ]設定ダイアログ・ボックスには、指定する説明のタイプに専用の[説明を編集]ダイアログ・ボックスが組み込まれています。次の項では、それらの[説明を編集]ダイアログ・ボックスについて説明します。

利用方法	[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択> [イベント フィルタの管理](...)ボタンを使用して[イベント フィルタの選択]ダイアログ・ボックスを開きます。
------	--

関連タスク	イベントのフィルタ方法については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">「ビューを使用したイベントのフィルタ方法」(80ページ)「構成アイテムを使用したイベントのフィルタ方法」(81ページ)「イベント・フィルタの表示および適用方法」(81ページ)「シンプル・イベント・フィルタの定義方法」(82ページ)「詳細なイベント・フィルタの定義方法」(83ページ)「イベント・フィルタを共有する方法」(85ページ)
関連情報	イベントのフィルタの詳細については、「フィルタリングの方法」(79ページ)および「イベント・フィルタ」(78ページ)を参照してください。

[説明を編集]ダイアログ・ボックスの詳細については、次の項を参照してください。

- 「事前設定リストに含まれる属性」(96ページ)
- 「テキスト文字列によって特定される属性」(96ページ)
- 「カスタム属性」(97ページ)
- 「日付別を選択されたイベント」(97ページ)
- 「CIタイプ」(98ページ)
- 「リストからの属性の選択」(98ページ)
- 「数値」(99ページ)
- 「[True]または[False]」(99ページ)

事前設定リストに含まれる属性

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは、通常、属性の組み合わせを選択する場合(たとえば、現在のユーザに割り当てられているイベントおよびどのユーザにも割り当てられていないイベント)に使用します。

正規表現を編集

割り当て先 が次のうちの1つ: 自分

マイワークグループ

その他

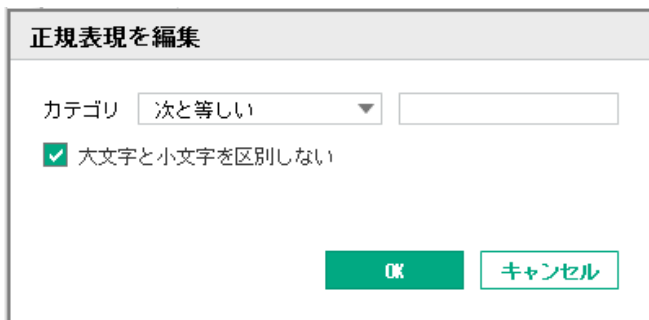
なし

OK キャンセル

イベントの一覧に含める選択可能なイベント属性を1つ以上選択してください。

テキスト文字列によって特定される属性

[説明を編集]ダイアログ・ボックスは、通常、値との間に指定された関係がある属性(たとえば、カテゴリ値が[database]になっているイベント)を選択する場合に使用します。選択項目の大文字と小文字は区別されません。

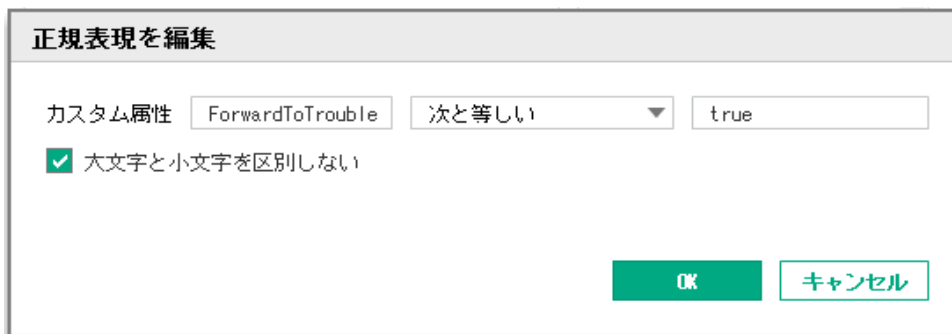


選択した属性について、検索するテキスト文字列を入力し、属性とその値の間の関係を確立する演算子を選択します。利用可能な演算子の詳細については、「[テキスト演算子](#)」(100ページ)を参照してください。

[**大文字と小文字を区別しない**]を選択し、指定したテキストをすべての形式で検索してください。

カスタム属性

この[正規表現を編集]ダイアログ・ボックスは、値との間に指定された関係があるカスタム属性(たとえば、値がtrueになっているカスタム属性 **ForwardToTroubleTicket** を含むイベント)を選択する場合に使用します。選択項目の大文字と小文字は区別されません。



指定したカスタム属性について、検索する属性値のテキスト文字列を入力し、カスタム属性とその値の間の関係を確立する演算子を選択します。利用可能な演算子の詳細については、「[テキスト演算子](#)」(100ページ)を参照してください。

[**大文字と小文字を区別しない**]を選択し、指定したテキストをすべての形式で検索してください。

日付別に選択されたイベント

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは、作成日付、受信日付、またはライフサイクル状態が遷移した時期に応じてイベントを選択する場合に使用します。この例では、4日より前に作成されたイベントが選択されます。

正規表現を編集

作成時間 次以内 4 日間

OK キャンセル

選択した属性について、該当するイベントの特定に使用する時刻および演算子を入力します。利用可能な演算子の詳細については、「日付演算子」(99ページ)を参照してください。

CIタイプ

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは、指定したCIタイプに関連したイベント、または指定したCIタイプから派生したCIタイプに関連したイベントを選択する場合に使用します。この例では、CIタイプ「Computer」から派生したCIタイプのイベントが選択されます。

正規表現を編集

CIタイプ 派生元 Computer

OK キャンセル

[CIタイプの選択]ダイアログ・ボックス(...)からCIタイプを選択し、演算子(「次と等しい」または「派生元」)を選択します。

- **次と等しい**: 関連CIが、指定したCIタイプと一致する
- **派生元**: 関連CIが、指定したCIタイプから派生している

リストからの属性の選択

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは、通常、事前定義リストから1つの属性を選択する場合(たとえば、ワークグループに割り当てられたイベント)に使用します。

正規表現を編集

イベントがどのワークグループにも割り当てられています

イベントがワークグループに割り当てられていません

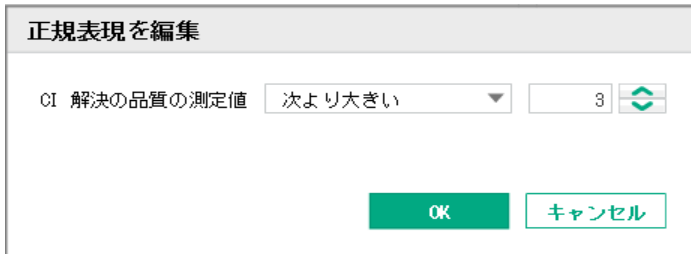
イベントがワークグループに割り当てられています

OK キャンセル

イベントのリストに含めるイベント属性を1つ選択し、必要に応じて、その属性の値を指定します(たとえば、「Administrators」と呼ばれるワークグループ)。

数値

この[正規表現を編集]ダイアログ・ボックスは、通常、数値との間に指定された関係がある属性(たとえば、[CI 解決の品質の測定値]の値が3より大きいイベント)を選択する場合に使用します。



正規表現を編集

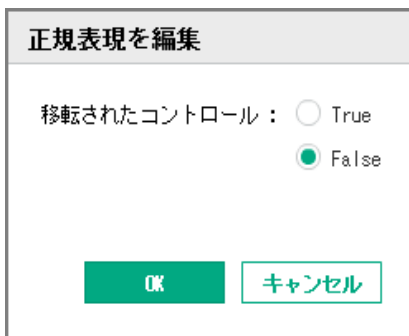
CI 解決の品質の測定値 次より大きい 3

OK キャンセル

イベント属性の値を選択し、イベント属性とその値の間に関係を確立する演算子を選択します。利用可能な演算子の詳細については、「[数値演算子](#)」(100ページ)を参照してください。

[True]または[False]

この[説明を編集]ダイアログ・ボックスは、通常、設定中のイベント属性の属性値として[True]または[False]を選択する場合(たとえば、[移転されたコントロール]が[False])に使用します。



正規表現を編集

移転されたコントロール : True
 False

OK キャンセル

設定中のイベント属性について、[True]または[False]を選択します。

[フィルタ構成]ダイアログ・ボックスで使用する演算子

詳細フィルタ設定ダイアログ・ボックスでは、次の表にある演算子がサポートされています。

- 「[日付演算子](#)」(99ページ)
- 「[数値演算子](#)」(100ページ)
- 「[テキスト演算子](#)」(100ページ)
- 「[True - False の演算子](#)」(101ページ)

日付演算子

次の表に、日付の式で使用する演算子の一覧を示します。

演算子	説明
次の後	絶対時間を指定すると、指定した時間よりもタイムスタンプが新しいイベントが選択されます。
次の前	絶対時間を指定すると、指定した時間よりもタイムスタンプが古いイベントが選択されます。
次以内	関連時間を指定すると、選択した時点よりもタイムスタンプが新しい(たとえば、[1日よりも新しい])イベントが選択されます。
次以上	関連時間を指定すると、選択した時点よりもタイムスタンプが古い(たとえば、[1日よりも古い])イベントが選択されます。

数値演算子

次の表に、数式で使用する演算子の一覧を示します。

演算子	説明
=	指定した値と同じ、選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベントを表示する。
<	指定した値より小さい、選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベントを表示する。
<=	指定した値と同じであるか小さい、選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベントを表示する。たとえば[CI 解決の品質の測定値]として値 33を選択すると、CI 解決の品質の測定値が33%未満のすべてのイベントが表示される。
>	指定した値より大きい、選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベントを表示する。
>=	指定した値と同じであるか大きい、選択した属性と同じ属性を持つすべてのイベントを表示する。たとえば[CI 解決の品質の測定値]として値 50を選択すると、CI 解決の品質の測定値が50%を超えるすべてのイベントが表示される。

テキスト演算子

次の表に、テキスト式で使用する演算子の一覧を示します。

演算子	説明
を含む	<p>選択した属性に指定した文字列への参照を含むすべてのイベントを表示する。たとえば、「データベース」を含むすべての文字列を検索すると、次が返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データベース • データベースのステータス • Oracle データベースのステータス

演算子	説明
次と等しい	<p>指定した文字列と同じ属性または属性値を持つすべてのイベントを表示する。たとえば、「データベース」と等しいカテゴリ・タイプのイベントを検索すると、次のカテゴリのイベントが返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • データベース
存在する	<p>指定した文字列のカスタム属性を含むイベントを表示する。たとえば、「ABC 存在する」では、カスタム属性 ABC を含むすべてのイベントが表示されます。</p>
一致	<p>指定した正規表現と一致するすべてのイベントを表示する。</p> <p>パターンは、Java 正規表現クラス <code>java.util.regex</code> の構文を使用します。このクラスの正確な構文については、Java のオンライン・ドキュメントを参照してください。</p> <p>正規表現を含むフィルタの処理には、正規表現のないフィルタよりも多くのリソースが使用されるため、より簡単な別の方法を使用できない場合にのみ正規表現を使用することをお勧めします。</p>
次を含まない	<p>選択した属性に指定した文字列への参照が含まれないすべてのイベントを表示する。データベースを含まない文字列を検索すると、次のようにデータベースを含まないすべての文字列が返される。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 青い月 • その他のすべて
等しくない	<p>指定した文字列と同じでない属性を持つすべてのイベントを表示する。たとえば、イベント・カテゴリがデータベースとは同一でないものを検索すると、データベースとは同一でないカテゴリを持つイベントが返されます。次などのイベント属性が返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ストレージ • DB • ネットワーク
次と一致しない	<p>指定の正規表現と一致しないすべてのイベントが表示される。</p> <p>パターンは、Java 正規表現クラス <code>java.util.regex</code> の構文を使用します。このクラスの正確な構文については、Java のオンライン・ドキュメントを参照してください。</p> <p>正規表現を含むフィルタの処理には、正規表現のないフィルタよりも多くのリソースが使用されるため、より簡単な別の方法を使用できない場合にのみ正規表現を使用することをお勧めします。</p>

True - False の演算子

次の表に、True および False 式で使用する演算子の一覧を示します。

演算子	説明
False	false の場合に属性をマッチングするために使用します。
True	true の場合に属性をマッチングするために使用します。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では、フィルタの作成、変更、有効化など、OMi のイベント・フィルタの問題のトラブルシューティングについて説明します。

イベントのフィルター一覧にフィルタが表示されない

- アクティブなユーザがフィルタを所有していない。
- フィルタは、作成された領域でのみ利用可能。たとえば[Event Browser]のフィルタは管理 UI では使用できない。

イベントが表示されない

- 正しいフィルタが有効になっていることを確認する。
- 現在有効なフィルタが正しく設定されていることを確認する。
- 現在適用されている CI またはビューが、表示するイベントをフィルタリングしていないことを確認する。

イベントの終了とアーカイブ用のツール

次のコマンドライン・ツールを使用してイベントを終了、アーカイブできます。

- `opr-close-events`
詳細については、「[opr-close-events コマンドライン・ツール](#)」(105ページ)を参照してください。
- `opr-archive-events`
詳細については、「[opr-archive-events コマンドライン・ツール](#)」(102ページ)を参照してください。

opr-archive-events コマンドライン・ツール

OMi では、イベントは設定可能な間隔でバックグラウンド・プロセスによって自動的にアーカイブされます。イベントの自動アーカイブは、[イベントの自動アーカイブ設定]インフラストラクチャ設定を使用して設定できます。

利用方法：

[管理]> [セットアップと保守]> [インフラストラクチャ設定]

[アプリケーション]を選択し、リストを使用し管理コンテキストを[オペレーション管理]に設定します。[オペレーション管理] - [イベントの自動アーカイブ設定]にスクロールします。

クローズしたイベントをデータベースから手動で削除して、それらをアーカイブ・ファイルに追加するには、データベース保守用のコマンドライン・ツール `opr-archive-events` を使用できます。

注: 終了イベントのインポートはサポートしていません。

ほかのサーバとの Delete-Event の同期

opr-archive-events はほかのサーバ(例: ほかの OMi または OM サーバ)にイベントの更新を転送しません。ほかの OMi または OM サーバのイベントは影響を受けません。(これは、opr-close-events コマンドライン・ツールを使用したイベントの終了にも適用されます)。

また、OM のイベントの終了、削除、アーカイブに、omwmsgutil(OM for Windows)ツール、opcack および opchistdown(OM for UNIX または Linux)を使用した場合にも、イベントは更新はされません。OMi のイベントは影響を受けません。

これらすべてのツールはそれぞれのデータベースに直接作用し、変更がワークフロー・プロセスを経ることがないため、結果として OMi および OM 間で同期されません。

これらのツールを使用してあるシステム(OMi など)のイベントを終了、削除、アーカイブした場合は、適切なツールを使用して同一の変更をその他のシステム(OM など)でも行う必要があります。

または、イベントの同期が必要な場合、OMi イベント同期 Web サービスを使用します。詳細については、OMi 拡張性ガイドを参照してください。

場所

opr-archive-events コマンドライン・ツールは次の場所にあるデータ処理サーバでのみ使用できます。

<OMi_HOME>/bin/opr-archive-events

標準設定:

Windows :C:\HPBSM\bin

Linux :/opt/HP/BSM/bin

構文

```
opr-archive-events
opr-archive-events -u <date> -o <outputPathAndFileName[-a][-s][-force][-utc]
[-i <severities>] [-n <nodeId>]
opr-archive-events -u <date> -d [-s][-force][-utc][-i <severities>]
opr-archive-events -h
```

注: 角括弧で囲まれたオプションは組み合わせて使用できます。これ以外の場合は、オプションは個別に使用します。

オプション

オプション	説明
-a,--archiveOnly <アーカイブ・ファイル>	データベースからイベントを削除せず、イベントのアーカイブのみを行う。

オプション	説明
-d,--deleteOnly	アーカイブすることなくデータベースからイベントを削除する。
-force	ユーザに確認することなくイベントをアーカイブする。
-h,--help	コマンド・オプションのサマリを表示して、終了する。
-i,--severities <重要度>	指定された重要度(例: 重要警戒域, 危険域)のイベントのみをアーカイブまたは削除する。
-n,--nodeld <ノード ID>	指定されたノードに関連するイベントを削除する。
-o,--output <アーカイブ・ファイル>	アーカイブしたイベントの格納に使用する XML ファイルのパスと名前。
-s,-- sweepOrphans	イベントに関係ないオーファン・オブジェクトをすべて削除する。「-a」を指定している場合、このオプションは無視されます。
-t,--olderThan <よりも古い>	指定時間よりも古いイベントをアーカイブする。 例: opr-archive-events-olderThan 3D12H5M12S この例では、現在の時刻(CLI を実行している時刻)から3日と12時間5分12秒を引いた値を時刻として受信したすべてのイベントがアーカイブされます。時刻に関する引数では、日、時間、分、秒のサブセットも使用できます。たとえば、パラメータ「-olderThan 3D」も有効です。
-u,--until <日付>	指定時の前に受信したイベントをアーカイブする。時間は次のいずれかの形式で指定する必要がある。 yyyy.mm.dd-hh:mm:ss yyyy.mm.dd-hh:mm yyyy.mm.dd-hh yyyy.mm.dd
-utc	UTC 時間で表したスレッド日付/時刻パラメータ。

制限

opr-archive-events コマンドライン・ツールを実行しているユーザは、ローカル・ユーザ(Windows)であるか、OMi プロセスが実行されているユーザ(Linux)である必要があります。SQL Server インスタンスで Windows 認証モードが使用されている場合は、opr-archive-events を実行しているユーザにイベント・データベースへのアクセス権を付与する必要があります。

ヒント: アーカイブ・ツールの XML 出力ファイルでは、modifiedBy 属性を使用して、ユーザが変更したイベント・プロパティ(OMi ユーザ名によって識別されます)を識別します。

opr-close-events コマンドライン・ツール

IT 環境では、特定の問題により、同様のイベントが大量に生成され(イベント・ストーム)、OMi に送信されることがあります。それらの大量のイベントの参照、フィルタには時間がかかり、タイムアウト・エラーとなることがあります。たとえば、イベント・ストームが発生した後で、opr-close-events コマンドライン・ツールを使用して、特定のノード、関連 CI、またはノードと関連 CI の組み合わせに関連するすべてのアクティブなイベントを終了できます。

タイムアウトは、たとえば、ブラウザのイベントをすべての選択して閉じるなど、Web アプリケーションで大量のイベントを処理する結果として発生します。ユーザ・インタフェース・サーバでは、起動に時間がかかったり、メモリのボトルネックが生じます。

OMi ユーザ・インタフェースに回答がない場合、opr-close-events コマンドライン・ツールを使用すると、イベント・ストーム時に発生する、関連イベントを含む大量のイベントを終了できます。

注: ツールの実行が終わった後に、イベント処理がしばらく停止することがあります。

ほかのサーバとの Close-Event の同期

opr-close-events はほかのサーバ(例:ほかの OMi または OM サーバ)に close-event の更新を転送しません。ほかの OMi または OM サーバのイベントは影響を受けません。(これは、opr-archive-events コマンドライン・ツールを使用したイベントの削除、アーカイブにも適用されます)。

また、OM のイベントの終了、削除、アーカイブに、omwmsgutil(OM for Windows)ツール、opcack および opchistdown(OM for UNIX または Linux)を使用した場合にも、イベントは更新はされません。OMi のイベントは影響を受けません。

これらすべてのツールはそれぞれのデータベースに直接作用し、変更がワークフロー・プロセスを経ることがないため、結果として OMi および OM 間で同期されません。

これらのツールを使用してあるシステム(OMi など)のイベントを終了、削除、アーカイブした場合は、適切なツールを使用して同一の変更をその他のシステム(OM など)でも行う必要があります。

または、イベントの同期が必要な場合、OMi イベント同期 Web サービスを使用します。詳細については、OMi 拡張性ガイドを参照してください。

場所

opr-close-events コマンドライン・ツールは次の場所にあるデータ処理サーバでのみ使用できます。

<OMi_HOME>/bin/opr-close-events

標準設定:

Windows :C:\HPBSM\bin

Linux :/opt/HP/BSM/bin

構文

```
opr-close-events [-f <date>] [-u <date>] [-s <severity>] [-force] [-utc]
                  [-n <ci_id> [<ci_id>, ...]][-c <ci_id> [<ci_id>, ...]]
opr-close-events -all [-force] [-utc]
opr-close-events -olderThan <relative time> [-force] [-n <ci_id>
                  [<ci_id>, ...]][-c <ci_id> [<ci_id>, ...]]
opr-close-events -id <evt_id> [<evt_id>, ...]][-force]
opr-close-events -h
```

注: 角括弧で囲まれたオプションは組み合わせて使用できます。これ以外の場合は、オプションは個別に使用します。

オプション

オプション	説明
-all	すべてのイベントを閉じる
-c,--relatedCild <関連 CI ID>	<p>任意のタイプの CI をそれぞれが表す、1 つ以上の CMDB CI ID を指定します。指定した CI に関連するすべてのイベントが閉じ、すべてのイベント・ブラウザが更新されます。</p> <p>CMDB ID は、関連 CI の一般プロパティから検索できます。たとえば、関連 CI である myApache Tomcat Service の CMDB ID は、次の形式になります。 ef372b80d3ed6bbeecf1a7d1a960dcb7</p> <p>-c オプションを -n オプションと組み合わせて使用すると、指定したノードおよび指定した関連 CI の両方に一致するすべてのイベントを選択できます。ノードおよび特定の CI の両方に関連するイベントを閉じるには、-c および -n オプションを組み合わせて、関連 CI の CMDB ID とノードの CMDB ID を指定します。コマンドは、次のようになります。</p> <pre>opr-close-events -n 1e3aab8e7ecd24482a8118e24200f981 -c ef372b80d3ed6bbeecf1a7d1a960dcb7</pre>
-f,--from <日付 >	<p>指定時後に受信したイベント(関連イベントを含む)を終了する。このオプションは severity および until time オプションと併用できる。時間は次のいずれかの形式で指定する必要がある。</p> <pre>yyyy.mm.dd-hh:mm:ss yyyy.mm.dd-hh:mm yyyy.mm.dd-hh yyyy.mm.dd</pre>
-force	ユーザに確認することなくイベントを閉じる。
-h,--help	コマンド・オプションのサマリを表示して、終了する。

オプション	説明
-i,--id <id>	指定したイベント ID のイベントを終了する。 例 : opr-close-events -i 0e25d750-cbd9-71e4-14c8-c0a8fe380000,0beeb342-cb90-71e4-156e-c0a8fe380000 -force
-n,--node <ノード>	ノード・タイプの CI をそれぞれが表す、1つ以上の CMDB CI ID を指定します。指定したノードに関連するすべてのイベントが閉じ、すべてのイベント・ブラウザが更新されます。 CMDB ID は、関連 CI の一般プロパティから検索できます。たとえば、ノード mynode.example.com の CMDB ID は、次の形式になります。 1e3aab8e7ecd24482a8118e24200f981 -n オプションを -c オプションと組み合わせて使用すると、指定したノードおよび指定した関連 CI の両方に一致するすべてのイベントを選択できます。ノードおよび特定の CI の両方に関連するイベントを閉じるには、 -c および -n オプションを組み合わせて、関連 CI の CMDB ID とノードの CMDB ID を指定します。コマンドは、次のようになります。 opr-close-events -n 1e3aab8e7ecd24482a8118e24200f981 -c ef372b80d3ed6bbeecf1a7d1a960dcb7
-r,--resetHls	イベントを閉じた後に状況インジケータをリセットする。
-s,--severity <重要度>	指定の重要度のイベントを終了する。このオプションは from time および until time オプションと併用できる。重要度は、次のいずれかになります。NORMAL, WARNING, MINOR, MAJOR, CRITICAL。
-t,--olderThan <よりも古い>	指定時間よりも古いイベントを終了する。 例 : opr-close-events-olderThan 3D12H5M12S この例では、現在の時刻 (CLI を実行している時刻) から 3 日と 12 時間 5 分 12 秒を引いた値を時刻として受信したすべてのイベントが閉じられます。時刻に関する引数では、日、時間、分、秒のサブセットも使用できます。たとえば、パラメータ「-olderThan 3D」も有効です。
-u,--until <日付>	指定時間の前に受信したイベントを終了する。このオプションは severity および from time オプションと併用できる。時間は次のいずれかの形式で指定する必要があります。 yyyy.mm.dd-hh:mm:ss yyyy.mm.dd-hh:mm yyyy.mm.dd-hh yyyy.mm.dd
-utc	UTC 時間で表したスレッド日付/時刻パラメータ。

制限

opr-close-events コマンドライン・ツールを実行しているユーザは、ローカル・ユーザ (Windows) であるか、OMi プロセスが実行されているユーザ (Linux) である必要があります。SQL Server インスタンスで Windows

認証モードが使用されている場合は、opr-close-events を実行しているユーザにイベント・データベースへのアクセス権を付与する必要があります。

第7章: 状況

OMiを使用すると、組織内で収益を生み出すアプリケーションおよびサービスの可用性とパフォーマンスを監視できます。また、OMiでは、そのデプロイメントの状況が追跡され、検出された問題に関する情報を得られます。

OMiでは、OMやHPE Operations AgentなどのHPEソフトウェア・アプリケーションで収集されたデータ、および外部監視ツールから収集したデータが使用されます。OMiは、ERP、CRM、Web、Citrixなどのさまざまな環境から、エンド・ユーザ・エクスペリエンスに関するメトリクスを収集します。また、Webサーバ、J2EEアプリケーション、データベース、ネットワーク・デバイス、ストレージ・デバイスなどの各種バックエンド・インフラストラクチャ・コンポーネントから、システム・パフォーマンスに関するメトリクスを収集します。

収集、集計されたデータは、OMiの状況インジケータ(HI)と主要管理指標(KPI)によって使用され、ビジネス目標の達成度を監視するのに役立つ定量化可能な測定値が提供されます。KPIとHIは、ビジネスおよびプロセスの現在の状況をリアルタイムで評価します。これにより、重要なパフォーマンス変数を経過時間ごとに追跡でき、システム内の問題がビジネスに与える影響度を評価できます。

OMiでは、最上位レベルで、重要なアプリケーションとビジネス・プロセスの統合ビューが示されます。そこから、これらの重要なビジネス・プロセスに関連する、基盤のITインフラストラクチャにドリルダウンできます。このドリルダウン・ビューは、データ・センターごと、テクノロジー・クラスタごと、地理的な場所ごとなど、さまざまな方法でレイアウトできます。

イベント・タイプ・インジケータ

イベント・タイプ・インジケータ(ETI)とは、管理対象のIT環境内で発生するイベントを、発生タイプ別に分類するのに使用するOMiイベントの属性です。OMiのイベントは、OMやNetwork Node Managerなどのマネージャからメッセージを受信すると生成されます。OMでは、イベント・タイプ属性の設定に使用されるカスタム属性 ETIHintを組み込むようにイベントを設定できます。このカスタム属性が設定されていないと、イベント・タイプ属性は該当するマッピング・ルールによって設定されます。十分な情報がない場合はETIは設定されません。

監視対象のシステムで特定のタイプのOMiイベントが生成される場合、同じETIを割り当てる必要があります。適切な相関ルールの定義後、イベントはETIに基づいて相関処理されます。相関ルールでは、CIで生じるイベントのタイプを関連付けます。

詳細

ETIの特徴

ETIには次の特徴があります。

- 複数のイベントの発生源を抽出するために、イベントのタイプをカテゴリわけします。
- 値は最低1つ必要です。この値は、環境内でのイベントの発生を記述するのに使用されます。たとえば、次のようなETIが示されます。システムの再起動：発生発生という1つの値が便宜上作成されるので、通常は、このようなETIには値を設定する必要はありません。
- イベントには1つETI属性が含まれます。ETIは、それ自体がインスタンスとしては存在しません。

- 対応するHIなしのETIは[Health Indicators]表示枠には表示されません。
- 手動でリセットする必要はありません。ETIは単なるイベント属性に過ぎません。

構成アイテムは、HIなどのETIの割り当てを親の構成アイテム・タイプから継承します。たとえば、構成アイテム・タイプのデータベースに割り当てられたETIは、Oracleの構成アイテム・タイプにも割り当てられ、Oracleデータベースの構成アイテムが存在する場合、それらすべてに適用されます。

タスク

イベント・タイプ・インジケータの表示方法

1. インジケータ・マネージャを起動します。
イベント・ブラウザでイベントを選択し、ショートカット・メニューから次を選択します。
[設定]>[イベントタイプインジケータ]
2. [CIタイプ]表示枠からCIタイプを選択します。
3. [インジケータ]表示枠からインジケータを選択します。
選択したインジケータの詳細が[詳細]表示枠に表示されます。

状況インジケータ

状況インジケータ(HI)は、監視しているCIの指定の局面の状況を決定および表示します。HIは、「システム：実行中」などの1つの値を使用してCIの通常の状態を表すイベント固有のモニタです。異常な状態には、「システム：停止済み」など、1つ以上の追加値が使用されます。このようにして、ハードウェア・リソースが利用可能で応答しているかを状況インジケータは示します。

状況インジケータを使用すると、ソフトウェア・アプリケーションの状況も示すことができます。たとえば、データベース・サーバの可能な状態として、次のように指定できます。[利用可能]、[開始中]または[停止中]。また、状況インジケータを使用して、ソフトウェア・アプリケーションの使用状況が「正常」、「高」、または「超過」のいずれの負荷であるかを示すこともできます。

HIは、CIの状態の情報を提供するイベントのみが設定できます。状況インジケータは関連付けられているETIを通して、特定の構成アイテム・タイプに割り当てられています。OMiでは、イベント属性やマッピング・ルールを使用して、インジケータを自動的に設定します。

詳細

本項の内容

- [「マッピング・ルール」\(110ページ\)](#)
- [「HIベースのKPIの計算」\(111ページ\)](#)

マッピング・ルール

マッピング・ルールを使用して、受信したイベントの属性を、個々の設定タイプごとの低または高などの定義済みの状況インジケータの値と一致させることができます。たとえば、UNIXシステムでのCPU負荷に関連したイベントを監視するHIを定義できます(CIタイプ: [インフラストラクチャ要素]>[ノード]>[コンピュータ]>[Unix])。CPUの負荷が低または高であるとレポートするイベントを受信した場合、適切な

状況インジケータ値が設定されます。

HI ベースの KPI の計算

HI は、監視しているリソースの可用性およびパフォーマンスの計算に KPI が必要とするデータを提供します。KPI では、計算ルールを使用して、複数の状況インジケータからの値を照合し、[危険域]、[重要警戒域]、[警戒域]、または[正常域]などの重要度レベルを設定します。たとえば、データベースの KPI には、全体の状況を判別するのに実行状態(稼働中、停止)、キャッシュのヒット率(0、50、100%)、クエリ・キューの長さ(空、完全)、応答時間(#ms)といった、複数の状況インジケータを備えることが可能です。

KPI の詳細については、「[HI ベースの KPI の計算](#)」(111ページ)を参照してください。

タスク

本項の内容

- [「状況インジケータのリセット方法」](#)(111ページ)

状況インジケータのリセット方法

HI をリセットするとは、オブジェクトの重要度のステータスを[正常域]などの定義済みの標準設定値に戻すことを言います。

注: HI のリセットは通常は不要です。OMi が自動的にリセットしないなどの例外的な状況でのみ実行してください。

1. イベント・ブラウザを開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
2. [Event Browser] 表示枠で、状況インジケータを終了してリセットするイベントを右クリックします。
3. 表示されたショートカット・メニューで[状況インジケータを終了して再設定]を選択します。

HI ベースの KPI の計算

主要管理指標(KPI)では、状況インジケータから渡されるデータに計算ルールを適用して、状況インジケータが割り当てられているオブジェクトの可用性およびパフォーマンスを決定します。計算の結果得られる値は、正常域、注意域、警戒域、重要警戒域、危険域などの重要度レベルの設定に使用されます。

選択したイベントに関連する KPI は[Health Perspective] タブの[Health Indicators] 表示枠に表示されます。示される色は重要度を示します。KPI は、[Health Top View] の属する監視オブジェクト下に表示されます。

各 KPI の色は、KPI の現在の重要度の状況を示します。重要度の状況は、重要度状況がどのように、そしていつ関係の連鎖で伝搬されるかを指定するビジネス・ルールによって決定されます。定義上、危険域の問題があるリソースに依存するすべてのリソースが危険域にあることはありません。KPI では複数のソースからの情報を使用し、依存の連鎖の上下にわたる全体の影響を決定して、それに応じた重要度の状況を決めます。

注: 提供される情報の重要度は、ソースのタイプによって決定されます。たとえば、ノードで直接実行されているモニタからのライブ・データは、KPI の関係と依存を計算のベースとするビジネス・ルールからのデータよりも重要視されます。これは、ビジネス・ルールによって伝播された KPI の状況は、CI からの直接のライブ・データによって上書きされる場合があることを意味します。

詳細

本項の内容

- ・「状況ベースのデータの KPI」(112ページ)
- ・「イベントベースのデータの KPI」(112ページ)

状況ベースのデータの KPI

次の KPI ではヘルスペースのデータを使用します。

- ・ **システムおよびアプリケーションのパフォーマンスの KPI** :状況インジケータからのパフォーマンス関連のデータには、データベース・キャッシュのヒット率、サーバ接続の速度、キュー長、データベース・クエリの処理時間の値などがあります。この例では、データベースの構成アイテム・タイプに固有の状況インジケータを説明します。その他の構成アイテム・タイプには別の状況インジケータがあります。
- ・ **システムおよびアプリケーションの可用性の KPI** :可用性関連のデータには、サーバの実行状況(稼働中、停止、起動中、終了中)またはプロセスのアクティビティ(拒否、接続の許可、応答なし)などがあります。

イベントベースのデータの KPI

ほかに2つ、未割り当てまたは未解決イベント用にイベント・データを使用する KPI タイプがあり、これらは標準設定ですべての構成アイテムに割り当てられています。未割り当ての KPI のイベントとは、根本的な問題の調査を行うユーザが割り当てられていないイベントを指します。未解決の KPI とは、根本的な問題がまだ修正されていないイベントを指します。

注: 未割り当てのイベントベースの KPI も定義上は未解決です。

未割り当てまたは未解決の KPI が1つ以上のイベントのデータを参照する場合、KPI の色は、ビジネス・ルールで設定した重要度の色になります。未割り当ておよび未解決の KPI に標準設定で関連付けられているビジネス・ルールは[操作のイベント ライフサイクルのグループルール]ですが、これは KPI のステータスとして、関連する構成アイテムに関連付けられているすべてのイベントの最上位の重要度を設定します。たとえば、未割り当てのイベントの KPI が1つの危険域のイベントと4つの正常域のイベントを参照する場合、その KPI は危険域イベントを示す赤で表示されます。

注: 子 CI からは伝播されません。

タスク

本項の内容

- ・「KPI のビジネス・ルールの設定の表示方法」(113ページ)
- ・「HI ベースの主要管理指標の詳細の表示方法」(113ページ)

KPI のビジネス・ルールの設定の表示方法

このタスクでは、KPI の重要度を設定するために OMi が適用するビジネス・ルールを特定する方法を説明します。KPI では、1 つ以上の状況インジケータにより提供されるデータを使用して、監視対象オブジェクトに特定の重要度レベルを設定します。KPI ビジネス・ルールは、依存 KPI のステータスがどのように結合されるかと、その結果が親 KPI の重要度の計算でどのように使用されるかを指定します。

1. [Health Perspective] タブを開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Health Perspective]
2. [Event Browser] 表示枠でイベントを選択します。
イベントと関連する CI およびその直接の近隣 CI が [Health Top View] に表示されます。
3. [状況トップビュー] 表示枠で、KPI ビジネス・ルールを表示する CI にマウス・ポインタを置き、右側に表示される [CI ショートカットメニューを開く] ボタンをクリックします。
開いた CI ショートカット・メニューで、[KPI] 領域をクリックし、ビジネス・ルールのエントリの値を確認して、重要度のステータスの設定に使用されたビジネス・ルール([ワースト ステータス ルール] など)を確認します。

HI ベースの主要管理指標の詳細の表示方法

このタスクでは、KPI の詳細のリストを作成して表示する方法について説明します。KPI では、1 つ以上の状況インジケータによって提供されるデータを使用して、監視対象オブジェクトの重要度レベル([正常域], [注意域], [危険域])を設定します。

1. [Health Perspective] タブを開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Health Perspective]
2. [Event Browser] 表示枠で KPI の詳細を表示するイベントを選択します。
3. [Health Indicators] 表示枠で、詳細を表示する KPI のステータス・アイコンを指します。ステータス、ビジネス・ルール名、ステータスの最終変更日などの KPI の詳細がポップアップ・ダイアログ・ボックスに表示されます。

CI 影響度階層に沿ってイベントを伝搬および合計する方法

CI 影響度階層に沿ってイベントを伝搬および合計するには、KPI の未解決および未割り当てのイベント用のイベント KPI グループと兄弟ルール(OMi)を使用します。

1. イベント・ベースの KPI(未割り当て、未解決)用の標準設定グループ・ルールを、**イベント KPI グループと兄弟ルール(OMi)**に変更します。
2. CI タイプ構成アイテムに対する KPI 割り当てルール(**OMi KPI 割り当て**)を、**ビジネス・ルールのイベント KPI グループと兄弟ルール(OMi)**を使用するように変更します(この割り当て中の 2 つの KPI のそれぞれについて 1 回変更します)。
3. CI タイプ構成アイテムに対する伝搬ルール(**OMi 未割り当てイベント KPI 伝搬および OMi 未解決イベント KPI 伝搬**)を、**イベント KPI グループと兄弟ルール(OMi)**を使用して KPI を伝搬するように変更します。
4. リポジトリ UI 内のルール定義に移動し、チェック・ボックスを選択してルール・パラメータを設定可能にすることによって、非表示のルール・パラメータを表示します。次に、KES 割り当て中の KPI のルールを更新します。割り当てを保存した後、ルール・パラメータを再度非表示にできます。

あるいは、既存の KPI を削除してから、KES 割り当てを実行することもできます。この処理は、割り当てによって KPI の更新ではなく作成が行われる原因になります。

5. すべての CI を同期します。(CI の数によっては、これには時間がかかることがあります)。


注釈ツール

このページでは、表示しているトポロジ・マップのスナップショットに注釈を追加して、重要な領域を強調表示できます。

注釈ツールは、トポロジ・マップと隣接マップのコンポーネントにおいて同一のツールです。

利用方法

トポロジ・マップまたは隣接マップを組み込んだカスタム・ページを作成します。ビュー・エクスプローラやトップ・ビューなどの、CI を選択するためのコンポーネントを追加します。

トポロジ・マップまたは隣接マップのツールバーで[注釈]  ボタンをクリックします。

詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。



UI の説明

注釈オプション

スナップショットに注釈を追加できるようにする要素です。

注釈オプションは[注釈ツール]ウィンドウの左側にあります。

以下では、使用されるインターフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	パン・ツール : スナップショットを移動します。
	ツールの選択 : クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を選択します。







UI 要素	説明
	<p>図形ツール: クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットに図形を追加します。図形ツールボタンをクリックすると、次の図形ボタンが有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none">  四角形: クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を四角形でマークします。  塗りつぶし四角形: クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を塗りつぶし四角形でマークします。  楕円: クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を楕円形でマークします。  塗りつぶし楕円: クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を塗りつぶし楕円形でマークします。  角丸四角形: クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を角丸四角形でマークします。  塗りつぶし角丸長方形: クリック・アンド・ドラッグで、スナップショットの特定の領域を塗りつぶし角丸長方形でマークします。 <p>カスタマイズ: このボタンを選択すると、インターフェースの次の各部分を使用して線の外観をカスタマイズできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 線の種類: 追加する線の種類(実線または点線)を選択します。 線の幅: 注釈内の線の幅をピクセル単位で選択します。
	<p>線ツール: クリック・アンド・ドラッグで、線ツールが有効になります。このツールは、選択したスナップショットの領域を線でマークします。</p> <p>カスタマイズ: このボタンを選択すると、インターフェースの次の各部分を使用して線の外観をカスタマイズできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 線の種類: 追加する線のスタイル(標準の線, エンドポイント付きの線, 矢印付きの線)を選択します。 線の種類: 追加する線の種類(実線または点線)を選択します。 線の幅: 注釈内の線の幅をピクセル単位で選択します。
	<p>テキスト・ツール: クリック・アンド・ドラッグでボックスを開き、スナップショットにテキストを追加します。</p> <p>例: スナップショットの特定の領域をマークしている線の上に構文「これは問題のあるトランザクションです」を追加します。</p>











UI 要素	説明
境界線と塗りつぶしの色	<p>該当の四角形を選択して、注釈の境界線と塗りつぶしの色を選択します。次の四角形を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 上の四角形 : 線ツールで生成し塗りつぶしなしで表示されている図形の線の色を選択します。 • 下の四角形 : 図形を塗りつぶす色を選択します。 <p>どちらの四角形をクリックしても、色を選択する次のタブを含むダイアログ・ボックスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Swatches • HSB • RGB
不透明度	<p>不透明度バーをスライドして、注釈内で選択した図形の線、テキスト行、または図形の色濃さのレベルを選択します。</p> <p>注 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • 不透明度が高いほど、より暗く表示されます。不透明度が低いほど、より明るく表示されます。 • このフィールドは、図形ツール、ライン・ツール、またはテキスト・ツール・ボタンのいずれかが選択された場合に有効です。

メニュー・バー

スナップショットに対するアクションの実行を可能にする要素を表示します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	<p>保存 : スナップショットをローカル・マシンに保存します。</p> <p>注 :</p> <ul style="list-style-type: none"> • スナップショットは .png 形式で保存されます。 • [マイドキュメント]ディレクトリまたはそのサブ・ディレクトリに保存する場合、[新規フォルダ]アイコン  は選択できません。
	<p>すべて選択 : スナップショットに追加されたすべての注釈を選択します。</p>
	<p>選択内容をクリア : すべての注釈をクリアします。</p>
	<p>取り消す : スナップショットに対して実行した最新のアクションをロールバックします。</p>
	<p>やり直し : スナップショットに対して実行した最新のアクションのロールバックをキャンセルします。</p>

UI 要素	説明
	ズーム・イン : スナップショット・ビューを拡大します。
	ズーム・アウト : スナップショット・ビューを縮小します。
	元のサイズに戻す : スナップショットを元のサイズに戻します。
	印刷 : スナップショットを印刷します。
	ヘルプ : 現在表示しているページのヘルプをオンライン・ドキュメントで表示します。
次のフィールドは、[テキスト ツール] ボタン  が選択されている場合に有効です。	
	太字 : テキストを太字にします。
	斜体 : テキストを斜体にします。
	下線 : テキストを下線付きにします。
	アンチエイリアス : テキストまたは注釈行のピクセルの読み込みを調整し、滑らかに表示されるようにします。
<フォント ファミリー >	レポート内のテキストのフォントを選択します。
<フォント サイズ >	レポート内のフォントのサイズを選択します。

SiteScope へのドリルダウン

SiteScope モニタを使用して構成アイテム(CI)のステータスを設定する場合、CI(または CI の状況インジケータ(HI))から、HI のステータスに関する SiteScope モニタにドリルダウンできます。

タスク

1. マイ・ワークスペース・ページまたはコンポーネント(360° View, トップ・ビュー, ビュー・エクスプローラ, 状況インジケータなど)内の CI または HI からメニュー・コマンドにアクセスします。[移動]> [SiteScope] を選択します。SiteScope UI が開き、関連するモニタの親グループが直接表示されず。
複数のグループからのモニタが CI または HI のステータスに関与している場合、[SiteScope へのドリルダウン] ダイアログ・ボックスが開きます。ドリルダウン先のモニタを選択して SiteScope で開きます。
[SiteScope へのドリルダウン] ダイアログ・ボックスには、次の階層が表示されます。

- ルート・レベルには、状況インジケータが表示されます。
CI のダイアログ・ボックスを開くと、CI のステータスに關与する1つ以上のHI がリストされます。HI のダイアログ・ボックスを開くと、このHI はルートとして表示されます。
- ルート以下のレベルには、HI に關与するモニタを持つ SiteScope システム(接続サーバ名)が表示されます。
- 最下位レベルには、HI に關与する SiteScope モニタが表示されます。

注: [System Monitor]ビューで、監視対象のCI から[移動]>[SiteScope]を選択すると、SiteScope が開き、モニタの親グループが表示されます。これをグループCI から選択すると、SiteScope はグループに直接表示されます。

2. SiteScope モニタを選択し、[ドリルダウン]をクリックします。SiteScope が開き、選択したモニタの親グループが表示されます。

SiteScope の操作に関する詳細は、SiteScope ヘルプの『SiteScope の使用』ガイドを参照してください。

表示状態または非表示状態の子 CI の検索方法

CI の子 CI は、特定のビューに示すCI(表示状態のCI)、または示さないCI(非表示状態のCI)と指定できます。親CI が表示されるビューでは、子CI のステータスは、表示または非表示にかかわらず、その親CI のステータスに影響を与えます。子CI の表示 / 非表示を切り替える方法の詳細については、『Modeling Guide』の「パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ」にある[ビューからCIを非表示]オプションを参照してください。

利用方法

サービス状況 コンポーネント(階層コンポーネントなど)で、CI を右クリックし、[表示]>[表示および非表示の子CIを検索]オプションを選択して、RTSM で表示される表示および非表示の子CIを表示します。

注: 非表示の子CIは、KPIを持っている場合のみ表示されます。

詳細

例

この例では、[表示および非表示の子CIを検索]オプションを使用して、RTSM 内の選択したCI のすべての子CI をリスト表示します。すべての子CI が表示されたら、子CI が属するビューを検索し、その子CI の詳細を特定のビューに表示できます。

たとえば、あるビューで、親CI の[アプリケーションの可用性]KPI のステータスが[危険域]の場合に、そのCI の子CI の[アプリケーションの可用性]KPI のステータスが[OK]であったとします。この場合に、何が原因で[アプリケーションの可用性]KPI のステータスが[危険域]になったかを究明します。

[表示および非表示の子 CI を検索] ページ

[表示および非表示の子 CI を検索] ページには、次の情報が表示されます。


- 選択した CI の名前、リストするその子 CI、CI の KPI、それらの現在のビューでのステータス。
- RTSM に表示される子 CI (表示状態および非表示状態) のリスト、それらの KPI とステータス。[可視] カラムにチェックマークが付いている場合は、子 CI がビューで表示状態になっていることを示し、X は子がビュー内で非表示状態であることを示します。

サービス状況コンポーネント

次の項では、利用可能なサービス状況コンポーネントについて説明します。

利用方法

[ワークスペース] > [マイ ワークスペース]

[マイ・ワークスペース] で、[コンポーネント]  ボタンをクリックします。

- **重要情報** : [マイ・ワークスペース] でコンポーネントを開くには、コンポーネントを選択してページにドラッグします。標準設定で表示されるコンポーネントは、適切なライセンスを所有しているコンポーネントです。
- **関連タスク** : 「[マイ ワークスペース] のセットアップ方法」(220 ページ)。
- コンポーネントの詳細については、「ページへのコンポーネントの追加」(220 ページ) を参照してください。
- [マイ ワークスペース] の詳細については、「[マイ ワークスペース] を使用した環境の監視」(201 ページ) を参照してください。
- ワイヤリングの詳細については、「コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法」(227 ページ) を参照してください。

詳細

ビジネス影響度

選択した CI によって影響を受ける、ビジネス CI および SLA が表示されます。

詳細については、「ビジネス影響度コンポーネント」(121 ページ) を参照してください。

変更およびインシデント

選択した CI によって開かれるインシデントと、その CI を対象として計画された変更と実際の変更が表示されます。

詳細については、「変更およびインシデント・コンポーネント」(123 ページ) を参照してください。

カスタム・イメージ

ビューが示す実際の状況を表すユーザ定義のカスタム・イメージと、イメージのリアルタイム・ステータス・インジケータが表示されるビューの CI が表示されます。

詳細については、「[カスタム・イメージ・コンポーネント](#)」(127ページ)を参照してください。

地理 マップ

ビューのCIに割り当てられた地理マップ上の地理的な場所に、リアルタイム・ステータス・インジケータが表示されます。ステータス・インジケータには、その地理的な場所にあるCIの最悪ステータスが示されません。

詳細については、「[地理 マップ・コンポーネント](#)」(130ページ)を参照してください。

状況 インジケータ

選択したCIの、現在のステータスの計算や設定に使用される状況インジケータに関する詳細が表示されます。

詳細については、「[状況 インジケータ・コンポーネント](#)」(138ページ)を参照してください。

ヘルス・トップ・ビュー

[イベント ブラウザ]表示枠で選択したイベントの影響を受ける構成アイテムの、トポロジのビューが表示されます。

詳細については、「[状況トップ・ビュー・コンポーネント](#)」(141ページ)を参照してください。

階層

ビュー内のCIの階層、各CIに割り当てられたKPI、およびそれらのKPIステータスを表示します。階層コンポーネント内のCIを選択すると、その詳細リンクを表示できます。詳細リンクをクリックすると、CIに関する包括的なデータを提供する追加コンポーネントにアクセスできます。

詳細については、「[階層コンポーネント](#)」(148ページ)を参照してください。

KPI 経過時間

経過時間ごとのKPIダッシュボードでは、選択した経過時間ごとのKPIおよびCIのステータスやステータス・サマリを表示できます。ダッシュボードでは、KPIステータス・データの履歴やモニタ対象環境の状況を一目で確認できる多数のウィジェットを選択できます。

詳細については、「[経過時間ごとのKPIダッシュボード](#)」(243ページ)と「[経過時間ごとのKPIダッシュボードをコンポーネントとして使用](#)」(245ページ)を参照してください。

隣接 マップ

選択したCIの親CIと子CIが、インタラクティブな階層構造のグラフィックに表示されます。

詳細については、「[隣接マップ・コンポーネント](#)」(159ページ)を参照してください。

トップ・ビュー

ビジネス・アプリケーションにマッピングされたリアルタイムのITパフォーマンス・メトリクスを表すCIバーが、CI間の関係を表す線のリンク付きで表示されます。

詳細については、「[トップ・ビュー・コンポーネント](#)」(163ページ)を参照してください。

トポロジ・マップ

インタラクティブな階層構造のグラフィックに、ビュー内の CI が表示されます。トポロジ・マップでは CI 間のリンクが表示され、CI を層やグループに分けて表示できます。

詳細については、「[トポロジ・マップ・コンポーネント](#)」(176ページ)を参照してください。

ビュー・エクスプローラ

ビューのリストと、各ビュー内の CI 階層が含まれています。このコンポーネントを使用すると、ビューの選択、CI の選択、または CI の検索ができます。ビュー・エクスプローラは、ビューまたは CI の選択に対応する、その他のコンポーネントでも使用されます。

詳細については、「[ビュー・エクスプローラ・コンポーネント](#)」(183ページ)を参照してください。

監視リスト

複数のビューの重要な CI の状況に関する高レベルの概要が表示されます。

詳細については、「[監視リスト・コンポーネント](#)」(186ページ)を参照してください。

ビジネス影響度コンポーネント

CI を選択した場合、ビジネス影響度コンポーネントを使用すると、その CI の影響を受けるビジネス CI および SLA を表示できます。さらに、バー・アイコンによって、CI のビジネス影響度が 0(影響なし)から 5(影響度高)のレーティングで示されます。

ヒント: このレーティングは、選択した CI が、監視された環境内のビジネス CI および SLA に対してどの程度影響するかを示します。これは、問題が検出されたときにタスクの優先順位を決めるのに役立ちます。

利用方法

- [ワークスペース] > [ダッシュボード] > [360° View]
CI を選択し、[ビジネス影響度]リンクをクリックします。
- また、CI の選択場所であるコンポーネント([トップビュー]など)と一緒に、このコンポーネントをユーザー定義のページに追加することもできます。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

注: ビジネス影響度バーは、標準設定ではサービス状況アプリケーション・コンポーネントには表示されません。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

詳細

ビジネス影響度のレーティング

標準設定では、ビジネス影響度のレーティングは、影響を受けるビジネス CI の重要度、および影響を受けるビジネス CI および SLA の数に基づいて決まります。マトリクスに相対的なこれらの加重およびしきい値を個別に割り当てることができます。

選択した CI との**影響**関係がある場合、ビジネス影響度コンポーネントで表示される CI タイプ(CIT)は、ビジネス・サービス、ビジネス・プロセス、およびアプリケーションです。

ビジネス影響度の計算方法の変更の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。


タスク

本項の内容

- 「[ビジネス影響度コンポーネントで表示する CI の選択方法](#)」(122ページ)
- 「[継続時間の変更方法](#)」(122ページ)
- 「[更新頻度の変更方法](#)」(122ページ)



ビジネス影響度コンポーネントで表示する CI の選択方法

ワークスペースに、CI を選択できるコンポーネント(モデル・エクスプローラ、トップ・ビュー、トポロジ・マップ、または階層)とビジネス影響度コンポーネントが含まれている場合は、CI を選択してそのビジネス影響度を表示できます。

ビジネス影響度コンポーネントを(ユーザ定義のページ上の)ほかのコンポーネントから独立して使用する場合は、コンポーネント自体から CI を選択できます。ビジネス影響度コンポーネントのツールバーの[**コンポーネントの構成**]ボタン  をクリックして、[**構成アイテム**]をクリックします。[構成アイテム]ダイアログ・ボックス内でビューを開き、CI を選択して、そのビジネス影響度データを表示します。


継続時間の変更方法

標準設定では、ビジネス影響度コンポーネントでは前の週のデータが表示されます。この設定を前の週、日、時間(現在の時刻まで)に変更できます。

- [360° View] ページ以外でビジネス影響度コンポーネントを使用している場合、ビジネス影響度コンポーネント・ツールバーの[**コンポーネントの構成**]ボタン  をクリックして、新しい継続時間の設定を[**期間**]フィールドに入力します。
- 階層コンポーネントからビジネス影響度ドリルダウンする場合、階層コンポーネント・ツールバーの[**コンポーネントの構成**]ボタン  をクリックし、新しい継続時間の設定を[**期間**]フィールドに入力します。この設定は、すべての階層 CI 詳細ドリルダウンで共通です。

更新頻度の変更方法

標準設定では、このコンポーネントは5分単位で更新されます。

標準設定のページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーの[**コンポーネントメニュー**]ボタン  を使用してその更新頻度を変更できます。[**プリファレンス**]を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

UI の説明

[Business Impact Rating] 領域

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ビジネス影響度 (低から高)	<p>このバーによって、CI のビジネス影響度が 0(影響なし)から 5(影響度高)のレーティングで示されます。レーティングでは、CI が監視環境にあるビジネス CI および SLA に対してどの程度の影響を与えるかが示されます。</p> <p>標準設定では、レーティングは、影響を受けるビジネス CI の重要度に基づいて決まります。RTSM 内では、各 CI に 1~5 の値で Criticality 属性を定義できます。ある CI が、この属性が定義された 1 つ以上の CI に影響を与える場合、CI のビジネス影響度のレーティングは、影響を受ける CI の重要度のうち、最悪の値になります。</p> <p>このレーティングの計算にどのメトリクスを使用するかをカスタマイズできます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p>

[影響を受けるビジネス]領域

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
現在のステータス	影響を受ける CI に割り当てられている KPI の最悪ステータス。
名前	<p>影響を受ける CI の名前。</p> <p>CI をクリックして、対応するビジネス影響度レポートにアクセスできます。詳細については、"Business Impact Report"を参照してください。</p>
過去 <1 時間/1 日/1 週間>	<p>事前に定義した時間範囲内で影響を受ける CI のステータス(標準設定値：過去 1 週間)。</p> <p>ツールチップ: ツールチップには、ステータスの名前と、そのステータスを保持する KPI の時間の割合を含むテキスト文字列が表示されます。</p>
タイプ	影響を受ける CI タイプ。

変更およびインシデント・コンポーネント

変更およびインシデント・コンポーネントでは、アクティブなビューで選択した CI に対して開始されたインシデント、CI に対する変更の要求、および CI に対する実際の変更点を表示できます。

利用方法

- [ワークスペース]> [ダッシュボード]> [360° View]
CI を選択し、次のいずれかをクリックします。[**実際の変更**]、[**計画済みの変更**]または[**インシデント**]。
- また、CI の選択場所であるコンポーネント([**トップビュー**]など)と一緒に、このコンポーネントをユーザ定義のページに追加することもできます。詳細については、"[「マイ ワークスペース」のセットアップ方法](#)"([220ページ](#))を参照してください。

詳細

本項の内容

- [「インシデントおよび変更の要求」\(124ページ\)](#)
- [「実際の変更」\(124ページ\)](#)
- [「使用できるCIタイプ」\(124ページ\)](#)

インシデントおよび変更の要求

インシデントと変更の要求に関する情報が、RTSM フェデレーション・アダプタから収集されます。フェデレーション・アダプタは、OMi 内 (History Data Source などの用意済みのアダプタ) または OMi 外 (HPE Service Manager など) のどちらでもセットアップできます。

- フェデレーションの設定の詳細については、『RTSM 開発者向け参考情報ガイド』を参照してください。
- HPE Service Manager との統合の詳細については、[HPE ソフトウェア統合サイト](#)の[統合]タブの [OMi] セクションを参照してください。

実際の変更

ローカル・マシン上のCIの実際の変更に関する情報が、RTSM から直接収集されます。表示される変更点の種類には、履歴属性の変更と履歴関係の変更があります。

- 属性の変更点は、変更の監視対象としてマークされている各属性について表示されます。詳細については、『Modeling Guide』を参照してください。
- 関係の変更は、関係が **TRACK_LINK_CHANGES** の修飾子付きで定義されている場合に表示されます。詳細については、『Modeling Guide』を参照してください。

使用できるCIタイプ

標準設定では、インシデントと変更の要求が表示されるのは、ビジネス・サービス、Siebel アプリケーション、ビジネス・アプリケーション、ノードの各 CI タイプです。ほかのCIタイプの変更とインシデントに関する情報を表示するには、OMi 管理ガイドを参照してください。

タスク

本項の内容

- [「表示するCIの選択方法」\(124ページ\)](#)
- [「継続時間の変更方法」\(125ページ\)](#)
- [「更新頻度の変更方法」\(125ページ\)](#)

表示するCIの選択方法



ワークスペースに、CI を選択できるコンポーネント (モデル・エクスプローラ、トップ・ビュー、トポロジ・マップ、または階層) と変更およびインシデント・コンポーネントが含まれている場合は、CI を選択してその関連する変更およびインシデント・データを表示できます。

変更およびインシデント・コンポーネントをほかのコンポーネントから独立して使用する場合は、コンポーネント自体からCIを選択できます。変更およびインシデント・コンポーネントのツールバーの[フィルタ]ボタンをクリックして、[構成アイテム]をクリックします。[構成アイテム]ダイアログ・ボックス内でビューを開き、CIを選択して、その変更およびインシデント・データを表示します。

注: 標準設定では、選択したCIとの影響関係を持つ子CIのデータも表示されます。[子のCIのデータを表示する]チェック・ボックスを選択解除すると、選択したCIのデータのみが表示されます。


継続時間の変更方法

標準設定では、変更およびインシデント・コンポーネントでは前の週のデータが表示されます。この設定を前の週、日、時間(現在の時刻まで)に変更できます。

- [360° View]ページ以外で変更およびインシデント・コンポーネントを使用している場合、ビジネス影響度コンポーネント・ツールバーの[コンポーネントの構成]ボタンをクリックして、新しい継続時間の設定を[期間]フィールドに入力します。
- 階層コンポーネントから変更およびインシデントにドリルダウンする場合、階層コンポーネント・ツールバーの[コンポーネントの構成]ボタンをクリックし、新しい継続時間の設定を[期間]フィールドに入力します。この設定は、すべての階層CI詳細ドリルダウンで共通です。

更新頻度の変更方法

標準設定では、このコンポーネントは5分単位で更新されます。

標準設定のページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーの[コンポーネントメニュー]ボタンを使用してその更新頻度を変更できます。[プリファレンス]を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

UIの説明

[実際の変更]領域



UI 要素	説明
属性	変更されたCI属性の名前。
変更のタイプ	発生した変更の種類。
チェンジャ	CIのプロパティを変更したユーザやイベントに関する説明(たとえば、ユーザ名やディスカバリ)。
CI名	変更されたCIの名前。
Date	変更が発生した日時。
新規値	CI属性の新しい値。
古い値	CI属性の以前の値(変更前)。

UI 要素	説明
Related CI	CI 間の関係変更を伴う変更の場合は、選択した CI との関係が変更された CI 名がこのフィールドに表示されます。

[インシデント] 領域

UI 要素	説明
CI 名	インシデントを起動した CI の名前。
終了時間	インシデントが終了した日時。
説明	インシデントの説明。
ID	インシデントの ID。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます(たとえば、HPE Service Manager 内)。
開始時間	インシデントが開始した日時。
接続元	インシデントのソース。
重要度	インシデントの重要度。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます(たとえば、HPE Service Manager 内)。
ステータス	インシデントのステータス。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます。
更新時刻	インシデントが更新された日時。

[変更の要求] 領域

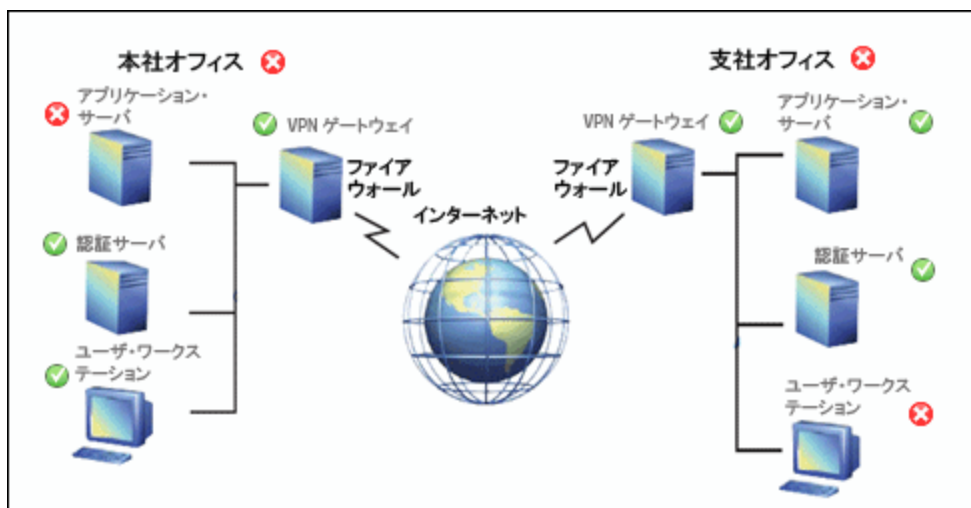
UI 要素	説明
	以前に列のサイズを変更した場合は、クリックするとすべての列が元の幅に戻ります。
	テーブル内に表示する列を選択するためのダイアログ・ボックスを表示します。
CI 名	変更が計画されている CI の名前。
連絡先	変更について連絡する相手の名前。
ID	変更要求の ID。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます。

UI 要素	説明
影響の重大度	変更による影響の程度。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます。
開いているユーザ	変更要求を開いたユーザの名前。
計画済みの終了日付	変更の終了が予定されている時間。
計画済みの開始日付	変更の開始が予定されている時間。
リスク評価	変更によるリスクの程度。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます。
ステータス	計画された変更のステータス。ソース・アプリケーション内と同じように表示されます。
サマリ	計画された変更の説明。

カスタム・イメージ・コンポーネント

[カスタム イメージ]を使用して、リアルタイム・ステータス・インジケータで表現されるビューのCIを、ビューが表現する実際の状況を示すカスタム・イメージに関連付けることができます。組織で使用されるビューのグラフィカル表現には、論理ネットワーク図、ビジネス・ロジック、またはその他のグラフィック画像があります。

たとえば、企業のネットワークを表すグラフを、ネットワークのさまざまな部分から送られるリアルタイム・データと関連付けられます。



各ビューには、カスタム・イメージを1つ定義できます。上に示すイメージは、アクティブなビューに定義されているイメージです。別のビューを選択すると、対応するイメージが自動的に表示されます。ビューにカスタム・イメージを定義していない場合にカスタム・イメージ・コンポーネントにアクセスすると、そのビューにはイメージが定義されていないことを示すメッセージが表示されます。

カスタム・イメージは、サービス状況管理に定義します。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

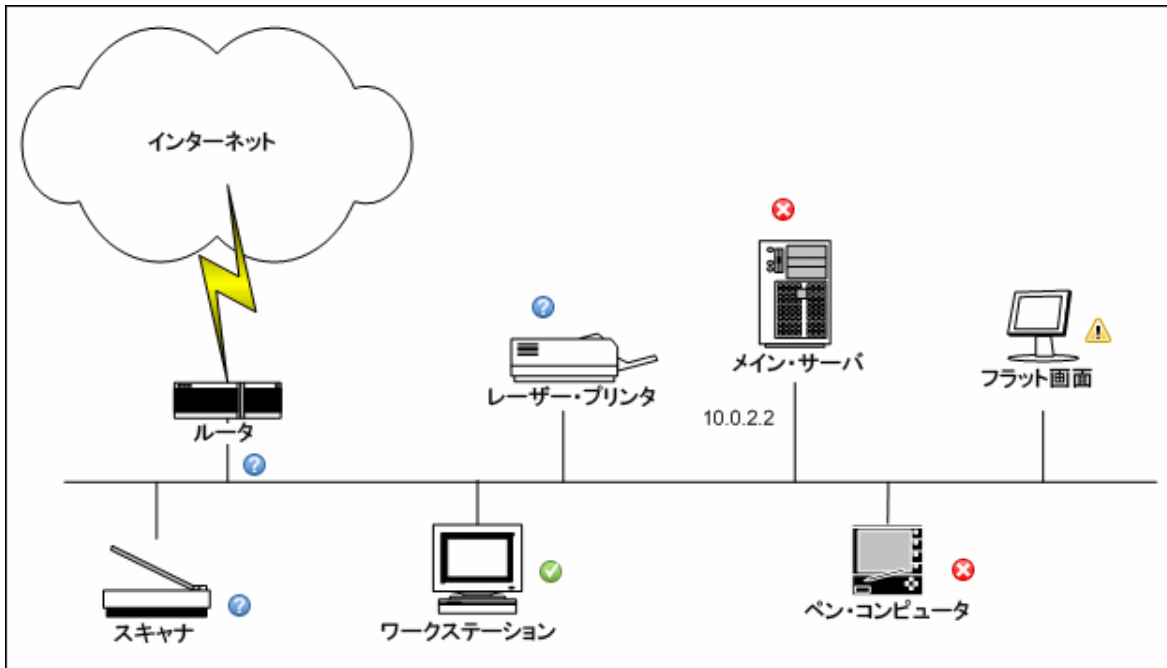
利用方法

独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能です。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

カスタム・イメージの例

カスタム・イメージは、ネットワーク内の各要素のステータスを表示できます。



カスタム・イメージの追加の例を次に示します。

実運用

CRM

ログイン	⚠
ログアウト	⚠
ホームページ	✔
クエリ・トランザクション	
カスタマの請求先住所のクエリ	✖
カスタマのサービスのクエリ(インストール済みアセット)	✔
カスタマの請求前アカウントの問い合わせ	✖
カスタマの請求後アカウントの問い合わせ	✖
カスタマのクエリ-新しい製品/機能	✔
カスタマのクエリ- _____ 計画	✔
カスタマのクエリ- _____ 製品	✔
更新トランザクション	
カスタマのアカウント詳細の更新	□
カスタマの約束手形	□
カスタマのクレジット・カード支払	□
カスタマの新規注文	□
カスタマのキャンセルした注文	□

PRM

ログイン	⚠
ログアウト	⚠
ホームページ	✔
クエリ・トランザクション	
カスタマの請求先住所のクエリ	⚠
カスタマのサービスのクエリ(インストール済みアセット)	✔
カスタマの請求前アカウントの問い合わせ	✔
カスタマの請求後アカウントの問い合わせ	✖

	フロー 1	フロー 2	フロー 3	フロー 4
DNS	✔ ✖	✔ ⚠	✖ ✔	✔ ⚠
ホームページ	✖ ✔	✖ ✖	✔ ⚠	✔ ✔
サブページ	✖ ✔	✔ ✔	⚠ ✖	✖ ✔
その他	⚠ ✖	✔ ⚠	✖ ✔	✔ ✖
	可用性-パフォーマンス	可用性-パフォーマンス	可用性-パフォーマンス	可用性-パフォーマンス

タスク

本項の内容

- [「カスタム・イメージを使った作業の方法」\(130ページ\)](#)
- [「更新頻度の変更方法」\(130ページ\)](#)


カスタム・イメージを使った作業の方法

カスタム・イメージは、次の2つの段階で使用します。

1. サービス状況管理でイメージをビューに関連付け、イメージ内で各 CI を配置する場所を指定します。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
2. 次にサービス状況アプリケーションで、カスタム・イメージ・コンポーネントにアクセスし、作成したカスタム・イメージで、ビュー内の CI のステータスを確認します。

注: CI を IT ユニバース・モデルから削除すると、対応する CI アイコン(サービス状況管理内の)とステータス・インジケータ(サービス状況内の)が、関連するカスタム・イメージから自動的に削除されます。

更新頻度の変更方法

標準設定のページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーの[コンポーネント メニュー]ボタン  を使用してその更新頻度を変更できます。[プリファレンス]を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

地理マップ・コンポーネント

このコンポーネントでは、リアルタイム・ステータス・インジケータと、それぞれが関連する地理的場所に配置されたビューの CI を地理マップ上に表示できます。ステータス・インジケータには、その地理的な場所にある CI の最悪ステータスが示されます。また、CI の KPI に関する詳細情報へもアクセスできます。

- インターネットに接続されている場合、地理マップは **Virtual Earth** を使用して表示されます。
- インターネットに接続されていない場合は、**オフライン・マップ**を使用して地理マップを表示できます。
- 地理マップの情報を、**Google Earth** アプリケーションを使用して3次元マップで参照することもできます。

ヒント: 地理マップでは利用できないレベルまで特定の場所にズームする必要がある場合は、代わりにマップ画像を作成してカスタム・イメージ機能を使用します。

利用方法

独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能です。詳細については、[「\[マイワークスペース\]のセットアップ方法」\(220ページ\)](#)を参照してください。

詳細

本項の内容

- 「場所のステータス情報」(131ページ)
- 「MSN Virtual Earth」(131ページ)
- 「オフライン・マップ」(132ページ)
- 「Google Earth」(133ページ)

場所のステータス情報

マップには、各地理的場所にアタッチされたすべてのCIの最悪のKIPステータスを示す、色分けされたステータス・インジケータが表示されます。色分けの方法は、サービス状況で使用されるほかのアイコンと同じです。

場所を指定するには、該当するタイプの場所のCIを作成し、その場所CIと、地理マップにステータス・インジケータを表示するCIの関係を作成します。詳細については、『Modeling Guide』を参照してください。ビューに含まれるCIが1つも場所CIに関連付けられていない場合、[地理マップ]タブにはマップのみが表示されます。

マップ内の各ステータス・インジケータで、ビュー内の同じ場所にある1つ以上のCIを表すことができます。ビュー・エクスプローラでCIを選択すると、地理マップが自動的に再表示され、選択したCIとその子CI(場所が指定されている場合)のステータス・インジケータのみが表示されます。別のビューを選択すると、地理マップが自動的に再ロードされ、該当する場所にあるビューのCIのステータス・インジケータが表示されます。

注: オフライン・マップとビュー・エクスプローラは接続されていないため、CIの選択を変更しても、オフライン地理マップには反映されません。

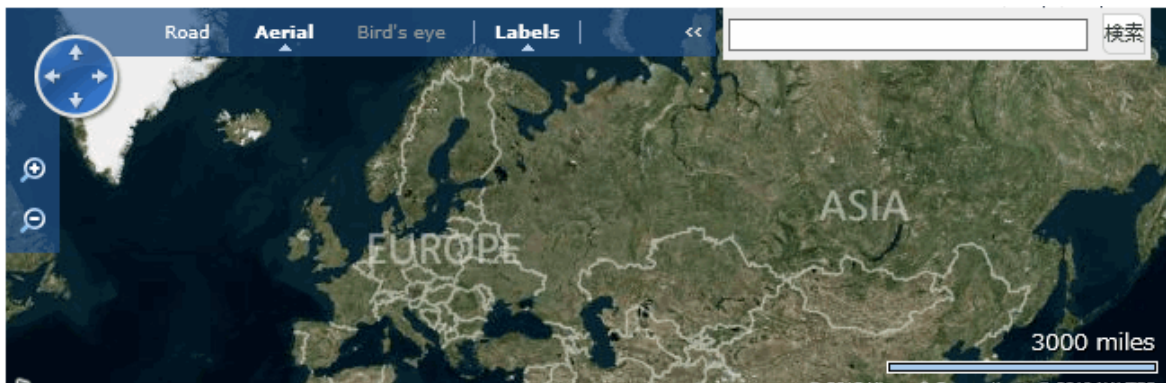
ビュー・エクスプローラで特定のCIを検索して検索結果をクリックした場合は、地理マップは自動的に再表示されません。ブラウザ・モードに戻ったときにのみ、マップが再表示されます。マップには、選択したCIとその子CI(場所CIに関連付けられている場合)のステータス・インジケータのみが表示されます。

MSN Virtual Earth

インターネットに接続されている場合、地理マップは標準設定でMicrosoft MSN Virtual Earthを使用して表示されます。Virtual Earthでは、地球が地政学的な平面ビューとして表現され、国境または地勢、またはその両方を表示できます。ビューのCIが地理的場所に割り当てられている場合は、マップ上のそれらの地理的場所にリアルタイム・ステータス・インジケータが表示されます。

注: Virtual Earth マップは英語でのみ提供され、翻訳することはできません。

Virtual Earth の例 :



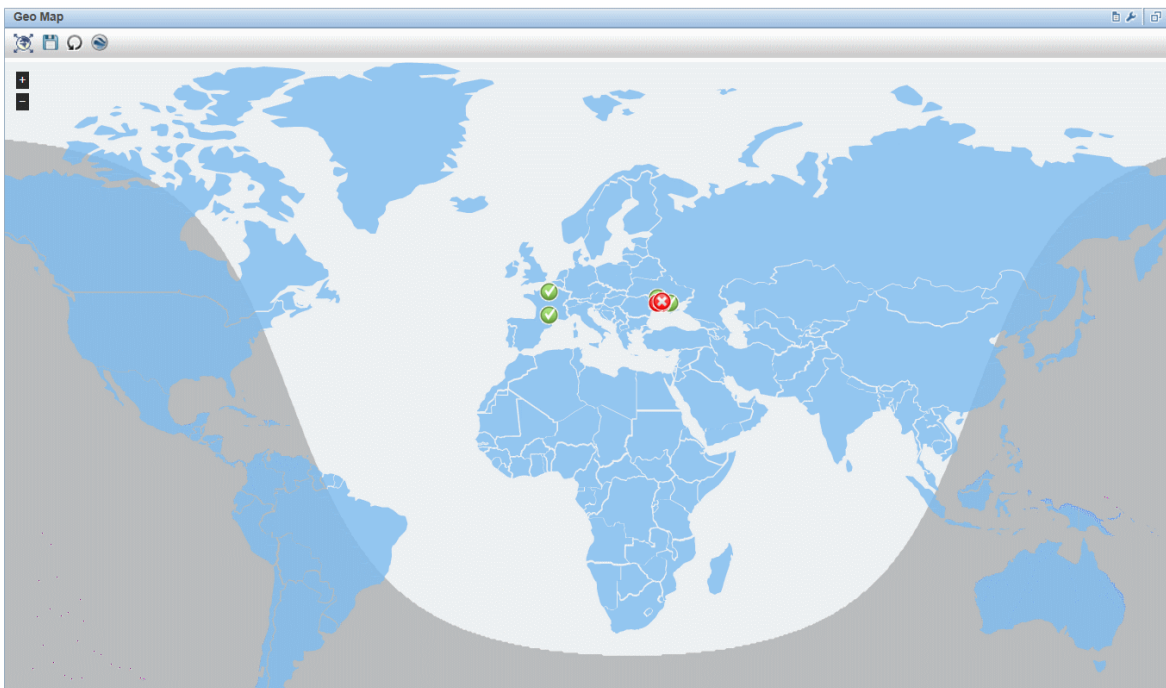
Virtual Earth の地理 マップでは地球が地政学的な平面ビューとして表現され、国境、地勢、またはその両方を表示できます。

ビューを拡大すると、画面に表示された範囲内にある主な都市が現れます。

オフライン・マップ

インターネットに接続されていない場合、[地理 マップ] ページは[Virtual Earth を使用] インフラストラクチャ設定が **False** に設定されていればオフライン・マップとして表示されます([「オフライン・マップを有効にする方法」\(134ページ\)](#)を参照)。マップには、各地理的場所の最悪ステータスと、CI の KPI に関する詳細情報が表示されます。

オフライン・マップの例



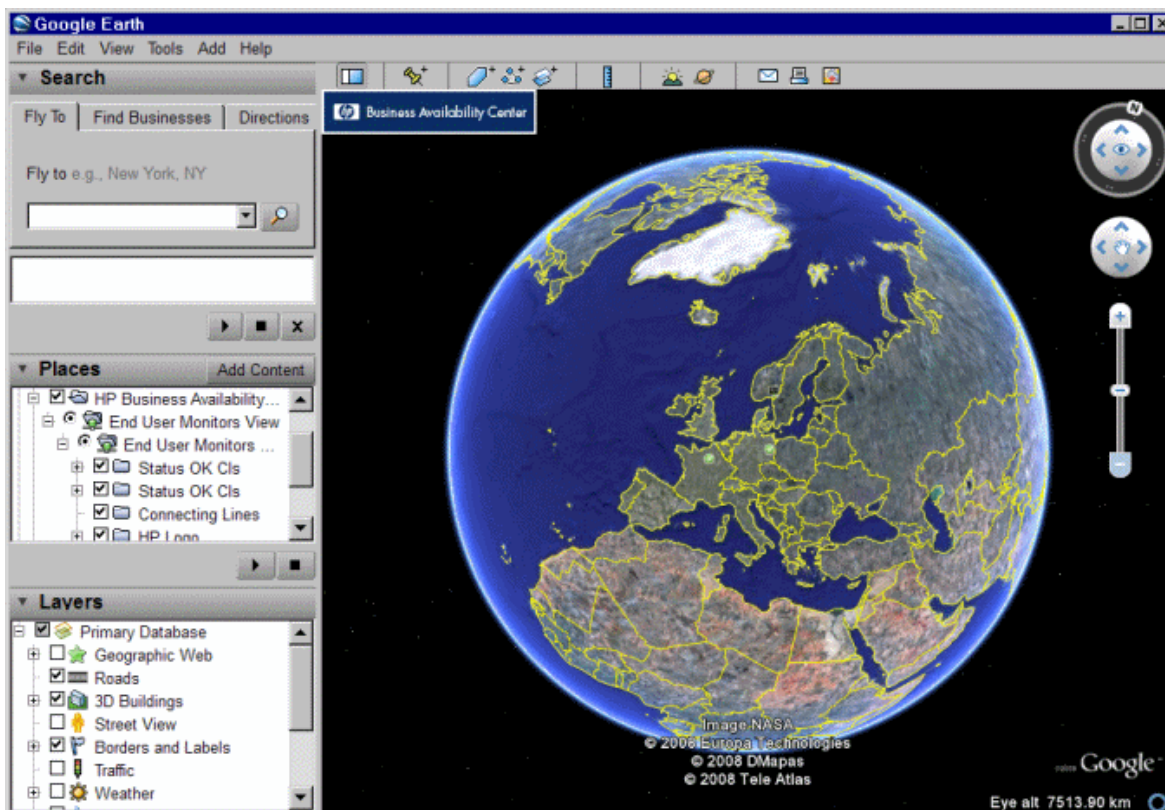
オフライン・マップの標準設定の色は青です。この色を変更するには、[「オフライン・マップの色を設定する方法」\(134ページ\)](#)を参照してください。

このマップには、昼 / 夜のおおよその線を表示する昼夜オーバーレイ・オプションが用意されています。このオプションを有効にするには、「[オフライン・マップの昼夜オーバーレイを有効にする方法](#)」(134ページ)を参照してください。

Google Earth

Google Earth アプリケーションを使用して、地理マップの情報を3次元マップで参照できます。

Google Earth の例 :



タスク


本項の内容

- 「[地理マップの操作方法](#)」(133ページ)
- 「[オフライン・マップを有効にする方法](#)」(134ページ)
- 「[オフライン・マップの色を設定する方法](#)」(134ページ)
- 「[オフライン・マップの昼夜オーバーレイを有効にする方法](#)」(134ページ)
- 「[場所ツールチップに表示されるCIの最大数の指定](#)」(135ページ)


地理マップの操作方法

地理マップを使用するには、次の手順を実行します。


1. [RTSM 管理]で、該当するタイプの場所の CI を作成し、その場所 CI と、ステータス・インジケータを表示する CI の間の関係を作成します。
2. 次に、[サービス状況管理]で、使用するマップのタイプを指定してマップを設定します(任意)。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
3. 次に、ワークスペース内で、地理 マップおよびビュー・エクスプローラ・コンポーネントをページに追加します。ページにアクセスすると、地理的場所に基づいてビューに CI ステータスが表示されます。

注: コンポーネント・ツールバーのコンポーネント [ コンポーネント メニュー] ボタンを使用して、更新頻度を変更できます。[プリファレンス]を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。


オフライン・マップを有効にする方法

1. インフラストラクチャ設定を開きます。
[管理]>[セットアップと保守]>[インフラストラクチャ設定]
2. [アプリケーション]ドロップダウン・リストから、[サービス状況アプリケーション]を選択します。
3. [サービス状況アプリケーション - マップ管理プロパティ]テーブルの[Virtual Earth を使用]で、 設定の編集 ボタンをクリックします。
4. [値]ドロップダウン・リストで、False を選択します。
5. [保存]をクリックします。

オフライン・マップの色を設定する方法

1. インフラストラクチャ設定を開きます。
[管理]>[セットアップと保守]>[インフラストラクチャ設定]
2. [アプリケーション]ドロップダウン・リストから、[サービス状況アプリケーション]を選択します。
3. [サービス状況アプリケーション - マップ管理プロパティ]テーブルの[カラー スペクトル オフライン マップ]で、 設定の編集 ボタンをクリックします。
4. [値]ドロップダウン・リストで、目的の色を選択します。青、ピンク、またはグレースケールから選択できます。
5. [保存]をクリックします。

オフライン・マップの昼夜オーバーレイを有効にする方法

1. インフラストラクチャ設定を開きます。
[管理]>[セットアップと保守]>[インフラストラクチャ設定]
2. [アプリケーション]ドロップダウン・リストから、[サービス状況アプリケーション]を選択します。
3. [サービス状況アプリケーション - マップ管理プロパティ]テーブルの[昼夜オーバーレイ オフライン マップの適用]で、 設定の編集 ボタンをクリックします。
4. [値]ドロップダウン・リストで、True を選択します。
5. [保存]をクリックします。

場所 ツールチップに表示される CI の最大数の指定









地理マップ内の場所のツールチップに表示できる、CI の最大数を指定できます。標準設定は 10 です。CI はツールチップの[原因]セクションに表示されるため、この領域に収まる分だけ指定するようにします。場所ツールチップに表示される CI の最大数を変更するには、[インフラストラクチャ設定]を開きます。

1. インフラストラクチャ設定を開きます。
[管理]>[セットアップと保守]>[インフラストラクチャ設定]
2. [アプリケーション]ドロップダウン・リストから、[サービス状況アプリケーション]を選択します。
3. [サービス状況アプリケーション - マップ管理プロパティ]テーブルで、[場所ツールチップの最大 CI 数] エントリを見つけます。新しい最大値を入力します。

UI の説明

Virtual Earth の地理 マップ






ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。


UI 要素	説明
	完全にズーム・アウトします。
	地理マップの表示への変更を保存します。
	マップに変更を加えても保存はしない場合に、マップを最後に保存したバージョンに戻します。
	ビューの地理マップを Google Earth を使用して開きます。
	ズーム・インおよびズーム・アウトして、マップを拡大または縮小できます。
	マップの中心を、最も近い CI に移動します。
	完全にズーム・アウトします。
<調整>	マップをクリックしてドラッグして、ウィンドウ内で移動します。 マップをダブルクリックすると、ズーム・インします。
<場所のステータス> 	ビューの地理マップでは、各地理的場所の最悪ステータスが表示されます。色分けの方法は、サービス状況で使用されるほかのアイコンと同じです。

UI 要素	説明
<ツールチップ>	<p>カーソルをステータス・アイコンの上部に移動するとその場所のツールチップが表示され、その場所に関連付けられているすべての KPI の最悪ステータスが表示されます。対応する場所 CI に関連する CI のうち、少なくとも 1 つに割り当てられていれば、KPI はその場所に関連付けられます。</p> <p>ツールチップには、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KPI 名 : KPI の名前。ヘッダの色は、KPI の最悪ステータスを示します。 • Location : 場所の名前 (国, 都市, 州 (該当する場合))。 • ステータス : KPI のステータス。 • ステータス保持開始 : KPI のステータスが現在のステータスに変更された日時。 • 原因 : 問題が発生した CI 名。
最新の更新	<p>コンポーネントの情報が最後に更新された日時が表示されます。</p> <p>コンポーネントの情報を手動で更新するには、[更新]アイコンをクリックします。</p>
[道路] / [空撮] / [Bird's Eye] / [合成] / [ラベル]	<p>クリックすると、マップの表示が次のように変更されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 道路 : マップに国境が表示されます。 • 空撮 : マップに地勢が表示されます。 • 鳥瞰 : (非アクティブ) • ラベル : CI のステータス・インジケータ以外のすべてのラベルがマップから削除されます。
検索	<p>この機能は、Microsoft MSN Virtual Earth 内 (OMi の外側) で検索を実行する際に使用します。</p>

オフライン・マップの地理マップ


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
	完全にズーム・アウトします。
	地理マップの表示への変更を保存します。
	マップに変更を加えても保存はしない場合に、マップを最後に保存したバージョンに戻します。
	ビューの地理マップを Google Earth を使用して開きます。
	ズーム・インおよびズーム・アウトして、マップを拡大または縮小できます。

UI 要素	説明
<場所のステータス> 	ビューの地理マップでは、各地理的場所の最悪ステータスが表示されます。色分けの方法は、サービス状況で使用されるほかのアイコンと同じです。
<ツールチップ>	<p>カーソルをステータス・アイコンの上部に移動するとその場所のツールチップが表示され、その場所に関連付けられているすべての KPI の最悪ステータスが表示されます。ある場所にアタッチされた CI のうち、少なくとも 1 つに割り当てられていれば、KPI はその場所に関連付けられます。</p> <p>ツールチップには、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KPI 名 : KPI の名前。ヘッダの色は、KPI の最悪ステータスを示します。 • Location : 場所の名前(国, 都市, 州(該当する場合))。 • ステータス : KPI のステータス。 • ステータス保持開始 : KPI のステータスが現在のステータスに変更された日時。 • 原因 : 問題が発生した CI 名。
<国名>	国の上にカーソルを移動するとその国が強調表示され、国名が表示されます。

Google Earth の地理マップ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<場所領域>	ビューを選択して、表示する CI をフィルタします。
<場所のステータス> 	<p>ビューの地理マップでは、各地理的場所の最悪ステータスが表示されます。</p> <p>マップには、各地理的場所の最悪ステータスを表す、色分けされたステータス・インジケータが表示されます。色分けの方法は、サービス状況で使用されるほかのアイコンと同じです。</p>

UI 要素	説明
<ツールチップ>	<p>カーソルをステータス・アイコンの上部に移動するとその場所のツールチップが表示され、その場所に関連付けられているすべてのKPIの最悪ステータスが表示されます。ある場所にアタッチされたCIのうち、少なくとも1つに割り当てられていれば、KPIはその場所に関連付けられます。</p> <p>ツールチップには、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • KPI 名 :KPI の名前。ヘッダの色は、KPI の最悪ステータスを示します。 • Location :場所の名前(国, 都市, 州(該当する場合))。 • ステータス :KPI のステータス。 • ステータス保持開始 :KPI のステータスが現在のステータスに変更された日時。 • 原因 :問題が発生したCI名。
<ズームおよび方向ツール>	現在の表示でズーム・インまたはズーム・アウトできます。

状況インジケータ・コンポーネント

状況インジケータ・コンポーネントでは、選択したCIの現在のステータスを計算、設定するために使用される状況インジケータ(HI)に関する詳細情報が表示されます。各HIのステータスと値が表示されます。このコンポーネントでは、KPIの計算に使用するHIと、KPIの計算には使用されないHIの2つのカテゴリにグループ化されてHIが表示されます。複数のKPIの計算に使用されるHIは複数回リストされます(関与する各KPIに表示)。

利用方法

- [ワークスペース]>[ダッシュボード]>[360° View]>[階層]を選択します。CIを選択し、[インジケータ]をクリックします。
- 別のサービス状況コンポーネントからHIの詳細を表示するには、CIを選択してから、[表示]>[HI]メニュー・コマンドを選択します。
- また、CIの選択場所であるコンポーネント([トップビュー]など)と一緒に、このコンポーネントをユーザ定義のページに追加することもできます。詳細については、[「\[マイワークスペース\]のセットアップ方法」\(220ページ\)](#)を参照してください。

詳細

本項の内容

- [「HIとイベント・コンソール」\(138ページ\)](#)

HIとイベント・コンソール

イベントベースのHIが作成されると、HIとイベント・コンソールには同じ日時が表示されます。ただし、HIがKPIで変更を生成すると、そのKPIは、HIからのデータで更新されるまでの数秒先の時間を示します。

タスク

本項の内容

- 「表示するCIの選択方法」(139ページ)
- 「HI状態の標準設定へのリセット方法」(139ページ)
- 「状況インジケータ・コンポーネントからのドリルダウン方法」(139ページ)

表示するCIの選択方法

ワークスペースに、CIを選択できるコンポーネント(モデル・エクスプローラ、トップ・ビュー、トポロジ・マップ、または階層)と状況インジケータ・コンポーネントが含まれている場合は、CIを選択して関連する状況インジケータを表示できます。

状況インジケータ・コンポーネントをほかのコンポーネントから独立して使用する場合は、コンポーネント自体からCIを選択できます。状況インジケータ・コンポーネントのツールバーの[フィルタ]ボタンをクリックして、[構成アイテム]をクリックします。[構成アイテム]ダイアログ・ボックス内でビューを開き、CIを選択して、その状況インジケータ・データを表示します。

HI状態の標準設定へのリセット方法

一部のワークフローでは、問題が発生したことを示すHIが表示されることがあります。ただし、問題への対応が済んだら、HIの状態を[正常域](標準設定)にリセットできます。

HIを標準設定の状態にリセットするには、HIのメニュー・コマンドにアクセスし、[状況インジケータのリセット]を選択します。HIの標準設定の状態が即座に復元され、次の更新時に新しいステータスがコンポーネントに反映されます。

ヒント: OMi 以外では、Reset HIs API を使用して HI を標準設定にリセットすることもできます。詳細については、OMi 拡張性ガイドを参照してください。

次の点に注意してください。

- **ローカル影響ビュー:** ローカル影響ビューでは、HIは標準設定にリセットできません。これは、HIのリセットがルール計算を使用せずにイベントから直接ステータスを設定するイベントベースのHIに関連するためです。
(ローカル影響ビューでは、KPIのみに関連するさまざまなステータス計算を作成できます。ローカル影響ビューでのイベントベースのHIにはグローバル・ビューと同じステータスが表示され、HIをリセットするとすべてのビューのステータスに影響します。これは望ましくない動作です。)

状況インジケータ・コンポーネントからのドリルダウン方法




HIショートカット・メニューを使用して、関連するHIタイプ、CIタイプ、[モニタ元]属性(HIで情報を収集するデータ・コレクタを表す)の組み合わせに基づき、さまざまなアクションやレポートにアクセスできます。

たとえば、イベント・ブラウザで、HIから対応するイベントにドリルダウンできます。HIのメニュー・コマンドから、[原因となるイベントを表示]を選択します。

UI の説明

状況インジケータ・コンポーネントのユーザ・インタフェース

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<CI 名>	表示されている状況インジケータが割り当てられている CI の名前。
	CI 名の隣にある矢印をクリックして、その CI のメニュー・オプションにアクセスします。使用できるオプションは、CI タイプと、CI に対して定義されたショートカット・メニューに応じて変わります。 HI 名の隣にある矢印をクリックして、その HI のメニュー・オプションにアクセスします。
	カラム幅のリセット : クリックすると、テーブルのカラムの幅が標準設定の幅に戻ります。
	カラムの選択 : テーブルに表示するカラムを選択します。
状況インジケータ	HI ステータス・アイコン、および状況インジケータの表示名。 [saveLastSample] グローバル・パラメータが true に設定されている場合、HI リンクをクリックしてその最後のサンプルの詳細を表示できます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
KPI に関与する状況インジケータ	選択した CI に割り当てられた状況インジケータ、およびその CI の KPI の計算に使用された状況インジケータのリスト。
KPI に貢献しない状況インジケータ	選択した CI に割り当てられているが、KPI の計算に使用されていない状況インジケータのリスト。
KPI	ステータスの計算に状況インジケータを使用している KPI 名。現在の KPI のステータスもステータス・アイコンで表示されます。
ステータスの最終変更	この HI の現在のステータスが開始した日時。
トレンド	「上」(緑の矢印)、「下」(赤の矢印)、「変化なし」(青の矢印)の3つの方向を使用して示される、HI のリアルタイム・ステータスのトレンド。 注 : このカラムは、標準設定では表示されません。
値	HI の値。

状況トップ・ビュー・コンポーネント

状況トップ・ビュー・コンポーネントには、システム・コンポーネントのビジネス可用性が表示されます。[状況トップビュー]のCIアイコンには、選択したイベントの関連CIの状況が、ビューごとに定義された階層ツリー構造に基づいて視覚的に示されます。アイコンどうしをつなぐ線は、CI間の関係を定義します。

注: 別のビューを適用すると、[状況トップビュー]表示枠の表示内容を調整できます。

ビュー・マッピング・マネージャを使用すると、個々のCIタイプにビューをマップできます。[状況トップビュー]ツールバーのビュー・リストには、マップされているビューの一覧が表示されます。ビュー・リストの内容は、イベント・ブラウザで選択したイベントに関連付けられたCIタイプによって決まります。ビュー・マッピングの詳細については、「[ビューのマップ](#)」(198ページ)を参照してください。

HIとKPIの詳細については、「[状況インジケータ](#)」(110ページ)と「[HIベースのKPIの計算](#)」(111ページ)を参照してください。

利用方法

独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能です。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

[Health Top View]に表示されるガイダンス・メッセージ

[状況トップビュー]表示枠には次のガイダンス情報が表示されます。

- イベントが何も選択されていない場合は、イベントの選択を促すメッセージが表示される。
- 関連CIなしのイベントを選択すると、CI情報が存在しないことを通知するメッセージが表示される。
- 関連CIが指定されていても、関連付けられたビュー・マッピングなしのイベントを選択すると、ビュー・マッピングが存在しないことを通知するメッセージが表示される。ビュー・マッピング・マネージャ(適切なビュー・マッピングを設定できる)へのリンクも表示されます。
- 関連CIとビュー・マッピングが指定されているイベントを選択すると、マップされたビューのリストがドロップダウン・ボックスに表示され、選択したビューが表示される。

タスク

本項の内容

- 「[更新頻度の変更方法](#)」(141ページ)
- 「[暗いテーマを有効にする方法](#)」(142ページ)
- 「[Javaベースの状況トップ・ビュー・コンポーネントを有効にする方法](#)」(142ページ)

更新頻度の変更方法

状況トップビューの更新頻度の標準設定は5秒です。

標準設定の更新頻度を変更することはできません。ただし、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、その更新頻度を変更することはできます。それには次の手順を実行します。

1. [コンポーネント・メニュー]ドロップダウン・リストで, [プリファレンス]を選択します。状況トップ・ビューの [プリファレンス] ウィンドウが開きます。
2. 必要に応じて更新頻度を変更し, [OK]をクリックします。

暗いテーマを有効にする方法

状況トップ・ビュー・コンポーネントの外観を変更して暗いテーマを使用するには, 次の手順を実行します。

1. [コンポーネント・メニュー]ドロップダウン・リストで, [プリファレンス]を選択します。状況トップ・ビューの [プリファレンス] ウィンドウが開きます。
2. [暗いテーマの使用]チェック・ボックスを選択し, [OK]をクリックします。

Java ベースの状況トップ・ビュー・コンポーネントを有効にする方法



標準設定では, HTML5 ベースの状況トップ・ビュー・コンポーネントが有効になっています。HTML5 ベースの状況トップ・ビューは, サードパーティ製のプラグインとは独立して実行されます。Java ベースの状況トップ・ビュー・コンポーネントを使用する必要がある場合は, [インフラストラクチャ設定]で設定できます。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。






Java ベースの状況トップ・ビュー・コンポーネントの詳細については, 「[Java ベースの状況トップ・ビュー・コンポーネント](#)」(145ページ)を参照してください。

UI の説明

状況トップ・ビューのツールバー

状況トップ・ビューのツールバーには, 次のオプションが用意されています。





UI 要素	説明
<ビュー セレクタ>	ツールバーの左上領域にあるドロップダウン・リストからビューを選択して, CI を表示します。
<検索バー>	クリックして展開し, CI 名を入力して, その CI に絞り込みます。
	階層レイアウト : CI トポロジを表示するための階層レイアウトを選択します。これは標準設定のレイアウトです。ただし, 選択したビューに対して異なるレイアウトを選択した場合, レイアウト・プリファレンスが保存されます(つまり, このビューを選択するたびに, 最後に選択したレイアウトで表示されます)。 注 : 使用している画面が小さい場合, レイアウト・アイコンがコンポーネント・ツールバーに表示されないことがあります。この場合, [オプション] ボタンでアクセスできます。
	円形レイアウト : CI トポロジを表示するために円形レイアウトを選択します。

	<p>オーガニック・レイアウト : CI トポロジを表示するためにオーガニック・レイアウトを選択します。</p> <p>注: オーガニック・レイアウトは、ほかの2つのレイアウト・タイプに比べると、大規模なトポロジのレンダリングに時間がかかる場合があります。</p>
	<p>オプション : 重要なアプリケーションやビジネス・プロセスの表示時に、一般的に実行されるすべての操作にアクセスするには以下をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  再ロード : クリックすると、ビューが元の表示に戻ります。 •  全体表示 : クリックすると、画面サイズに合わせて自動的にCI トポロジがサイズ変更されます。 • ズーム : スライダーを使用して、CI トポロジ表示サイズを増減します。 • オプションを表示 : <ul style="list-style-type: none"> ◦ KPI を表示 : このスイッチを使用して、CI のKPI アイコンを表示または非表示にできます。CI のKPIとそのステータスのリストを表示するには、CI のKPI アイコンをクリックするか、[CI ショートカット メニューを開く] > [KPI]を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 標準ステータスのKPIを表示 : このスイッチを使用して、ステータスが正常域であるKPIを表示または非表示にできます。 ◦ 状況インジケータの表示 : このスイッチを使用して、CI の状況インジケータのアイコンを表示または非表示にできます。HIの詳細を表示するには、CI の  をクリックするか、[CI ショートカットを開く] > [HI を表示]を選択します。 ◦ サウンド通知を再生 : このスイッチを使用して、サウンド通知オプションをオンまたはオフにします。このオプションをオンにすると、ビュー内のCI のステータスが危険域(赤)に変わったときに、サウンドが再生されます。

CI ショートカット・メニュー

CI ショートカット・メニューを開くには、選択したCI を右クリックするか、マウス・ポインタを選択したCI の上へ移動し、右に表示される**[CI ショートカット メニューを開く]**ボタンをクリックします。CI ショートカット・メニューでは、次の項の中から選択できます。

• ボタン・アクション:

UI 要素	説明
	サブツリーのみを表示 : CI トポロジの特定部分のみに焦点を当てます。
	ルートへのパスを表示 : 選択した CI からビューのルート CI へのパスを表示します。 注 : 選択した CI からビューのルート CI へのパスを別のウィンドウで表示するには、 Ctrl ボタンを押しながら [ルートへのパスを表示] ボタンをクリックします。また、選択した CI を右クリックして、 [表示] > [ルートへのパス] を選択できます。
	問題のあるサブツリーを表示 : ステータスが危険域または重要警戒域である、問題のある CI の子 CI をすべて表示します。これは、選択した親 CI のステータスが OK 以外になる原因となる、問題のある子 CI をすばやく見つけるのに有効です。問題のあるパスを別に表示する場合、 [サブツリーのみを表示] ボタンを使用できます。 注 : ステータスが危険域または重要警戒域である、問題のある CI の子 CI を別のウィンドウですべて表示するには、 Ctrl ボタンを押しながら [問題のあるサブツリーを表示] ボタンをクリックします。また、問題のある CI を右クリックして、 [表示] > [問題のあるサブツリー] を選択できます。
	問題に展開 : CI トポロジの表示を展開して、問題となっている CI (ステータスが OK 以外の CI でのみ使用可能) のソースを表示します。

注: これらのモードのいずれかを終了するには、ページ左上にある **X** ボタンをクリックします。

• イベントの情報:

イベント・ブラウザでイベントのリストを表示します。

• KPI

KPI とそれらのステータスのリストを表示します。

• HI を表示

状態、値、最終ステータス変更などの HI 情報を表示します。

• アクション

実行するアクションまたは起動するツールを選択します。

注: 利用可能なアクションをすべてリストするには、選択した CI を右クリックすることもできます。

トラブルシューティング

本項の内容

- 「[状況トップビュー]が空である」(145ページ)
- 「状況インジケータの表示が不正」(145ページ)

[状況トップビュー]が空である

- イベント・ブラウザで選択されているイベントがない
- 選択したイベントの関連 CI にマップされているビューがない
- 選択したイベントに関連する CI がない

状況インジケータの表示が不正

状況インジケータは、たとえば利用不可という状態に対して危険域を割り当てるなど、状態の重要度を割り当てるために使用します。状態および割り当ては[Health Indicators]表示枠に示されます。ただし、KPI の計算ルールでは、[状況トップビュー]内のオブジェクトの新しい重要度レベルの設定に、いくつかの状況インジケータを使用している場合があります。

- イベント・ブラウザで選択されているイベントがない
- [状況トップビュー]表示枠でハイライトされている構成アイテムに状況インジケータの割り当てがない
- [イベント ブラウザ]表示枠で選択したイベントとは別の構成アイテムを[状況トップビュー]で選択した

Java ベースの状況トップ・ビュー・コンポーネント

Java ベースの状況トップ・ビュー・コンポーネントには、システム・コンポーネントのビジネス可用性が表示されます。CI バー・アイコンには、選択したイベントの関連 CI の状況が、ビューごとに定義された階層ツリー構造に基づいて視覚的に示されます。バーどうしをつなぐ線は、CI 間の関係を定義します。

注: 別のビューを適用すると、Java ベースの[状況トップビュー]表示枠の表示内容を調整できません。

ビュー・マッピング・マネージャを使用すると、個々の構成アイテム・タイプにビューをマップできます。Java ベースの[状況トップビュー]表示枠の[選択されたビュー]リストには、マップされているビューの一覧が表示されます。[選択された表示]リストの内容は、イベント・ブラウザで選択したイベントと関連する構成アイテム・タイプによって決まります。ビュー・マッピングの詳細については、「[ビューのマップ](#)」(198ページ)を参照してください。

HI と KPI の詳細については、「[状況インジケータ](#)」(110ページ)と「[HI ベースの KPI の計算](#)」(111ページ)を参照してください。

利用方法

独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能です。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

本項の内容

- 「[Java ベースの\[状況トップビュー\]に表示されるガイダンス・メッセージ](#)」(146ページ)
- 「[Java ベースの\[状況トップビュー\]表示枠](#)」(146ページ)
- 「[Java ベースの\[状況トップビュー\]ツールチップ](#)」(146ページ)

Java ベースの[状況トップビュー]に表示されるガイダンス・メッセージ

Java ベースの[状況トップビュー]表示枠には次のガイダンス情報が表示されます。

- イベントが何も選択されていない場合は、イベントの選択を促すメッセージが表示される。
- 関連 CI なしのイベントを選択すると、CI 情報が存在しないことを通知するメッセージが表示される。
- 関連 CI が指定されていても、関連付けられたビュー・マッピングなしのイベントを選択すると、ビュー・マッピングが存在しないことを通知するメッセージが表示される。適切なビュー・マッピングを設定することができるビュー・マッピング・マネージャへのリンクも表示されます。
- 関連 CI とビュー・マッピングが指定されているイベントを選択すると、マップされたビューのリストがドロップダウン・ボックスに表示され、選択したビューが表示される。

Java ベースの[状況トップビュー]表示枠

UI 要素	説明
<選択されたビュー>	<p>[イベント ブラウザ]で選択したイベントが参照する構成アイテム・タイプ(および存在する場合はその親)にマップされたビュー一覧。これには CI、および設定されている場合、フィルタされているイベント・カテゴリが含まれます。</p> <p>Java ベースの[状況トップビュー]表示枠のコンテンツに適用するビューを選択します。このビューでは、表示される構成アイテム・タイプおよび数量を調整します。ビューでは、表示されているトポロジに影響する追加(関連)項目を除外したり含めたりできるため、選択したビューは構成アイテムの重要度のステータスにも影響します。</p> <p>構成アイテム・タイプにはビューをマップできます。ビューのマップの詳細については、「ビューのマップ」(198ページ)を参照してください。</p>
最新の更新	Java ベースが状況トップ・ビューの情報の最終更新日を表示します。

Java ベースの[状況トップビュー]ツールチップ

Java ベースの[状況トップビュー]表示枠に表示される構成アイテム(ツリーのルート構成アイテムまたはグレーに彩色されたすべての項目を除く)にカーソルを重ねると、次の表に説明されている構成アイテムのステータスに影響を与える要因の詳細が OMi によって表示されます。

UI 要素	説明
ビジネス・ルール	選択した構成アイテムの可用性およびパフォーマンスの決定に使用するビジネス・ルール。
CI 名	DB_Server.example.com など、選択されている構成アイテムの名前。
クラス タイプ	選択した CI の CI タイプ。
非表示チャイルド CI	選択した CI に、Java ベースの[状況トップビュー]に表示されない子 CI があることを示します。

UI 要素	説明
KPI 名	システムの可用性 KPI といった、表示されている状況インジケータを割り当てられている主要管理指標の表示名。 KPI の詳細については、「 HI ベースの KPI の計算 」(111ページ)を参照してください。
ステータスの最終変更	選択した構成アイテムに現在のステータスが適用された日時。
ステータス	選択した CI に割り当てられた重要度。
未割り当てのイベント	ユーザに未割り当ての、または未解決のイベントと関連付けられている KPI。この情報には、パフォーマンスおよび可用性 KPI の詳細以外に、選択したオブジェクトと関連付けられている重複するまたは関連する(未割り当ての)イベント数も含まれます。バックグラウンドの色は選択したオブジェクトと関連付けられている KPI の最上位の重要度を示します。
未解決のイベント	

トラブルシューティング

本項の内容

- 「[Java ベースの\[状況トップビュー\]が空である](#)」(147ページ)
- 「[状況インジケータの表示が不正](#)」(147ページ)

Java ベースの[状況トップビュー]が空である

- イベント・ブラウザで選択されているイベントがない
- 選択したイベントの関連 CI にマップされているビューがない
- 選択したイベントに関連する CI がない
- Java アプレットが起動しなかったか、正常に実行されていない

状況インジケータの表示が不正

状況インジケータは、たとえば利用不可という状態に対して危険域を割り当てるなど、状態の重要度を割り当てるために使用します。状態および割り当ては[Health Indicators]表示枠に示されます。ただし、KPI の計算ルールでは、Java ベースの[状況トップビュー]内のオブジェクトの新しい重要度レベルの設定に、いくつかの状況インジケータを使用している場合があります。

- イベント・ブラウザで選択されているイベントがない
- Java ベースの[状況トップビュー]表示枠でハイライトされている構成アイテムに状況インジケータの割り当てがない
- [イベントブラウザ]表示枠で選択したイベントとは別の構成アイテムを Java ベースの[状況トップビュー]で選択した

階層コンポーネント

階層コンポーネントには、ビュー内のCIの階層と、CIに割り当てられている各KPIのリアルタイム・ステータスが表示されます。KPIはドメイン別にグループ分けされており、ドメインを折りたたむと、ドメイン内の全KPI中の最悪ステータスを表示できます。また、特定のステータスのKPIを持つCIや、特定のCIタイプのCIのみを表示するように、フィルタを設定できます。

階層コンポーネントのCIを選択すると、CIの詳細が表示されます。次に詳細リンクをクリックすると、選択したCIに関する追加情報を表示できます。

ヒント: 階層表示はカスタマイズが非常に容易です。選択による特定のKPIドメインの表示や、特定のCIステータスのフィルタを行って、特に関心のある領域に焦点をあてることができます。

利用方法

独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能です。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

CI詳細リンク

階層コンポーネントでCIを選択してから、そのCI詳細リンクをクリックすると、CIに関する次のような情報にアクセスできます。

- **状況インジケータ:** アクティブなビューで選択したCIのステータスを計算、設定するために使用される状況インジケータ(HI)に関する詳細情報を表示します。詳細については、「[状況インジケータ・コンポーネント](#)」(138ページ)を参照してください。
- **変更およびインシデント:** アクティブなビューで選択したCIに対して開始されたインシデント、および変更の要求と実際にCIに対して行われた変更点を表示します。詳細については、「[変更およびインシデント・コンポーネント](#)」(123ページ)を参照してください。

階層のカスタマイズ

次の変更は、階層コンポーネントで実行でき(次の項で説明)、将来のセッションのために保存できます(ユーザごと、コンポーネントごと)。

- カラムの順序
- カラムの幅
- カラムの表示 / 非表示
- KPIドメインの折りたたみ / 展開
- CIの折りたたみ / 展開
- サウンドのオン / オフ(サウンド・モードがTrueに設定されている場合)
- フラット・フィルタ・モードまたは階層的フィルタ・モードの選択

ユーザ定義のページで変更を行った場合、現在のセッションで変更を保持するには[保存]をクリックします。設定を将来のセッションで保存するには、ブラウザを終了する準備ができたときに[ログアウト]をクリックします。(ログアウトせずにブラウザを閉じると、変更が保存されません)。

タスク

本項の内容

- 「クイック CI フィルタの作成方法」(149ページ)
- 「詳細フィルタの作成方法」(150ページ)
- 「KPI が危険域になった場合のサウンド通知の設定方法」(152ページ)
- 「更新頻度の変更方法」(152ページ)
- 「階層コンポーネントに表示される CI レベル数の変更方法」(152ページ)
- 「展開された子 CI ではなく折りたたまれた子 CI の表示方法」(153ページ)

クイック CI フィルタの作成方法

階層コンポーネントにはクイック・フィルタ・メカニズムが用意されており、特定のステータスの KPI を少なくとも 1 つ含む CI のみを表示できます。ここで作成されるフィルタは一時的なフィルタで、ユーザのログオフ、ステータスの選択内容の変更、または別のフィルタの選択のいずれかが実行されるまで維持されます。フィルタは、ビュー内でフィルタ条件を満たしているすべての CI を返します。

注: 同一のユーザ名 (admin など) を使用して複数のユーザが同時にログインしている場合、いずれかのユーザがフィルタへの変更を保存するたびに、関連するフィルタ・ファイルがそのユーザのフィルタのコピーで更新されます。

- 特定のステータスの KPI を持つ CI のみを一時的に表示するには、階層ツールバーの[フィルタ]ボタンをクリックし、開くフィルタ・バーで 1 つ以上のステータスを選択して、[フィルタ]をクリックします。
- フィルタ設定を解除するには、[フィルタの削除]ボタンをクリックします。

例:

フィルタを設定しない場合、階層コンポーネントではすべての KPI ステータスが表示されます。

名前	ステータス	システム 未割り当てイ ベント
[-] OMi Deployment with HP Operat	-	-
[-] HP Operations Manager	!	2
[-] HP Operations Agent	!	2
[-] win-31ep86fcrou	!	2
[-] OMi Gateway Server (✓	0
[-] win-31ep86fcrou	✗	1
[-] OMi Processing Serv	✓	-
[-] win-31ep86fcrou	!	1

ステータスが[警戒域]のKPIを含むCIのみを一時的に表示するには、[フィルタ]ボタンをクリックし、フィルタ・バーで[警戒域]のステータス・アイコンを選択して、[フィルタ]をクリックします。



ステータスが[警戒域]のKPIを含むCIだけが、階層に表示されています。

名前	ステータス	システム 未割り当てイ ベント
[-] OMi Deployment with HP Operat	-	-
[-] HP Operations Manager	!	2
[-] HP Operations Agent	!	2
[-] win-31ep86fcrou	!	2

詳細フィルタの作成方法


詳細フィルタでは、一時的フィルタまたは永続的フィルタのいずれかを使用して、特定のKPIステータスを基準にしてCIをフィルタすることで、問題のある特定の領域に焦点を当てることができます。たとえば、定

義済みの[エラーを表示]フィルタでは、ステータスが[危険域]のKPIが1つ以上あるCIのみが表示されます。

また、KPI ステータスとCI タイプの両方を基準にしたフィルタ設定を組み合わせた詳細フィルタも作成できます。たとえば、ステータスが[危険域]のKPIを1つ以上含むホスト(CITは[ノード])のみを表示するフィルタを作成できます。

フィルタは、ビュー内でフィルタ条件を満たしているすべてのCIを返します。

1. 一時的な詳細フィルタを作成するには、階層ツールバーの[フィルタ]ボタンをクリックして、フィルタバーの[詳細]をクリックします。

永続的な詳細フィルタを作成するには、[お気に入りフィルタメニュー]ボタンをクリックして、[新規作成]をクリックします。


2. [ステータスの選択]表示枠で、フィルタに組み込むKPIステータスのチェックボックスを選択します。
3. (任意)[Type Selection]表示枠で、階層に表示するCIをフィルタするためのCIタイプを選択します。

上位のCITを選択すると、その子孫CITもフィルタに含まれます。

4. 一時的なフィルタを有効にする場合は、[フィルタ]をクリックします。
フィルタを有効にして設定を保存する場合は、[フィルタして保存]をクリックします。

例：

[危険域ホスト]フィルタは、CITが[Node]のCIのうち、少なくとも1つのKPIのステータスが[危険域]のCIのみを表示するために作成されています。



Status Selection

フィルタ名: Worst Hosts 可視性: パブリック プライベート

次の KPI でのステータスに従って CI をフィルタリング:

OT の影響	<input checked="" type="checkbox"/> OK	<input type="checkbox"/> 注意域	<input type="checkbox"/> 警戒域	<input type="checkbox"/> 重要警戒域	<input checked="" type="checkbox"/> 危険域	<input type="checkbox"/> 情報	<input type="checkbox"/> 最新ではない	<input type="checkbox"/> 停止	<input type="checkbox"/> ダウンタイム
PNR	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
RT の影響	<input checked="" type="checkbox"/> OK	<input type="checkbox"/> 注意域	<input type="checkbox"/> 警戒域	<input type="checkbox"/> 重要警戒域	<input checked="" type="checkbox"/> 危険域	<input type="checkbox"/> 情報	<input type="checkbox"/> 最新ではない	<input type="checkbox"/> 停止	<input type="checkbox"/> ダウンタイム
SAP	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SAP ア ラート	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Siebel	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Siebel 工	<input checked="" type="checkbox"/> OK	<input type="checkbox"/> 注意域	<input type="checkbox"/> 警戒域	<input type="checkbox"/> 重要警戒域	<input checked="" type="checkbox"/> 危険域	<input type="checkbox"/> 情報	<input type="checkbox"/> 最新ではない	<input type="checkbox"/> 停止	<input type="checkbox"/> ダウンタイム

Type Selection:

CI タイプに従って CI をフィルタリング (親 CI タイプを選択すると、その子孫もすべて含まれます):

- +- DatacenterResource
 - +- NetworkEntity
 - Node
 - ClusterResourceGroup
 - Computer
 - Net Device

KPI が危険域になった場合のサウンド通知の設定方法

階層コンポーネント内の KPI のステータスが[危険域]に変わったときに警告サウンドを再生するようにサービス状況を設定できます。


最初にビューが読み込まれる際に、[危険域]のステータスで読み込まれた KPI については、サウンドは再生されません。サウンドをオンにすると、ビュー内の KPI のステータスが[危険域](赤)に変わったときに、サウンドが再生されます。[危険域]のステータス・アイコンは点滅し、ユーザがアイコン上にマウス・ポインタを置くまで点滅が続きます。ビューの非表示の部分にある CI のステータスが[危険域]に変わり、現在表示されている分岐に含まれる CI のステータスには変更がない場合は、サウンドは再生されません。

次のオプションを使用できます。

- **サウンドを有効または無効にする** : インフラストラクチャ設定を開きます。
[管理]> [セットアップと保守]> [インフラストラクチャ設定]
[アプリケーション]を選択して[サービス状況アプリケーション]を選択します。[サービス状況アプリケーション - サウンド通知]タブで、[サウンド通知]を見つけます。この値を **true** に変更するとサウンド通知が有効になり、**false** にすると無効になります。この変更は、ただちに有効になります。
- **消音または復元** : 階層ツールバーの[サウンドのオン/オフ]ボタンを使用して、サウンド・オプションを一時的にオンまたはオフにできます。
- **警告サウンドの変更** : 警告サウンドは、ブラウザからダウンロードする mp3 ファイルです。サービス状況で別の警告サウンドを使用するには、管理権限を持っている場合は、<ゲートウェイ・サーバのルート・ディレクトリ>\AppServer\ webapps\site.war\static\dash\sounds にアクセスして、ding.mp3 ファイルを自分の .mp3 ファイルに置き換えます(新しいファイルの名前を **ding.mp3** に変更する必要があります)。この変更は、ブラウザのキャッシュをクリアした後で有効になります。

更新頻度の変更方法

標準設定では、階層コンポーネントは 5 秒ごとに更新されます。

標準設定のページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーの[コンポーネントメニュー]ボタン  を使用してその更新頻度を変更できます。[プリファレンス]を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

階層コンポーネントに表示される CI レベル数の変更方法

標準設定では、階層コンポーネントには階層表示の 2 つのレベルが表示されます。たとえば、ビューを選択すると、コンポーネントにはビュー名(階層ルートとして)とその上位の CI が表示されます。選択した CI からドリルダウンすると、選択した CI がルートとして表示され、その子 CI も表示されます。

階層コンポーネントに表示されるレベル数を変更するには、次の手順を実行します。

1. インフラストラクチャ設定を開きます。
[管理]> [セットアップと保守]> [インフラストラクチャ設定]
[アプリケーション]を選択して[サービス状況アプリケーション]を選択します。
2. [サービス状況レイアウトのプロパティ]テーブルで、[ビジネスコンソール - 表示レベル数]を見つけます。ここでは、1 ~ 4 の値を入力できます。1 を指定すると、子 CI は表示されますが、展開はできません。

展開された子 CI ではなく折りたたまれた子 CI の表示方法






1. インフラストラクチャ設定を開きます。
[管理]>[セットアップと保守]>[インフラストラクチャ設定]
[アプリケーション]を選択して[サービス状況アプリケーション]を選択します。
2. [サービス状況レイアウトのプロパティ]テーブルで, [階層 - 標準の状態]プロパティを見つけ, その値を[子 CI を折りたたんで表示します]に変更します。



UI の説明





階層 ツールバー

このツールバーを使用すると, 階層テーブルへのデータの表示方法をカスタマイズし, 表示する KPI を定義するフィルタを作成できます。

以下では, 使用されるインターフェース要素について説明します。


UI 要素	説明
<ビュー セレクタ>	ドロップダウン・リストからビューを選択すると, ビュー内の CI の情報が表示されます。
	<p>メニュー: 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">•  利用可能なレベルを展開/すべてを折りたたむ: 階層コンポーネントに表示される CI を展開または折りたたみます。 これらのボタンは, 現在表示されている CI に, 展開または折りたたみが可能な CI が1つ以上含まれている場合に有効になります。•  ドリルダウン: CI を選択してからクリックすると, その子 CI にドリルダウンします。このボタンは, CI を選択している場合にのみ有効となります。 フィルタがアクティブな場合にドリルダウンすると, 選択した CI に対して新しいブラウザ・ウィンドウが開きます。•  1つ上のレベル: 階層コンポーネントに現在表示されている CI の, 親 CI が表示されます。 このボタンは, 現在表示されている CI に親 CI がある場合にのみ有効になります。•  カラムの選択: クリックすると, [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き, 表示する KPI を選択できます。 表示する KPI を追加または削除するには, 矢印を使用します。

UI 要素	説明
	<p>フィルタ: フィルタ・バーが開きます。フィルタ・バーを使用すると、指定したステータスの KPI を少なくとも 1 つ含む CI のみを表示できます(たとえば、ステータスが[危険域]の KPI を少なくとも 1 つ含む CI のみを表示)。</p> <p>[フィルタ] ボタンに黄色と赤の境界線がある場合は、現在フィルタが有効になっていることを示します。</p>
	<p>フィルタの削除: フィルタが有効な場合にクリックすると、フィルタ設定が解除され、すべての CI のすべての KPI ステータスが表示されます。</p>
<p><フィルタ・バー></p>	<p>[フィルタ] ボタンを押すと、階層ツールバーの真下にこのバーが表示されます。</p> <p>KPI ステータスの組み合わせを選択して、指定したステータスの KPI が少なくとも 1 つ含まれる CI のみが表示されるようにします。</p> <p>フィルタ・バーには、次のボタンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • フィルタ: ステータスの選択後にクリックすると、フィルタが有効になります。 • クリア: すべてのステータスをクリアします。 • 詳細設定: 詳細フィルタを作成します。ここでは、特定の KPI または CI タイプを基準にしたフィルタ設定や、永続的なフィルタの作成が可能です。 <p>注: フィルタ・バーを使用して作成されるフィルタは一時的なフィルタです。ユーザのログオフ、ステータスの選択内容の変更、または別のフィルタの選択のいずれかが実行されると削除されます。</p>
<p><お気に入りフィルタのリスト></p>	<p>このリストには、定義済みフィルタと、詳細フィルタを使用して作成されたフィルタが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 階層の表示に適用するフィルタを選択します。 • フィルタの編集、複製、削除を行う場合は、このリストからフィルタを選択して、[お気に入りフィルタメニュー] ボタンをクリックします。 <p>定義済みフィルタは、一般的に必要な情報を表示する際に便利ですが、変更や削除はできません。定義済みフィルタには、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • グローバル: エラーを表示: KPI のステータスが[危険域]である CI を表示します。 • グローバル: エラーと警告を表示: KPI のステータスが[警戒域], [重要警戒域], または[危険域]の CI を表示します。 • グローバル: PNR を表示: すべての CI タイプのうち, [PNR] KPI が[OK], [注意域], [警戒域], [重要警戒域], [危険域], または[データなし]のステータスの CI のみが表示されます。

UI 要素	説明
	<p>お気に入りフィルタ・メニュー: ドロップダウン・メニューが開き、次のアクションを実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 詳細フィルタを作成するには、[新規作成]をクリックします。 フィルタを編集または削除するには、お気に入りフィルタ・リストからフィルタを選択して、[編集]または[削除]をクリックします。 定義済みフィルタを変更または削除することはできません。 フィルタを複製するには、お気に入りフィルタ・リストからフィルタを選択して、[複製]をクリックします。
	<p>階層的フィルタ・モード: フィルタが有効な場合にクリックすると、フィルタ条件を満たしている CI が、親 CI のコンテキストの階層構造で表示されます。</p>
	<p>フラット・フィルタ・モード: フィルタが有効な場合にクリックすると、フィルタ条件を満たしている CI が、親 CI を含まない非階層構造のリスト形式で表示されます。</p>
	<p>サウンドのオン/オフ: KPI のステータスが[危険域]に変わったときに警告サウンドを再生するように、サービス状況を設定できます。 クリックすると、サウンドのオンとオフが切り替わります。</p>

階層テーブルの列

UI として表示されるユーザ・インタフェース要素について次に説明します(ラベルのない要素は山括弧内に表示されます)。



UI 要素	説明
確認	<p>このカラムのアイコンをクリックして CI の確認を設定または設定解除します。 チェック・マーク  は、確認が設定されていることを示します。</p>
ビジネス影響度	<p>注: ビジネス影響度は標準設定では表示されません。この設定を変更するには、OMi 管理ガイドを参照してください。</p> <p>このバーによって、CI のビジネス影響度が 0(影響なし)から 5(影響度高)のレーティングで示されます。レーティングでは、CI が監視環境にあるビジネス CI および SLA に対してどの程度の影響を与えるかが示されます。</p> <p>標準設定では、ビジネス影響度のレーティングは、影響を受けるビジネス CI の重要度、および影響を受けるビジネス CI および SLA の数に基づいて決まります。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p> <p>フラット・フィルタ・モードの場合、カラム・ヘッダをクリックして昇順 / 降順で並べ替えることができます。</p>
<KPI>	<p>各 KPI 列には、テーブルに表示されている各 CI に含まれる特定の KPI の、ステータスと値が表示されます。</p>

UI 要素	説明
<KPI ドメイン>	KPI はドメイン別にグループ分けされます。たとえば、アプリケーション・ドメインには、[アプリケーション パフォーマンス]KPI と[アプリケーションの可用性]KPI が含まれます。 ドメインに含まれるすべての KPI を表示するか、ドメインを折りたたんで、ドメインに含まれる全 KPI 中の最悪ステータスを表示できます。
ステータスの最終変更	CI が現在のステータスに変更された日時が表示されます。 フラット・フィルタ・モードの場合、カラム・ヘッダをクリックして昇順 / 降順で並べ替えることができます。
名前	このカラムには、選択したビューの CI が階層構造で表示されます。CI を展開してその子 CI にドリルダウンできます。
ステータス	CI の最悪の KPI ステータスを表示します。 フラット・フィルタ・モードの場合、カラム・ヘッダをクリックして昇順 / 降順で並べ替えることができます。

階層テーブルの行

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<CI 名>	テーブルの各行に、指定した CI の KPI ステータスが表示されます。
▼	CI 名の隣の下矢印をクリックすると、その CI のメニュー・オプションにアクセスできます。使用できるオプションは、CI タイプと、CI に対して定義されたショートカット・メニューに応じて変わります。CI にショートカット・メニューが定義されていない場合、このメニューの矢印は表示されません。選択した CI でメニュー・オプションがサポートされていない場合、そのオプションは無効または非表示になります。
<KPI ステータス / KPI の値>	KPI の現在のステータスまたは値を示す、テキストまたはアイコンが表示されます。 ツールチップ: <ul style="list-style-type: none"> ● ステータス: CI のステータス(ステータスの計算方法のいずれかに基づいて計算される)。次も表示されることがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 最新ではない: 減退した CI で表示され、CI のタイムアウト時間が過ぎたことを示します。(SiteScope CI の場合は、SiteScope モニタが無効になった後でこのステータスが表示されます)。 ○ 停止: ビジネス・プロセスが停止された場合に表示されます。 ● ビジネス・ルール: KPI のステータスまたは値を計算するルールの名前。 ● ステータスの最終変更: この CI の現在の動作ステータスが開始した日時。

UI 要素	説明
<p><KPI の履歴></p> 	<p>CI を選択すると、履歴ステータス・アイコンは、指定された期間内の KPI について、最悪ステータスまたは平均ステータスを示します。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p> <p>ツールチップ:</p> <ul style="list-style-type: none"> 履歴タイプ: 履歴ステータスの計算に使用される履歴のタイプ(最低ステータスまたは平均ステータス)。 履歴のワースト / 平均: 選択した期間中の、KPI の最低ステータスまたは平均ステータス。
<p><KPI のトレンド></p> 	<p>CI を選択すると、トレンド・ステータス・アイコンは、「上」、「下」、「変化なし」という 3 つの方向を使用して、KPI のリアルタイム・ステータスのトレンドを示します。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。</p> <p>ツールチップ:</p> <ul style="list-style-type: none"> トレンド: 選択した期間の KPI のトレンド。

[フィルタの定義/編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用して、新しいフィルタの定義や、既存のフィルタのカスタマイズができます。アクセスするには、[アプリケーション]>[サービス状況]>[360° View]>[階層]を選択します。[フィルタ]をクリックしてから[詳細設定]をクリックするか、あるいは[お気に入りフィルタメニュー]ボタンをクリックします。

Status Selection

フィルタ名: 可視性: パブリック プライベート

次の KPI でのステータスに従って CI をフィルタリング:


	OK	注意域	警戒域	重要警戒域	危険域	情報	最新ではない	停止	ダウンタイム
OT の影響	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
PNR	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
RT の影響	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SAP	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SAP ア ラート	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Siebel	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Siebel 工	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Type Selection:

CI タイプに従って CI をフィルタリング (親 CI タイプを選択すると、その子孫もすべて含まれます):

- ConfigurationItem
 - BusinessElement
 - CICollection
 - Dynamic Node Factory

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	<p>選択の切り替え : すべての KPI について、ステータスのいずれかを選択または選択解除します。</p>
<p><ステータス・チェック・ボックス></p>	<p>フィルタに含める KPI ステータスのチェック・ボックスを選択します。階層には、フィルタ条件を満たす KPI が少なくとも 1 つ含まれるすべての CI が表示されます。</p>
<p>キャンセル</p>	<p>変更内容を保存せずに、[フィルタの定義/編集]ダイアログ・ボックスを終了します。</p>
<p>フィルタ</p>	<p>フィルタが適用されます(フィルタ設定は保存されません)。</p>
<p>フィルタして保存</p>	<p>フィルタが適用され、フィルタへの変更が保存されます。</p>
<p>フィルタ名</p>	<p>作成しているフィルタの名前を入力します。</p>
<p>Type Selection</p>	<p>CI タイプの階層が表示され、特定の CI タイプのフィルタ設定に使用できます。CI タイプを選択して、このタイプの CI のみが階層に表示されるようにします。</p> <p>CI タイプによるフィルタは、ステータスによるフィルタと組み合わせられます。たとえば、[Status Selection] 表示枠ですべての KPI の危険域ステータスを選択し、[Type Selection] 表示枠でビジネス要素 CI を選択するとします。階層には、この CIT(およびその子孫 CIT)の CI のうち、危険域ステータスの KPI が少なくとも 1 つ含まれる CI のみが表示されます。</p> <p>注 : 上位の CIT を選択すると、その子孫 CIT もすべてフィルタに含まれます。</p>
<p>可視性</p>	<p>必要な可視性のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>非公開 : 作成したユーザのみが利用可能な非公開フィルタを作成します。非公開アクティブ・フィルタの作成には、グローバル・アクティブ・フィルタおよび公開アクティブ・フィルタをテンプレートとして使用できます。名前は、private:<名前> という形式です。</p> <p>OMi へのログオン時に使用されるユーザ名ごとに、関連付けられたフィルタ・ファイルが Service Health によって作成されます。特定のユーザ名を使用して OMi にログオンした場合は、そのユーザに関連付けられたフィルタ・ファイルに入っているフィルタのみを表示、変更できます。フィルタ・ファイルは、このユーザ名を使用してログインした各ユーザが行ったフィルタの変更で更新されます。そのため、フィルタになんらかの変更を加えることで、前のユーザによる変更を上書きしてしまう可能性があります。</p> <p>公開 : 管理者、または適切な権限を持つユーザは、公開アクティブ・フィルタを作成できます。このフィルタは、特定の顧客の全ユーザが利用できます。公開アクティブ・フィルタの作成には、グローバル・アクティブ・フィルタをテンプレートとして使用できます。名前は、public:<名前> という形式です。</p> <p>注 : [可視性]は、管理者または必要な権限を持つユーザにのみ表示されます。</p>

隣接マップ・コンポーネント

隣接マップには、選択した CI の親 CI と子 CI が、インタラクティブなグラフィックで表示されます。ビューに示される各 CI は、その現在の最悪 KPI ステータスを示す色分けアイコンが付いたバーで表示されます。CI の名前下のアイコンは、関連 KPI およびその現在のステータスを識別しています。

CI は、隣接マップ内でレイヤに分けて表示できます。よって、最も関心のあるレイヤ(ビジネスの有効化、インフラストラクチャ、ソフトウェアなど)に焦点を当てることができます。

CI 間のリンクは、RTSM に定義されているとおりに、ビューの折りたたみなしで示されます。CI 間のリンクは、RTSM に表示されるとおりの物理リンクを表します。

ヒント: 隣接マップは、たとえば、監視対象ビュー外の CI に起因する可能性のある問題の原因を調べる際に特に有用です。

利用方法

隣接マップを組み込んだカスタム・ページを作成します。ビュー・エクスプローラやトップ・ビューなどの、CI を選択するためのコンポーネントを追加します。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

表示オプション: プレーン・モードまたはレイヤ・モード

隣接マップの CI は、次の2つのモードのいずれかで表示できます。

- **プレーン・モード:** プレーン・モードでは、各 CI は独立して表示されます。
- **レイヤ・モード:** レイヤ・モードでは、CI は機能レイヤごと(ビジネスの有効化、インフラストラクチャ、ソフトウェアなど)に分けられます。CI は、RTSM のレイヤ属性に基づいてレイヤに割り当てられます。たとえば、レイヤ・モードでは、アプリケーション・リソース CIT およびアプリケーション・システム CIT は、レイヤ属性に基づいてソフトウェア・レイヤに割り当てられます。

レイヤ・モードでは、レイヤへの CI の追加、レイヤからの CI の削除を行うことができます。さらに、RTSM 管理で、レイヤ属性を使用して追加のレイヤを作成できます。

隣接マップ内のレイヤは、トポロジ・マップのレイヤと同一です。標準設定の各レイヤの詳細については、「[トポロジ・マップ・コンポーネント](#)」(176ページ)を参照してください。

イメージの注釈と保存

隣接マップでは、注釈を使用して表示しているイメージのスナップショットを作成して保存し、イメージの重要な領域を強調表示できます。ツールバーの「[結果をキャプチャして注釈を追加します](#)」ボタンをクリックして注釈ツールにアクセスできます。注釈ツールは、隣接マップとトポロジ・マップでまったく同一です。詳細については、「[注釈ツール](#)」(114ページ)を参照してください。

タスク

本項の内容

- 「隣接マップに表示するCIの数の変更方法」(160ページ)
- 「隣接マップの表示のカスタマイズ方法」(160ページ)
- 「更新頻度の変更方法」(160ページ)

隣接マップに表示するCIの数の変更方法

標準設定では、CIが選択されると、隣接マップに親CIが2レベル、子CIが2レベルで表示されます。つまり、隣接マップには、選択したCIが、その親CIとさらにその親CI、および子CIとさらにその子CIのコンテキストで表示されます。

この設定は、1～3レベルのCIを表示するように変更できます。使用するインフラストラクチャ設定は、

[管理]> [セットアップと保守]> [インフラストラクチャ設定]


[アプリケーション]> [サービス状況アプリケーション]にアクセスします。[サービス状況アプリケーション - サービス状況レイアウトのプロパティ]テーブルで[隣接マップの深さ]エントリを見つけ、必要に応じて変更します。

隣接マップの表示のカスタマイズ方法

隣接マップの表示は簡単にカスタマイズできます。CIのレイヤ表示または個別表示、CIの最小限の情報または詳細な情報の表示、それぞれの間のリンクの表示、および表示内の他の要素の変更を行うことができます。詳細については、以下のUIの解説を参照してください。

注: 隣接マップの表示をカスタマイズしても、RTSMトポロジにはまったく影響がありません。カスタマイズの内容は、このコンポーネントでのCIの表示方法にのみ影響します。


更新頻度の変更方法

標準設定のページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーの[コンポーネントメニュー]ボタン  を使用してその更新頻度を変更できます。[プリファレンス]を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。



UIの説明

隣接マップ・ツールバー

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。


UI 要素	説明
	更新 : パフォーマンスを向上するため、隣接マップには、RTSM内のCIトポロジに対して行われた変更は反映されません。RTSM内のCIトポロジに対して変更を行った場合は、[更新]をクリックして、CIトポロジの表示を更新できます。

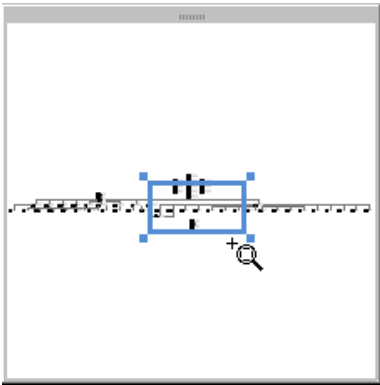
UI 要素	説明
	<p>リフォーカス :隣接 マップのフォーカスを, 選択した CI から別の CI に変更するには, CI を選択し, [リフォーカス] ボタンをクリックします。</p> <p>隣接 マップは, フォーカスを変更して, 選択した CI を強調表示し, その CI の親 CI と子 CI を表示します。</p>
	<p>選択 : 選択モードでは, CI またはグループを選択して, 選択した要素に対してアクションを実行できます。たとえば, CI を移動するには, 選択モードにする必要があります。</p>
	<p>インタラクティブ・ズーム :ズーム・モードで隣接 マップ内をクリックし, ドラッグアップまたはドラッグダウンして画像をズーム・インまたはズーム・アウトします。</p>
	<p>パン :パン・モードでは, 隣接 マップの画像がスクロール可能な場合, 画像をクリックおよびドラッグして移動できます(画像全体が画面に収まる場合, この機能を実行しても効果はありません)。</p>
	<p>画面に合わせる :グラフを拡大または縮小することで表示枠に合わせます。画像の相対比率は維持されます。</p>
	<p>プレゼンテーション・タイプの切り替え :最小ビューを切り替えます。このビューには, CI アイコンと最悪ステータスのみが表示され, 詳細ビューにはさらに CI 名とKPI ステータスが表示されます。</p>
 オプションを表示 ▾	<p>表示オプションのドロップダウン・リストを開きます。次のオプションをそれぞれ選択または選択解除できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リンクの表示 :このオプションを選択すると, 隣接 マップには, リンクされた CI 間の矢印が表示されます。 • リンクラベルの表示 :このオプションを選択すると, 隣接 マップには, 各リンクがリンクの種類(相手を含む, 依存関係があるなど)とともに表示されます。[リンクの表示] オプションが選択解除されている場合, このオプションは無効です。
 プレーンモード ▾	<p>次の表示モードのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プレーン・モード :各 CI は独立して表示されます。 • レイヤ・モード :隣接 マップには, 関連する上位レベルの CI がレイヤごとに表示されます。たとえば, ビジネス要素 CI は[ビジネスの有効化]レイヤに表示され, ノード CI とノード要素 CI は[インフラストラクチャ]レイヤに表示されます。

UI 要素	説明
	<p>ミニマップの表示 :隣接 マップの画像を小 ウィンドウ(ミニマップ)に表示 します。これは、 標準の隣接 マップの上に重ねて表示 されます。</p> <p>ミニマップ画像の強調表示された領域は、隣接 マップのどの部分が 大きい画像で表示されるかを示 します。この強調表示された領域を サイズ変更または移動して、操作の 対象とする隣接 マップの部分に 焦点を当てることができます。ミニ マップ・ウィンドウを閉じるには、 大きい画像内でクリック します。</p>
	<p>結果をキャプチャして注釈を追加 します :注釈 ツールを開きます。注 釈 ツールでは隣接 マップのスナ ップショットを作成し、スナ ップショットに 注釈を付けて、重要な領域を強調 表示 できます。このツールでは、 スナ ップショットに描画したり、 イメージに線 やテキストを追加 したり できます。詳細については、「注釈 ツール」(114ページ)を参照 して ください。</p>

隣接 マップの表示

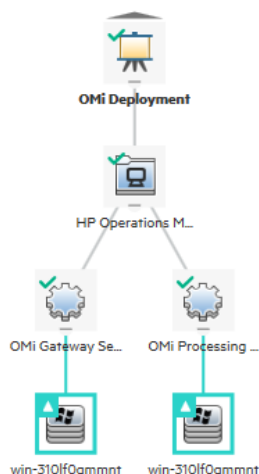
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示 します(ラベルのない要素は山括弧で 囲んで示 します)。

UI 要素	説明
<p><CI ノード></p> 	<p>選択したビューの各 CI は、次の要素を含む、隣接 マップ内の 一 部として表示 されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バーの左側には、RTSM で表されるように、CI のCI タイプを示 すアイコンが表示 されます。 • CI の集計ステータスは、CIT アイコンの上に重ねて表示 されま す。 • 隣接 マップが詳細ビューで表示 されている場合、CI 名とKPI ステータスも表示 されます。 <p>ツールチップ : CI のツールチップには、CI 名とCI タイプが表示 され ます。KPI のツールチップには、KPI のステータスとパフォーマンス のデータが表示 されます。</p> <p>CI および KPI のステータスは、色 付きのアイコンで表示 されま す。</p>

UI 要素	説明
<p><CI のレイヤ></p>	<p>レイヤ・モードでは、上位レベルのCI がレイヤ内に表示されます。これらのレイヤは、機能(ビジネスの有効化やインフラストラクチャなど)ごとに分類されます。各レイヤは灰色で示された別個の領域に表示され、レイヤ名でラベル付けされます。</p> <p>レイヤ名の変更、レイヤの削除はできません。レイヤからのCIの削除、レイヤへのCIの追加はできます。</p>
<p><CI 間のリンク></p>	<p>[オプションを表示]のリストで、[リンクの表示]を選択すると、隣接マップにはRTSM 内でリンクされたCI 間の矢印が表示されます。</p> <p>[リンクラベルの表示]オプションも選択すると、隣接マップにはリンクの種類(相手を含む、所有権があるなど)も表示されます。</p>
<p><ミニマップの画像></p> 	<p>[ミニマップの表示]ボタンをクリックすると、隣接マップの画像が、標準の隣接マップの上に重なるように、小ウィンドウ(ミニマップ)に表示されます。</p> <p>隣接マップの一部である強調表示された領域は、大きい画像で表示されます。この強調表示された領域をサイズ変更または移動して、操作の対象とする隣接マップの部分に焦点を当てます。</p>
<p>最新の更新</p>	<p>コンポーネントの情報が最後に更新された日時が表示されます。</p> <p>CI ステータスを手動で更新するには、[更新]アイコンをクリックします。</p>

トップ・ビュー・コンポーネント

トップ・ビューでは、システム・コンポーネントのビジネス可用性が一目でわかります。コンポーネント内のCI は、各ビュー用に定義された階層構造に基づいて、ビジネス・アプリケーションにマップされたリアルタイムのIT パフォーマンス・マトリクスを視覚的に表現します。CI どうしをつなぐ線は、CI 間の関係を定義します。



重要なアプリケーションとビジネス・プロセスを統合された単一ビューで表現することにより、トップ・ビューでは、ビジネス・サービスの状況を全体的に確認できます。これにより、パフォーマンスの問題がビジネスの任意の部分の可用性にどのように影響するかをすばやく評価できます。各 CI は、CI の KPI が保持する最悪ステータスを示すように彩色されています。また、KPI や HI の詳細を即座に表示することもできます。

利用方法

カスタム・ページを作成する場合、組み込みのビュー・セクタを使用する独立したコンポーネントとしてか、あるいはビュー・エクスプローラなどのビューを選択する別のコンポーネントとともに、トップ・ビューを使用できます。詳細については、「[\[マイ ワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

本項の内容

- [「インタラクティブ・マップ」](#)(164ページ)
- [「仮想フォルダ」](#)(164ページ)

インタラクティブ・マップ

トップ・ビューは、CI のインタラクティブ・マップを示します。インタラクティブ・マップはマウスを使用して操作でき、特定のビジネス領域や問題のある領域に関連するツリー内の特定の分岐にフォーカスできます。

標準設定では、トップ・ビュー・コンポーネントは4つのレベルのCIを表示します。それ以外のCIは折りたたまれます。CIは第4レベルから展開し、子CIを表示できます。CIどうしをつなぐ線は、ツリーの分岐を示します。トップ・ビューに表示されるCIレベル数を変更する方法の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

仮想フォルダ

ビューのルートに表示される子CIの最大数は、標準設定で100になっています。ただし、大規模なCI

トポロジでは、この標準設定値を簡単に超えてしまう可能性があります。その場合は、一度に表示される CI の数が過剰にならないように各子 CI が仮想フォルダ間に均等に分散されます。これにより、パフォーマンスが低下する可能性を抑えることができます。各仮想フォルダには、含まれる CI の数が表示されます。仮想フォルダを展開すると、その仮想フォルダに含まれている CI を 3 つの異なるレイアウト(階層、円形、またはオーガニック)で表示できます。

注: 仮想フォルダを導入する前に、ビューのルート CI に表示される子 CI の最大数を[インフラストラクチャ設定]で指定できます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

タスク

本項の内容

- 「キーボード・ナビゲーションの使用法」(165ページ)
- 「トップ・ビューをカスタマイズする方法」(166ページ)
- 「Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネントを有効にする方法」(166ページ)
- 「ビューを選択して CI トポロジを表示する方法」(167ページ)
- 「トポロジ内の CI のステータスを監視する方法」(167ページ)
- 「CI の詳細の表示方法」(167ページ)
- 「CI を探す方法」(167ページ)
- 「特定のサブツリーにフォーカスを設定する方法」(168ページ)
- 「更新頻度の変更方法」(168ページ)
- 「暗いテーマを有効にする方法」(168ページ)

キーボード・ナビゲーションの使用法

トップ・ビューでは、次のキーボード・ナビゲーションを使用できます。

キーボード・ナビゲーション・オプション	説明
矢印キー(上, 下, 右, 左)	ある CI から別の CI に移動します。
改行	現在フォーカスのある CI を選択します。
Shift+C	選択した CI にトップ・ビューのフォーカスを移動します。
プラス記号またはマイナス記号	選択した CI の展開 / 折りたたみを実行します。
スペースバー	選択した CI の展開 / 折りたたみを実行します。
Ctrl + プラス記号または Ctrl + マイナス記号	CI の表示サイズを増減します。

キーボード・ナビゲーション・オプション	説明
Ctrl+0	サイズに合わせてズーム(画面サイズに合わせて CI トポロジのサイズを変更)します。
Ctrl+Shift+ プラス記号または Ctrl+Shift+ マイナス記号	完全にズームインまたはズームアウトします。
Esc	表示モードを終了する(サブツリーに問題がある場合など), CI ショートカット・メニューを閉じる, [オプション]メニューを閉じる, のうちいずれかを実行します。
Shift+V	ビュー・セレクタにフォーカスを設定して, [ビュー]ドロップダウン・リストを展開します。
Shift+F	[検索]バーにフォーカスを設定します。
Shift+L	CI トポロジの表示レイアウトを変更します。
Ctrl+Shift+M	[オプション]メニューを開きます。
Shift+R	ルート CI にフォーカスを設定します。
アプリケーション・キー	CI ショートカット・メニューを開きます。
F3	次の検索結果を表示します。
Shift+F3	前の検索結果を表示します。

注: [トップビュー]ページ内の任意の場所に CI 名を入力して CI を検索することもできます。[検索]バーが自動的にアクティブになります。

トップ・ビューをカスタマイズする方法

トップ・ビューでは, トップ・ビューのレイアウト, CI, KPI, HI 表示オプション, 背景画像など, さまざまな側面をカスタマイズできます。

トップ・ビューのカスタマイズの詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。

Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネントを有効にする方法

標準設定では, HTML5 ベースのトップ・ビュー・コンポーネントが有効になっています。HTML5 ベースのトップ・ビューは, サードパーティ製のプラグインとは独立して実行されます。ただし, Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネントを使用する必要がある場合は, [インフラストラクチャ設定]で設定できます。詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。

Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネントの詳細については, [「Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネント」\(171ページ\)](#)を参照してください。

ビューを選択してCIトポロジを表示する方法

トップ・ビュー・コンポーネント、または同じページのいずれかの有線コンポーネントのドロップダウン・リストからビューを選択すると、そのビューにCIが表示されます。有線コンポーネントで選択したCIは、ほかのコンポーネントでも自動的に選択されます。たとえば、ビュー・エクスプローラ・コンポーネントのCIを選択した場合、このCIはトップ・ビュー・コンポーネントで自動的に選択され、必要に応じて、各サブ分岐が展開されます。

注: トップ・ビューでは、表示されたCIトポロジをズーム・インおよびズーム・アウトできます。それには、マウス・ホイールを使用する、**Ctrl + プラス記号**または**Ctrl + マイナス記号**を押す、または[オプション]ボタンで表示できるスライダーを使用する方法があります。左マウス・ボタンをクリックし押し下げたままドラッグすることで、表示されたCIトポロジを移動することもできます。また、[折りたたみ]アイコン上にマウス・ポインタを置くと、フェーディング効果が生成され、実際の操作時に折りたたまれる要素を確認できます。

トポロジ内のCIのステータスを監視する方法



トポロジ内のCIのステータスをすばやく確認するには、CIの状況ステータスを示すアイコンと色をチェックします。イベントのステータスが変化したり、新規のイベントを受信した場合、あるいは、CIトポロジに変化があった場合(たとえば、新しいCIが検出された場合)、ビューは自動的に更新されます。

注: ビュー内のCIのステータスが変化したとき警告サウンドが再生されるようにする場合は、[オプション]ボタンをクリックして、[サウンド通知を再生]オプションがオンになっていることを確認してください。このオプションは標準設定では有効になっていますが、オフにすることで無効にできます。

CIの詳細の表示方法

標準設定では、CIにはKPIは表示されません。各CIのKPIアイコンを表示するには、[オプション]ボタンをクリックして、[KPIを表示]オプションをオンにします。ステータスが正常域のKPIのみ表示するよう選択することもできます。それには、[標準ステータスのKPIを表示]オプションがオンになっていることを確認します。

KPIは、現在のステータスに基づいて、重大度を示すアイコンおよび色で表示されます。CIのKPIおよびそのステータスの一覧を表示するには、KPIアイコンをクリックします。あるいは、選択したCI上にマウス・カーソルを置いてCIのショートカット・メニューを開き、右側に表示される[CIショートカットメニューを開く]ボタンをクリックします。後者の場合、さらに詳しい情報を表示するには、右矢印ボタンをクリックして表示ビューを開きます。元に戻るには、左矢印ボタンをクリックするか、[X]ボタンをクリックして表示ビューを閉じます。

HI情報を表示するには、[オプション]ボタンをクリックして、[状況インジケータの表示]オプションをオンにします。HIが割り当てられている各CIには、が表示されます。HIの詳細を表示するには、をクリックするか、CIショートカット・メニューを開きます。表示されるデータの詳細については、「[状況インジケータ・コンポーネント](#)」(138ページ)を参照してください。

CIを探す方法

トップ・ビューで特定のCIを検索するには、[検索]バーにCI名の一部を入力します。そのビューで一致するすべてのCIが一覧表示されます。特定のCIを選択すると、そのCIにフォーカスが移り、必要に応じて分岐が展開されます。

特定のサブツリーにフォーカスを設定する方法

CI トポロジの特定部分にフォーカスを設定するには、詳細を表示するサブツリーのルートにマウス・ポインタを置いて、左側に表示される[サブツリーのみを表示]ボタンをクリックします。選択したサブツリーが表示されます。必要に応じて、この操作を繰り返すことで、サブツリーのさらに下位部分にフォーカスを設定できます。

サブツリーの1つ上のレベルに移動するには、ページの左上にある上矢印をクリックします。[サブツリーのみを表示]モードから出るには、ページの左上にある[X]ボタンをクリックします。フォーカスは最後に選択したCIに設定されたままです。

CI ショートカット・メニューの[サブツリーのみを表示]ボタンを使用することもできます。詳細については、「[CI ショートカット・メニュー](#)」(170ページ)を参照してください。

更新頻度の変更方法

トップ・ビューの更新頻度の標準設定は5秒です。

標準設定の更新頻度を変更することはできません。ただし、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、その更新頻度を変更することはできます。それには次の手順を実行します。

1. [コンポーネント・メニュー]ドロップダウン・リストで、[プリファレンス]を選択します。トップ・ビューの[プリファレンス]ウィンドウが開きます。
2. 必要に応じて更新頻度を変更し、[OK]をクリックします。

暗いテーマを有効にする方法

トップ・ビュー・コンポーネントの外観を変更して暗いテーマを使用するには、次の手順を実行します。








1. [コンポーネント・メニュー]ドロップダウン・リストで、[プリファレンス]を選択します。トップ・ビューの[プリファレンス]ウィンドウが開きます。
2. [暗いテーマの使用]チェック・ボックスを選択し、[OK]をクリックします。

UIの説明

トップ・ビューのツールバー

トップ・ビューのツールバーには、次のオプションが用意されています。





UI 要素	説明
<ビュー セレクタ>	ツールバーの左上領域にあるドロップダウン・リストからビューを選択して、CI を表示します。
<検索 バー>	クリックして展開し、CI 名を入力して、そのCI に絞り込みます。

	<p>階層レイアウト : CIトポロジを表示するための階層レイアウトを選択します。これは標準設定のレイアウトです。ただし、選択したビューに対して異なるレイアウトを選択した場合、レイアウト・プリファレンスが保存されます(つまり、このビューを選択するたびに、最後に選択したレイアウトで表示されます)。</p> <p>注: 使用している画面が小さい場合、レイアウト・アイコンがコンポーネント・ツールバーに表示されないことがあります。この場合、[オプション]ボタンでアクセスできます。</p>
	<p>円形レイアウト : CIトポロジを表示するために円形レイアウトを選択します。</p>
	<p>オーガニックレイアウト : CIトポロジを表示するためにオーガニックレイアウトを選択します。</p> <p>注: オーガニックレイアウトは、ほかの2つのレイアウト・タイプに比べると、大規模なトポロジのレンダリングに時間がかかる場合があります。</p>
	<p>オプション : 重要なアプリケーションやビジネス・プロセスの表示時に、一般的に実行されるすべての操作にアクセスするには以下をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  再ロード : クリックすると、ビューが元の表示に戻ります。 •  全体表示 : クリックすると、画面サイズに合わせて自動的にCIトポロジがサイズ変更されます。 • ズーム : スライダーを使用して、CIトポロジ表示サイズを増減します。 • オプションを表示 : <ul style="list-style-type: none"> ◦ KPIを表示 : このスイッチを使用して、CIのKPIアイコンを表示または非表示にできます。CIのKPIとそのステータスのリストを表示するには、CIのKPIアイコンをクリックするか、[CIショートカットメニューを開く] > [KPI]を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 標準ステータスのKPIを表示 : このスイッチを使用して、ステータスが正常域であるKPIを表示または非表示にできます。 ◦ 状況インジケータの表示 : このスイッチを使用して、CIの状況インジケータのアイコンを表示または非表示にできます。HIの詳細を表示するには、CIの をクリックするか、[CIショートカットを開く] > [HIを表示]を選択します。 ◦ サウンド通知を再生 : このスイッチを使用して、サウンド通知オプションをオンまたはオフにします。このオプションをオンにすると、ビュー内のCIのステータスが危険域(赤)に変わったときに、サウンドが再生されます。

CI ショートカット・メニュー

CI ショートカット・メニューを開くには、選択した CI を右クリックするか、マウス・ポインタを選択した CI の上に移動し、右に表示される[CI ショートカット メニューを開く]ボタンをクリックします。CI ショートカット・メニューでは、次の項の中から選択できます。

- ボタン・アクション:

UI 要素	説明
	サブツリーのみを表示 : CI トポロジの特定部分のみに焦点を当てます。
	ルートへのパスを表示 : 選択した CI からビューのルート CI へのパスを表示します。 注: 選択した CI からビューのルート CI へのパスを別のウィンドウで表示するには、 Ctrl ボタンを押しながら[ルートへのパスを表示]ボタンをクリックします。また、選択した CI を右クリックして、[表示]>[ルートへのパス]を選択できます。
	問題のあるサブツリーを表示 : ステータスが危険域または重要警戒域である、問題のある CI の子 CI をすべて表示します。これは、選択した親 CI のステータスが OK 以外になる原因となる、問題のある子 CI をすばやく見つけるのに有効です。問題のあるパスを別に表示する場合、[サブツリーのみを表示]ボタンを使用できます。 注: ステータスが危険域または重要警戒域である、問題のある CI の子 CI を別のウィンドウですべて表示するには、 Ctrl ボタンを押しながら[問題のあるサブツリーを表示]ボタンをクリックします。また、問題のある CI を右クリックして、[表示]>[問題のあるサブツリー]を選択できます。
	問題に展開 : CI トポロジの表示を展開して、問題となっている CI(ステータスが OK 以外の CI でのみ使用可能)のソースを表示します。

注: これらのモードのいずれかを終了するには、ページ左上にある X ボタンをクリックします。

- **イベントの情報** :
イベント・ブラウザでイベントのリストを表示します。
- **KPI**
KPI とそれらのステータスのリストを表示します。
- **HI を表示**
状態、値、最終ステータス変更などの HI 情報を表示します。
- **アクション**
実行するアクションまたは起動するツールを選択します。

注: 利用可能なアクションをすべてリストするには、選択した CI を右クリックすることもできます。

Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネント

Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネントを使用すると、システム・コンポーネントのビジネス可用性を一目で確認できます。コンポーネント内の CI バーは、各ビュー用に定義された階層構造に基づいて、ビジネス・アプリケーションにマップされたリアルタイムの IT パフォーマンス・メトリクスを視覚的に表現します。バーどうしをつなぐ線は、CI 間の関係を定義します。

重要なアプリケーションとビジネス・プロセスを統合された単一ビューで表現することにより、Java ベースのトップ・ビューでは、ビジネス・サービスの状況を全体的に確認できます。これにより、パフォーマンスの問題がビジネスの任意の部分の可用性にどのように影響するかをすばやく評価できます。各 CI は、CI の KPI が保持する最悪ステータスを示すように彩色されています。また、KPI の詳細や CI のビジネス影響度を即座に表示することもできます。

利用方法

カスタム・ページを作成する場合、組み込みのビュー・セレクタを使用する独立したコンポーネントとして、あるいはビュー・エクスプローラなどのビューを選択する別のコンポーネントとともに、Java ベースのトップ・ビューを使用できます。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

本項の内容

- [「インタラクティブ・マップ」](#)(171ページ)
- [「色とアイコンについて」](#)(171ページ)
- [「仮想コンテナ」](#)(172ページ)

インタラクティブ・マップ

Java ベースのトップ・ビューは、CI のインタラクティブ・マップを示します。インタラクティブ・マップはマウスを使用して直感的に操作でき、ツリー内の特定の分岐にドリルダウンして特定のビジネス領域や問題のある領域にフォーカスできます。

Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネントには、標準設定で、4つのレベルの CI が表示されます。それ以外の CI は折りたたまれます。CI は第 4レベルから展開し、子 CI を表示できます。バーどうしをつなぐ線は、ツリーの分岐を示します。バーと線を操作して、表示する情報量や図のレイアウト全体を変更できます。

色とアイコンについて

ビューに示される各 CI は、その CI の現在の最悪動作ステータスに応じて色付けされたバーで表示されます。

サービス状況 で使用される KPI のリストについては、OMi 管理ガイドを参照してください。

注: ルート CI には KPI アイコンは表示されません。これはコンテナであり、実際の CI ではないからです。

仮想コンテナ

仮想コンテナ CI は、Java ベースのトップ・ビューの通常の CI バーに表示されます。これらの CI は、グループに属する子 CI のうち、現在最も低い動作ステータスを持つものに基づいて色付けされます。バーをクリックしてショートカット・メニューのオプションを表示することはできません。


タスク

本項の内容

- 「Java ベースのトップ・ビューの使用 方法」(172ページ)
- 「キーボード・ナビゲーションの使用 方法」(172ページ)
- 「Java ベースのトップ・ビューをカスタマイズする 方法」(173ページ)
- 「更新頻度の変更 方法」(173ページ)

Java ベースのトップ・ビューの使用 方法

- **表示の操作** : コンポーネント内の任意の場所をクリック・アンド・ドラッグして、そこを中心にグラフィックを移動および回転します。CI をダブルクリック(または、選択した CI の右下隅をクリック)して、選択した CI が中央に表示されるように Java ベースのトップ・ビューを再配置します。ツールバーの[**ビューの再ロード**]をクリックすると、ビューが元の表示に戻ります。
- **CI 表示サイズの増減** : ツールバーの拡大鏡スライダを使用して、CI 表示サイズを増減できます。変更はユーザごと、コンポーネントごとに保存されます。
- **CI の詳細の表示** : 標準設定では、CI には KPI は表示されません。すべての CI で KPI アイコンを表示するには、ツールバーの[**オプションを表示**] > [**KPI を表示**]を選択します。特定の CI の KPI とそのステータスのリストを表示するには、CI をクリックします。

HI 情報を表示するには、ツールバーの[**オプションを表示**] > [**HI を表示**]を選択します。HI が割り当てられた各 CI には、その CI バーに  アイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、HI の詳細が表示されます。表示されるデータの詳細については、「[状況インジケータ・コンポーネント](#)」(138ページ)を参照してください。

マウス・ポインタを CI のステータス・アイコンの上に置くと、そのステータスと CI タイプが表示されます。マウス・ポインタを KPI のステータス・アイコンの上に置くと、そのステータスと計算ルールが表示されます。

- **問題のある領域へのフォーカス** : 問題のある CI を選択して、ツールバーの[**ルートへのパス**]をクリックすると、選択した CI からビュー・ルート CI へのパスが表示されます。
また、問題のある CI を選択して、ツールバーの[**問題のあるサブツリー**]をクリックすると、ステータスが危険域または重要警戒域である子 CI がすべて表示されます。これは、選択した親 CI のステータスが OK 以外になる原因をつくる問題のある子 CI を見つけるのに有効です。
- **CI の検索** : 現在 Java ベースのトップ・ビューに表示されている CI の中から特定の CI を検索することができます。ツールバーにある検索バーに CI 名の最初の文字を入力します。そうすると、現在 Java ベースのトップ・ビューに存在する関連 CI のリストが表示されます。そこで CI を選択してフォーカスを設定し、その CI の詳細を表示します。

キーボード・ナビゲーションの使用 方法

Java ベースのトップ・ビューでは、次のキーボード・ナビゲーションを使用できます。

- 矢印キー(上, 下, 右, 左):ある CI から別の CI に移動します。
- Shift-C : 選択した CI に Java ベースのトップ・ビューのフォーカスを移動します。
- プラス(+)およびマイナス(-)キー: 選択した CI の展開 / 折りたたみを実行します。
- **Ctrl +(プラス)**および **Ctrl -(マイナス)**: CI 表示サイズの増減 :

Java ベースのトップ・ビューをカスタマイズする方法


サービス状況管理を使用して、次に示すさまざまな側面をカスタマイズすることができます。

- Java ベースのトップ・ビューの色, フォント, レイアウト
- CI または KPI の表示オプション
- 背景画像
- 表示する CI のレベル数

Java ベースのトップ・ビューのカスタマイズの詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

更新頻度の変更方法


Java ベースのトップ・ビューの更新頻度の標準設定は5秒です。



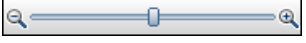
標準設定のページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーの[コンポーネント メニュー]ボタン  を使用してその更新頻度を変更できます。[プリファレンス]を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

UI の説明

Java ベースのトップ・ビューのツールバー



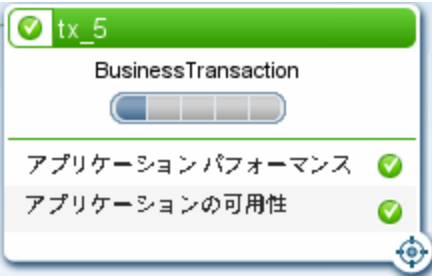
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<ビュー セレクタ>	ツールバーの左上領域にあるドロップダウン・リストからビューを選択して、Java ベースのトップ・ビューに CI を表示します。
<検索バー>	CI 名を入力して、Java ベースのトップ・ビューでその CI にフォーカスを設定します。 注 : 現在 Java ベースのトップ・ビューで利用可能な CI の中からのみ検索できます。別のビューにある CI, または Java ベースのトップ・ビューがアクセスできない階層レベルにある CI は検索できません。
	ビューの再ロード : クリックすると、Java ベースのトップ・ビューが元の表示に戻ります。

UI 要素	説明
	<p>ルートへのパス : 問題のある CI を選択してからクリックすると、選択した CI からビュー・ルート CI へのパスが表示されます。再度クリックすると、Java ベースのトップ・ビュー全体が表示されます。</p> <p>注 : ブレークダウンが設定されているローカル影響ビューでは使用できません。</p>
	<p>問題のあるサブツリー : 問題のある CI を選択してからクリックすると、ステータスが危険域または重要警戒域である子 CI がすべて表示されます。これは、問題のある子 CI を特定するのに便利です。再度クリックすると、Java ベースのトップ・ビュー全体が表示されます。</p> <p>注 : ブレークダウンが設定されているローカル影響ビューでは使用できません。</p>
<p>オプションを表示 ▾</p>	<p>KPI を表示 : クリックすると、CI の KPI アイコンが表示または非表示になります。</p> <p>HI を表示 : クリックすると、CI に HI が割り当てられているかどうかを示す、CI の HI アイコンが表示または非表示になります。</p>
	<p>スライダを使用して、CI 表示サイズを増減します。変更はユーザごと、コンポーネントごとに保存されます。</p>

Java ベースのトップ・ビューの表示

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<p><CI></p>	<p>標準設定では、選択したビューの各 CI が1つのバーに表示されます。このバーには、CI の集計ステータスと名前が含まれます。</p>  <p>ツールバーの[オプションを表示]> [KPI を表示]を選択すると、各 CI バーの下に KPI アイコンが表示されます。</p>  <p>CI をクリックしたとき詳細を表示するには、[管理]> [セットアップと保守]> [インフラストラクチャ設定]に移動して、[アプリケーション]ドロップダウンメニューから[サービス状況アプリケーション]を選択し、[サービス状況アプリケーション - トップビュー (Java) のプロパティ]> [CI 情報ボックスを表示するマウス操作]にスクロールします。設定を[なし]から[CI をクリック]に変更します。</p>  <ul style="list-style-type: none"> • 詳細表示には、CI の名前とステータス、CI タイプ、ビジネス影響度、KPI、KPI のステータスが含まれます。 • CI および KPI のステータスは、色付きのアイコンで表示されます。 • [ビジネス影響度]バーでは、0(影響なし)から5(影響度高)のレーティングを使用して、監視環境にあるビジネスCI および SLA に対して CI がどの程度の影響を与えるかが示されます。 <p>注: ビジネス影響度バーは、標準設定ではサービス状況アプリケーション・コンポーネントには表示されません。この設定を変更するには、OMi 管理ガイドを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 右下隅のターゲット・アイコンをクリックして、選択した CI が中央に表示されるように Java ベースのトップ・ビューを再配置します。 <p>状況インジケータ: ツールバーの[オプションを表示]> [HI を表示]を選択し、CI に HI が割り当てられている場合は、CI バーに HI アイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、HI の詳細が表示されます。表示されるデータの詳細については、「状況インジケータ・コンポーネント」(138ページ)を参照してください。</p> <p>ツールチップ: CI のツールチップには、CI のステータスとタイプが表示されます。KPI のツールチップには、KPI のステータスとパフォーマンスのデータが表示されま</p>

UI 要素	説明
	す。
<右クリックメニューのオプション>	CI バーを右クリックすると、利用可能なメニューのオプションがリストされます。
最新の更新	コンポーネントの情報が最後に更新された日時が表示されます。 コンポーネントの情報を手動で更新するには、[更新]アイコンをクリックします。

トラブルシューティング

Java ベースのトップ・ビューを含む[マイワークスペース]のページを開けない

Java ベースのトップ・ビューが無効になっている場合(すなわち、[Java トップ・ビューの有効化]設定が[インフラストラクチャ設定]で False に設定されている場合)、Java ベースのトップ・ビューを含む[マイワークスペース]ページを開くことはできません。その場合は、次の手順を実行します。

1. [Java トップ・ビューの有効化]設定を True に設定して、Java ベースのトップ・ビューを有効にします。
2. すべての Java ベースのトップ・ビュー・コンポーネントを[マイワークスペース]のページから削除します。
3. [Java トップ・ビューの有効化]設定を False に設定して、Java ベースのトップ・ビューを再度無効にします。
4. トップ・ビュー・コンポーネントを[マイワークスペース]ページに追加します。

Java ベースのトップ・ビューのカスタマイズ方法の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
HTML5 ベースのトップ・ビューの詳細については、「[トップ・ビュー・コンポーネント](#)」(163ページ)を参照してください。

トポロジ・マップ・コンポーネント

トポロジ・マップにより、ビュー内の CI のインタラクティブなグラフィック表現を使用して、システム・コンポーネントのビジネス可用性をひとめで評価できます。ビューに示される各 CI は、その現在の最悪 KPI ステータスを示す色分けアイコンが付いたバーで表示されます。CI の名前下のアイコンは、その KPI およびその現在のステータスを識別しています。

ビューの折りたたみ(ビュー表示)に従うか、または RTSM での CI の定義(グラフ表示)に従って、CI を表示できます。トポロジ・マップを使用して、CI をグループごと(CI タイプまたはアプリケーション別に分類)または機能レイヤごとに整理することもできます。

ヒント: 重要なアプリケーションとビジネス・プロセスを統合された単一ビューで表現することにより、トポロジ・マップでは、ビジネス・サービスの状況を全体的に確認できます。これにより、パフォーマンスの問題がビジネスの任意の部分の可用性にどのように影響するかをすばやく評価できます。

利用方法

カスタム・ページを作成する場合、組み込みのビュー・セレクタを使用する独立したコンポーネントとして

か、あるいはモデル・エクスプローラなどのビューを選択する別のコンポーネントとともに、トポロジ・マップを使用できます。詳細については、「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(220ページ)を参照してください。

詳細

本項の内容

- 「プレーン・モード、グループ・モード、レイヤ・モード」(177ページ)
- 「標準設定のレイヤ」(177ページ)
- 「ビュー表示またはグラフ表示」(178ページ)

プレーン・モード、グループ・モード、レイヤ・モード

トポロジ・マップのCIは、次の3つの方法のいずれかで表示できます。

- **プレーン・モード** : プレーン・モードでは、CIのグラフィック表示にグラフまたはレイヤは含まれません。
- **グループ・モード** : グループ・モードでは、トポロジ・マップのグラフィック表示にCIグループを含めることができます。CIは、CITによって自動的にグループ化できます。

また、ユーザ定義のグループを作成し、組織のニーズに合わせてCIをそのグループに追加し、グループから削除することもできます。

グループ・モードでは、グループ内のすべてのCIのワースト・ステータスが次のようにステータス・アイコンに表示されます。



- **レイヤ・モード** : レイヤ・モードでは、CIは機能レイヤごと(ビジネスの有効化、インフラストラクチャ、ソフトウェアなど)に分けられます。CIは、RTSMのレイヤ属性に基づいてレイヤに割り当てられます。たとえば、レイヤ・モードでは、アプリケーション・リソースCITおよびアプリケーション・システムCITは、レイヤ属性に基づいてソフトウェア・レイヤに割り当てられます。

レイヤ・モードでは、レイヤへのCIの追加、レイヤからのCIの削除を行うことができます。さらに、RTSM管理で、レイヤ属性を使用して追加のレイヤを作成できます。

グループはグループ・モードでのみ利用可能です。レイヤはレイヤ・モードでのみ表示できます。

新規のレイヤを作成する場合、[標準設定ビューを復元]ボタンをクリックすると、レイヤが適切にトポロジ・マップに表示されます。

標準設定のレイヤ

レイヤ・モードでは、CIは、RTSM内のCIT属性に基づいて標準設定のレイヤに割り当てられます。次の項では、すぐ使用できるように事前に定義された各レイヤについて説明します。

- **ビジネスの有効化** : このレイヤには、ビジネス・サービス、プロセス、アクティビティが含まれます。これらには、ビジネス・サービス(ビジネスが別のビジネスに対して提供するサービス(または1つの組織がビジネス内の別の組織に提供するサービス))およびITサービス(IT組織がビジネス・サービスまたはIT業務をサポートするために提供するサービス)の両方が含まれます。

ビジネス・サービスには通常、関連するエンド・ユーザまたはカスタマ、ビジネス・アプリケーション、サービス・レベル・アグリーメントが含まれます。例として、支払処理、バックアップとリカバリ、セルフサービス型のヘルプ・デスクがあります。

- **アプリケーションとサービス** : このレイヤには、アプリケーションとそのコア・コンポーネントが含まれ、デプロイ可能な要素は含まれません。アプリケーションは、ビジネス・アクティビティをサポートする一連のコンポーネントで構成されます。これは全体で1つとみなされ、特定の名前で識別されます。

[アプリケーションとサービス]レイヤには、ビジネス・トランザクションのほか、ビジネス・サービスとビジネス・プロセスをサポートするインフラストラクチャ・サービスも含まれます。例として、音声 / ネットワーク・サービス、データベース・サービス、バックアップ / 復元サービス、デスクトップ・サービス、Windows 管理サービスがあります。

- **ソフトウェア** : このレイヤには、個々のソフトウェア要素のインストール設定が含まれます。これらはデプロイ可能な実行可能ファイルであり、実際に論理システムにデプロイされている場合もあります。
- **インフラストラクチャ** : このレイヤには、仮想化やクラスタリングなどの論理システム、およびストレージ・デバイス、ネットワーク・デバイス、サーバなどの物理システムが含まれます。
- **設備** : このレイヤには、場所、サイト、建物、部屋、棚などが含まれます。

ビュー表示またはグラフ表示

トポロジ・マップでのCIの基本構造は、次のどちらかの方法で定義できます。

- **ビュー表示** : ビューの折りたたみ状態に基づき、単一ルート・ノードで再帰ループなしの子CIで構成された、ビューのトポロジを表示します。このようなループは、CIをコピーすることで解決されるため、CIはビュー内で数分間表示できます。

ビュー表示は影響モデルに続いているため、CI間のすべてのリンクは、[Impact(Dependency)]または[Impact(Containment)]です。標準設定では、リンク・ラベルはビュー表示には表示されません。

- **グラフ表示** : ビューの折りたたみなしで、RTSMに定義されているとおりのビューのトポロジを表示します。CI間のリンクは、RTSMに示される物理リンクを表します。標準設定では、トポロジ・マップにはグラフ表示のリンク・ラベルが表示されます。

タスク

本項の内容

- [「トポロジ・マップ表示のカスタマイズ方法」\(178ページ\)](#)
- [「イメージの注釈と保存方法」\(179ページ\)](#)
- [「更新頻度の変更方法」\(179ページ\)](#)

トポロジ・マップ表示のカスタマイズ方法


トポロジ・マップの表示は簡単にカスタマイズできます。CIのレイヤ表示またはグループ表示、CIの最小限の情報または詳細な情報の表示、それぞれの間のリンクの表示、および表示内の他の要素の変更を行うことができます。オプションの詳細については、この後のUIの解説の項を参照してください。

注: トポロジ・マップの表示をカスタマイズ(CIの非表示化、CIのレイヤへの追加、CIのレイヤからの削除など)しても、RTSMトポロジにはまったく影響がありません。カスタマイズの内容は、このコンポーネントでのCIの表示方法にのみ影響します。

イメージの注釈と保存方法

トポロジ・マップ内では、ツールバーの[結果をキャプチャして注釈を追加します]ボタンをクリックして注釈ツールにアクセスします。注釈を使用して表示しているイメージのスナップショットを作成して保存し、イメージの重要な領域を強調表示できます。詳細については、「[注釈ツール](#)」(114ページ)を参照してください。






更新頻度の変更方法







標準設定のページの更新頻度は変更できませんが、必要なコンポーネントでユーザ定義のページを作成し、コンポーネント・ツールバーの[コンポーネントメニュー]ボタン  を使用してその更新頻度を変更できます。[プリファレンス]を選択し、更新頻度を必要に応じて変更します。

UIの説明

トポロジ・マップ・ツールバー

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。


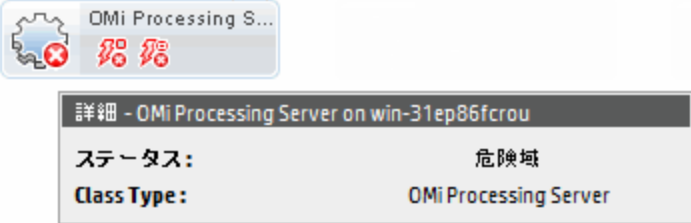
UI 要素	説明
<ビュー セレクタ>	ツールバーの左上領域にあるドロップダウン・リストからビューを選択して、トポロジ・マップにビューを表示します。
	選択 : 選択モードでは、CI またはグループを選択して、選択した要素に対してアクションを実行できます。たとえば、CI またはグループを移動するには、選択モードにする必要があります。
	インタラクティブ・ズーム : ズーム・モードでトポロジ・マップ内をクリックし、上または下にドラッグ(または、マウス・ホイールを使用)して画像をズーム・インまたはズーム・アウトします。
	パン : パン・モードでは、トポロジ・マップの画像がスクロール可能な場合、画像をクリックおよびドラッグして移動できます(画像全体が画面に収まる場合、この機能を実行しても効果はありません)。
	画面に合わせる : グラフを拡大または縮小することで表示枠に合わせます。画像の相対比率は維持されます。
	プレゼンテーション・タイプの切り替え : 最小ビューを切り替えます。このビューには、CI アイコンと最悪ステータスのみが表示され、詳細ビューにはさらに CI 名と KPI ステータスが表示されます。

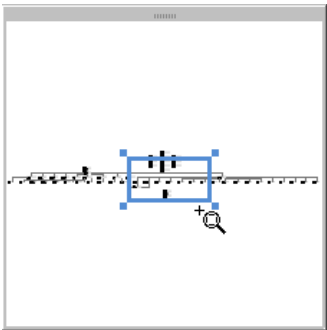
UI 要素	説明
 オプションを表示 ▾	<p>表示オプションのドロップダウン・リストを開きます。次のオプションをそれぞれ選択または選択解除できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • リンクの表示 : このオプションを選択すると、トポロジ・マップには、リンクされた CI 間の矢印が表示されます。 • リンクラベルの表示 : このオプションを選択すると、トポロジ・マップには、各リンクがリンクの種類(相手を含む、依存関係があるなど)とともに表示されます。[リンクの表示]オプションが選択解除されている場合、このオプションは無効です。
 プレーンモード ▾	<p>次の表示モードのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プレーン・モード : 各 CI は、レイヤまたはグループ内ではなく、独立して表示されます。 • グループ・モード : トポロジ・マップには、関連する下位レベルの CI がグループごとに表示されます。たとえば、アプリケーション・システム階層では、SAP または Siebel に関連する CI は ERP グループにまとめられます。 • レイヤ・モード : トポロジ・マップには、関連する上位レベルの CI がレイヤごとに表示されます。たとえば、ビジネス要素 CI は[ビジネスの有効化]レイヤに表示され、ノード CI とノード要素 CI は[インフラストラクチャ]レイヤに表示されます。
	<p>選択内容を非表示 : 選択した CI またはグループを非表示にします。CI は、非表示にされてもビュー計算の対象となります。</p>
	<p>非表示のものを復元 : 任意の非表示の CI またはグループをトポロジ・マップに復元します。</p>
	<p>新規グループ : グループ・モードで次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [新規グループ] ボタンをクリックし、新しい(空の)グループを作成します。その後、CI をこの新規グループにドラッグできます。 • 1 つ以上の CI を選択し、次に[新規グループ] ボタンをクリックして、これらの CI を格納するグループを作成します。 <p>このボタンは、グループ・モードでのみアクティブになります。</p>
	<p>グループの削除 : グループを選択し、[グループの削除] ボタンをクリックしてグループ・コンテナを削除します。</p> <p>削除したグループが別のグループの入れ子になっていた場合、CI は親グループに移動されます。削除したグループが入れ子でなかった場合、CI はビュー階層の元の場所に移動されます。</p> <p>このボタンは、グループ・モードでのみアクティブになります。</p>

UI 要素	説明
	<p>層を再配置 : レイヤ・モードで、クリックしてグラフィック表示を再配置します。これで、CIとそのリンクが整理されます。これは、レイヤへのCIの追加や削除のあとで、表示を整理して再配置する場合に便利です。</p> <p>レイヤに対してCIの追加、削除を行った場合、この操作を行ってもCIは元のレイヤには復元されません。</p> <p>このボタンは、レイヤ・モードでのみアクティブになります。</p>
	<p>標準設定ビューを復元 : トポロジ・マップを元のカスタマイズ前の設定に復元します。</p> <p>注 : 新規のレイヤを作成する場合、[標準設定ビューを復元]ボタンを使用して、レイヤを適切にトポロジ・マップに表示します。</p>
<p>ビュー表示/グラフ表示</p>	<p>次のいずれかの方法を選択して、トポロジ・マップを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビュー表示 : ビューの折りたたみ状態に基づき、影響モデルを使用して、単一ルート・ノードで再帰ループなしの子CIで構成された、ビューのトポロジを表示します。 • グラフ表示 : ビューの折りたたみなしで、RTSMに定義されている通りのビューのトポロジを表示します。CI間のリンクは、RTSMに示される物理リンクを表します。
	<p>ミニマップの表示 : トポロジ・マップの画像を小ウィンドウ(ミニマップ)に表示します。これは、標準のトポロジ・マップの上に重ねて表示されます。</p> <p>ミニマップ内の拡大鏡アイコンをドラッグしてトポロジ・マップにフォーカスし、操作の対象とする領域を表示します。ミニマップは、ヘッダ・バーをクリックしてドラッグすることで移動できます。ミニマップ・ウィンドウを閉じるには、大きいトポロジ・マップ画像内でクリックします。</p>
	<p>結果をキャプチャして注釈を追加します : クリックして注釈ツールを開きます。このツールにより、トポロジ・マップのスナップショットを作成し、スナップショットに注釈を追加して重要な領域を強調表示できます。このツールでは、スナップショットに描画したり、イメージに線やテキストを追加したりできます。詳細については、「注釈ツール」(114ページ)を参照してください。</p>

トポロジ・マップの表示

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<p><CI ノード></p> 	<p>選択したビューの各 CI は、次の要素を含む、トポロジ・マップ内のバーとして表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> バーの左側には、RTSM で表されるように、CI の CI タイプを示すアイコンが表示されます。 CI の集計ステータスは、CIT アイコンの上に重ねて表示されます。 トポロジ・マップが詳細ビューで表示されている場合、CI 名と KPI ステータスも表示されます。 <p>ツールチップ: CI のツールチップには、CI 名と CI タイプが表示されます。KPI のツールチップには、KPI のステータスとパフォーマンスのデータが表示されます。</p>  <p>CI および KPI のステータスは、色付きのアイコンで表示されます。</p>
<p><CI のグループ></p>	<p>グループ・モードでは、関連しあった CI のグループがボーダー内に表示されます。一部の CI は、標準設定でグループに割り当てられます。ニーズに合わせてグループを作成することもできます。</p> <p>グループを変更するには、トポロジ・マップ・ツールバーの[選択]ボタンをクリックします。その後、次の処理を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループの名前を変更するには、グループ名をダブルクリックして、そのグループの新しい名前を入力します。 グループへの CI の追加、またはグループからの CI の削除を行うには、対象の CI をグループの中または外にドラッグします。 1つのグループを別のグループの入れ子にするには、1つのグループを別のグループ内にドラッグします。 グループを展開または折りたたむには、グループ・コンテナの右上隅にある[折りたたみ]アイコンまたは[展開]アイコンをクリックします。
<p><CI のレイヤ></p>	<p>レイヤ・モードでは、上位レベルの CI がレイヤ内に表示されます。これらのレイヤは、機能(ビジネスの有効化やインフラストラクチャなど)ごとに分類されます。各レイヤは灰色で示された別個の領域に表示され、レイヤ名でラベル付けされます。</p> <p>レイヤ名の変更、レイヤの削除はできません。レイヤからの CI の削除、レイヤへの CI の追加はできます。</p>

UI 要素	説明
<p><CI 間のリンク></p>	<p>[オプションを表示]のリストで, [リンクの表示]を選択すると, トポロジ・マップには, RTSM 内でリンクされた CI 間の矢印が表示されます。</p> <p>[リンクラベルの表示]オプションも選択すると, トポロジ・マップにはリンクの種類(相手を含む, 依存関係があるなど)も表示されます。</p> <p>注: グループ外の CI がグループ内のいくつかの CI とリンクしている場合, グループを折りたたむとリンク・ラベルは表示されず, グループを展開すると各リンクのリンク・ラベルが表示されます。</p>
<p><ミニマップの画像></p> 	<p>[ミニマップの表示]ボタンをクリックすると, トポロジ・マップの画像が, 標準のトポロジ・マップの上に重なるように, 小ウィンドウ(ミニマップ)に表示されます。</p> <p>トポロジ・マップの一部分である強調表示された領域は, 大きい画像で表示されます。この強調表示された領域をサイズ変更または移動して, 操作の対象とするトポロジ・マップの部分に焦点を当てます。</p>
<p><右クリックメニューのオプション></p>	<p>CI バーを右クリックすると, 利用可能なメニューのオプションがリストされます。</p>
<p>最新の更新</p>	<p>コンポーネントの情報が最後に更新された日時が表示されます。</p> <p>コンポーネントの情報を手動で更新するには, [更新]アイコンをクリックします。</p>

ビュー・エクスプローラ・コンポーネント

ビュー・エクスプローラには, ランタイム・サービス・モデル(RTSM)データベースの構成アイテムが表示されます。表示対象は, ビューを適用してフィルタできます。ビューへの設定によって, ビューに指定した構成アイテムのみがビュー・エクスプローラに表示されるようになります。

ビュー・エクスプローラ・コンポーネントと, ほかのコンポーネントでページ上に提示される情報との相互作用は, コンテキストに応じて変わります。たとえば, CI ツリーで1つ以上の構成アイテムを選択すると, イベント・ブラウザにフィルタが自動適用され, 選択した構成アイテムに関連するイベントのみが表示されるようになります。また, ビューを選択すると, そのビューの CI と関連するイベントのみが表示されるようになります。

注: イベント・ブラウザの動作は選択した CI のタイプによって異なります。CI のタイプには, CI グループ・タイプ, ノード・タイプまたはその他のタイプがあります。

アクティブなフィルタは[Filter applied list]に示されます。ビュー・エクスプローラでの選択内容は, [すべてクリア]ボタンを使用してクリアすることもできます。

トップ・ビューやトポロジ・マップなどの一部のコンポーネントは組み込みのビュー・エクスプローラを備えています。複雑なビューでの操作を容易にするため、これらのコンポーネントのいずれかでページにビュー・エクスプローラ・コンポーネントを追加することもできます。

利用方法

- [ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
- マイ・ワークスペースには、このコンポーネントが組み込まれている多数の標準設定のページがあります。
- 独自のページを作成してこのコンポーネントを組み入れることも可能。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

[ビューの参照]タブと[検索]タブ

ビュー・エクスプローラには、[ビューの参照]タブと[検索]タブがあります。

- [ビューの参照]タブでは、ビューを検索、表示し、ビューを参照して特定のCIを見つけることができます。CIに対する操作をショートカット・メニューから実行することもできます。
- [検索]タブでは、ビューまたは RTSM 内の1つ以上のCIを名前またはCIタイプで検索できます。

利用できないビューとCI

ビュー・エクスプローラのビューの一覧に、RTSM 内のすべてのビューが表示されない場合や、ビューの内容が表示されない場合があります。これは、次のことが原因です。

- 必要な権限が設定されたビューだけが含まれている。権限を設定するには、[ユーザ、グループ、およびロール]を開きます。
[管理] > [ユーザ] > [ユーザ、グループ、およびロール]
- アプリケーションに割り当てられたビューだけが含まれている。
- 選択できない非アクティブなビュー(赤で表示)が含まれている。
- すぐに使用できるビューであるが、それに対するライセンスがない。これらのビューにはCIがありません。標準設定のビューの詳細については、『Modeling Guide』の「定義済みのフォルダとビュー」を参照してください。

タスク

ビューの選択方法

1. [Event Perspective]または[Health perspective]を開き、既知のイベント一覧を表示します。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
2. 次のいずれかを実行します。
 - [ビュー・エクスプローラ]表示枠で[ビューの参照]タブを選択し、[ビュー]リストを使用して利用可能なビューを表示して、必要なビューを選択します。

注: ビュー・フィールドに文字を入力すると、ビュー名の最初の一致が表示されます。

- イベント・ブラウザで、ビュー・セクタからビューを選択します。5つの最新の選択項目が、リストの最上部に表示されます。

イベント・ブラウザに表示されるイベントは、選択したビューに関連するイベントに制限されます。イベント・ブラウザのタイトルは、選択したビューを示すように変更されます。

注:

- イベント・ブラウザのビュー・セクタでビューを選択すると、ビュー・エクスプローラで選択したCIが無効になるように、OMiのパースペクティブが接続されます。
- 事前に選択したビューに関連付けられているイベントのみが表示されるように、ロックされた[Event Browser]ページではイベント・ブラウザのビュー・セクタが無効になっています。

ビュー・エクスプローラの更新方法

モデリング・スタジオを使用して、新しいビューを設定したり、既存のビューを変更することにより、表示情報を変更したり、増やしたり、減らしたりすることができます。

[管理]> [RTSM 管理]> [モデリング]> [モデリング スタジオ]

RTSM ビュー・リストはキャッシュされ、同じユーザによる後続の要求で再利用されます。ビュー・リストは、要求されるたびにRTSMから直接読み込まれることはありません。

3時間後またはOMiサーバが再起動されたときに、キャッシュは自動的にクリアされます。

UIの説明

[ビューの参照] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素	説明
<CI>	現在選択されているビューに含まれているCIです。
<ツールチップ>	カーソルをCIに合わせると、関連するCIタイプのツールチップが表示されます。
<ビュー>	[ビュー]ボックスには、現在選択されているビューが表示されます。表示するビューを選択するには、[ビュー]ボックスの右側にある下矢印をクリックします。これにより、ごく最近にアクセスしたビューを含むビューの簡略リストが表示されます。リストの下部にある矢印をクリックすると、リスト全体をスクロールできます。 あるいは、カーソルをリスト内に合わせ、ビューの名前を入力します。入力した最初の数文字が既存のエントリと一致すると、ビュー名の完全な表記が表示されます。同じ文字で始まる名前を持つビューが複数存在する場合は、一致するビューがすべてリストに表示されます。

[CI の検索] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します(ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

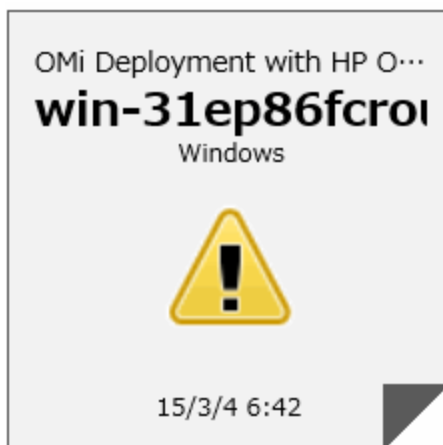
UI 要素	説明
<ショートカット・メニューのオプション>	ビュー・エクスプローラのショートカット・メニューには、表示されるページごとに異なるオプションが表示されます。
<検索結果>	検索を実行すると、検索結果はビュー・エクスプローラ・コンポーネントの下部にリストされます。結果は、次の2つのカラムに表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• 名前: CI の名前が表示されます。• タイプ: CI のCI タイプが表示されます。 CI またはビュー名が省略されている場合は、テーブルの列サイズを変更してください。検索結果を並べ替えるには、該当する見出しをクリックします。
名前	名前でCIを検索するには、検索するCIの名前を入力します。
検索	検索を実行します。
タイプ	CIタイプでCIを検索するには、検索するCIタイプを入力します。

監視リスト・コンポーネント

監視リスト・コンポーネントでは、重要なCIの状況に関する高レベルの概要を複数のビューで示します。

CIのカスタマイズ可能なリストでCIの情報を表示できます。たとえば、システム管理者が、操作の実行に重要な8台のサーバを複数の拠点で所有している場合、監視リストを作成して、それぞれのCIのステータスを表示することができます。

各CIの詳細が個別のカードに表示されます。



利用方法

[マイ・ワークスペース]のユーザ・ページで、追加の監視リストをコンポーネントとして作成します。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

監視リスト・カードの情報

監視リストには、CIに関する情報が仮想カードとして表示されます。各カードには、CIに関する次の情報が含まれています。

- CIの追加元のRTSMビューの名前
- CIの名前
- CIタイプ
- CIに関連付けられているKPIの中でステータスが最も重大なCIのステータスを示すアイコン。
- 監視環境にあるビジネスCIおよびSLAに対してCIが与える影響を示すビジネス影響度バー。ビジネス影響度は、0(影響なし)から5(影響度高)のレーティングで示されます。

注: ビジネス影響度バーは、標準設定ではサービス状況アプリケーション・コンポーネントには表示されません。この設定を変更するには、OMi管理ガイドを参照してください。

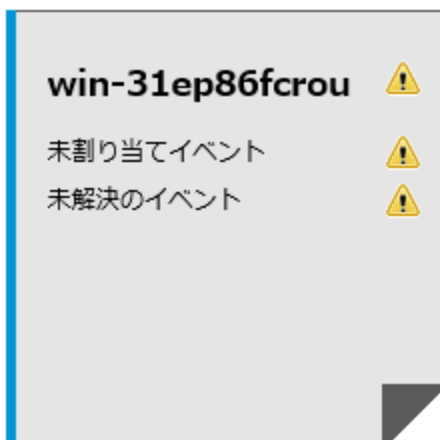
- 状況ステータスが現在示されているステータスに変化した時刻

関連するKPIのリスト

カードの右下隅をクリックしてカードをめくり、CIに関連付けられているKPIのステータスを表示します。カードの裏側には、ステータスがOK以外のKPIが最大7個表示されます。

KPIの上にポインタを置いたままにすると、ツールチップにKPIのステータスとパフォーマンス・データが表示されます。

ステータスがOK以外のKPIが8個以上ある場合は、[詳細]リンクから新しいウィンドウを開いて、ステータスがOK以外のKPIの完全なリストを表示できます。






タスク

監視リストにCIを追加する方法

監視リストにCIを追加するには、編集モードにします。監視リストに追加するCIをビューのリストから選択するか、または[検索]タブから該当するCIを検索します。

注: 編集モードにアクセスするには適切な権限が必要です。


1. [監視リスト] ページで、[監視リストの編集]  をクリックします。
2. [ビューの参照] タブでビューを選択してから該当するCIを選択するか、または[検索] タブを使用して該当するCIを検索します。
3. [CIをリストに追加]  をクリックしてから、[変更を保存して監視リストをビューモードで開きます]  をクリックします。

注: CIを監視リストにドラッグ・アンド・ドロップすることはできません。

有線コンポーネントからCIを追加する方法

コンポーネントのワイヤリングにより、同じページにそのコンポーネント間のリンクが作成されます。これにより、1つのコンポーネントで項目を選択すると、その項目が画面上の別の場所に表示された場合、サービス状況は自動的にその項目を選択します。

マイ・ワークスペースまたはサービス状況のあるページに監視リストとほかのコンポーネントが同時に含まれている場合、画面上のほかのコンポーネントから監視リストに結合されたCIを追加できます。たとえば、[マイ・ワークスペース]のページの1つの表示枠にトポロジ・マップ、別の表示枠に監視リストが表示されている場合、トポロジ・マップにあるCIをクリックして監視リストに追加することができます。



1. 監視リストとほかのコンポーネントが含まれているページを開くか、または作成します。
2. 監視リストで、[監視リストの編集]  をクリックして編集モードを開きます。
3. 別のコンポーネント(たとえば、トポロジ・マップ)で、現在監視リストに含まれていないCIをクリックしてからメッセージ・ボックスの[OK]をクリックし、そのCIを監視リストに追加します。

注:




- 有線コンポーネントの仮想ブレイクダウン CIにあるCIを選択すると、監視リストに追加するためのプロンプトが表示されない場合があります。
- <ビュー名> ルート CIは監視リストに追加できません。
- 編集モードでOMi(イベント・ブラウザ)を使用した監視リストのワイヤリングは、現在サポートされていません。

UI の説明

監視リストのビュー・モード

UI 要素	説明
	監視リストの編集 : 編集モードを開き、監視リストで CI を追加または削除できます。
	新規ウィンドウに開く : 監視リストを別のポップアップ・ウィンドウで開きます。
カード サイズ	CI カードの表示サイズを設定します。

監視リストの編集モード

UI 要素	説明
	CI を監視リストに追加 : 選択した CI を右側の表示枠に追加します。
	前回の保存以降のすべての変更をキャンセルします : 編集モードを開いてから行ったすべての変更を削除します。
	変更を保存して監視リストをビュー・モードで開きます : 変更を保存して編集モードを閉じます。
左の表示枠	ビューのリスト, または監視リストに追加する CI を選択する検索領域。
右の表示枠	現在監視リストにある CI のリスト。

第8章: アクション

[アクション]表示枠は、選択したイベントに利用可能なアクション、関連 CI、または CI をホストするノードの表示に使用されます。アクションには、ツール、ラン・ブック、カスタム・アクション、パフォーマンス・ダッシュボードがあります。[Actions]表示枠は、[Event Perspective]および[Health Perspective]にあり、カスタマイズした観点に追加することもできます。

利用方法

[Actions]表示枠のある観点を開き、既知のイベントおよび関連付けられているアクションの一覧を表示します。

[ワークスペース]> [操作コンソール]> <パースペクティブの選択>


詳細


本項の内容

- [「イベント関連アクション」\(190ページ\)](#)
- [「カスタム・アクション」\(191ページ\)](#)

イベント関連アクション

イベントには、イベント関連のアクションがある場合があります。イベントに関連付けられているアクションがある場合は、イベント・ブラウザの A 列および U 列に次のアイコンが表示されます。

 - 自動アクションがある

 - ユーザ・アクションがある

オペレータが開始するアクションおよび自動アクションは、[イベント詳細]表示枠の[アクション]タブにも表示されます。

その他のアイコンは、開始、実行、成功、および失敗などのアクションのステータスを示します。利用可能なアイコンおよびアクションの詳細については、[「イベント・ブラウザ」\(28ページ\)](#)を参照してください。

これらのアクションは、[アクション]タブまたはイベントのショートカット・メニューから実行できます。ポリシーで設定している場合は、アクションの実行結果として[履歴]にエントリが作成され、イベントに追加されます。イベントに関連付けられているアクションは、実行の完了前に停止することもできます。

割り当てられたイベントおよび割り当てられていないイベントに関連付けられているアクションを実行するには、権限が必要です。イベント・アクションの実行権限がない場合、設定されているコマンドを表示することはできますが、実行することはできません。

注:

イベント・ブラウザで複数のイベントを選択すると、[アクション]表示枠が使用不可になります。

\$OPC_GUI_CLIENT 変数および \$OPC_GUI_CLIENT_WEB 変数を含むアクションはサポートされておらず、除外されます。

カスタム・アクション

カスタム・アクションは、スクリプトを使用した、選択したイベントから実行するアクションです。カスタム・アクションは、カスタム・アクション・マネージャで設定します。このマネージャでは、イベント時にカスタム・アクションを実行するスクリプトを設定します。たとえば、イベント・ブラウザで判別しやすくするために、特定のイベントにテキスト文字列を追加できます。イベントに対して実行できるカスタム・アクションは、ショートカット・メニューから実行します。

注: カスタム・アクション・スクリプトで変更できるのは、イベント・ブラウザで編集できる属性のみです。

カスタム・アクションの作成および管理の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

タスク

本項の内容







- [「アクションの実行方法」\(191ページ\)](#)
- [「イベント関連のアクションの実行方法」\(192ページ\)](#)
- [「カスタム・アクションの起動方法」\(192ページ\)](#)

アクションの実行方法

1. イベントを1つ選択します。

[Actions] 表示枠に、選択したイベントで利用可能なアクションが表示されます。

アクションの各種類は、次のアイコンを使用し示されています。

-  — 自動アクション([「イベント関連のアクションの実行方法」\(192ページ\)](#)も参照)
-  — カスタム・アクション([「カスタム・アクションの起動方法」\(192ページ\)](#)も参照)
-  — パフォーマンス・ダッシュボード([「パフォーマンス パースペクティブ」\(255ページ\)](#)も参照)
-  — ラン・ブック([「Operations Orchestration ラン・ブックの起動」\(53ページ\)](#)も参照)
-  — ツール([「ツール」\(194ページ\)](#)も参照)
-  — ユーザ・アクション([「イベント関連のアクションの実行方法」\(192ページ\)](#)も参照)

注: ツールで使用するスクリプトおよび実行可能コマンドの最大長は、解決で得られるパラメータを含めて 2,500 文字に制限されています。ツールの実行で、解決で得られたパラメータを含めたスクリプトおよび実行可能コマンドの長さが 2,500 文字を超えた場合、エラー・メッセージが表示されます。可能性があるカスタム・パラメータの値を見直すか、ツールの設計者に連絡してスクリプトまたはコマンドの長さを短くしてください。

2. [Actions] 表示枠からアクションを選択します。

アクションにデータの追加が必要ない場合は、すぐに実行されます。ツールまたはラン・ブックなどにデータを追加する必要がある場合は、関連のユーザ・インタフェースが起動するので、そのウィザードに従いアクションを起動します。


任意指定。[検索] フィールドにアクション名またはアクション名の一部を入力すると、一覧に表示されるアクションを減らすことができます。同様に、[CI] または [ノード] を選択すると、表示されるアク


シヨーン一覧を、関連する CI またはホスト・ノードのいずれかに該当するものに絞り込むことができます。

イベント関連のアクションの実行方法

1. イベント関連のアクションが含まれるイベントを選択します。

次のアイコンのアクションは、イベント・ブラウザの **A** カラムおよび **U** カラムに表示されます。

 - 自動アクションがある

 - ユーザ・アクションがある

その他のアイコンは、開始、実行、成功、および失敗などのアクションのステータスを示します。利用可能なアイコンおよびアクションの詳細については、「[ツール](#)」(194 ページ)を参照してください。

2. **[アクション]** タブを選択します。

アクションの指定、ターゲット・ノード、および利用可能なアクションのステータスが表示されます。1 つのイベントには、最大で 1 つの自動アクションと 1 つのユーザ・アクションがあります。

3. 実行するアクションで、**[開始]** を選択します。

また、イベントのショートカット・メニューから、次のように適切なアクションを選択します。

[アクション] > **[開始]** を右クリック

アクションが開始され、ステータスが**[実行中]**に変わり、イベント・ブラウザの関連付けられているアクションのアイコンがこのステータスを反映するよう変更されます。

アクションが正常に実行されると、このステータスは**[成功]**に変わります。アクションが正常に実行されなかった場合、このステータスは**[失敗]**に変わります。

4. 実行したアクションのサマリを表示するには、**[注釈]** タブを選択します。

カスタム・アクションの起動方法

イベントに実行するカスタム・アクションを選択します。

右クリックして**[起動]** > **[カスタム アクション]** > **<カスタム・アクションを選択>**

選択したカスタム・アクションが選択したイベントのコンテキストで起動されます。

UI 参照

[アクション] 表示枠

UI 要素	説明
CI	選択したイベントに関連する CI。
クリア	現在入力している検索文字列をクリアし、選択した CI に有効なすべてのアクションを表示します。
イベント	イベントを簡単に説明するイベントのタイトル。

UI 要素	説明
フィルタ	<p>[Actions] 表示 枠に 表示 する アクション を, CI または ノード に 適用 可能 な アクション の みに 絞り 込み ます。</p> <p>すべて - 選択 した イベント に 適用 可能 な すべて の アクション を 表示 します。</p> <p>CI - 選択 した イベント に 関連 する CI に対して 実行 可能 な アクション を 表示 します。</p> <p>ノード - 選択 した イベント に 関連 する ノード に対して 実行 可能 な アクション を 表示 します。</p> <p>ソース CI - 受信 した イベント の ソース CI に対して 実行 可能 な すべて の アクション を 表示 します。</p>
ノード	イベント が 関連 付け ら れ て いる ホスト 名 。
検索	[Actions] 表示 枠に 表示 する アクション を, 入力 した 検索 文字 列 に 一致 する もの の みに 絞り 込み ます。

ヒント と トラブルシューティング

[確認] ダイアログ・ボックスを復元する方法

カスタム・アクションやユーザ・アクションを実行するときや自動アクションが開始されるときには、操作の確認を求めるダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスを表示しないようにするには、**[次回からこのダイアログを表示しない]**を選択します。ダイアログ・ボックスを再度表示するようにするには、ブラウザのローカル・ストレージをクリアする必要があります。

第9章：ツール

たとえば、システムを ping するためのツールを指定できます。これらのツールは、イベント、構成アイテム (CI)、[アクション] 表示枠から起動され、関連付けられた CI またはノード上で実行されます。ツールは、ユーザが一般的な問題を迅速かつ効率的に解決できるよう設計されています。

使用可能なツールはイベントのショートカット・メニュー、[ツールの実行] ウィザード、または [アクション] 表示枠に表示されます。特定のユーザに表示されるツールの選択肢は、特定のイベントによって影響を受ける CI で利用可能なツールによって決まります。

ツール・マネージャを使用してツールを設定する方法の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

詳細

本項の内容

- [「ツールと CI タイプ」\(194ページ\)](#)
- [「複数の CI またはノード上でのツールの起動」\(194ページ\)](#)

ツールと CI タイプ

ツールは特定の CI タイプ、たとえば、Node や Net Device に関連付けられます。ツールは、そのツールが指定されているタイプの CI と関連付けられているイベントから実行します (CI 上で直接ツールを実行することもできます)。

イベントに関連付けられた CI の名前は、ツール・リスト内のツールの横に括弧付きで表示されます。

- **(CI)** - イベントが発生した障害のある CI。
- **(Node)** - イベントが発生したホスト・システム。
- **(Source CI)** - 監視エージェントまたはプローブが実行中のホスト・システム。

選択したツールは、選択した CI 上で実行されます。ツールは、必要に応じて、CI からランタイム・パラメータも取得します。たとえば、Ping (Node) ツールは、イベントが発生したノード上で実行され、そのノードからランタイム・パラメータも取得します。

複数の CI またはノード上でのツールの起動

単一イベントのコンテキストでは、利用可能なツールは **[起動]** > **[ツール]** > **<ツール>** ショートカット・メニューの **[アクション]** 表示枠に表示されます。ツールを選択すると **[ツールの実行]** ウィザードが開始されます。このウィザードで、ツールを起動して、ツールの結果を評価できます。ツールは、ツールに定義されたターゲット (たとえば、選択したイベントの関連ノード CI) 上で実行されます。単一 CI のコンテキストでツールを起動することもできます。それには、**[ビュー エクスプローラ]** でツールを選択し、ショートカット・メニューの **[ツールを起動]** をクリックします。

複数の CI またはノードに対して並行してツールを起動するには、**[イベント ブラウザ]** で複数のイベントを選択するか、**[ビュー エクスプローラ]** で複数の CI を選択します。複数の項目を選択するには、**Ctrl** キーまたは **Shift** キーを押しながら選択します。**[起動]** > **[ツール]** ショートカット・メニューをクリックすると **[ツールの実行]** ウィザードが開きます。このウィザードで、ツールを選択し、起動して、結果を表示します。

注:

複数のイベントまたは CI に対してツールを起動した場合、OMi では、選択したすべてのイベントまたは CI に共通する CI タイプに関連付けられたツールのみ表示します。

URL ツールは、単一の CI またはイベントに対してのみ起動できます。複数の CI またはイベントを選択すると、利用可能なツールのリストから URL ツールが除外されます。

タスク

ツールの起動方法

このタスクでは、特定の CI タイプ向けに設定されたツールを起動する方法を説明します。ツールはショートカット・メニューに表示されます。

注: 選択したイベントで利用可能なツール、カスタム・アクション、パフォーマンス・ダッシュボード、OOLAN・ブックも、パースペクティブの[アクション]表示枠に表示されます。

1. イベント・ブラウザを開き、既知のイベント一覧を開きます。
[ワークスペース] > [操作コンソール] > <パースペクティブの選択>
2. [ビューエクスプローラ]表示枠で、開始するツールの CI タイプを含むビューを選択します。
3. [ツールの実行]ウィザードを開くには、次のいずれかの選択を実行します。
 - [イベント ブラウザ]でイベントを右クリックし、[アクション]表示枠でツールを選択する。[アクション]表示枠の詳細については、[「アクション」\(190ページ\)](#)を参照してください。
 - イベント・ブラウザでイベントを右クリックし、次を選択する。
[起動] > [ツール] > <ツールを選択>
 - [イベント ブラウザ]で複数のイベントを選択および右クリックして、次を選択する。
[起動] > [ツール]
 - [ビューエクスプローラ]で1つ以上の CI を右クリックして、次を選択する。
ツールの起動

[ツールの実行]ウィザードが開きます。

4. 複数イベントまたは複数 CI のコンテキストで[ツールの実行]ウィザードを開いた場合は、[ツールの選択]ページで起動するツールを選択します。

ヒント: [検索]フィールドにツール名またはツール名の一部を入力すると、表示されるツールを絞り込むことができます。同様に、[CI]、[ノード]、または[ソース CI]を選択すると、表示されるツールの一覧を、関連する CI またはホスト・ノードに適用されるツールに絞り込むことができます。

ツールに追加情報を指定する必要がない場合は、[ツールの選択]ページで[ツールの実行]ボタンをクリックして直接ツールを起動できます。

ツールに追加の情報を指定する必要がある場合があります。たとえば、パラメータを解決するには、[次へ]をクリックして、[パラメータの指定]ページに必要な情報を入力します。

5. 選択したツールを実行するには、[プレビュー]ページの[ツールの実行]をクリックします。

スクリプトおよび実行可能コマンドについては、[実行結果]ページにツールの実行の出力が表示されます。

URL の開始には、ブラウザにターゲットの URL が開きます。

[実行結果]ページの追加オプションは次のとおりです。

- ツールの実行を停止するには、[ツールの停止]ボタンをクリックします。ツールにより開始されたすべてのプロセスが停止されます。
- 最初の実行が失敗した場合、最初の実行が希望する結果を生成しない場合、または最初の実行が停止した場合、ツールを再実行するには、[ツールの再実行]ボタンを使用します。
- 出力表示枠内にすべての出力テキストが表示されるようにするには、[ワードラップ]ボタンをクリックします。
- [実行結果]ページに複数の実行結果が含まれる場合、処理向上のために実行結果の並べ替えとフィルタリングができます。結果を並べ替えるには、[ホスト名]カラムまたは[ステータス]カラムをクリックします。ステータスによって結果をフィルタするには、ステータスアイコンの右側にあるステータスリンクをクリックします。

6. 任意指定。さらに調査をするかアーカイブする場合、実行結果をクリップボードにコピーします。[ツールの実行]ウィザードを閉じると、結果が削除されます。

スクリプトおよび実行可能コマンドについては、ツールの実行後に[閉じる]をクリックします。

トラブルシューティングおよび制限事項

本項では、OMi ツールの起動および使用上の問題のトラブルシューティングについて説明します。ツールの設定および可用性に関するトラブルシューティングの詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

ツールが表示されない

- 選択した CI タイプまたは選択したイベントに関連付けられている CI タイプで利用可能なツールがありません。
- 選択したイベントに、関連 CI、ノード、ソース CI 情報が含まれていません。

ツールが実行されない

- ツールが、現在有効でないネットワークやインターネット接続に依存しています。

ツール・エラー: 一時ファイルを開けない

- 次のエラーは、スクリプト・タイプの2つ以上のツールが同一ホスト上で並行して起動されたことを示しています。

Open(2) failed; cannot open file for temporary use

問題:スクリプト・ツールは、起動時に、ホスト上の一時ファイルに実行情報を格納します。2つ以上のスクリプト・ツールが並行して起動されると、それらのツールが同じ一時ファイルにアクセスを試みるため、一部のツールでは上記のエラーが発生します。

回避策:スクリプト・ツールを並行にではなく、逐次的に起動します。

第10章: 表示

何千という構成アイテム(CI)があるため、設定管理データベースのCIモデルが大容量化している場合があります。ビューでは、CIモデル全体から興味のある特定分野のCIのみを抽出したサブセットを構築できます。独自のビューを定義することにより、組織のビジネス・ニーズに関連する情報だけを表示できます。

詳細

本項の内容

- [「ビューによるフィルタリング」\(198ページ\)](#)
- [「ビューの管理」\(198ページ\)](#)
- [「ビューのマップ」\(198ページ\)](#)
- [「サービス状況ビュー・バンドル」\(199ページ\)](#)

ビューによるフィルタリング

OMiのビューでは、ビュー・エクスプローラに表示されるCIを制限できます。OMiでは、イベント・パースペクティブおよび状況パースペクティブのイベント・ブラウザの内容を、選択したビューでフィルタします。

管理者は、ユーザとグループを設定し、それらに関連するビューでフィルタされたイベントのみを見られるようにもできます。ユーザやグループで選択されたビューを解除し、イベントすべてを表示することもできます。詳細については、OMi管理ガイドを参照してください。

詳細については、[「ビューおよびビューに基づく承認によるフィルタリング」\(46ページ\)](#)を参照してください。

ビューの管理

ビューを設定および変更するには、モデリング・スタジオを使用します。

[管理]> [RTSM管理]> [モデリング]> [モデリングスタジオ]

また、既存のビューを変更して、表示される情報の量および種類を変更、増分、減分することもできます。コンテンツ・パック・マネージャのインポートおよびエクスポート機能を使用すると、OMiのインスタンス間でビューを交換できます。

OMi管理パックには、タスクをより効率的に実行するのに役立つ、構成アイテムをセットとしてグループ化するビューがあります。

ビューのマップ

ビューでは、興味のある特定領域のCIのみなど、ConfigurationItemモデル全体のサブセットを表示できます。ビューを選択すると、[CIツリー]または[Health Top View]表示枠などに表示する情報の種類と量の両方を絞り込むことができます。

構成アイテム・タイプにはビューをマップできます。マップしたビューは[Health Perspective]タブの[Health Top View]表示枠の[選択された表示]リストに表示されます。[状況トップビュー]および[選択された

ビュー]リストの内容の詳細については、「[状況トップ・ビュー・コンポーネント](#)」(141ページ)を参照してください。

コンテンツ・パック・マネージャのインポートおよびエクスポート機能を使用すると、OMi のインスタンス間で設定したビュー・マッピングを交換できます。

注: 管理機能を使用できるのは、適切なアクセス権限を持つユーザのみです。

サービス状況ビュー・バンドル

RTSM で定義されたビューの中には、OMi の標準設定で利用できないものがあります。これらのアプリケーションは、[サービス状況]という名前のビュー・バンドルでフィルタされるためです。OMi に表示されないビューを表示するには、RTSM 管理またはサービス状況の[ビュービルダ]でビューを開き、[サービス状況]バンドルにビューを割り当てます。バンドルの詳細については、『Modeling Guide』の「ビジネス・ビューの構築」を参照してください。

第II部: マイ・ワークスペース

マイ・ワークスペースはOMiの操作に使用する、カスタマイズ可能なWeb 2.0 ユーザ環境です。OMiの管理者は、実際の作業を行うユーザやシニア・マネージメントなど、さまざまなユーザ向けのロールベースのワークスペースを作成できます。[マイ・ワークスペース]を使用すると、異なるOMiコンポーネント間で円滑にやり取りできます。

マイ・ワークスペースの操作に関する詳細は、次の章を参照してください。

- 「[\[マイワークスペース\]を使用した環境の監視](#)」(201ページ)。この章では、[マイ・ワークスペース]と利用可能なページやコンポーネントについて説明します。
- 「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)。この章では、新しいページの作成および[マイ・ワークスペース]へのコンポーネントの追加方法について説明します。

第11章: [マイワークスペース]を使用した環境の監視

マイワークスペース管理者は、特定のユーザやユーザ・グループが関心を持つコンポーネントを含むページをセットアップします。各ページでのページ上のコンポーネントのレイアウトおよびコンポーネント間の相互作用は、管理者が定義します。

OMi マイワークスペースについて

マイワークスペースには、次が含まれます。

- **コンポーネント** : 各コンポーネントは、ユーザのビジネス・タスクに関連する情報を表示する OMi の一部です。コンポーネント・ギャラリーには、[マイワークスペース]内で使用できるアプリケーション・コンポーネントが表示され、ソース・アプリケーションごとにグループ化されています。詳細については、「[利用可能なコンポーネント](#)」(204ページ)を参照してください。
ページには、コンポーネント・ギャラリーのコンポーネントを追加できます。ページ上のほかのコンポーネントとの相互作用も可能な、外部 URL に基づいたコンポーネントを追加することもできます。詳細については、「[外部コンポーネントの作成方法](#)」(225ページ)を参照してください。
- **ページ** : ページは、一緒に表示され、相互作用し合う複数のコンポーネントで構成されています。
ページは、アプリケーションごとにグループ化された、定義済みのページが含まれたページ・ギャラリーから開くことができます。詳細については、「[定義済みページ](#)」(202ページ)を参照してください。
OMi コンポーネントと外部コンポーネントの両方を使用して、新しいページを簡単に作成することもできます。詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。
- **ワイヤリング** : ワイヤリングはページのコンポーネントが相互作用する方法を指します。ページ内では、コンポーネント間での情報の交換が可能なため、1つのコンポーネントが別のコンポーネントで発生した変更に対応できます。たとえば、あるコンポーネントで CI を選択した場合に、同じページにあるほかのコンポーネントでもその CI に焦点を当てるようにページをセットアップできます。
標準設定のページではワイヤリングが事前定義されています。標準設定以外のページについてはワイヤリングを定義することもできます。詳細については、「[コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法](#)」(227ページ)を参照してください。
- **レイアウト** : レイアウトとは、ページ上でのコンポーネントの配置方法を指します。コンポーネントは、水平、垂直、タブに分割などの方法で配置できます。詳細については、「[ページ・レイアウトの設定方法 - 使用例のシナリオ](#)」(222ページ)を参照してください。

[マイワークスペース]の操作


- ページを開くには、ワークスペースの右上の領域にある、ページ管理ツールバーの[ページセクタ]ドロップダウン・リストから対象となるページを選択します。[ページセクタ]にページ名の一部を入力して、ドロップダウン・リストに表示されるページ数を制限することもできます。
- ページを閉じるには、ページ右上隅にある閉じるアイコンをクリックします。
- ユーザ権限によっては、ページの作成や削除、ページ・レイアウトの設定、ページへのコンポーネントの追加と削除、コンポーネント間のインタラクション方法の定義、ページおよびコンポーネントのカテゴリの

編集が可能な場合があります。これらのオプションの詳細については、「[\[マイ ワークスペース\] のセットアップ方法](#)」(220 ページ) を参照してください。

外部ポータルで表示

OMi 情報を表示するには、コンポーネントの URL をコピーし、それを外部ポータルに貼り付けます。

定義済みページ

OMi のワークスペース領域には多数の定義済みページがあり、すぐに使用できます。これらのページは、ツールバーの[ページの選択]ドロップダウン・リストを使用するか、[ページ ギャラリー]  ボタンを使用して開けます。

また、選択したコンポーネントを使用してカスタム・ページを作成することもできます。マイ・ワークスペースのページおよびコンポーネントを使用した作業方法の詳細については、「[\[マイ ワークスペース\] のセットアップ方法](#)」(220 ページ) を参照してください。

一部のページは、ビュー・セレクタを組み込んだ単一のコンポーネントで構成されます。それ以外のページは複数のコンポーネントで構成され、1 つのコンポーネントがほかのコンポーネントのビューや CI の選択に使用されます。各コンポーネントの詳細については、「[利用可能なコンポーネント](#)」(204 ページ) を参照してください。

[マイ・ワークスペース] 内の定義済みのページは、次のとおりです。

注: 「[ワークスペースでのユーザ権限](#)」(222 ページ) で説明されているように、アクセスできるのは、アクセス権が与えられているページのみです。

ページ	説明
ダッシュボード	
360° View	選択した CI に関する包括的なデータが、1 か所に集めて表示されます。360° View には、選択したビューの CI に関する KPI データを提供する階層コンポーネントが含まれています。階層コンポーネント内の CI を選択すると、その詳細リンクを表示できます。詳細リンクをクリックすると、次のコンポーネントにアクセスできます。ビジネス影響度、状況インジケータ、警告、変更およびインシデント。詳細については、「 360° View 」(242 ページ) を参照してください。
KPI 経過時間	経過時間ごとの KPI ダッシュボードでは、選択した経過時間ごとの KPI および CI のステータスやステータス・サマリを表示できます。ダッシュボードでは、KPI ステータス・データの履歴やモニタ対象環境の状況を一目で確認できる多数のウィジェットを選択できます。詳細については、「 経過時間ごとの KPI ダッシュボード 」(243 ページ) を参照してください。
監視ダッシュボード	監視ダッシュボードには、監視対象となっている環境内のイベントの概要が示されます。監視ダッシュボードの使用により、環境の状況をすばやく評価でき、また、注意を要する領域を特定できます。詳細については、「 監視ダッシュボード 」(233 ページ) を参照してください。

ページ	説明
ROI ダッシュボード	投資利益率ダッシュボードには、オペレータによる介入が必要であったイベントに対する、OMiによって受信され自動処理されたイベントの比率が表示されます。自動処理されたイベントの比率が高いほど、OMiによるインフラストラクチャ管理への貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動で処理するコストがわかっている場合、この値をOMiに入力できます。この値に基づき、OMiによって達成されたコスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMiによってIT環境が監視されている間の任意の指定期間について表示できます。詳細については、「 投資利益率ダッシュボード 」(247ページ)を参照してください。
操作コンソール	
OMiの発見	事前に定義されたパスに従って、OMiのさまざまな機能を順に試していきながら、OMiの機能を学習できます。このマップは、対話型のチュートリアルから始まります。各手順には、組み込み情報や、追加リソース(関連UIページ、オンラインヘルプ、ビデオなど)へのリンクが含まれています。[OMi探索]により進行状況を追跡し、参照済みの領域を把握できます。進行状況はローカルに保存されます。ブラウザのクッキーを削除する(またはマップ内の[状態のリセット]をクリックすると、進行状況が削除されます。
イベントパースペクティブ	監視中の動作環境で発生するイベントのサマリと、選択したイベントに関する詳細情報が表示されます。詳細については、「 イベントパースペクティブ 」(253ページ)を参照してください。
状況パースペクティブ	イベントのコンテキスト内の関連CIの状況が表示されます。イベント・ブラウザで選択したイベントにより、[Health Top View]や[Health Indicators]の表示枠の表示内容が決まります。 このページは、オブジェクトの状況ステータスを理解するのに役立つうえ、どのビジネス・ルールやKPIが使用されているか、および選択したオブジェクトの状況ステータスが関連CIの状況にどのように影響するかを示します。詳細については、「 状況パースペクティブ 」(254ページ)を参照してください。
パフォーマンスパースペクティブ	テンプレートからグラフを作成し、選択したCIに基づいて設定されるメトリック・リストから必要なメトリクスを選択して、一時的なグラフを作成できます。詳細については、「 パフォーマンスパースペクティブ 」(255ページ)を参照してください。

利用可能なコンポーネント

さまざまなアプリケーションのコンポーネントを、[マイ・ワークスペース] ページに追加できます。次のセクションでは、利用可能な OMi コンポーネントについて説明します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[\[コンポーネント ギャラリー\] ダイアログ・ボックス](#)」(214 ページ) を参照してください。

注: アプリケーションからコンポーネントにアクセスするには、そのアプリケーションのライセンスが必要です。

一部のコンポーネントは、定義済みページとしても利用できます。詳細については、「[定義済みページ](#)」(202 ページ) を参照してください。

次のアプリケーションからコンポーネントを追加できます。

- 「[イベント管理](#)」(204 ページ)
- 「[全般](#)」(205 ページ)
- 「[NNMi](#)」(205 ページ)
- 「[パフォーマンス管理](#)」(206 ページ)
- 「[サービス状況](#)」(206 ページ)
- 「[SiteScope](#)」(208 ページ)
- 「[ユーザ・エンゲージメント](#)」(208 ページ)

イベント管理

コンポーネント名	説明
アクション	選択したイベント、関連 CI、またはその CI をホストするノードに適用できる、アクション(ツール、ラン・ブック、カスタム・アクション、およびパフォーマンス・ダッシュボード)のリストが表示されます。詳細については、「 アクション 」(190 ページ) を参照してください。
イベント・ブラウザ	監視中の動作環境で発生するすべてのイベントのサマリが表示されます。詳細については、「 イベント パースペクティブ 」(253 ページ) を参照してください。
Event Browser with Details	監視中の動作環境で発生したすべてのイベントのサマリが表示されます。いっしょに表示される[詳細]表示枠には、選択したイベントの詳細情報が表示されます。詳細については、「 イベント パースペクティブ 」(253 ページ) を参照してください。
イベント詳細	選択したイベントの詳細情報は、イベント・ブラウザの下にある専用表示枠に、またはポップアップ・ウィンドウとして表示できます。詳細については、「 イベント パースペクティブ 」(253 ページ) を参照してください。

コンポーネント名	説明
監視ダッシュボード	イベント・フィルタに一致するイベント、または参照ビューに含まれる構成アイテムに関連するイベントのサマリを表示する監視ダッシュボードの構成を選択できます。監視ダッシュボードは、複数のタイプのウィジェット (スタック・ウィジェットやパイ・ウィジェットなど) を使用してステータス情報を表示します。詳細については、「 監視ダッシュボード 」(233 ページ) を参照してください。
ROI ダッシュボード	投資利益率ダッシュボードには、OMi が受信したイベントと、オペレータによる介入が必要であったイベントで自動処理したものの比率が表示されます。自動処理されたイベントの比率が高いほど、OMi によるインフラストラクチャ管理への貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動で処理するコストがわかっている場合、この値を OMi に入力できます。この値に基づき、OMi によって達成されたコスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMi によって IT 環境が監視されている間の任意の指定期間について表示できます。詳細については、「 投資利益率ダッシュボード 」(247 ページ) を参照してください。

全般

コンポーネント名	説明
Discover OMi	事前に定義されたパスに従って、OMi のさまざまな機能を順に試していきながら、OMi の機能を学習できます。このマップは、対話型のチュートリアルから始まります。各手順には、組み込み情報や、追加リソース(関連 UI ページ、オンラインヘルプ、ビデオなど)へのリンクが含まれています。[OMi 探索]により進行状況を追跡し、参照済みの領域を把握できます。進行状況はローカルに保存されます。ブラウザのクッキーを削除する(またはマップ内の[状態のリセット]をクリックすると、進行状況が削除されます。

NNMi

NNMi コンポーネントにアクセスするには、適切なライセンスをインストールする必要があります。NNMi コンポーネントは、インフラストラクチャ設定で NNM サーバへの接続を設定した場合にのみ表示されます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]

[ファウンデーション] > [他のアプリケーションとの統合] > [HP NNM] を選択します。

NNMi と OMi コンポーネント間のワイヤリングは、NNMi-OMi 統合が実装された場合のみ有効になります。統合の詳細については、[HP ソフトウェア統合サイト](#)

(<http://support.openview.hp.com/sc/solutions/index.jsp#tab=tab3>) の [統合] タブの [OMi] セクションを参照してください。

ヒント: NNMi ノード・グループ・マップをカスタマイズし、そのマップを URL にエクスポートすると、[マイ・ワークスペース] への外部コンポーネントとして URL を追加できます。詳細については、「[外部コンポーネントの作成方法](#)」(225 ページ) を参照してください。

コンポーネント名	説明
Layer 2 Neighbor View	選択したデバイスと、そのデバイスから指定したホップ数以内にあるコネクタ・デバイスのマップ・ビューが表示されます。このビューは、デバイス間のスイッチの接続を理解するのに役立ちます。
Layer 3 Neighbor View	選択したデバイスと、そのデバイスから指定したホップ数以内にあるコネクタ・デバイスのマップ・ビューが表示されます。このビューは、デバイス間のルータの接続を理解するために役立ちます。
MPLS VPN Inventory	企業顧客向けのビューで、顧客の各サイトが MPLS ネットワークが提供するサービスを介してどのように接続されるかを示します。
Open Key Incidents	ネットワークオペレータにとって最も重要なインシデントが表示されます。これらのインシデントには、即時の対応が必要になることがよくあります。
Overall Network Health (Node Group Overview)	親ノード・グループを持たない、すべての(最上位レベルの)ノード・グループを含むマップが表示されます。
Overall Network Health - Routers	ネットワーク内のルータ接続のノード・グループ・マップが表示されます。
Overall Network Health - Switches	ネットワーク内のスイッチ接続のノード・グループ・マップが表示されます。
Router Redundancy Groups Inventory	NNMi 管理者によって作成された、利用可能なルータ冗長性グループが表示されます。各ルータ冗長性グループは 2 つ以上のルータのセットで、情報パケットが目的の宛先に確実に届くように、1 つ以上の仮想 IP アドレスを使用します。

パフォーマンス管理

コンポーネント名	説明
パフォーマンス・ダッシュボード	[パフォーマンス] 表示 枠を表示します。この表示 枠では、パフォーマンス・ダッシュボードを作成、カスタマイズできます。詳細については、「 パフォーマンス パースペクティブ 」(255ページ)を参照してください。

サービス状況

コンポーネント名	説明
ビジネス影響度	選択した CI によって影響を受ける、ビジネス CI および SLA が表示されます。詳細については、「 ビジネス影響度コンポーネント 」を参照してください。

コンポーネント名	説明
Changes and Incidents	選択した CI によって開かれるインシデントと、その CI を対象として計画された変更と実際の変更が表示されます。詳細については、「 変更およびインシデント・コンポーネント 」(123ページ)を参照してください。
カスタム・イメージ	ビューが示す実際の状況を表すユーザー定義のカスタム・イメージと、イメージのリアルタイム・ステータス・インジケータが表示ビューの CI が表示されます。詳細については、「 カスタム・イメージ・コンポーネント 」(127ページ)を参照してください。
地理マップ	ビューの CI に割り当てられた地理マップ上の地理的な場所に、リアルタイム・ステータス・インジケータが表示されます。ステータス・インジケータには、その地理的な場所にある CI の最悪ステータスが表示されます。詳細については、「 地理マップ・コンポーネント 」(130ページ)を参照してください。
状況インジケータ	選択した CI の、現在のステータスの計算や設定に使用される状況インジケータに関する詳細が表示されます。詳細については、「 状況インジケータ・コンポーネント 」(138ページ)を参照してください。
ヘルス・トップ・ビュー	[イベント ブラウザ] 表示枠で選択したイベントの影響を受ける構成アイテムの、トポロジのビューが表示されます。詳細については、「 状況トップ・ビュー・コンポーネント 」(141ページ)を参照してください。
階層	ビュー内の CI の階層、各 CI に割り当てられた KPI、およびそれらの KPI ステータスを表示します。階層コンポーネント内の CI を選択すると、その詳細リンクを表示できます。詳細リンクをクリックすると、CI に関する包括的なデータを提供する追加コンポーネントにアクセスできます。詳細については、「 階層コンポーネント 」(148ページ)を参照してください。
KPI 経過時間	経過時間ごとの KPI ダッシュボードでは、選択した経過時間ごとの KPI および CI のステータスやステータス・サマリを表示できます。ダッシュボードでは、KPI ステータス・データの履歴やモニタ対象環境の状況を一目で確認できる多数のウィジェットを選択できます。詳細については、「 経過時間ごとの KPI ダッシュボード 」(243ページ)と「 経過時間ごとの KPI ダッシュボードをコンポーネントとして使用 」(245ページ)を参照してください。
Neighborhood Map	選択した CI の親 CI と子 CI が、インタラクティブな階層構造のグラフィックに表示されます。詳細については、「 隣接マップ・コンポーネント 」(159ページ)を参照してください。
トップ・ビュー	ビジネス・アプリケーションにマッピングされたリアルタイムの IT パフォーマンス・メトリクスを表す CI バーが、CI 間の関係を表す線のリンク付きで表示されます。詳細については、「 トップ・ビュー・コンポーネント 」(163ページ)を参照してください。
トポロジ・マップ	インタラクティブな階層構造のグラフィックに、ビュー内の CI が表示されます。トポロジ・マップでは CI 間のリンクが表示され、CI を層やグループに分けて表示できます。詳細については、「 トポロジ・マップ・コンポーネント 」(176ページ)を参照してください。

コンポーネント名	説明
ビュー・エクスプローラ	ビューのリストと、各ビュー内の CI 階層が含まれています。このコンポーネントを使用すると、ビューの選択、CI の選択、または CI の検索ができます。ビュー・エクスプローラは、ビューまたは CI の選択に対応する、その他のコンポーネントでも使用されます。詳細については、「 ビュー・エクスプローラ・コンポーネント 」(183ページ)を参照してください。
監視リスト	複数のビューの重要な CI の状況に関する高レベルの概要が表示されます。詳細については、「 監視リスト・コンポーネント 」(186ページ)を参照してください。

SiteScope

コンポーネント名	説明
SiteScope Multi-View	異なる階層レベルに属す SiteScope オブジェクトの可用性およびステータスの情報が 1 つのビューに表示されます。詳細については、『SiteScope の使用』ガイドの「SiteScope のマルチビュー」を参照してください。

ユーザ・エンゲージメント

コンポーネント名	説明
ユーザエンゲージメントの業績	実行中のすべての業績の概要がカテゴリ別にグループ化され、表示されます。無効な業績および一時停止した業績は、表示されません。各カテゴリには、進行状況バーが表示されます。詳細については、「 業績 」(18ページ)を参照してください。
User Engagement Dashboard	ユーザ・エンゲージメントでは、ゲーミング・テクノロジーを使用して、作業に対する関心を高め、OMi の使用方法を学習して徐々に知識が増えていく過程で自分の業績を確認できます。詳細については、「 ユーザ・エンゲージメント 」(17ページ)を参照してください。
User Engagement Experts	エキスパート・ボードを使用すると、OMi のさまざまな範囲で最も経験豊富なユーザを組織内で特定し、連絡を取ることができます。ユーザ・エンゲージメントの[エキスパート]ページには、全体的に最も経験豊富なユーザと、選択したカテゴリについて最も経験豊富なユーザが表示されます。各カテゴリにドリルダウンして、エキスパート・ボードのすべての参加者のリストを表示できます。詳細については、「 エキスパート 」(17ページ)を参照してください。
User Engagement Timeline	ユーザの業績の履歴が表示されます。タイムラインには、ユーザ・エンゲージメント参加の個人的な概要が表示され、共有されることはありません。詳細については、「 タイムライン 」(18ページ)を参照してください。

[マイ ワークスペース] のユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「[マイ・ワークスペース](#)」(209ページ)
- 「[\[ページ ギャラリー\] ダイアログ・ボックス](#)」(212ページ)
- 「[\[コンポーネント ギャラリー\] ダイアログ・ボックス](#)」(214ページ)
- 「[\[新規コンポーネント\]/\[コンポーネントの編集\] ダイアログ・ボックス](#)」(216ページ)
- 「[\[ワイヤリング\] ダイアログ・ボックス](#)」(218ページ)

マイ・ワークスペース

[マイ・ワークスペース] では、OMi から標準設定ページを表示し、OMi コンポーネントや外部コンポーネントを含む新しいページを作成できます。各ページはワークスペース内にタブとして表示されます。標準設定のページのリストについては、「[定義済みページ](#)」(202ページ)を参照してください。標準設定の OMi コンポーネントのリストについては、「[利用可能なコンポーネント](#)」(204ページ)を参照してください。

利用方法

[ワークスペース] > [マイ ワークスペース]


- **重要情報** : このヘルプ・トピックは、標準設定以外のページを作成して OMi メニュー・バーの[ヘルプ] > [このページのヘルプ] にアクセスすると表示されます。
- **関連タスク** : 「[\[マイ ワークスペース\] のセット アップ方法](#)」(220ページ)。

詳細

ページ管理 ツールバー

ワークスペースの右上にあるページ管理ツールバーでは、ページの作成、ページへのコンポーネントの追加、コンポーネント間の相互作用の定義を行うことができます。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<ページ・セクタ >	このドロップダウン・リストからページを選択して、ワークスペースで開きます。このリストには、ページ・ギャラリーで定義されているページが含まれています。 このボックスにページ名を入力し始めると、リストにはその名前が入力した文字で始まるページのみが表示されます。
	更新 : ページを更新します。

UI 要素	説明
	<p>保存または名前を付けて保存 : 現在のページをページ・ギャラリーに保存します。ダイアログ・ボックスでは、ページに名前や説明を付けたり、そのページ用のカテゴリを選択できます。</p> <p>説明は、ページのツールチップとしてページ・ギャラリー内に表示されます。</p>
	<p>ページ・ギャラリー : ページ・ギャラリーを開きます。ページ・ギャラリーには、ユーザが保存したページ以外に標準設定のページも表示されます。ページ定義の編集、またはページを開くことが可能です。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ページ・ギャラリー]ダイアログ・ボックス」(212ページ)を参照してください。</p>
	<p>新規ページ : 新しいページを作成します。</p> <p>新規ページを開いたら、レイアウトの設定、ページへのコンポーネントの追加、コンポーネント間のワイヤリングの定義を行うことができます。タスクの詳細については、「[マイワークスペース]のセットアップ方法」(220ページ)を参照してください。</p>
	<p>ページ・レイアウトの編集 : 既存のページのレイアウトを変更します。各レイアウトの左上角にあるレイアウト・ツールを使用して、レイアウト領域を変更します。</p> <p>編集の終了 : 作業の終了後、このボタンをクリックして編集を終了します。</p>
	<p>コンポーネント : コンポーネント・ギャラリーを開きます。コンポーネント・ギャラリーには、ユーザが追加したコンポーネント以外に標準設定のコンポーネントも示されます。コンポーネント定義の編集、またはページへのコンポーネントの追加を行うことができます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[コンポーネント・ギャラリー]ダイアログ・ボックス」(214ページ)を参照してください。</p>
	<p>ページ・ワイヤリング : コンポーネント間のワイヤリングを定義します。これにより、コンポーネント間での相互作用が決定されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ワイヤリング]ダイアログ・ボックス」(218ページ)を参照してください。</p>
	<p>スライドショーの開始 / スライドショーの終了 : 開いているページのスライドショーを開始します。ダイアログ・ボックスでは、ページを循環する回数を定義できます。ページは、表示される前に更新されます。</p> <p>スライドショーの実行中にこのボタンをクリックすると、スライドショーが終了します。</p> <p>注 : ページの更新間隔がスライドショーの間隔より長い場合は、ページが更新されません。たとえば、コンポーネントを1分ごとに更新するように設定されており、スライドショーのページが30秒ごとに循環する場合は、ページが更新されません。</p>

レイアウト・ツール

レイアウトが空の場合は、左上の領域にあるレイアウト・ツールを使用してレイアウトを定義できます。レイアウトの中央に表示されるアイコンで、レイアウトの種類(水平、垂直、またはタブ付き)が示されます。







以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
レイアウト・ツール	
	レイアウトの削除 : ページからレイアウトを削除します。
	コンポーネントの追加 : コンポーネント・ギャラリーを開きます。コンポーネントをダブルクリックして、レイアウト領域に配置します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「 [コンポーネント・ギャラリー]ダイアログ・ボックス 」(214ページ)を参照してください。
	分割 : 垂直レイアウトを上下 2 つのレイアウトに分けます。
	分割 : 水平レイアウトを隣り合った 2 つのレイアウトに分けます。
	水平に切り替え : レイアウトを垂直またはタブ付きから水平に変更します。この領域に配置されるコンポーネントは、隣り合って追加されます。
	垂直に切り替え : レイアウトを水平またはタブ付きから垂直に変更します。この領域に配置されるコンポーネントは、上下に追加されます。
	タブに切り替え : レイアウトを垂直または水平からタブ付きに変更します。この領域に配置されるコンポーネントは、タブとして追加されます。
レイアウト・アイコン	
	<水平レイアウト> : レイアウト中央にこのアイコンがある場合は、そのレイアウトが水平であることを示します。この領域に配置されるコンポーネントは、隣り合って追加されます。
	<垂直レイアウト> : レイアウト中央にこのアイコンがある場合は、そのレイアウトが垂直であることを示します。この領域に配置されるコンポーネントは、上下に追加されます。
	<タブ付きレイアウト> : レイアウト中央にこのアイコンがある場合は、そのレイアウトが水平であることを示します。この領域に配置されるコンポーネントは、タブとして追加されます。

コンポーネント・ツールバー

各コンポーネントの右上にあるコンポーネント・ツールバーで、コンポーネントを管理できます。

以下では、使用されるインターフェース要素について説明します。


UI 要素	説明
	<p>次のいずれかを開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • プリファレンス: コンポーネントの名前を変更したり, 更新頻度をカスタマイズできます。 • ワイヤリング: このコンポーネントが, ページ上のほかのコンポーネントと相互作用する方法をカスタマイズできます。詳細については, 「[ワイヤリング] ダイアログ・ボックス」(218 ページ) を参照してください。 • 更新: 手動でコンポーネントを更新します。 • ヘルプ: コンポーネントのヘルプにアクセスします。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンポーネントによっては, これらのオプションのいくつかが利用できない場合があります。 • Mozilla Firefox では, ページ上に多数のコンポーネントがあるときに, コンポーネントの[プリファレンス]または[ワイヤリング]ダイアログ・ボックスを開く場合, ダイアログ・ボックスを別の場所にドラッグしないようにしてください。UI の問題が発生することがあります。
	<p>コンポーネントの構成: コンポーネントで内部フィルタがサポートされている場合は, そのコンポーネントのフィルタを定義します。</p>
	<p>コンポーネントを独立したポップアップ・ウィンドウに表示します。</p> <p>注: ここで開かれるポップアップ・ウィンドウでは, ワイヤリングはサポートされません。</p>
	<p>コンポーネントを一時的に折りたたみます。左のボタンは水平コンポーネント用, 右のボタンは垂直コンポーネント用です。</p>
	<p>折りたたまれたコンポーネントを元に戻します。左のボタンは水平コンポーネント用, 右のボタンは垂直コンポーネント用です。</p> <p>注: 水平レイアウトを折りたたむと, 細かい縞になります。コンポーネントを元に戻すには, 縞をクリックします。</p>
	<p>垂直または水平のレイアウトで, コンポーネントを閉じたり, コンポーネントをページから削除します。</p> <p>タブ付きレイアウトでは, タブを閉じるボタンが各タブに配置されます。メインの[閉じる]ボタンをクリックすると, レイアウトが削除されます。</p>

[ページ ギャラリー] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると, ページを選択して[マイ・ワークスペース]で開いたり, ページ・ギャラリーを管理できます。ページ・ギャラリー内で, ページはカテゴリに割り当てられます。ページ・カテゴリの追加, 編集, 削除, カテゴリへのページの割り当て, ページの表示, 編集, 削除を行うことができます。

利用方法

[ワークスペース] > [マイ ワークスペース]




[マイ・ワークスペース]で、[ページ ギャラリー]  ボタンをクリックします。

- **重要情報** : [マイ・ワークスペース]でページを開くには、ページ・ギャラリー内のページをダブルクリックします。
- **関連タスク** : 「[\[マイ ワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)。

詳細



カテゴリ(左側)



以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	新規カテゴリ : 新規カテゴリを作成します。作成後、そのカテゴリにページを割り当てることができます。詳細については、「 ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更方法 」(228ページ)を参照してください。
	カテゴリ名の編集 : ユーザ定義のカテゴリを選択してからこのボタンをクリックして、名前を変更します。標準設定のカテゴリ名は変更できません。
	カテゴリの削除 : ユーザ定義のカテゴリを選択してからこのボタンをクリックして、カテゴリを削除します。標準設定のカテゴリは削除できません。
カテゴリ	<p>ここには、ページが割り当てられたカテゴリのリストが表示されます。カテゴリ名の後には、次のような内容を表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カテゴリ名に続く数字は、そのカテゴリに含まれるページ数を示します。 • カテゴリ名に続く鍵のアイコンは、そのカテゴリが標準設定のカテゴリであり、削除や名前の変更が行えないことを示します。 <p>ツールバーを使用すると、カテゴリの管理、またはカテゴリを選択してそこに含まれるページをダイアログ・ボックスの右側に表示できます。</p> <p>カテゴリは共有が可能です、1つのページを複数のカテゴリに割り当てられます。</p>

ページ(右側)

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	ページを開く : ページを選択し、クリックして[マイ・ワークスペース]で開きます。
	ページのカテゴリ分け : ページを選択し、クリックしてそのページをカテゴリに割り当てます。

UI 要素	説明
	<p>ページの複製 : ページを選択し、クリックしてそのコピーを作成します。コピー後、ページに変更を加え、新しい名前で作成できます。</p> <p>ダイアログ・ボックスでは、新しいページに名前や説明を付けたり、そのページ用のカテゴリを選択できます。説明は、ページのツールチップとしてページ・ギャラリー内に表示されます。</p>
	<p>ページの削除 : ページを選択してからクリックすると、選択したページがギャラリーから削除されます。</p>
ページ	<p>ここには、[マイ・ワークスペース] で表示できる標準設定のページや、ユーザが保存したカスタム・ページが表示されます。</p> <p>ページを選択したら、ツールバーを使用してページの定義を編集するか、ページをダブルクリックして [マイ・ワークスペース] で開くことができます。</p>
[検索] ボックス	テキスト文字列を入力して、特定のページを検索します。

[コンポーネント ギャラリー] ダイアログ・ボックス

ページを開いた後は、このダイアログ・ボックスでコンポーネントを管理し、それらのコンポーネントを [マイ・ワークスペース] で開くことができます。このダイアログ・ボックスでは、コンポーネントのカテゴリの変更、カテゴリへのコンポーネントの割り当て、コンポーネントの表示、編集、削除を行うことができます。

利用方法

[ワークスペース] > [マイ ワークスペース]


[マイ・ワークスペース] で、[コンポーネント] ボタンをクリックします。



- 重要情報** : [マイ・ワークスペース] でコンポーネントを開くには、コンポーネントを選択してページにドラッグします。標準設定で表示されるコンポーネントは、適切なライセンスを所有しているコンポーネントです。詳細については、「[利用可能なコンポーネント](#)」(204 ページ) を参照してください。
- 関連タスク** : 「[\[マイワークスペース\] のセットアップ方法](#)」(220 ページ)。

詳細

カテゴリ(左側)





以下では、使用されるインターフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	<p>新規カテゴリ : 新規カテゴリを作成します。作成後、そのカテゴリにコンポーネントを割り当てることができます。詳細については、「ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更方法」(228 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
	カテゴリ名の編集 : ユーザ定義のカテゴリを選択してからこのボタンをクリックして、名前を変更します。標準設定のカテゴリ名は変更できません。
	カテゴリの削除 : ユーザ定義のカテゴリを選択してからこのボタンをクリックして、カテゴリを削除します。標準設定のカテゴリは削除できません。
カテゴリ	<p>ここには、コンポーネントが割り当てられたカテゴリのリストが表示されます。カテゴリ名の後には、次のような内容を表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • カテゴリ名に続く数字は、そのカテゴリに含まれるコンポーネント数を示します。 • カテゴリ名に続く鍵のアイコンは、そのカテゴリが標準設定のカテゴリであり、削除や名前の変更が行えないことを示します。 <p>ツールバーを使用すると、カテゴリの管理、またはカテゴリを選択してそこに割り当てられたページをダイアログ・ボックスの右側に表示できます。</p> <p>カテゴリは共有が可能で、1つのコンポーネントを複数のカテゴリに割り当てることができます。</p>

コンポーネント (右側)

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	外部コンポーネントの追加 : URL に基づいた新しいコンポーネントを追加します。これにより、新しいコンポーネントを定義するダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、「 [新規コンポーネント]/[コンポーネントの編集]ダイアログ・ボックス 」(216ページ)を参照してください。 コンポーネントとして任意の URL を追加できます。
	コンポーネントのプロパティ編集 : 外部コンポーネントを選択し、このボタンをクリックしてコンポーネントの定義を編集します。詳細については、「 [新規コンポーネント]/[コンポーネントの編集]ダイアログ・ボックス 」(216ページ)を参照してください。
	コンポーネントのカテゴリ分け : コンポーネントを選択し、このボタンをクリックしてそのコンポーネントをカテゴリに割り当てます。
	コンポーネントの削除 : コンポーネントを選択し、このボタンをクリックして選択したコンポーネントをギャラリーから削除します。
コンポーネント	<p>ここには、[マイ・ワークスペース]で表示できる標準設定のコンポーネントや、ユーザが保存した外部コンポーネントが表示されます。</p> <p>コンポーネントの選択後、ツールバーを使用して、コンポーネントの定義の編集、またはページへのコンポーネントのドラッグを行うことができます。</p>
[検索]ボックス	テキスト文字列を入力して、特定のコンポーネントを検索します。

[新規コンポーネント]/[コンポーネントの編集]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、外部 URL に基づいてコンポーネントを定義できます。ほかのコンポーネントから送られた、CI 属性などのコンテキストの属性を使用して URL のパターンを定義するように、ワイヤリングをセットアップできます。

利用方法

[ワークスペース] > [マイ ワークスペース]

コンポーネント・ギャラリーにアクセスして[外部コンポーネントの追加]をクリックするか、外部コンポーネントを選択して[コンポーネントのプロパティ編集]をクリックします。

- **重要情報** : 外部コンポーネントの URL は、https://, http://, ftp:// のいずれかの文字列で開始する必要があります。これ以外の文字列で始まる URL を保存すると、OMi セッションがリソングアップします。
- **関連タスク** : 「[\[マイ ワークスペース\] のセットアップ方法](#)」(220 ページ)
関連情報 「[動的 URL を使用したコンポーネントの作成方法 – 使用例のシナリオ](#)」(226 ページ)

詳細

上部の表示枠

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
名前	コンポーネントに割り当てる名前を入力します。
URL	コンポーネントの URL を入力します。パラメータを使用して動的 URL を作成している場合は、URL の静的部分をここに入力します。 たとえば、文字列 hpe を Google.com で検索する URL には、次の形式を使用します。http://www.google.com/search?q=hpe この URL の静的部分は、疑問符の前の次の部分です。 http://www.google.com/search
説明	コンポーネントの説明を入力します。
最新の更新ラベルを表示	コンポーネントで最終更新日時を表示する場合に、このチェックボックスを選択します。

[コンポーネントのカテゴリ分け] 領域

任意指定。コンポーネントを割り当てる 1 つ以上のカテゴリを選択します。



[配線の構成]領域

ワイヤリング・コンテキスト

この領域では、URL パターンの定義に使用する属性を含むコンテキストを 1 つ以上選択できます。

- [CIChange]を選択すると、URL の定義に CI 属性を使用できます。
- [EventChange]を選択すると、URL の定義にイベント属性を使用できます。
- [ViewChange]を選択すると、ビュー名を属性として使用できます。



以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	コンテキストの追加 : URL パターンの定義に使用できる属性を含むコンテキストを追加します。 ダイアログ・ボックスで、追加するコンテキストを選択できます。
	[削除] : コンテキストを選択し、このボタンをクリックしてリストから削除します。
<コンテキスト>	各行は、URL パターンの作成に使用できる属性を含むコンテキストを表します。

URL パラメータと値

この領域では、ワイヤリング・コンテキストの属性を使用して、URL パラメータと値を追加して URL パターンを構築できます。

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	新規パラメータ : URL パラメータを追加します。 表示されるダイアログ・ボックスで、URL の次のいずれかの要素を選択します。パス、クエリ文字列、URL のフラグメント。そしてパラメータ名を入力します。 次のパターンを使用します。https://domain/ <path> ?<query_string> #<fragment> たとえば、http://www.google.com/search?q=hpe に基づいて動的 URL を作成するには、q という名前の URL パラメータを追加します。
	[削除] : URL パラメータを選択し、このボタンをクリックしてリストから削除します。
属性	ここには、URL パターンの構築に使用できる属性のリストが含まれます。このリストは、[ワイヤリングコンテキスト]領域で選択したコンテキストに依存します。 たとえば、[ワイヤリングコンテキスト]領域で[CIChange]を選択した場合は、URL パターンの構築に属性 <<ciId>> を利用できます。 属性を URL パラメータの値として使用するには、属性をこの領域からパラメータの[値]領域にドラッグします。

UI 要素	説明
URL パラメータと値	<p>各行は、URL パターンの作成に使用される URL パラメータ名とその値を表します。</p> <p>パラメータ名を定義してから、[属性] 領域からそのパラメータの[値] 領域に属性をドラッグします。</p> <p>パラメータ名や値を編集するには、パラメータまたは値自体をクリックして、その内容を編集します。</p>
URL パラメータ	<p>ここには、URL フィールドに入力した静的 URL を使用して構築した URL パターンや、[URL パラメータ] 領域で定義した URL パラメータが表示されます。</p>

[ワイヤリング] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、コンポーネント間の相互作用を決定する、ページ上のコンポーネント間のワイヤリングを定義できます。ページ上にコンポーネントを配置したあと、このダイアログ・ボックスを使用して、コンテキストをどのコンポーネント(ソース)から、どのコンポーネント(ターゲット)に送るかを定義できます。ワイヤリングのセットアップが完了したら、ページを保存します。

たとえば、[CIChange] ワイヤリング・コンテキストをトップ・ビュー(ターゲット・コンポーネント)に送信するソース・コンポーネントとして、ビュー・エクスプローラが定義されているとします。この場合にビュー・エクスプローラで CI を選択すると、トップ・ビューでもこの CI に焦点が当てられます。

利用方法

[ワークスペース] > [マイ ワークスペース]

[マイ・ワークスペース] で、[ページ ワイヤリング]  ボタンをクリックします。

- [関連タスク: 「\[マイ ワークスペース\] のセットアップ方法」\(220 ページ\)](#)

詳細

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
コンテキスト	<p>ソース・コンポーネントを選択したあと、このソースからターゲット・コンポーネントに送信できるコンテキストのリストが表示されます。</p> <p>1 つ以上のターゲットに送信するコンテキストを選択して、ターゲット・コンポーネントを選択します。</p>

UI 要素	説明
ソース・コンポーネント	<p>コンテキストをほかのコンポーネントに送信する可能性のある、ページ上のすべてのコンポーネントが表示されます。</p> <p>ソース・コンポーネントを選択して、コンテキストとターゲット・コンポーネントを選択します。</p> <p>注: ほかのコンポーネントに情報を送信する可能性のあるコンポーネントがページ上にない場合は、このリストは空になります。この問題を解決するには、トップ・ビューやビュー・エクスプローラなどの、CI またはビューを選択できるコンポーネントをページに追加します。</p>
ページ・ワイヤリングのサマリ	<p>ページに定義されている、ワイヤリングのサマリが表示されます。各行には、ソース、ソースが送信するコンテキスト、このコンテキストをソースから受信するターゲット・コンポーネントが表示されます。</p>
ターゲット・コンポーネント	<p>ソース・コンポーネントとコンテキストを選択したあと、指定されたソースからこのコンテキストを受信する可能性がある、ページ上のすべてのコンポーネントが表示されます。</p> <p>ソース・コンポーネントからコンテキストを受信するターゲット・コンポーネントを1つ以上選択します。</p>

第12章: [マイ ワークスペース] のセット アップ 方法

本項では, [マイ・ワークスペース] のセットアップ方法について説明します。次のタスクは省略可能で, 任意の順序で実行できます。

これらのタスクを実行できるかどうかは, 自分のユーザ権限に依存します。ロールおよび権限の詳細については, OMi 管理ガイドを参照してください。

- 「ページを開く」(220ページ)
- 「ページ・レイアウトの設定」(220ページ)
- 「ページへのコンポーネントの追加」(220ページ)
- 「コンポーネント・ギャラリーへの外部コンポーネントの追加」(221ページ)
- 「コンポーネント間の相互作用の定義」(221ページ)
- 「ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更」(221ページ)
- 「ページを閉じるか削除する」(221ページ)

ページを開く

[マイ・ワークスペース] には定義済みページがあり, ユーザが作成, 保存したすべてのページとともに, ページ・ギャラリーに配置されます。詳細については, 「定義済みページ」(202ページ)を参照してください。

- ページを開くには, ワークスペースの右上の領域にある, ページ管理ツールバーの[ページの選択]ドロップダウン・リストから対象となるページを選択します。[ページの選択]にページ名の一部を入力して, ドロップダウン・リストに表示されるページ数を制限することもできます。
- 新しいページを作成するには, ページ管理ツールバーの[新規ページ]ボタンをクリックします。

ページ・レイアウトの設定

ページを開いてから, ページ上でのコンポーネントの配置方法を設定できます。[マイ・ワークスペース]では, 各レイアウトを水平(各コンポーネントを並べて表示), 垂直(各コンポーネントを上下に表示), タブ付き領域として定義できます。

詳細については, 「マイ・ワークスペース」(209ページ)を参照してください。

レイアウト定義の例については, 「ページ・レイアウトの設定方法 - 使用例のシナリオ」(222ページ)を参照してください。

ページへのコンポーネントの追加

「利用可能なコンポーネント」(204ページ)で説明されているように, マイ・ワークスペースには OMi アプリケーションの標準設定のコンポーネントが用意されています。標準設定のコンポーネントは, ユーザが追加したすべての外部コンポーネントとともに, コンポーネント・ギャラリーに配置されます。

次のいずれかの方法で, ページにコンポーネントを追加できます。

- 空のレイアウト領域で[コンポーネントの追加]ボタンをクリックします。コンポーネント・ギャラリーでコンポーネントをダブルクリックして, レイアウト領域に配置します。

- ・ ページ管理ツールバーの[コンポーネント ギャラリー]ボタンをクリックします。コンポーネント・ギャラリーでコンポーネントを選択して、ページ上の領域にドラッグします。

詳細については、「[\[コンポーネント ギャラリー\]ダイアログ・ボックス](#)」(214ページ)を参照してください。

ページにコンポーネントを追加する際には、次の点に注意します。

- ・ 対象の領域が[コンポーネント ギャラリー]ダイアログ・ボックスで隠れる場合は、ダイアログ・ボックスのタイトルバーをクリックして、画面上の別の場所にドラッグします。
- ・ 新しいコンポーネントを、コンポーネントがすでに定義されている対象領域にドラッグする場合は、コンポーネントの白く表示されている部分ではなく、対象領域のタイトルバーに新しいコンポーネントをドラッグします。

コンポーネント・ギャラリーへの外部コンポーネントの追加


URL を[マイ・ワークスペース]内のコンポーネントとして追加できます。ページを開いて、ページ管理ツールバーの[コンポーネント ギャラリー]ボタンをクリックします。

[外部コンポーネントの追加]ボタンをクリックし、「[外部コンポーネントの作成方法](#)」(225ページ)の説明に従ってコンポーネントを定義します。新しいコンポーネントがコンポーネント・ギャラリーに追加され、任意のページに追加できるようになります。

詳細については、「[\[新規コンポーネント\]/\[コンポーネントの編集\]ダイアログ・ボックス](#)」(216ページ)を参照してください。

コンポーネント間の相互作用の定義

[マイ・ワークスペース]でのページ上のコンポーネント間の相互作用は、「[ワイヤリング](#)」と呼ばれます。コンポーネントをページ上に配置したあと、コンポーネント間での相互作用を定義できます。

標準設定のページではワイヤリングが事前定義されています。標準設定のワイヤリング定義は、変更することもできます。たとえば、ページ上の2つのコンポーネントが相互作用しないようにする場合、それらのコンポーネント間のワイヤリングを無効にする必要があります。[ページワイヤリング]ボタン  をクリックし、対応するチェックボックスをクリアします。

詳細については、「[コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法](#)」(227ページ)を参照してください。

ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更

[マイ・ワークスペース]のページ・ギャラリーおよびコンポーネント・ギャラリーには、ページやコンポーネントの整理に役立つ標準設定のカテゴリがあります。カテゴリの追加、ユーザ定義カテゴリの編集または削除、ページやコンポーネントに対するカテゴリの追加や削除を行うことができます。

タスクの詳細については、「[ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更方法](#)」(228ページ)を参照してください。

ページを閉じるか削除する

ページを閉じるには、ページ右上角にある閉じるアイコンをクリックします。ワークスペースでページが閉じますが、ページ・ギャラリーからは削除されません。

ページをページ・ギャラリーから削除するには、[ページ ギャラリー]ボタンをクリックし、ページを選択して削除します。詳細については、「[\[ページ ギャラリー\]ダイアログ・ボックス](#)」(212ページ)を参照してください。

ワークスペースでのユーザ権限

ワークスペースのコンポーネントやページを操作するための権限は、[ユーザ、グループ、およびロール]で定義されます。

利用方法

[管理]> [ユーザ]> [ユーザ、グループ、およびロール]> [ロールの編集]または[ロールの作成]> [権限]> [ワークスペース]

ユーザを対象に定義できる操作は、次のようなワークスペース内の領域に依存します。

- **定義済みページ**: これらのページは、すぐ使用できるように事前に定義されています。ユーザがこれらのページでコンポーネントを追加、変更、または削除することはできません。ユーザ権限で定義できる操作は、表示のみです。この権限により、ユーザはこれらのページを表示できるようになります。
- **ユーザページおよびユーザコンポーネント**: ユーザには、追加、変更、ビュー、削除、フルコントロールの各操作を、ユーザ定義のページおよびコンポーネントで実行するための権限を付与できます。

ユーザページには、[マイワークスペース]に固有の**ロック済み**と呼ばれる追加の権限レベルがあります。特定のユーザに対して情報の監視のみを許可し、ページでビューの選択やフィルタの適用を許可しないようにするには、**ロック済み**権限をユーザ定義のページに適用できます。これは、サービス状況コンポーネント(トップビュー、階層、地理マップなど)のような組み込みのビュー・エクスプローラを含むページと、イベント・ブラウザに関係します。

ページ・レイアウトの設定方法 - 使用例のシナリオ

次のセクションでは、ページ上のコンポーネントのレイアウトを設定する方法の例を示します。レイアウトによって、ページ上の領域の数、各コンポーネントの配置方法(水平、垂直、タブ付き領域)などのページの外観が定義されます。

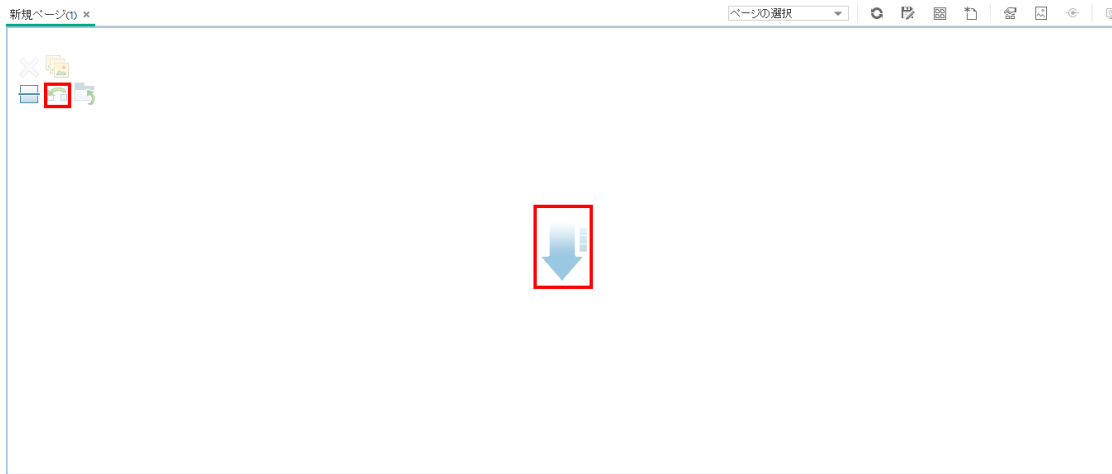
ページ上に配置するコンポーネントやそれぞれの配置方法を事前に計画し、その内容に従ってページ・レイアウトを設定することをお勧めします。

1. 背景

ACME 社で管理者として働く Adam は、ページの左側に 2 つのコンポーネントをタブ形式で配置し、同じページの右側に垂直領域(各コンポーネントを上下に配置)を配置したページをセットアップしようと考えています。

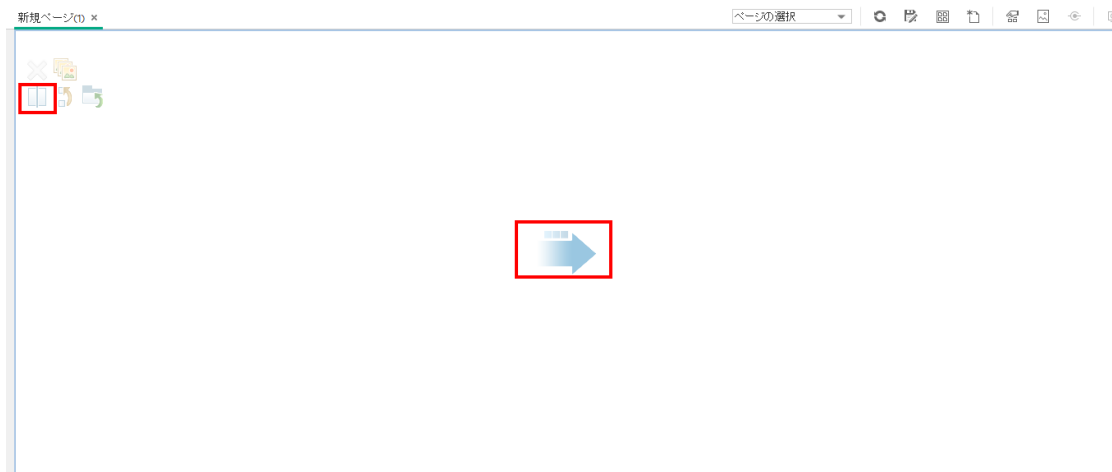
2. ページを開く

水平レイアウトを標準設定で備えた、新しいページを開きます。



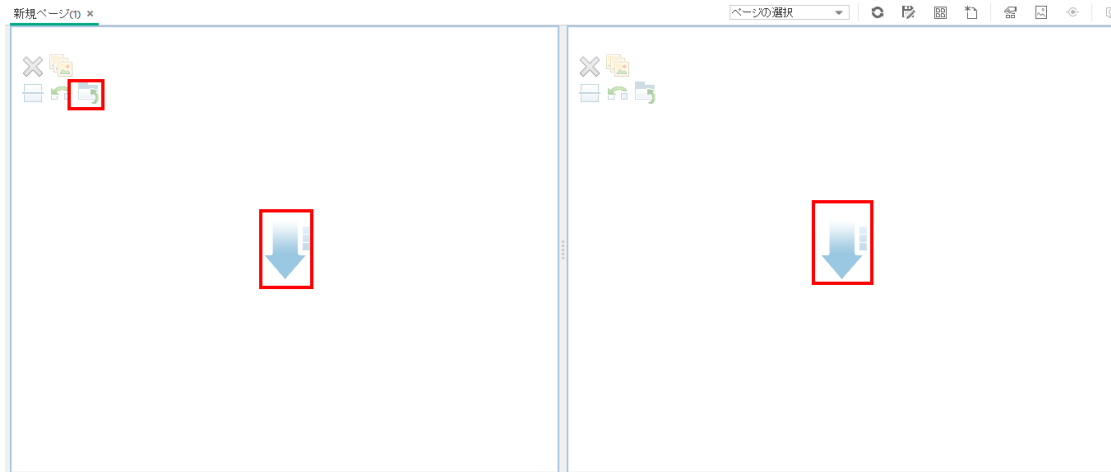
3. ページ・レイアウトの垂直への切り替え

左上の領域のレイアウト・ツールから、[垂直に切り替え]をクリックします。レイアウトが水平方向に変更されます。



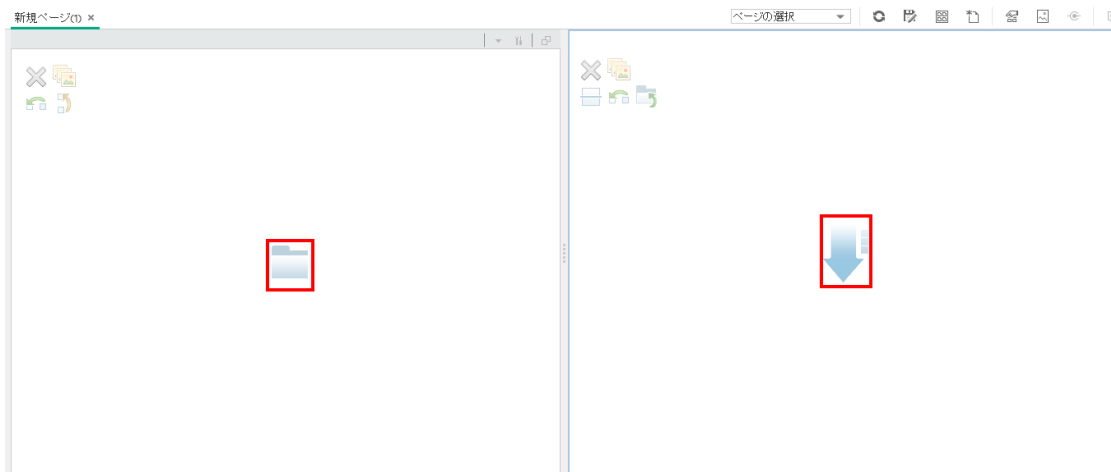
4. ページの分割

次に[分割]をクリックして、レイアウトを左側と右側の表示枠に分けます。



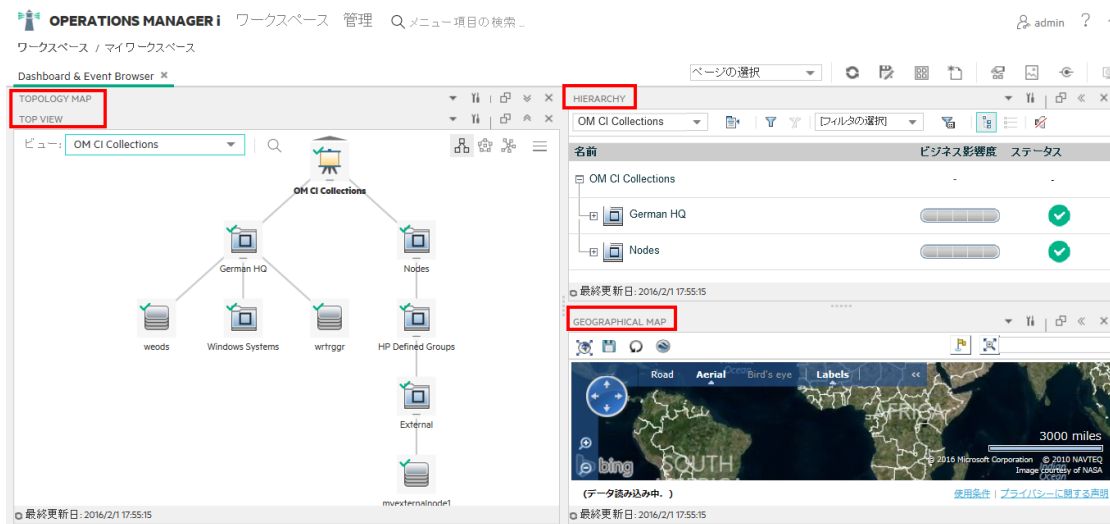
5. 左側の表示枠へのタブ・レイアウトの作成

左側のレイアウト内で[タブに切り替え]をクリックして、左側の表示枠にタブ付き領域を作成します。



6. 結果

Adam はここで、レイアウト内の 2 つの領域にコンポーネントを追加します。画面の左側に追加されたコンポーネント (Top View および Topology Map) はタブに分かれて表示され、右側に追加されたコンポーネント (Hierarchy および Geographical Map) は垂直に並んで表示されます。



外部コンポーネントの作成方法

次のタスクでは、URL を使用してコンポーネントを作成する方法について説明します。入力した URL がそのまま開かれる静的 URL を使用できます。また、コンポーネントの URL がページ上のほかのコンポーネントに回答するように動作する動的 URL を作成することもできます。

動的 URL に基づいてコンポーネントを作成する方法を紹介したシナリオについては、「[動的 URL を使用したコンポーネントの作成方法 – 使用例のシナリオ](#)」(226 ページ)を参照してください。

注: 外部コンポーネントの URL は、https://, http://, ftp:// のいずれかの文字列で開始する必要があります。

1. [コンポーネントの追加] ダイアログ・ボックスの表示

コンポーネント・ギャラリーを開き、コンポーネント・ギャラリー・ツールバーの[外部コンポーネントの追加] ボタンをクリックします。[新規コンポーネント] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、「[\[新規コンポーネント\]/\[コンポーネントの編集\] ダイアログ・ボックス](#)」(216 ページ)を参照してください。

2. URL の静的部分の定義

[新規コンポーネント] ダイアログ・ボックスの上の領域に、コンポーネント名とコンポーネントの URL を入力します。

- 静的 URL を使用してコンポーネントを作成するには、完全な URL を入力します。
- 動的 URL を使用してコンポーネントを作成するには、URL の静的な部分のみを入力します。

3. コンポーネントのカテゴリ分け(任意)

コンテンツの整理を容易にするために、ページおよびコンポーネントを標準設定のカテゴリまたはユーザ定義のカテゴリに割り当てることができます。詳細については、「[ページおよびコンポーネントのカテゴリの変更方法](#)」(228 ページ)を参照してください。

[コンポーネントのカテゴリ分け] 領域で、コンポーネントに割り当てるカテゴリを 1 つ以上選択します。この設定は任意です。

4. URL の動的部分の定義

動的 URL を使用してコンポーネントを作成する場合は、次の手順で行います。

- a. [ワイヤリング コンテキスト] 領域で、1 つ以上のコンテキスト(このコンテキストの属性を URL パターンの定義に使用)を次のように選択します。
 - CI が選択されているコンポーネントに回答するように URL が動作する必要がある場合は、[CIChange] を選択します。
 - イベントが選択されているコンポーネントに回答するように URL が動作する必要がある場合は、[EventChange] を選択します。
 - ビューが選択されているコンポーネントに回答するように URL が動作する必要がある場合は、[ViewChange] を選択します。

- b. [URL パラメータと値] 領域で、URL パターンの定義に使用する URL パラメータを 1 つ以上追加します。次のパターンを使用して、URL のパス、クエリ、URL のフラグメントを定義できます。

`https://domain/ <path> ?<query_string> # <fragment>`

たとえば、動的 URL パラメータを使用すれば次のいずれかを作成できます。

- `www.google.com/search?hl=<<lang>>&q=<<viewID>>`
- `en.wikipedia.org/wiki/<<articleName>>`

次のようなパターンにするとします。 `http://download.oracle.com/javase/1.4.2/docs/api/<<className>>.html#<<methodName>>`。このパターンを使用すると、

`http://download.oracle.com/javase/1.4.2/docs/api/java/net/URL.html#toString()`(有効な URL)などにアクセスできます。

- c. [属性] リストには、[ワイヤリング コンテキスト] 領域で選択したコンテキストに基づいた、URL パターンの構築に使用できる属性の一覧が含まれます。属性をパラメータ値として使用するためには、[属性] リストの属性を URL パラメータの[値] 領域にドラッグします。

[URL パラメータ] 領域には、ダイアログ・ボックス上部の領域にある静的 URL を使用して構築された動的 URL と、定義した URL パラメータが表示されます。

動的 URL を使用したコンポーネントの作成方法 – 使用例のシナリオ

ACME 社で管理者として働く Jane は、ページの左側にサービス状況のトポロジ・マップを表示し、右側には ACME 社のサポート・ディレクトリを表示するように[マイ・ワークスペース]にページをセットアップしようと考えています。

トポロジ・マップで CI が選択されると、この CI に問題が発生した場合の連絡先の詳細がサポート・ディレクトリに表示されます。

ACME サポート・ディレクトリの動的 URL は、次のようになります。

`http://www.acme.com/support/search?q=<<contact person>>`

ヒント: このシナリオでは、動的 URL はクエリ文字列を使用してビルドされています。次のパターンを使用して、URL のパス、URL のフラグメントを定義することもできます。 `https://domain/ <path>`

?<query_string> # <fragment>

1. Jane は新しいページを開き、2 つの表示 枠に分割します。コンポーネント・ギャラリーを開き、トポロジ・マップを左側の表示 枠にドラッグします。続いて、コンポーネント・ギャラリー・ツールバーの[外部コンポーネントの追加] ボタンをクリックします。
2. [コンポーネントの追加] ダイアログ・ボックス上部の領域で、コンポーネント名に「ACME サポート」と入力し、サポート・ディレクトリの URL の静的な部分を次のように入力します。
http://www.acme.com/support/search
3. [ワイヤリング コンテキスト] 領域で、コンテキスト・リストに[CIChange] を追加します。これにより、トポロジ・マップで CI が選択されると、サポート・ディレクトリが応答します。
4. [URL パラメータと値] 領域で、q と名前を付けた URL パラメータを追加します。
ACME 社では <<CIContact>>, という名前の CI 属性を使用して、CI に問題がある場合の連絡先を定義します。[属性] リストには、属性 <<CIContact>> が含まれます。この属性を q という名前のパラメータの[値] フィールドにドラッグします。
URL パターンは次のようになります。http://www.acme.com/support/search?q=<<CIContact>>.
5. [OK] をクリックしてコンポーネントを保存し、続いて ACME サポート・コンポーネントを右側の表示 枠にドラッグします。
6. 次に、ページ管理 ツールバーの[ワイヤリング] ボタンをクリックして、トポロジ・マップのソース・コンポーネントから ACME サポートのターゲット・コンポーネントに CIChange コンテキストが送信されるように、ページのワイヤリングを定義します。
トポロジ・マップで CI が選択されると、その CI に関する連絡先の詳細がサポート・ディレクトリに表示されます。

コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法

次のタスクでは、ページ上のコンポーネント間のワイヤリングを設定する方法について説明します。ワイヤリングは、コンポーネント間の相互作用を定義します。

あるコンポーネントから、そのコンポーネントの変更内容を示すワイヤリング・コンテキストを別のコンポーネントに送信し、これを受け取ったコンポーネントで、変更に応答した動作を実行できます。たとえば、[CI の選択] ワイヤリング・コンテキストをトップ・ビュー(ターゲット・コンポーネント)に送信するソース・コンポーネントとして、ビュー・エクスプローラが定義されているとします。この場合にビュー・エクスプローラで CI を選択すると、トップ・ビューでもこの CI に焦点が当てられます。

標準設定のページには事前にワイヤリングが定義されています。標準設定のワイヤリングの定義は変更も可能です。

1. [ワイヤリング] ダイアログ・ボックスの表示

ワイヤリングを設定するページを開いて、ページ管理 ツールバーの[ページ ワイヤリング] ボタンをクリックします。[ワイヤリング] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、[[「ワイヤリング」ダイアログ・ボックス](#)](218 ページ)を参照してください。

2. ワイヤリングのソース・コンポーネントの選択

[ワイヤリング] ダイアログ・ボックスの左側にある[ソース コンポーネント] のリストから、1 つ以上のターゲット・コンポーネントにコンテキストを送信するコンポーネントを選択します。

3. ソース・コンポーネント から送信 するコンテキスト の選択

[コンテキスト タイプ] のリストに、選択したソース・コンポーネントから送信できるコンテキストが表示されます。

- ソース・コンポーネントで異なる CI が選択されている場合にどのコンポーネントに通知するかを制御するには、[CI の選択] を選択します。
- ソース・コンポーネントで異なるイベントが選択されている場合にどのコンポーネントに通知するかを制御するには、[イベント変更] を選択します。
- ソース・コンポーネントで異なるビューが選択されている場合にどのコンポーネントに通知するかを制御するには、[ビュー変更] を選択します。

4. ワイヤリングのターゲット・コンポーネント の選択

[ワイヤリング] ダイアログ・ボックスの右側にある[ターゲット コンポーネント] のリストから、ソース・コンポーネントからコンテキストを受け取るコンポーネントを 1 つ以上選択します。

[ページ ワイヤリングのサマリ] 領域に、そのページに定義されているすべてのワイヤリングが表示されます。

別のソース・コンポーネントからこのページへのワイヤリングを定義するには、上記の手順を必要に応じて繰り返します。

ページおよびコンポーネント のカテゴリの変更方法

[マイ・ワークスペース] でのコンテンツの整理を容易にするために、ページおよびコンポーネントのカテゴリへの追加またはカテゴリからの削除、新規カテゴリの作成、ユーザ定義のカテゴリの編集または削除ができます。本項では、ページやコンポーネントの整理に役立つ、ページ・ギャラリーおよびコンポーネント・ギャラリー内のカテゴリの操作方法について説明します。

ヒント: カテゴリは相互に共有が可能です、1 つのページやコンポーネントを複数のカテゴリに割り当てることができます。

- ページに関する詳細については、「[ページ ギャラリー] ダイアログ・ボックス」(212 ページ) を参照してください。
- コンポーネントに関する詳細については、「[コンポーネント ギャラリー] ダイアログ・ボックス」(214 ページ) を参照してください。

新規カテゴリの作成

[マイ・ワークスペース] には、ページやコンポーネントを割り当てるカテゴリが用意されています。新しいカテゴリを追加するには、ページ管理ツールバーの[コンポーネント] または[ページ ギャラリー] ボタンをクリックして、[新規カテゴリ] ボタンをクリックします。新しいカテゴリの名前を入力します。

続いて、既存のページやコンポーネントをカテゴリに割り当てたり、新規の外部コンポーネントをカテゴリに追加できます。

ユーザ定義カテゴリの名前変更または削除

ユーザ定義カテゴリの名前を変更するには、カテゴリを選択して[**カテゴリ名の編集**]ボタンをクリックします。

ユーザ定義カテゴリを削除するには、カテゴリを選択して[**カテゴリの削除**]ボタンをクリックします。

標準設定のカテゴリに対しては、名前の変更や削除はできません。

カテゴリへのページまたはコンポーネントの割り当て

ページまたはコンポーネントをカテゴリに割り当てるには、対象のページまたはコンポーネントを選択し、対応する[**ページのカテゴリ分け**]または[**コンポーネントのカテゴリ分け**]ボタンをクリックします。ページまたはコンポーネントを割り当てる 1 つ以上のカテゴリを選択します。

ページまたはコンポーネントのカテゴリの割り当ての変更

ページまたはコンポーネントのカテゴリの割り当てを変更するには、ページまたはコンポーネントを選択して、対応する[**ページのカテゴリ分け**]または[**コンポーネントのカテゴリ分け**]ボタンをクリックします。必要に応じて、ページまたはコンポーネントに割り当てるカテゴリを変更します。

最大ページ数の変更方法

標準設定では、同時に開けるページ数は 10 ページまでです。複数のページを開いている場合、5 ページまでは(どのページが一番最近アクセスされたかに基づいて)自動的に更新されます。それ以外の開いているページは、選択されたときに更新されます。

これらの制限は、マイ・ワークスペースおよびサービス状況の両方に適用されます。

このセクションでは、これらの制限を変更する方法について説明します。これらの制限値を大きくすると、パフォーマンスが低下する可能性があります。

開けるページまたはアクティブ・ページの最大数の変更

[マイ・ワークスペース]およびサービス状況で、開けるページの制限または自動的に更新されるページ数を変更するには、インフラストラクチャ設定を開きます。

[管理] > [セットアップと保守] > [インフラストラクチャ設定]


1. [アプリケーション] > [MyBSM] を選択します。
2. [MyBSM - 一般] 領域で、[開けるページの最大数] または [アクティブ ページの最大数] の項目を必要に応じて変更します。

ページの最大数を増やすと、パフォーマンスに影響する可能性があります。

画面キャプチャ用アプレットを有効にする方法

標準設定では、画面キャプチャ用アプレットは無効になっています。画面キャプチャ用アプレットを有効にすると、ページを保存するたびに画面のスクリーン・ショットが撮影されます。これらのスクリーン・ショットは、ページ・ギャラリーにサムネイルとして表示されます。

画面キャプチャ用アプレットを有効にするには、次の手順を実行します。

1. インフラストラクチャ設定に移動します。
[管理]>[セットアップと保守]>[インフラストラクチャ設定]
2. [アプリケーション]>[マイ ワークスペース]を選択します。
3. [マイ ワークスペース - 一般]領域で、 **設定の編集** ボタンをクリックして[画面キャプチャアプレットの有効化]オプションをオンにします。
4. [設定の編集]ダイアログ・ボックスで、[値]フィールドに関連付けられたドロップダウン・リストで **true** を選択します。標準設定値は false です。
5. [保存]をクリックします。

[マイ ワークスペース] のトラブルシューティング

[マイ ワークスペース] のページおよびコンポーネントが欠落している

実行中の OMi デプロイメントでデータベースを変更した場合、[マイ・ワークスペース]にはページおよびコンポーネントがなくなります。ページおよびコンポーネントを復元するには、次の手順を実行します。

1. ディレクトリ
`<OMi_HOME_GATEWAY>/conf/uimashup/import`
これには、loaded と toload の 2 つのディレクトリが含まれています。
2. loaded ディレクトリの内容を toload ディレクトリにコピーします。
3. OMi を再起動します。

第III部：ダッシュボード

ダッシュボードには、環境の状況の概要がグラフィック形式で表示されます。データはリアルタイムで更新されるため、常に最新の情報が表示されます。OMiには標準設定で次のダッシュボードがあります。

- **監視ダッシュボード**：(以前のイベント・ダッシュボード)監視ダッシュボードには、監視対象となっている環境内のイベントの概要が示されます。監視ダッシュボードの使用により、環境の状況をすばやく評価でき、また、注意を要する領域を特定できます。詳細については、「[監視ダッシュボード](#)」(233ページ)を参照してください。
- **360°**：このページには、選択したビューのCIのステータスに関する概要が表示されます。ビュー内のCIの階層、各CIに割り当てられたKPI、それらのKPIステータスが表示されます。詳細については、「[360° View](#)」(242ページ)を参照してください。
- **経過時間ごとのKPI**：経過時間ごとのKPIダッシュボードでは、選択したKPIおよびCIのステータスまたは値を、経過時間ごとに表示できます。このレポートでは、多数のレイアウトから選択してステータスと値を一目で監視できます。詳細については、「[経過時間ごとのKPIダッシュボード](#)」(243ページ)を参照してください。
- **ROIダッシュボード**：(投資利益率)ROIダッシュボードには、OMiが受信したイベントと、オペレータによる介入が必要であったイベントで自動処理したものの比率が表示されます。自動処理されたイベントの比率が高いほど、OMiによるインフラストラクチャ管理への貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動で処理するコストがわかっている場合、この値をOMiに入力できます。この値に基づき、OMiによって達成されたコスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMiによってIT環境が監視されている間の任意の指定期間について表示できます。詳細については、「[投資利益率ダッシュボード](#)」(247ページ)を参照してください。

第13章: 監視ダッシュボード

監視ダッシュボードには、監視対象となっている環境内のイベントの概要が示されます。監視ダッシュボードの使用により、環境の状況をすばやく評価でき、また、注意を要する領域を特定できます。

たとえば、オペレータは監視ダッシュボードを次の目的で使用できます。

- 監視対象の環境の概要を把握する。
- さまざまな OMi コンポーネントの状況ステータスを確認する。
- 日々の管理操作の開始点にする。
- イベント・フィルタをイベント・ブラウザにすばやく適用する。

監視ダッシュボードは、複数のタイプのウィジェット(スタック・ウィジェットやパイ・ウィジェットなど)を使用してステータス情報を表示します。各ウィジェットはイベント・フィルタ、ビュー、またはその両方を参照し、フィルタの基準に一致し、参照ビューに含まれている構成項目に関連しているイベントのステータスのみを表示します。

OMi では、監視ダッシュボードはマイ・ワークスペースコンポーネントとして使用可能で、必要に応じてマイ・ワークスペース ページに追加できます。

利用方法

[ワークスペース]> [ダッシュボード]> [監視ダッシュボード]

注: また、選択したコンポーネントを使用してカスタム・ページを作成することもできます。[マイワークスペース]のページおよびコンポーネントを使用した作業方法の詳細については、「[\[マイワークスペース\]のセットアップ方法](#)」(220ページ)を参照してください。

詳細

本項の内容

- 「[監視ダッシュボードとほかのマイ・ワークスペースコンポーネントとの結合](#)」(233ページ)
- 「[監視ダッシュボード](#)」(233ページ)
- 「[ダッシュボードのプリファレンス](#)」(237ページ)

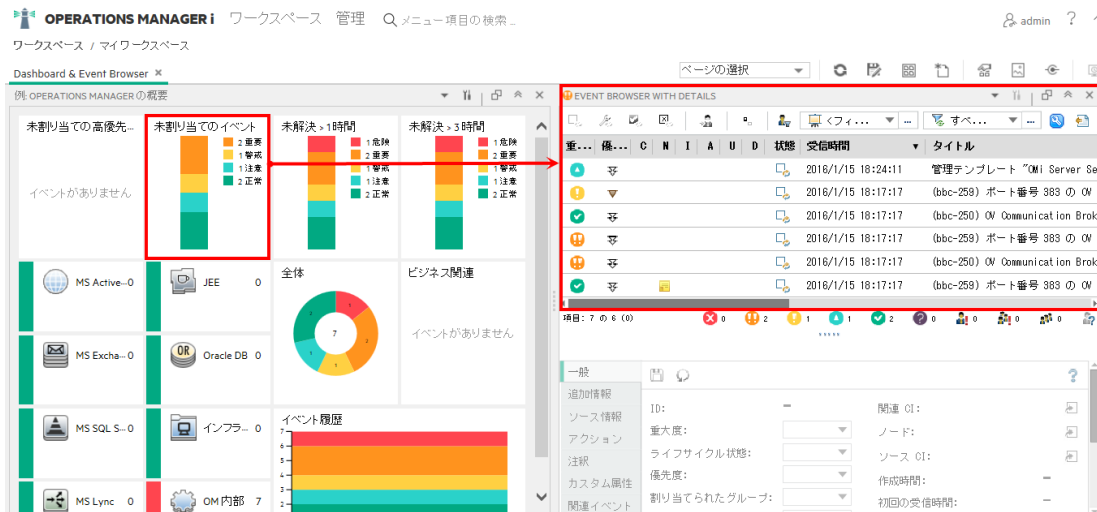
監視ダッシュボードとほかのマイ・ワークスペースコンポーネントとの結合

マイ・ワークスペース ページは、一緒に表示され、相互作用し合う複数のコンポーネントで構成されています。ページ内では、コンポーネント間での情報の交換が可能のため、1つのコンポーネントが別のコンポーネントで発生した変更に対応できます。

たとえば、監視ダッシュボードのコンポーネントをイベント・ブラウザのコンポーネントまたはトップ・ビューのコンポーネントと結合することが可能です。ウィジェットをクリックすることで、コンテキストがイベント・ブラウザとトップ・ビューに渡されます。イベント・ブラウザはイベント・フィルタまたはビューに一致するイベントのみを表示する、という反応をします。トップ・ビューはウィジェットに関連付けられたビューのみを表示する、という反応をします。

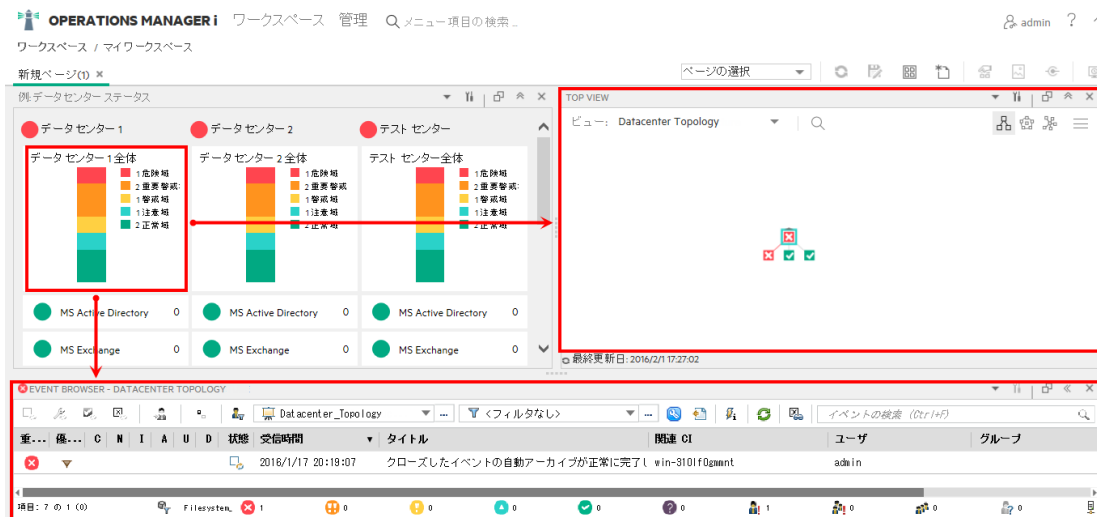
・ 例 : 監視ダッシュボードおよびイベント・ブラウザ

未割り当てのイベントウィジェットをクリックすると、イベント・ブラウザは[未割り当てのイベント]イベント・フィルタに一致するイベントのみを表示します。



・ 例 : 監視ダッシュボードおよびトップ・ビュー

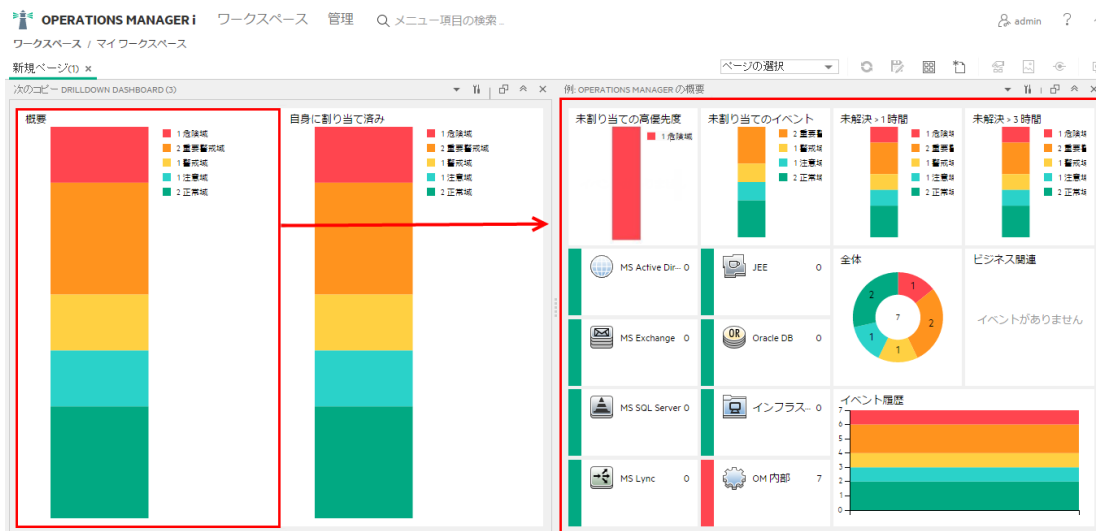
データセンター 1 全体ウィジェットをクリックすると、トップ・ビューがそのウィジェットに関連付けられている[Datacenter トポロジ]ビューを表示するようになります。また、イベント・ブラウザがデータセンター 1 全体イベント・フィルタに一致するイベントのみを表示するようになります。



・ 例 : 同じページの親およびドリルダウン・ダッシュボード

概要ウィジェットをクリックすると、ドリルダウン・ダッシュボード[例 : Operations Manager の概要]が同じページの 2 番目のダッシュボード内に表示されます。このドリルダウン・ダッシュボードを表示するには、「コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法」(227ページ)に説明されているように、2 つのダッシュボード間のワイヤリングを構成する必要があります。

注: コンポーネント内の最初のダッシュボードのドリルダウン・ダッシュボードを表示するには、コンポーネントの右下隅にあるドリルダウン・アイコンを使用します。この機能を無効にするには、親コンポーネントの[プリファレンス]ダイアログの[コンポーネント内のドリルダウン ダッシュボードを開く]オプションを選択解除します。



・ マイ・ワークスペース のコンテキスト・ワイヤリング

監視ダッシュボードのコンポーネントは、次のワイヤリング・コンテキストをターゲット・コンポーネントに送信します。

- **EventDashboardClickEvent** : イベント・ブラウザは EventDashboardClickEvent コンテキストに対して、ダッシュボード・ウィジェットに関連付けられているフィルタまたはビューに一致するイベントのみを表示する、という反応をします。

注: 複数の監視ダッシュボードを開いていて、そのうちの1つにドリルダウン・ダッシュボードが構成されている場合、ほかの監視ダッシュボードは最初のダッシュボード・ウィジェットのドリルダウン・ダッシュボードを表示することによって EventDashboardClickEvent コンテキストに反応します。

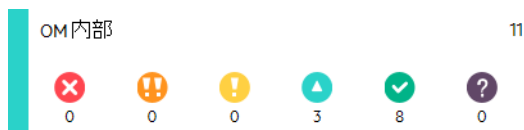
- **ViewChange** : ViewChange コンテキストは、たとえばトップ・ビューなどの多数のコンポーネントによって消費されます。

ワイヤリングの詳細については、「[コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法](#)」(227ページ)を参照してください。

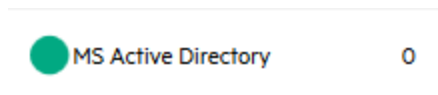
監視ダッシュボードにはさまざまなウィジェットのタイプを含めることができます。Overview, Simple Status, Group など、一部のタイプのウィジェットでは、最も致命的なイベントの重要度を反映した色分け表示(たとえば、重大度が危険域の場合は赤)により、監視対象の領域のステータスを迅速に判断できます。重大度ごとのイベントの数も表示されます。

監視ダッシュボードに組み込むことが可能なウィジェットのタイプは次のとおりです。

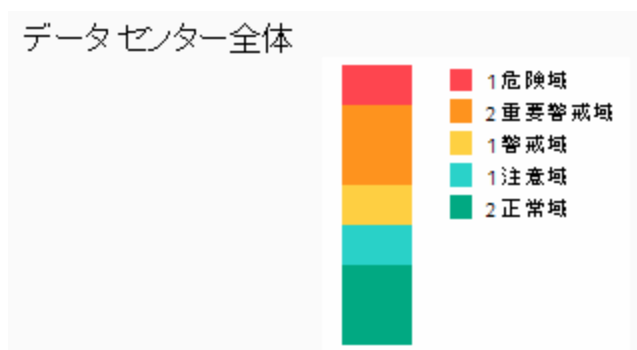
- **Overview ウィジェット** : 右上隅の数字はフィルタやビューに一致するすべてのイベントの数を示します。Overview ウィジェットは標準およびコンパクト・モードで表示可能です。コンパクト・モードでは、重大度のアイコンと対応する数字が非表示になります。



- **Simple Status ウィジェット**

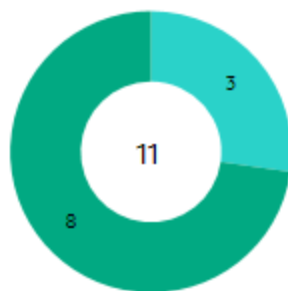


- **Stack ウィジェット**

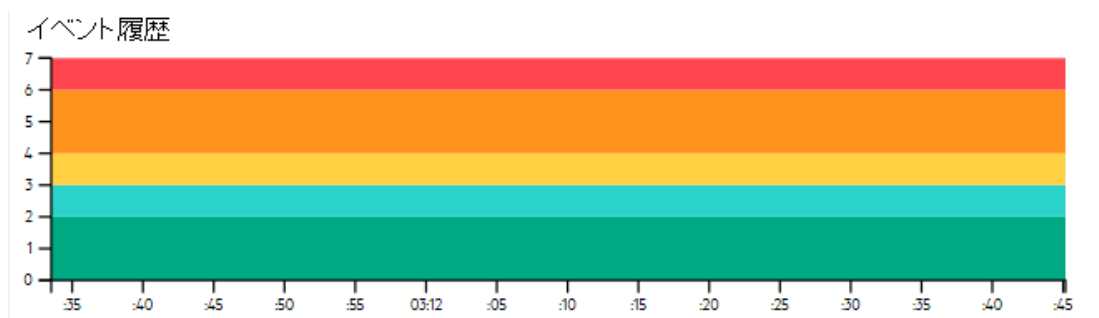


- **Pie ウィジェット**

全体のステータス

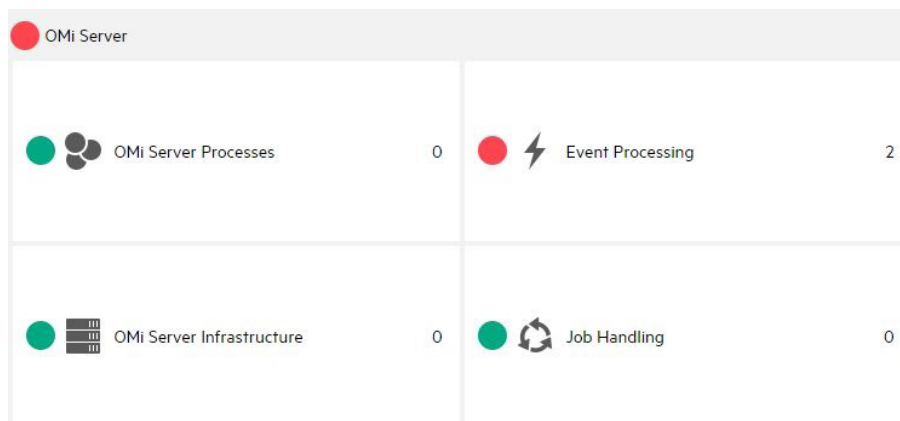


- **History ウィジェット** : History ウィジェットは、横軸に時間を、縦軸に重大度ごとのイベント数を表示します。



- **Group ウィジェット** : Group ウィジェットは、共通の見出し(下記の例では OMi Server)の下で複数のウィジェットをグループ化します。

タイトル・バーの「ランプ」の色はグループ内の最大危険域イベントの重大度を示します。グループ内のウィジェットがステータス情報を表示しない場合(たとえば、フィルタに一致するイベントがない場合など)、グループ・ウィジェットはステータス情報を表示しません。



ダッシュボードのプリファレンス

- **名前** : 監視ダッシュボードの名前。マイ・ワークスペースユーザは名前で監視ダッシュボード構成を選択します。

注: 監視ダッシュボードの名前は、監視ダッシュボードを構成した[管理]から変更できます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

- **ビュー・モード** : ダッシュボードの[詳細]表示枠で、選択した監視ダッシュボードの表示サイズを変更します。選択可能なオプションは、[コンパクト]、[中]、[大]です。
- **暗いテーマの使用** : HPE の暗いテーマを使用するように、監視ダッシュボードの外観を変更します。
- **クリックでイベント ブラウザを開く** : このオプションは、ウィジェットをクリックしたときに、イベント・ブラウザをポップアップ・ウィンドウで開くように、監視ダッシュボードを構成します。このオプションを選択すると、マイ・ワークスペース ページからイベント・ブラウザを除外することによって、ページの領域を節約できます。イベント・ブラウザはオンデマンドで新しいウィンドウで開きます。
- **コンポーネント内のドリルダウン ダッシュボードを開く** : 選択したコンポーネント内でドリルダウン・ダッシュボードを開きます。このオプションの詳細については、「[監視ダッシュボードの表示方法](#)」(238ページ)を参照してください。
- **フィルタ エラーの非表示** : フィルタ・エラーを表示しません。フィルタに対する権限がない場合、またはフィルタが存在しない場合、ウィジェットに感嘆符アイコン(▲)が表示されます。ウィジェットの上にマウス・ポインタを置くと、エラー・メッセージのツールチップが表示されます。これらのエラーの例については、「[トラブルシューティング](#)」(240ページ)を参照してください。このオプションを有効にすると、これらのウィジェットは空で表示されます。

タスク

本項の内容

- 「監視ダッシュボードの表示方法」(238ページ)
- 「[マイワークスペース]での監視ダッシュボード・ページの作成方法」(239ページ)
- 「ダッシュボードにドリルダウンする方法」(240ページ)

監視ダッシュボードの表示方法

注: ユーザ定義の[マイワークスペース]ページを表示するには、管理者が[管理]>[ユーザ]>[ユーザ、グループ、およびロール]でユーザに適切な権限を持つロールを付与する必要があります。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

監視ダッシュボードを表示するには、次の手順を実行します。

1. [ワークスペース]>[マイワークスペース]に移動します。
2. 事前定義された OMi 監視ダッシュボード・ページ、または権限を持つほかのユーザ定義の監視ダッシュボード・ページを選択します。
3. [コンポーネントの構成]ダイアログ・ボックスを開いて、[ダッシュボード構成を選択してください]ドロップダウン・リストからダッシュボード構成を選択します。

ドロップダウン・リストに監視ダッシュボード構成が表示されていない場合、OMi 管理ガイドの説明に従って、管理者が監視ダッシュボード構成を最初に作成する必要があります。

監視ダッシュボードを[マイワークスペース]の外部に表示するには、次の手順を実行します。

1. 次の URL を使用して、[マイワークスペース]外部の Web ブラウザに監視ダッシュボードのページを表示できます。

```
https://<server_name>.<domain_name>/opr-  
web/dashboard/app?dashboardId=<dashboard_id>
```

注: コンポーネント内でドリルダウン・ダッシュボードを有効にするには、次の URL を代わりに使用します。

```
https://<server_name>.<domain_name>/opr-  
web/dashboard/app?dashboardId=<dashboard_id>&enableDrillDownWithin=true
```

2. [ダッシュボード構成を選択してください]ドロップダウン・リストで、監視ダッシュボード・ページを 1 つ選択します。

選択した監視ダッシュボード・ページが開き、[中]のビューで表示されます。ビューを[コンパクト]または[大]に変更するには、ViewMode パラメータを次のように適宜設定します。

監視ダッシュボードの URL に次のパラメータを設定できます。

- **dashboardId** : 監視ダッシュボードの ID。監視ダッシュボードに直接アクセスできます。特定の監視ダッシュボードを表示するには、次のように dashboardId パラメータを URL に追加します。

```
http://<server_name>.<domain_name>/opr-web/dashboard/app?dashboardId=<dashboard_<br>id>
```

ヒント: 監視ダッシュボード ID は、ダッシュボード・デザイナーのダッシュボードのプロパティに表示されます。

- **eventBrowserOnClick** : 標準設定で、スタンドアロンの監視ダッシュボードのウィジェットをクリックするとスタンドアロンのイベント・ブラウザが開き、関連するイベント・フィルタの基準に一致し、参照ビューに

含まれる構成アイテムに関連するイベントのステータスを表示します。この動作を無効にするには、URL の `eventBrowserOnClick` パラメータを `false` に設定します。

```
https://<server_name>.<domain_name>/opr-  
web/dashboard/app?eventBrowserOnClick=false&dashboardId=<dashboard_id>
```

この設定を再び有効にするには、パラメータを省略するか、`true` (標準設定値) に設定します。

- **enableDrillDownWithin** : 同じコンポーネント内のダッシュボードのドリルダウン・ダッシュボードを表示するには、コンポーネントの右下隅にあるドリルダウン・アイコンを使用します。次のように `enableDrillDownWithin` パラメータに標準設定値の `true` が設定されている場合に、このアイコンは有効になります。

```
https://<server_name>.<domain_name>/opr-  
web/dashboard/app?enableDrillDownWithin=true&dashboardId=<dashboard_id>
```

ウィジェットをクリックしたらずぐにドリルダウン・ダッシュボードが開くようにするには、`enableDrillDownWithin` パラメータに `onClick` を設定します。

この機能を無効にするには、親ダッシュボードの[プリファレンス]ダイアログの[コンポーネント内のドリルダウンダッシュボードを開く]オプションを選択解除するか、`enableDrillDownWithin` パラメータに `false` を設定します。

- **viewMode** : 監視ダッシュボードを 3 種類のビュー・モード ([コンパクト], [中], [大]) で表示します。[コンパクト] モードを選択した場合、フォント・サイズが縮小され、使用される表示領域が少なくなります。同様に、[大] モードは大きいフォントでテキストを表示するために使用します。これは、たとえば、ウィジェットのヘッダラインで役に立ちます。目的のモードを有効にするには、URL で `viewMode` パラメータに `compact`, `medium`, `large` を設定します。

```
https://<server_name>.<domain_name>/opr-web/dashboard/app?viewMode=<view_  
mode>&dashboardId=<dashboard_id>
```

標準設定のビュー・モードは [コンパクト] です。

[マイワークスペース]での監視ダッシュボード・ページの作成方法

1. メニュー・バーで [マイワークスペース] を選択します。
2. 新しいページを作成します。
3. 任意指定。ページのレイアウトを設計します。
たとえば、監視ダッシュボードとイベント・ブラウザの両方を 1 つのページに表示するには、ページを 2 つの水平表示枠に分割します。
4. [コンポーネント ギャラリー] を開き、[イベント管理] カテゴリを選択します。[監視ダッシュボード] コンポーネントを選択し、作成中のページにドラッグします。
5. ダッシュボードを構成し、[OK] をクリックします。

注:

- ダッシュボードの構成を [マイワークスペース] ページにロードするには、管理者は [ユーザ、グループ、およびロール] でユーザに監視ダッシュボードに対する適切な権限を与える必要があります。

[管理] > [ユーザ] > [ユーザ、グループ、およびロール]

詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

- 管理者は[管理]の監視ダッシュボード・ページで監視ダッシュボードを作成します。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
- OMi コンテンツ・パックのOOTB コンテンツは、監視ダッシュボードによって、ユーザの環境監視がどの程度向上するかを示すための数個の監視ダッシュボード構成を備えています。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

6. 任意指定。▼[コンポーネント メニュー]をクリックして、監視ダッシュボード・コンポーネントのプリファレンスやワイヤリングを構成します。
 - [プリファレンス]をクリックして、名前、ビュー・モード([コンパクト], [中], [大]), ウィジェットをクリックしたときにイベント・ブラウザを開く方法などを変更します。詳細については、「[ダッシュボードのプリファレンス](#)」(237ページ)を参照してください。
 - [ワイヤリング]をクリックして、「[\[ワイヤリング\]ダイアログ・ボックス](#)」(218ページ)を開きます。監視ダッシュボードのコンポーネントには、標準設定のワイヤリングが含まれます。この標準設定のワイヤリング定義は、必要に応じて変更できます。
7. 任意指定。ユーザのページに、トップ・ビュー、イベント・ブラウザのコンポーネントなどほかのコンポーネントを追加します。
8. [OK]をクリックして、ユーザのページをページ・ギャラリーに保存します。

ダッシュボードにドリルダウンする方法

1. メニュー・バーで[マイ・ワークスペース]を選択します。
2. ドリルダウン・ダッシュボードが構成されているダッシュボードを開きます。ドリルダウン・ダッシュボードを持つウィジェットには、右下隅にドリルダウン・アイコンがあります。
3. ドリルダウン・アイコンをクリックして、このウィジェットに関連付けられているダッシュボードにドリルダウンします。ドリルダウン・ダッシュボードは、親ダッシュボード・ウィジェットによって提供される情報への追加情報を提供します。

注: 親ダッシュボードに戻るには、ウィジェットの左上隅にあるナビゲーション・バーからその名前を選択します。

トラブルシューティング

ダッシュボード・ウィジェットの一一致するイベント・フィルタが見つかりませんでした

ウィジェットの上にマウス・ポインタを置いたときに、感嘆符アイコン(▲)と「ダッシュボード ウィジェットの一一致するイベント フィルタが見つかりませんでした」というツールチップのみが含まれた監視ダッシュボードのウィジェットが表示される場合は、このフィルタに対する必要な権限がないか、フィルタが削除されている可能性があります。

ダッシュボード・ウィジェットが空です

監視ダッシュボードのウィジェットが空である場合は、このフィルタに対する必要な権限がないか、フィルタ

が削除されている可能性があります。権限について管理者に確認してください。

ダッシュボード・ウィジェットに一致するビュー・フィルタがありません

ウィジェットの上にマウス・ポインタを置いたときに、感嘆符アイコン(▲)と「ダッシュボード ウィジェットに一致するビュー フィルタがありません」というツールチップのみが含まれた監視ダッシュボードのウィジェットが表示される場合は、参照された RTSM ビューが存在しません。

ダッシュボード・ウィジェットの一致するイベント・フィルタが複数見つかりました

ウィジェットの上にマウス・ポインタを置いたときに、感嘆符アイコン(▲)と「ダッシュボード・ウィジェットの一致するイベント フィルタが複数見つかりました」というツールチップのみが含まれた監視ダッシュボードのウィジェットが表示される場合は、複数のフィルタが同じ名前を持っているため、監視ダッシュボードはウィジェットで使用するフィルタを特定できません。

ダッシュボード・ウィジェットのビュー・フィルタをクリアする権限がありません

ウィジェットの上にマウス・ポインタを置いたときに、感嘆符アイコン(▲)と「ダッシュボード ウィジェットのビュー フィルタをクリアする権限がありません」というツールチップのみが含まれた監視ダッシュボードのウィジェットが表示される場合は、すべてのイベントを表示するためにビューベースのフィルタを削除する権限がない可能性があります。[表示フィルタのクリア]の設定の詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

ダッシュボード・ウィジェットのビュー・フィルタを設定する権限がありません

ウィジェットの上にマウス・ポインタを置いたときに、感嘆符アイコン(▲)と「ダッシュボード ウィジェットのビュー フィルタを設定する権限がありません」というツールチップのみが含まれた監視ダッシュボードのウィジェットが表示される場合は、参照されるビューに対する必要な権限がない可能性があります。ユーザへのビューの割り当ての詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

誤ったダッシュボード構成が選択されました

ダッシュボード構成を選択したがそれを変更する場合は、右隅のメニューから[コンポーネントの構成]ダイアログ・ボックスを開いて、[ダッシュボード構成を選択してください]ドロップダウン・リストから目的のダッシュボードを選択します。

第 14 章: 360° View

このページには、選択したビューの CI のステータスに関する概要が表示されます。ビュー内の CI の階層、各 CI に割り当てられた KPI、それらの KPI ステータスが表示されます。

階層コンポーネント内の CI を選択すると、その詳細リンクを表示できます。詳細リンクをクリックすると、次のコンポーネントにアクセスできます。ビジネス影響度、状況インジケータ、警告、変更およびインシデント。

このページは、サービス状況 アプリケーションから取得されます。

利用方法

[ワークスペース]> [ダッシュボード]> [360° View]

タスク

本項の内容

- [「360° View ダッシュボードを\[マイ ワークスペース\]コンポーネントとして表示する方法」\(242ページ\)](#)

360° View ダッシュボードを[マイ ワークスペース]コンポーネントとして表示する方法

360° View ダッシュボードは、[マイ ワークスペース]コンポーネントとして表示できます。

コンポーネントの詳細については、[「ページへのコンポーネントの追加」\(220ページ\)](#)を参照してください。

[マイ ワークスペース]の詳細については、[「\[マイ ワークスペース\]を使用した環境の監視」\(201ページ\)](#)を参照してください。

ワイヤリングの詳細については、[「コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法」\(227ページ\)](#)を参照してください。

第15章: 経過時間ごとのKPI ダッシュボード

経過時間ごとのKPI ダッシュボードでは、選択した経過時間ごとのKPI およびCI のステータスやステータス・サマリを表示できます。ダッシュボードでは、KPI ステータス・データの履歴やモニタ対象環境の状況を一目で確認できる多数のウィジェットを選択できます。

利用方法

[ワークスペース]> [ダッシュボード]> [KPI 経過時間]

詳細

本項の内容

- ・ [「経過時間ごとのKPI ダッシュボードをページとして使用」\(243ページ\)](#)
- ・ [「\[構成アイテム\]ダイアログ・ボックス」\(244ページ\)](#)
- ・ [「\[主要管理指標\]ダイアログ・ボックス」\(244ページ\)](#)
- ・ [「ウィジェットのタイプ」\(245ページ\)](#)
- ・ [「経過時間ごとのKPI ダッシュボードをコンポーネントとして使用」\(245ページ\)](#)

経過時間ごとのKPI ダッシュボードをページとして使用

ダッシュボードには、各構成アイテムのステータスや、アタッチされている主要管理指標(KPI)の各インスタンスが表示されます。頻繁に使用されるKPIは、未割り当てや未解決のイベント、およびシステム、ネットワーク、ソフトウェアのパフォーマンスや可用性などです。ダッシュボードは、ビジネス・サービス、アプリケーション、ビジネス・プロセスなどの高レベルの構成アイテム(CI)についてのKPI情報を提供します。

たとえば、OMi ユーザがヨーロッパ、USA、アジアのクラウド環境の監視を設定したとします。最上位レベルのビジネス・サービスと基盤のクラウド・インフラストラクチャを表すCIが作成されています。

システム・パフォーマンス、システム可用性、ネットワーク・パフォーマンス、ネットワーク可用性のKPIが各環境で計算されます。現在のKPIステータスを表示する「マイクラウド」というビューが作成されています。



ヨーロッパのクラウドの現在のKPIステータスは赤(危険域)です。OMi ユーザは問題を修正し、ほかのクラウド環境よりもヨーロッパの問題が多いかどうかを調べることを決定します。

OMi ユーザは経過時間ごとのKPI ダッシュボードの「マイクラウド」ビューにアクセスし、3つの最上位レベル(ヨーロッパのクラウド、USAのクラウド、アジアのクラウド)を選択します。次に、ユーザは1か月前から現在までを選択します。経過時間ごとのKPI ダッシュボードには、先月の3つのCIごとに4つのKPIのステータスが表示されます。

これで、OMi ユーザは、ほかのクラウド環境と比較したヨーロッパのクラウドのステータスに関する情報を取得しました。

経過時間ごとのKPI ダッシュボードの移動

矢印ボタンを使用して、履歴データを移動できます。ダッシュボードに表示される時間ウィンドウを選択するには、[日]、[週]、[月]を選択します。移動する時間を選択するには、[時間]、[日]、[週]ボタンを使用します。

 [開始時間の選択] ボタンを使用すると、特定の時点に簡単にアクセスできます。また、 現在 [現在の時間に移動] ボタンを使用すると、ダッシュボードがリセットされて、現在の日時が表示されます。

ウィジェットに表示されるデータを視覚的にフィルタできます。これは、現在の選択内容に基づいて自動的に再計算されます。

フィルタの選択内容をリセットするには、[フィルタのクリア] をクリックします。フィルタの選択内容を変更するには、削除するフィルタをクリックします。

• 重要情報

ダッシュボードには、永続的な KPI を持つ CI のデータのみが表示されます。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。


CI に対して [この CI に対する経過時間ごとの KPI データの保存] オプションが選択されていることを確認してください。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。

ダッシュボードには、選択した KPI のステータスのみが表示されます。これらの KPI は、RTSM 内に値を持っている場合もありますが、ダッシュボードには表示されません。

モニタ CI 以外のすべての CI のショートカットメニューには、[経過時間ごとの KPI レポート] オプションが含まれています。

[構成アイテム] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、中に、経過時間ごとの KPI ダッシュボードに含める CI を選択できます。ダッシュボードには、ここで選択した CI に基づいた情報が表示されます。


経過時間ごとの KPI ダッシュボードにアクセスしたときにデータを表示するには、 [構成アイテムを選択] ボタンをクリックして、CI のダイアログ・ボックスを開きます。

次に示す基準を満たす CI のみを選択で利用できます。

- KPI がアタッチされた CI。
- 一定期間、KPI データ(履歴データ)を保存するようにフラグが付けられた CI。詳細については、OMi 管理ガイドを参照してください。
- RTSM において [一定時間内レポートのための KPI 履歴を保存する] 属性値が true に設定されている CIT 属性を持つ CI。


[主要管理指標] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、中に、経過時間ごとの KPI ダッシュボードに含める KPI を選択できます。ダッシュボードには、ここで選択した KPI に基づいた情報が表示されます。

CI の主要管理指標を表示するには、 [主要管理指標をフィルタ] ボタンをクリックします。[主要管理指標] ダイアログ・ボックスが開きます。

標準設定では、すべての KPI が選択されています。ダッシュボードから KPI を除外するには、この選択をキャンセルします。

ウィジェットのタイプ

経過時間ごとの KPI ダッシュボードの一部として次のウィジェットを選択できます。ウィジェットを表示するには、 [KPI ステータス ウィジェットを選択] ボタンをクリックします。[ウィジェット] ダイアログ・ボックスが

開きます。

- **構成アイテム単位のステータス(ヒート・マップ)**

ヒート・マップ・ウィジェットには、レポート精度で定義された間隔で、選択した CI の KPI データが表示されます(x 軸の凡例には、各ポイントの時間間隔が表示されます)。各タイルは、時間枠全体の特定の期間を表します。

ヒート・マップをフィルタするには、ダッシュボード・ヘッダ・ボタン、1 つ以上のタイル、ウィジェットの下部にあるタイムスタンプをクリックします。グラフの時刻フッタにある任意の時間セグメントをクリックし、その期間中のすべての CI と KPI の情報を表示できます。ヒート・マップ・タイルをクリックすると、ほかのウィジェットで表示されるデータをフィルタできます。

各ヒート・マップ・タイルには、その時間単位で最も重要な KPI ステータスが表示されます。

- **パーセンテージ単位のステータス(円グラフ)**

円グラフ・ウィジェットは、CI の KPI インスタンスの合計を表し、選択した時間間隔における KPI のステータスの概要を示します。円グラフは、色付けされたステータスのスライスに分けられます。各スライスは、KPI が特定のステータスを維持する時間のパーセンテージを示します。同じ期間で発生している場合、より重要なステータスが優先されます。

- **ステータスの詳細(テーブル)**

テーブル・ウィジェットには、各 CI の KPI ステータスの変更に関する詳細情報が表示されるため、詳細な調査を行う場合に便利です。

- **OK ステータスのパーセンテージ(数値)**

OK ステータスのパーセンテージ・ウィジェットには、選択したすべての CI および KPI が OK ステータスであった時間のパーセンテージが表示され、監視対象時間ウィンドウのパーセンテージとして稼働時間のわかりやすい概要が提供されます。

- **OK 以外のステータスの時間(数値)**

OK 以外のステータスの時間ウィジェットには、選択した CI および KPI のいずれかが OK ステータスでなかった実際の時間が表示され、KPI のダウンタイム全体のわかりやすい概要が提供されます。

- **トレンド(棒グラフ)**

各カラムには、経過時間ごとのほかのすべてのステータスに対する OK ステータスのパーセンテージが表示されます。たとえば、ある KPI が期間中に [OK] ステータスを 80%、[注意域] ステータスを 20% 維持している場合、棒グラフには 80% の OK ステータスが表示されます。

- **トレンド(スパークライン)**

スパークラインには、すべてのステータスの組み合わせに基づいて、選択した CI の KPI のステータス・トレンドが表示されます。注意域レベル・ラインでは、ステータス・トレンド全体をすばやく確認して評価できます。フィルタが適用されていない場合、スパークライン・ウィジェットには、ヒート・マップ・スパークラインに表示される最も重要なステータスのトレンドが表示されます。

経過時間ごとの KPI ダッシュボードをコンポーネントとして使用

- コンポーネントの詳細については、「[ページへのコンポーネントの追加](#)」(220 ページ)を参照してください。




- [マイワークスペース]の詳細については、「[マイワークスペース]を使用した環境の監視」(201ページ)を参照してください。
- ワイヤリングの詳細については、「コンポーネント間のワイヤリングのセットアップ方法」(227ページ)を参照してください。

タスク

本項の内容

- 「経過時間ごとの KPI ダッシュボードでの CI および KPI の表示方法」(246ページ)

経過時間ごとの KPI ダッシュボードでの CI および KPI の表示方法

1.  [構成アイテムを選択] ボタンをクリックして、CI のダイアログ・ボックスを開きます。KPI データのある CI を選択して、ビューを検索、参照できます。
ビューの参照 : [構成アイテム] ダイアログ・ボックスの標準設定モード。ビューと CI を選択できます。
検索 : [検索] リンクをクリックすると、検索モードに移行します。
[OK] をクリックすると、現在表示されているビューで選択した CI のみがダッシュボード・フィルタ用に保存されます。[OK] をクリックする前に別のビューを選択すると、以前選択した CI はすべて破棄されます。
経過時間ごとの KPI ステータスを表示する CI を選択します。標準設定では、CI が選択されるまでダッシュボードにデータは表示されません。詳細については、「[構成アイテム] ダイアログ・ボックス」(244ページ)を参照してください。
2. 任意指定。  [主要管理指標をフィルタ] ボタンをクリックして、KPI のダイアログ・ボックスを開き、表示する KPI を選択、選択解除します。詳細については、「[主要管理指標] ダイアログ・ボックス」(244ページ)を参照してください。
標準設定では、選択した CI のすべての KPI が事前に選択されています。
3. 任意指定。  [KPI ステータス ウィジェットを選択] ボタンをクリックして、ウィジェットのダイアログ・ボックスを開き、1 つ以上のウィジェットを選択します。標準設定では、ヒート・マップが選択されています。詳細については、「ウィジェットのタイプ」(245ページ)を参照してください。
4. 任意指定。経過時間ごとの KPI コンポーネントの更新頻度(標準設定では[なし])や表示名を変更するには、コンポーネント・ツールバーで ▼ をクリックして、[プリファレンス] をクリックします。
ヒント: ダッシュボードをコンポーネントとして表示する場合、[プリファレンス] ダイアログ・ボックスでウィジェットの選択を変更できます。
5. ウィジェットに表示されるデータを視覚的にフィルタできます。これは、現在の選択内容に基づいて自動的に再計算されます。フィルタの選択内容をリセットするには、[フィルタのクリア] をクリックします。フィルタの選択内容を変更するには、削除するフィルタをクリックします。

第16章: 投資利益率ダッシュボード

本項では、OMi インストールの有効性を監視するために使用する、投資利益率ダッシュボードのユーザーインターフェースについて説明します。

利用方法

[ワークスペース]> [ダッシュボード]> [投資利益率]

詳細

投資利益率の概要

投資利益率ダッシュボードには、オペレータによる介入が必要であったイベントに対する、OMi によって受信され自動処理されたイベントの比率が表示されます。自動処理されたイベントの比率が高いほど、OMi によるインフラストラクチャ管理への貢献度が高くなります。一般的なイベントを手動で処理するコストがわかっている場合、この値を OMi に入力できます。この値に基づき、OMi によって達成されたコスト節約の合計を表示できます。これらの統計情報は、OMi によって IT 環境が監視されている間の任意の指定期間について表示できます。

OMi は、次のような幅広い自動化機能を使用してイベントを処理するように設定できます。

- イベント・フィルタに基づくイベント抑制ルール。このいずれかのルールに一致するイベントは、処理が行われません。
- 重複イベント抑制では、重複するイベントの発生を検出し、イベント・キーなどのイベント属性に基づく重複を抑制したり、新しいイベントの設定可能な一連の属性に既存のイベントと同じ値がある場合に重複を抑制します。
- 関連イベントの状態の自動的な変更は、終了キー・パターンまたは状況の要因となる ETI を使用する基本のイベント相関です。この相関処理では、既存のイベントのライフサイクル状態を closed または resolved に変更できます。
- ストリームベースのイベント相関 (SBEC) では、ルールとフィルタを使用して、通常発生しているイベントまたはイベントの組み合わせを識別します。また、未公表扱いもしくは削除が可能なイベント、または、オペレータに生成、表示する新規イベントを必要とするイベントを自動的に識別することによって、このようなイベントの処理を簡素化できます。
- トポロジベースのイベント相関 (TBEC) では、RTSM トポロジ情報を使用してイベント間の関係を自動的に判別し、要因イベントを注意が必要なイベントとして強調表示した上で、症状イベントを抑制します。
- 自動アクションは、Operations Agent を実行しているシステムなどのターゲットでオペレータの介入なしに自動的に実行できます。OMi-OO 統合が設定されている場合、アクションによって Operations Orchestration ラン・ブックをトリガできます。詳細については、『OMi - Operations Orchestration 統合ガイド』を参照してください。
- 時間ベースのイベント自動化機能は、特定の期間後にイベントの優先度を高くしたり、失敗したアクションを自動的に時間ベースで再起動するなど、イベントの処理を詳細に調整するために使用できます。

投資利益率のユーザ・インタフェース

投資利益率ダッシュボードでは、次の機能を使用して情報が表示されます。

円グラフ

2セクタ円グラフには、OMiで自動処理されたイベントと、イベント・ブラウザが実際に受信した対話型操作を必要とするイベントの比率が表示されるため、IT組織にとってのOMiの価値を直ちに視覚化できません。

イベントの合計

選択した期間中にIT環境からOMiが受信したイベントの総数が表示されます。

OMiによる削減

選択した期間中にOMiが自動処理したイベントの数が表示されます。

積み重ねグラフ

積み重ねグラフには、OMiオペレータが処理したイベントに対する自動処理されたイベントの比率が、事前に設定された期間に分割されて表示されます。これらの期間の粒度は、全体の期間が長くなるほど低くなります。短い期間では1時間あたり1つの棒が表示され、たとえば合計期間が数日、数週間、数か月と増えると、棒の粒度が低くなります。さらに、自動処理されたイベントのパーセンテージのトレースがグラフに重ねて表示されます。

コスト節約

[コスト節約の計算を有効化]が[オペレーション管理 - 投資利益率]インフラストラクチャ設定で有効になっており、一般的なイベントを手動で処理するコストの値がOMiで入力されている場合、選択した期間にOMiによって達成されたコスト節約の合計が表示されます。イベントおよび通貨ごとのコストの標準設定値は、[オペレーション管理 - 投資利益率]インフラストラクチャ設定で設定します。

タスク

[「ROIコスト節約の計算を設定」\(248ページ\)](#)

[「ROIダッシュボードの使用」\(249ページ\)](#)

[「投資利益率ダッシュボード」\(247ページ\)](#)

[「投資利益率ダッシュボード」\(247ページ\)](#)

[「投資利益率ダッシュボード」\(247ページ\)](#)

[「ROIダッシュボードの印刷」\(249ページ\)](#)

ROIコスト節約の計算を設定

投資利益率コスト節約の計算を設定するには、次の手順を実行します。

1. オペレーション管理のインフラストラクチャ設定を開きます。
[管理]>[セットアップと保守]>[インフラストラクチャ設定]
次のセクションへ移動します。
オペレーション管理 - 投資利益

2. [コスト節約の計算を有効化]を開き, [true]に設定するように編集(✎)します。
3. 任意指定。OMI で達成される計算されたコスト節約を表示し, 組織のイベントを手動で処理する場合の標準設定値がある場合, その値を[イベントあたりのコスト]に入力します。さらに, 所在地に応じて適切な通貨を[通貨]で設定します。
4. 投資利益率ダッシュボードに移動します。
[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [投資利益率]
5. [イベント コスト節約]ダイアログ(⊗)を開きます。
6. [Operations Manager i によるコスト節約をレポートに表示します]チェック・ボックスを選択します。
7. イベントを処理するコストの値を選択します。選択肢は次のとおりです。
 - **標準設定値を使用**
[オペレーション管理 - 投資利益率]の[イベントあたりのコスト]インフラストラクチャ設定で設定した値が使用されます。
 - **カスタム値を使用**
関連する値フィールドで入力した値が使用されます。
8. [OK]をクリックします。

ROI ダッシュボードの使用

投資利益率ダッシュボードを使用するには, 次の手順を実行します。

1. 投資利益率ダッシュボードに移動します。
[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [投資利益率]
2. 投資利益率データを表示する期間を選択します。
 - [開始日]カレンダーを使用して, 日付フィールドに直接日付を入力するか, マウスでカレンダーの日付をクリックして開始日を設定します。または, [今日]ボタンで現在の日付を選択します。
 - [終了日]カレンダーを使用して, 日付フィールドに直接日付を入力するか, マウスでカレンダーの日付をクリックして終了日を設定します。または, [今日]ボタンで現在の日付を選択します。

注: 選択した開始日と終了日が青の背景でカレンダーに表示されます。その期間内のその他すべての日付は灰色の背景で表示されます。現在の日付(選択されていない場合)は黄色の背景で表示されます。

ROI ダッシュボードの印刷

ダッシュボードの内容を印刷するには, 次の手順を実行します。

1. 投資利益率ダッシュボードに移動します。
[ワークスペース] > [ダッシュボード] > [投資利益率]
2. [印刷]ボタン(🖨)をクリックします。
現在設定されている ROI ダッシュボードが印刷アプリケーションに送信されます。


注: 最適に印刷されるように、次のプリンタ設定を使用してください。

方向: 横

ページ・サイズ: A4(推奨)またはレター

UI 参照

[ダッシュボード] 表示枠

UI 要素	説明
	<p>イベント・コスト節約: [イベント コスト節約]ダイアログが開き、投資利益率ダッシュボードでの OMi によるコスト節約情報の表示を有効または無効にできます。</p> <p>注: [オペレーション管理 - 投資利益率]インフラストラクチャ設定で[コスト節約の計算を有効化]が有効になっている必要があります。イベントを処理するコスト([イベントあたりのコスト])と適切な通貨も指定されている必要があります。</p>
時間枠の統計	選択した投資利益率データの表示期間のサマリが表示されます。
イベントの合計	選択した期間中に IT 環境から OMi が受信したイベントの総数が表示されます。
OMi による削減	選択した期間中に OMi が自動処理したイベントの数が表示されます。
OMi によるコスト節約	<p>選択した期間中に OMi によって達成されたコスト節約の合計が表示されます。</p> <p>[オペレーション管理 - 投資利益率]インフラストラクチャ設定で[コスト節約の計算を有効化]が有効になっている必要があります。イベントを処理するコスト([イベントあたりのコスト])と適切な通貨も指定されている必要があります。</p> <p>[イベント コスト節約]設定ダイアログで[Operations Manager i によるコスト節約をレポートに表示します]が選択されている必要があります。</p>
時間枠	<p>開始日: 投資利益率の計算で選択された開始日が表示されます。</p> <p>変更後: 投資利益率の計算で選択された終了日が表示されます。</p> <p>カレンダーで日付を選択するか[今日]ボタンを使用することで、[開始日]フィールドと[終了日]フィールドに直接日付を入力できます。</p> <p>選択した開始日と終了日が青の背景でカレンダーに表示されます。その期間内のその他すべての日付は灰色の背景で表示されます。現在の日付(選択されていない場合)は黄色の背景で表示されます。</p>

[イベント コスト 節約] ダイアログ

UI 要素	説明
Operations Manager i によるコスト節約をレポートに表示します	<p>このチェック・ボックスを選択すると、Operations Manager i ユーザ・インタフェースでの投資利益率ダッシュボードの表示が有効になります。</p> <p>注: [オペレーション管理 - 投資利益率] インフラストラクチャ設定で [コスト節約の計算を有効化] が有効になっている必要があります。イベントを処理するコスト ([イベントあたりのコスト]) とその関連通貨も指定されている必要があります。</p>
標準設定値を使用	<p>このオプションを選択すると、[オペレーション管理 - 投資利益率] インフラストラクチャ設定の [イベントあたりのコスト] 設定で指定した値が使用されます。</p>
カスタム値を使用	<p>このオプションを選択して代替値を指定すると、[オペレーション管理 - 投資利益率] インフラストラクチャ設定の [イベントあたりのコスト] 設定で指定した値がオーバーライドされます。</p>

第IV部：操作コンソール

- **イベント・パースペクティブ** :[Event Perspective]ページには、イベント関連の情報が表示されます。
- **状況パースペクティブ** :[Health Perspective]ページには、選択したイベントのトポロジ情報および状況インジケータが表示されます。この表示では、イベントを別の複数の観点から同時に確認でき、複雑な関係および依存関係をより明確にします。
たとえば、次の内容を表示できます。
 - アクティブなイベント一覧。
 - 選択したイベントに関連するCIのトポロジ・ビュー。
 - オブジェクト、状態、値に割り当てられた状況インジケータ。
- **パフォーマンス・パースペクティブ** :パフォーマンス・メトリクスをパフォーマンス・ダッシュボード形式で可視化できます。標準設定では、OMiパフォーマンス・ダッシュボードは、標準設定のダッシュボードで構成されます。これに加えて、監視する構成アイテム(CI)のパフォーマンス・ダッシュボードを作成し、カスタマイズすることもできます。
- **OMi探索** :事前に定義されたパスに従って、OMiのさまざまな機能を順に試していきながら、OMiの機能を学習できます。このマップは、対話型のチュートリアルから始まります。各手順には、組み込み情報や、追加リソース(関連UIページ、オンラインヘルプ、ビデオなど)へのリンクが含まれています。[OMi探索]により進行状況を追跡し、参照済みの領域を把握できます。進行状況はローカルに保存されます。ブラウザのクッキーを削除する(またはマップ内の[状態のリセット]をクリックすると、進行状況が削除されます。
- **OMi状況ステータス** :[OMi Health Perspective]ページには、OMiデプロイメントの状況ステータス情報が表示されます。OMiでは、効率的な運用を行うために、そのコンポーネントの状況が追跡され、問題が報告されます。これにより、是正処置や予防処置を講じることができます。

第17章: イベント パースペクティブ

[Event Perspective] ページでは、IT 環境で発生するイベントの管理をより適切に行うことができます。

イベント・パースペクティブには、次の主要表示枠があります。

- **ビュー・エクスプローラ**

構成アイテム・データベースの内容を表示します。これにより、データベースの内容の参照方法を決定するフィルタを設定できます。詳細については、「[ビュー・エクスプローラ・コンポーネント](#)」(183ページ)を参照してください。

- **イベント・ブラウザ**

監視している運用環境で発生するすべてのイベントの詳細な概要を表示します。詳細については、「[イベント・ブラウザ](#)」(28ページ)を参照してください。

- **イベント詳細**

選択したイベントの情報をさらに細かく表示します。イベントの詳細は、イベント・ブラウザの下に表示枠として、またはポップアップ・ウィンドウとして表示できます。詳細については、「[イベント詳細](#)」(58ページ)を参照してください。

- **[アクション]表示枠**

イベント・ブラウザで選択したイベントから実行できる、ツール、OM アクションおよびラン・ブックを表示および実行します。詳細については、「[ツール](#)」(194ページ)、「[アクション](#)」(190ページ)、「[Operations Orchestration ラン・ブックの起動](#)」(53ページ)を参照してください。

すべての表示枠のサイズは手動で変更できます。また、**[展開]**ボタンおよび**[折りたたみ]**ボタンを使用して、表示形式を定義済みの設定に変更できます。**[復元]**ボタンにより、関連付けられている表示枠を標準設定のサイズに戻すことができます。

第18章: 状況パースペクティブ

[Health Perspective] タブは、イベントのコンテキストにおける関連 CI のヘルスを表示するために使用します。[Health Top View] に表示される内容は、イベント・ブラウザで選択したイベントによって決まり、[Health Indicators] 表示枠に表示される内容は、[ヘルストップビュー] で選択した CI によって決まります。

[Health Perspective] タブでは、オブジェクトの状況ステータスを把握するには次の表示枠が役に立ちます。これらの表示枠は、どのビジネス・ルールおよび KPI が使用されているかと、選択したオブジェクトの状況ステータスが関連オブジェクトの状況にどのように影響するかを示します。

- **ビュー・エクスプローラ**

監視している環境内のすべてのオブジェクト一覧を示します。詳細については、「[ビュー・エクスプローラ・コンポーネント](#)」(183ページ)を参照してください。

- **イベント・ブラウザ**

監視している環境内のアクティブ・イベント一覧を示します。詳細については、「[イベント・ブラウザ](#)」(28ページ)を参照してください。

- **ヘルストップビュー**

[Health Perspective] タブの [Health Top View] 表示枠には、[イベント・ブラウザ] 表示枠で選択したイベントに影響する構成アイテムのトポロジ・ビューが表示されます。ビューには、監視オブジェクトである構成アイテム間の関係が示され、それらの現在の状況ステータスが示されます。[Health Top View] では、個々のオブジェクトの状況がほかのオブジェクトの状況にどのように影響するか確認することもできます。

[Health Top View] は根本的な要因の分析が必要な問題の調査で使用されるよう設計されています。詳細については、「[状況トップ・ビュー・コンポーネント](#)」(141ページ)を参照してください。

- **状況インジケータ**

選択されている構成アイテムの可用性やパフォーマンスなどの状況関連の情報の計算に使用できる、選択されている CI の KPI および状況インジケータ一覧を示します。詳細については、「[状況インジケータ](#)」(110ページ)を参照してください。

- **[アクション] 表示枠**

イベント・ブラウザで選択したイベントで実行できるツール、アクション、ラン・ブックを表示、実行します。詳細については、「[ツール](#)」(194ページ)、「[アクション](#)」(190ページ)、「[Operations Orchestration ラン・ブックの起動](#)」(53ページ)を参照してください。

状況インジケータおよび主要管理指標を使用して、オブジェクトの状況を判断します。OMi では、選択したオブジェクトと直接関連付けられている問題の重要度が計算され、依存オブジェクトに関するその他の情報とこの情報が組み合わされます。結合されたデータは、オブジェクトの全体的な状況を示す KPI を評価して設定する計算ルールに渡されます。

オブジェクトの [Health Top View] 上の色は、そのオブジェクトの状況および、そのオブジェクトに使用されるオブジェクトがある場合、その最もクリティカルなステータスが示されます。たとえば、正常域を示すのに緑を、危険域を示すのに赤を使用できます。使用される色はビューでの設定によります。ビューでの設定によって、CI の色が決定されます。

HI と KPI の詳細については、「[状況インジケータ](#)」(110ページ)と「[HI ベースの KPI の計算](#)」(111ページ)を参照してください。

第 19 章：パフォーマンス パースペクティブ

OMi パフォーマンス・ダッシュボードでは、パフォーマンス・メトリクスをパフォーマンス・ダッシュボードの形式で視覚化できます。標準設定では、OMi パフォーマンス・ダッシュボードは、標準設定のダッシュボードで構成されます。これに加えて、監視する構成アイテム(CI)のパフォーマンス・ダッシュボードを作成し、カスタマイズすることもできます。

OMi パフォーマンス・ダッシュボードは、次の操作を実行するのに役立ちます。

- アプリケーション、システム、ネットワークなど、多数のコンポーネントのパフォーマンス・メトリクスを調査して視覚化する
- 個人用に設定したお気に入りを使用して、重要な CI のパフォーマンスをすばやく視覚化する
- グラフ、テーブル、テキスト、円グラフなどをパフォーマンス・ダッシュボードに埋め込む。または、任意のグラフの URL をコピーして、[マイワークスペース] ページに埋め込むこともできる。
- URL 起動のサポート。パフォーマンス・ダッシュボードまたは 1 つのグラフを任意の UI マッシュアップ・ページに埋め込む
- インスタンスのパラメータ化。さまざまな複数のインスタンスをシステム全体で管理する
- イベント・オーバーレイ。イベント情報をパフォーマンス・ダッシュボード内で視覚化する
- 日付範囲パネル。時間指定データを視覚化する
- ダッシュボードの割り当て。パフォーマンス・ダッシュボードを CI タイプ(CIT)に割り当てる
- パフォーマンス・メトリクスをリアルタイムで視覚化する
- 重要なパフォーマンス・メトリクスを Business Value Dashboard(BVD)に転送する

パフォーマンスのエキスパート(システムおよびアプリケーションの管理者)は、OMi パフォーマンス・ダッシュボードを使用して、特定の問題の診断や、サーバ・パフォーマンスのトラブルシューティングを行うことができます。

[Performance Perspective] タブにある次の表示枠は、パフォーマンス・メトリクスを視覚化するのに役立ちます。

- **ビュー・エクスプローラ**
監視している環境内のすべてのオブジェクト一覧を示します。詳細については、「[ビュー・エクスプローラ・コンポーネント](#)」(183 ページ)を参照してください。
- **[パフォーマンス] 表示枠**
パフォーマンス・ダッシュボードの作成、カスタマイズ、視覚化ができます。

OMi パフォーマンス・ダッシュボードについて

OMi パフォーマンス・ダッシュボードには、次のコンポーネントが含まれます。

- ビュー・エクスプローラ(OMi の一部)
- [パフォーマンス] 表示枠

ビュー・エクスプローラ

[ビュー エクスプローラ] 表示枠には、ビューおよび関連付けられた CI の一覧がツリー・ビューで表示されます。CI ツリーには、利用可能な CI の一覧が表示されます。必要な CI を選択し、その CI の既存のパフォーマンス・ダッシュボードの表示や、その CI の新しいダッシュボードの作成ができます。独自のビューを作成することもできます。パフォーマンス・ダッシュボードのツリー・ビューから CI を 1 つのみ選択し、ダッシュボードを作成します。複数の CI を選択した場合は、パフォーマンス・ダッシュボードをロードできなかったことを示すエラー・メッセージが表示されます。詳細については、OMi ドキュメントのトピック「[ビュー・エクスプローラ・コンポーネント](#)」(183 ページ)を参照してください。











[パフォーマンス] 表示枠

[パフォーマンス] 表示枠では、パフォーマンス・ダッシュボードの作成と視覚化ができます。これに加えて、パフォーマンス・ダッシュボードの内容のカスタマイズと視覚化もできます。

利用方法

[ワークスペース] > [操作コンソール] > [Performance Perspective] をクリックします。


次の表では、[パフォーマンス] 表示枠で利用可能なオプションについて説明します。

UI 要素	説明
	新しいパフォーマンス・ダッシュボードを作成する。
	パフォーマンス・ダッシュボードを保存する。
	BVD にデータを転送する。このオプションは[お気に入り]でのみ表示される。
	パフォーマンス・ダッシュボードを更新する。次のオプションを使用できる。 更新 - このオプションを使用すると、切断された接続が取得されたときにデータを更新できる。 キャッシュのクリア - このオプションを使用すると、キャッシュをクリアして、メタデータを再ロードできる。
	パフォーマンス・ダッシュボードの設定を行う。
	行をパフォーマンス・ダッシュボードに追加する。
	グラフや行を追加する、またはほかの設定を変更する。
	日付範囲パネルを表示する。
	ダッシュボードとお気に入りを表示する。
	パフォーマンス・ダッシュボードにリアルタイム・データを表示する。

パフォーマンス・ダッシュボードの設定

このオプションを使用すると、パフォーマンス・ダッシュボードの設定の構成と定義ができます。この設定を使用して、新しいパフォーマンス・ダッシュボードの作成や、既存のパフォーマンス・ダッシュボードの編集およびカスタマイズができます。

利用方法

1. [ワークスペース] > [操作コンソール] > [Performance Perspective] をクリックします。
2. [パフォーマンス] 表示枠で、 をクリックします。

次のタブが含まれます。

全般

このタブを使用して、パフォーマンス・ダッシュボードのプロパティを編集できます。

UI 要素	説明
タイトル	パフォーマンス・ダッシュボードのタイトルを指定する。
時刻補正	協定世界時 (UTC) またはブラウザ時間を選択できる。
Auto-Refresh	自動更新タイムラインを 5 分、15 分、30 分、1 時間、2 時間、1 日のうちから選択できる。
ポイント間隔	<p>パフォーマンス・ダッシュボードの細かさ(データ・ポイントの数)を決定する。この値を 最大ポイント 値と組み合わせて、使用する要約のレベルを決定する。次の値がサポートされる。</p> <ul style="list-style-type: none">● 自動 - 設定した制限内でデータ・ポイントを表示するように値を選択する。[日付範囲] および [ポイント間隔] の設定の組み合わせにより非常に多くのポイントが生成される場合、すべての要求データを表示するように [ポイント間隔] 値が自動的に調整される。● 未処理 - 指定された期間にデータソースによって収集されたすべてのデータを表示する。● 5 分 - 指定された期間の 5 分ごとに 1 つのデータ・ポイントを表示する。● 15 分 - 指定された期間の 15 分ごとに 1 つのデータ・ポイントを表示する。● 30 分 - 指定された期間の 30 分ごとに 1 つのデータ・ポイントを表示する。● 1 時間 - 指定された期間の 1 時間ごとに 1 つのデータ・ポイントを表示する。● 3 時間 - 指定された期間の 3 時間ごとに 1 つのデータ・ポイントを表示する。● 6 時間 - 指定された期間の 6 時間ごとに 1 つのデータ・ポイントを表示する。● 12 時間 - 指定された期間の 12 時間ごとに 1 つのデータ・ポイントを表示する。● 1 日 - 指定された期間の 1 日ごとに 1 つのデータ・ポイントを表示する。

UI 要素	説明
最大ポイント	パフォーマンス・ダッシュボードに表示するデータ・ポイントの数を決定する(自動オプションの場合、標準設定は 100 ポイント)。 [ポイント間隔] の値が 自動 に設定されている場合、この値を使用して、各データ・ポイントのデータを要約し、グラフを 1 つのウィンドウに収める。 [ポイント間隔] の値がこれ以外の場合、パフォーマンス・ダッシュボードによって各グラフのデータ・ポイントまたは時間間隔の数が決定される。また、前後の一連のデータ・ポイントまたは間隔を表示するためのオプションが提供される。
制御の非表示	このオプションにチェックを入れるとパフォーマンス・ダッシュボードを表示するときコントロールが非表示になる。

機能




UI 要素	説明
共有十字	パフォーマンス・ダッシュボード内でデータを比較するには、このオプションにチェックを入れる。

パラメータ化

このオプションを使用すると、パフォーマンス・ダッシュボードでインスタンス・パラメータを定義して、さまざまなシステムで実行されている複数の異なるインスタスを管理できます。

パラメータ


このタブを使用して、定義したパラメータを表示できます。不要なインスタンス・パラメータを編集または削除することもできます。

UI 要素	説明
 編集	パラメータを編集する。
	パラメータを削除する。
 閉じる	閉じる。

追加



このタブを使用して、パラメータを追加できます。

UI 要素	説明
パラメータ名	パラメータ名を指定する。
データ・ソース	データ・ソースを選択する。
クラス名	クラス名を指定する。

UI 要素	説明
正規表現	インスタンス名をフィルタするための正規表現を指定する。
	正規表現クエリを実行する。
追加	パラメータを追加する。

編集

このタブを使用して、パラメータを選択し、編集することができます。

UI 要素	説明
パラメータ名	パラメータ名を指定する。
データ・ソース	データ・ソースを選択する。
正規表現	正規表現を指定する。
クラス名	クラス名を指定する。
	インスタンス名をフィルタするための正規表現を指定する。
	パラメータを更新する。

イベント・オーバーレイ

このオプションを使用すると、パフォーマンス・ダッシュボード内のイベント情報の視覚化を管理できます。イベントを指定することで、パフォーマンス・ダッシュボード内でイベントの発生を視覚化できます。




オプション	説明
致命的	危険域を選択すると、パフォーマンス・ダッシュボード内で危険域イベントが視覚化される。危険域イベントは、CI および時間範囲に固有のものである。
重要警戒域	重要警戒域を選択すると、パフォーマンス・ダッシュボード内で重要警戒域イベントが視覚化される。重要警戒域イベントは、CI および時間範囲に固有のものである。
警戒域	警戒域を選択すると、パフォーマンス・ダッシュボード内で警戒域イベントが視覚化される。警戒域イベントは、CI および時間範囲に固有のものである。
注意域	注意域を選択すると、パフォーマンス・ダッシュボード内で注意域イベントが視覚化される。注意域イベントは、CI および時間範囲に固有のものである。

行およびグラフの設定

本項では、行の設定方法およびダッシュボードへのグラフの追加方法について説明します。

行の設定

利用方法

1. [ワークスペース] > [操作コンソール] > [Performance Perspective] をクリックします。
2. [パフォーマンス] 表示枠で  をクリックし、新しいパフォーマンス・ダッシュボードを作成します。
3. 標準設定では、[パフォーマンス] 表示枠に行がすでに追加されています。別の行を追加するには、 をクリックします。
4. [パフォーマンス] 表示枠で  をクリックし、必要なコンポーネントを選択します。

次のコンポーネントが含まれます。

グラフの追加

[グラフの追加] を使用して、次のグラフをパフォーマンス・ダッシュボードに含めることができます。

コンポーネント	説明
グラフ	グラフを作成する。
単一の値	単一の値のグラフを作成する。標準設定では、メトリック値の平均が単一の値のグラフに表示される。
テキスト	テキスト・グラフを作成する。
円グラフ	円グラフを作成する。
表	テーブル・グラフを作成する。

高さの設定

[高さの設定] を使用して、グラフの高さを定義できます。要件に応じて、高さを選択できます。たとえば、150 ピクセルや 200 ピクセルなどを選択できます。

移動

このオプションを使用して、グラフを上下に移動できます。

行エディタ

このオプションを使用して、行のプロパティを編集できます。これには、次のタブが含まれます。

全般

このタブでは、次のオプションが提供されます。

UI 要素	説明
タイトル	行のタイトルを指定する。
高さ	行の高さを指定する。
タイトルの表示	行のタイトルを表示するかどうかを指定する。

グラフ

このタブでは、行に含めるパフォーマンス・ダッシュボード・コンポーネントに関する情報を提供します。また、グラフの移動または削除もできます。

UI 要素	説明
タイトル	行のタイトルを表示する。
タイプ	グラフのタイプを表示する。例：グラフ、単一の値、テキスト、円グラフ、テーブル
長さ	グラフの長さを指定する。
上に移動, 下に移動	行を上または下に移動する。
削除	グラフを削除する。

行の削除

このオプションを使用して、パフォーマンス・ダッシュボード内の行を削除できます。

行の折りたたみ


このオプションを使用して、パフォーマンス・ダッシュボード内の行を折りたたむことができます。

グラフの設定

このオプションを使用して、グラフを設定できます。

利用方法：

編集するグラフのタイトルをクリックします。



UI 要素とオプション	説明
-	グラフの幅を小さくする。
+	グラフの幅を大きくする。
	グラフ JSON - グラフの JSON ファイルを表示できる。 CSV のエクスポート - グラフを CSV 形式でエクスポートできる。 凡例の切り替え - グラフの凡例を表示する。
最大化	グラフを最大化してグラフのみを表示する。
編集	グラフを編集する。編集オプションを使用して、メトリクス、軸、グリッド、および表示スタイルを定義できる。
複製	グラフを複製する。

UI 要素とオプション	説明
共有	<p>グラフを共有する。[共有]をクリックすると、次のオプションが表示される。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の時間の範囲 - URL を使用してパフォーマンス・ダッシュボードを共有する場合、現在の時間範囲を使用します。このオプションを選択しない場合、すでに保存されている時間範囲でパフォーマンス・ダッシュボードを共有できます。 現在のパネルのみ - URL を使用してパフォーマンス・ダッシュボードを共有する場合、現在のグラフのみを表示します。このオプションを選択しない場合、パフォーマンス・ダッシュボードにすべてのグラフが含まれます。 パラメータを含む - URL を使用してパフォーマンス・ダッシュボードを共有する場合、既存のパラメータを表示します。このオプションを選択しない場合、パラメータは含まれません。グラフにパラメータが含まれない場合、この設定は適用されません。
お気に入りの追加	グラフをお気に入りとして追加する。
x	グラフを削除する。

日付範囲パネルのオプション


日付範囲パネルのオプションを使用すると、特定の日付範囲および時間範囲のパフォーマンス・データを視覚化できます。

次の表は、日付範囲パネルで使用できるすべてのオプションを示しています。

UI 要素とオプション	説明
	日付範囲パネルを表示または非表示にする。
	指定した開始日と終了日の範囲内で、スライダを使用して日付範囲と時間範囲を選択できる。指定した開始日と終了日は、ドロップダウンのカスタム範囲オプション内で定義される。

UI 要素とオプション	説明
	<p>ドロップダウンで次の項目を選択できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> カスタム範囲(開始日, 終了日, および特定の時間範囲) 相対時間オプション(過去 5 分間, 過去 1 時間など) <p>標準設定では, 定義済みの日付範囲がドロップダウンに表示される。</p>

カスタム範囲のオプション

UI 要素とオプション	説明
開始日	カレンダーを使用して開始日を選択するか, 開始日を入力することができる。
終了日	カレンダーを使用して終了日を選択するか, 終了日を入力することができる。
>	カレンダー内の次の月を表示する。
<	カレンダー内の前の月を表示する。
	時間範囲を指定できる。
適用	変更するには, [適用]をクリックする。
キャンセル	変更しない場合は, [キャンセル]をクリックする。

グラフの編集

このオプションを使用して、グラフ(グラフ、テーブル、円グラフ、テキスト、または単一の値)を編集できます。各グラフの設定を詳細に説明します。本項では、各グラフの一般的な設定と特定の設定について説明します。

利用方法:

グラフのタイトルをクリックして、[編集]をクリックします。




各グラフで次の設定を使用できます。

設定:	グラフ	単一の値	円グラフ	表
メトリクス	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
軸とグリッド	<input checked="" type="checkbox"/>			
スタイルの表示	<input checked="" type="checkbox"/>			
オプション		<input checked="" type="checkbox"/>		
スタイル				<input checked="" type="checkbox"/>
リンク	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

メトリクス

このタブを使用して、グラフのメトリック属性を指定できます。

UI 要素とオプション	説明
タイトル	グラフのタイトルを指定します。
データ・ソース	データ・ソースを選択します。次のデータ・ソースがサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> • Operations Agent • SiteScope
クラス名	選択したデータ・ソースに応じて、クラス名が表示されます。リストからクラス名を選択できます。
メトリック名	選択したクラス名に応じて、メトリック名が表示されます。リストからメトリック名を選択できます。
インスタンス名	選択したメトリック名に応じて、使用可能なインスタンス名が表示されます。リストからインスタンス名を選択できます。

UI 要素とオプション	説明
ラベル	<p>対応するクエリのグラフに表示するラベルを指定します。ラベルはグラフ内のこのメトリックを識別します。メトリックのラベルは一度に1つずつ変更します。ラベルにはリテラルな文字列を使用するか、特殊な代替変数への参照を含むことができます。</p> <p>@@[LABEL] - メトリックのラベルはデータ・ソースによって指定されます。例:(CPU %)。データ・ソースによってラベルが指定されていない場合、メトリック名が使用されます。</p> <p>@@INSTANCENAME - 定義するインスタンス名。</p> <p>@@[METRIC] - メトリック名。たとえば, (GBL_CPU_TOTAL_UTIL)</p> <p>@@[CLASS] - メトリックのクラス。例:(GLOBAL)</p> <p>@@[SYSTEM] - メトリックを提供しているノード名。例:(mysys.net.com)</p> <p>@@[DATASOURCE] - このメトリックのデータ・ソース。例:(PA, EPC)</p> <p>@@metric - 同じデータ・ソースおよびクラスからのメトリック値。例:@@BYDSK_DEVNAME ではBYDSK_DEVNAME のメトリック値によってメトリックがラベル付けされます。BYDSK_DEVNAME のメトリック値が「0」の場合、Disk@@BYDSK_DEVNAME では「Disk 0」のラベルが生成されます。例:@@[SYSTEM]:@@[CLASS]:@@[METRIC] では、「mysys.net.com:GLOBAL:GBL_CPU_TOTAL_UTIL」のようなラベルが生成されます。</p>
アクション   	<p>いずれかのオプションを選択して、次のアクションを実行します。</p> <p>メトリックを非表示 - このオプションを使用すると、グラフ内でメトリックを非表示にできます。このオプションを有効にすると、メトリックがグラフに表示されません。このオプションを無効にすると、メトリックがグラフに表示されます。</p> <p>メトリックを複製 - このオプションを使用すると、メトリック名とその属性を複製できます。同じメトリックの複数のインスタンスを定義するときに便利です。メトリックを複製するには、[メトリックを複製]オプションをクリックします。</p> <p>メトリックを削除 - メトリックを削除します。</p>

UI 要素とオプション	説明
グラフテンプレートのイン...	OMi 管理パックからグラフ・テンプレートをインポートするには、このオプションを選択します。詳細については、「 グラフ・テンプレートのインポート 」(285ページ)を参照してください。
メトリックの追加	メトリクス・クエリを追加するには、このオプションを選択します。

注：グラフ・テンプレートをインポートする場合、グラフのタイトルにシステム名を指定しないでください。

標準設定では、グラフのラベルは @@[METRIC] として定義されます。クラスの別のインスタンスのメトリックでグラフを定義した場合、同じメトリック名でグラフの凡例が複製されるため、グラフ・データが適切に更新されません。クラスの別のインスタンスでグラフを作成する場合は、グラフのラベルにインスタンス名を指定して、グラフの凡例を区別することをお勧めします。グラフのラベルを @@[METRIC]-@@INSTANCENAME のように更新することができます。

軸とグリッド

このタブを使用して、グラフの軸属性とグリッド属性を指定できます。

UI 要素とオプション	説明
<p>左 Y および右 Y</p>	<p>要件によっては、以下の属性を使用してグラフをカスタマイズすることができます。[左 Y および右 Y]に対して選択したオプションに基づいて、単位、グリッド属性、およびラベルがグラフに付加されます。</p> <p>単位 - このオプションを使用して、以下の項目を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 単位 - [短い], [パーセント], または [なし] のいずれかを選択できます。 • 期間 - [ナノ秒 (ns)], [ミリ秒 (ms)], [マイクロ秒 (μs)], または [秒 (s)] を指定することで、期間を選択できます。 • データ - [ビット], [バイト], または [キロバイト] を指定することで、データ・サイズの形式を選択できます。 • データ速度 - [ビット/秒] または [バイト/秒] を指定することで、データ速度を選択できます。 <p>グリッド最大 - このオプションを使用して、グリッドの値を指定できます。</p> <p>ラベル - [左 Y および右 Y] 軸のラベルを指定できます。ラベルはグラフに表示されます。</p>
<p>軸の表示</p>	<p>x 軸と y 軸を表示します。</p>

UI 要素とオプション	説明
<p>範囲</p>	<p>範囲値 (レベル 1 とレベル 2) および色オプションを指定できます。メトリック値がレベル 1 またはレベル 2 あるいはその両方の値を超えた場合、グラフが更新されます。</p> <p>レベル 1 - レベル 1 の値を選択します。指定したレベル 1 の値をメトリック値が超えた場合、定義した色オプションを使用してグラフに色が付加されます。</p> <p>レベル 2 - レベル 2 の値を選択します。指定したレベル 2 の値をメトリック値が超えた場合、定義した色オプションを使用してグラフに色が付加されます。</p> <p>レベル 1 またはレベル 2、あるいはその両方の値を選択できます。</p> <p> - レベル 1 とレベル 2 の色オプションを選択します。メトリック値がレベル 1 またはレベル 2 を超えた場合、選択した色オプションがグラフに付加されます。</p> <p>ラインモード - ライン・モードを選択します。レベル 1 またはレベル 2 の値をメトリック値が超えた場合、グラフに線が付加されます。</p>
<p>凡例</p>	<p>このオプションを使用して、凡例の設定を指定できます。</p> <p>表示 - パフォーマンス・ダッシュボードに凡例を表示します。</p> <p>テーブル - パフォーマンス・ダッシュボードに凡例をテーブルとして表示します。</p> <p>右側 - パフォーマンス・ダッシュボードの右側に凡例を表示します。</p> <p>空は表示しない - 空の凡例を非表示にします。</p>
<p>凡例値</p>	<p>グラフに表示する必要がある凡例値を選択できます。[最小], [最大], [平均], [現状], および[合計]を選択できます。この凡例値ごとに、対応するメトリック値がグラフに付加されます。</p>

スタイルの表示

このタブを使用して、グラフの表示スタイルを指定できます。

UI 要素とオプション	説明
グラフのオプション	グラフのオプション(折れ線グラフ, 棒グラフ, 点グラフ)を選択できます。選択したオプションに応じて, メトリック値が折れ線グラフ, 棒グラフ, または点グラフとして視覚化されます。
線のオプション	[線塗りつぶし]と[線幅]を選択して, パフォーマンス・ダッシュボード内の線のオプションを指定できます。 [Null ポイントモード]を定義して, パフォーマンス・ダッシュボードでの Null 値の表示方法を指定することもできます。 階段線を選択すると, グラフを階段形式で視覚化できます。
複数のメトリクス	グラフ内で複数のメトリクスを視覚化する方法を選択できます。[積み重ね]または[パーセント]を選択できます。[積み重ね]を選択すると, グラフ内でメトリック値が積み上げられます。[パーセント]を選択すると, メトリック値がパーセンテージとして表示されます。

UI 要素とオプション	説明		
ツールチップ	<p>パフォーマンス・ダッシュボード内でツールチップを表示する方法を選択できます。</p> <p>すべてのメトリクス - 共有十字を使用してすべてのメトリクスを同じツールチップ上に表示します。これは、すべてのメトリクスを追跡するのに役立ちます。</p> <p>積み重ね値 - メトリクスを積み重ね値として表示します。積み重ねグラフで値を計算する方法として、累積または個別を選択できます。</p>		
メトリック固有の上書き	<p>メトリック上書きルールを使用して、メトリックごとにカスタムの表示スタイルを追加できます。これにより、汎用の表示スタイルが上書きされます。</p>		
<div data-bbox="228 1077 560 1123" style="background-color: #008000; color: white; padding: 2px;">メトリック上書きルー...</div> <div style="margin-top: 10px;"> × + </div> <div style="margin-top: 10px; border: 1px solid #ccc; padding: 5px;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 2px;">ラベル</td> <td style="padding: 2px;"><input style="width: 95%;" type="text"/></td> </tr> </table> </div>	ラベル	<input style="width: 95%;" type="text"/>	<p>[メトリック上書きルールの追加]をクリックし、メトリックのラベルを指定することで、メトリックの特定のスタイルを選択できます。</p> <p>メトリック上書きルールを削除します。</p> <p>メトリックの表示スタイルを追加します。</p> <p>利用可能なラベルのリストからラベルを選択します。</p>
ラベル	<input style="width: 95%;" type="text"/>		

オプション

このタブを使用して、グラフのフォント・オプションと色分けオプションを指定できます。

UI 要素とオプション	説明
<p>大きな値</p>	<p>[大きな値]は、次のオプションで構成されます。</p> <p>接頭辞 - 指定した接頭辞名が値の先頭に付加されます。たとえば、接頭辞として「Sample」を指定した場合、グラフは、Sample <値> として表示されます。</p> <p>値 - グラフに表示する必要がある値を選択できます。[最小]、[最大]、[平均]、[現状]、または[合計]を選択できます。</p> <p>接尾辞 - 指定した接尾辞名が値の末尾に付加されます。たとえば、接尾辞として「MB」を指定した場合、グラフは、<値>MB として表示されます。</p>
<p>フォント・サイズ</p>	<p>接頭辞、値、および接尾辞の各データのフォント・サイズを選択できます。</p>
<p>単位</p>	<p>要件によっては、以下の属性を使用してグラフをカスタマイズすることができます。選択したオプションに基づいて、単位がグラフに付加されます。</p> <p>単位 - このオプションを使用して、以下の項目を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 単位 - [短い]、[パーセント]、または[なし]のいずれかを選択できます。 • 期間 - [ナノ秒(ns)]、[ミリ秒(ms)]、[マイクロ秒(μs)]、または[秒(s)]を指定することで、期間を選択できます。 • データ - [ビット]、[バイト]、または[キロバイト]を指定することで、データ・サイズの形式を選択できます。 • データ速度 - [ビット/秒]または[バイト/秒]を指定することで、データ速度を選択できます。

UI 要素とオプション	説明
色分け	<p>範囲オプションと色分けオプションを選択できます。</p> <p>バックグラウンド - 背景色を表示する場合に選択します。</p> <p>値 - 値を色分けする場合に選択します。</p> <p>範囲 - 範囲値 (レベル 1, レベル 2, レベル 3) を指定します。メトリック値がこれらのレベルを超えた場合、定義した色オプションがグラフに付加されます。</p> <p>色 - レベル 1, レベル 2, およびレベル 3 の範囲値の色を選択します。</p> <p>順序を反転 - 範囲値 (レベル 1, レベル 2, およびレベル 3) の順序を反転します。</p>
スパークライン	<p>履歴データを表示できます。これにより、役に立つ背景情報を一目で確認できます。この情報に x 軸や y 軸は含まれません。</p> <p>スパークラインでは、次のオプションを指定できます。</p> <p>表示 - スパーク・ラインを表示します。</p> <p>バックグラウンドモード - バックグラウンドを表示します。</p> <p>線の色 - スパーク・ラインの線の色を指定します。</p> <p>塗りつぶしの色 - スパーク・ラインの塗りつぶしの色を指定します。</p>

UI 要素とオプション	説明
テキスト マッピングへの値	<p>このオプションを使用して、値をテキストにマップできます。たとえば、「該当なし」と表示するように値「12」をマップできます。これを行うには、次のオプションを使用します。</p> <p>x - 値とテキストのマッピングを削除します。</p> <p>値 - テキストにマップする必要がある値を指定します。</p> <p>テキスト - テキストを指定します。</p> <p>+ - 値とテキストのマッピングを追加します。</p>

リンク

このオプションを使用して、グラフをパフォーマンス・ダッシュボードにリンクできます。

UI 要素とオプション	説明
リンクラベル	リンク・ラベルの名前を指定します。
ダッシュボード	グラフのリンク先のパフォーマンス・ダッシュボードを指定します。

スタイル

このタブを使用して、テーブル属性を指定できます。このオプションは「テーブル」でのみ表示されます。

UI 要素とオプション	説明
テーブルの種類	テーブルの種類として[時系列]または[構造化]を選択できます。[時系列]を選択すると、特定の期間のメトリック値が表示されます。[構造化]を選択すると、最新のメトリック値が表示されます。
スタイル指定オプション	カラムの幅を定義できます。
並べ替え	このオプションを有効にすると、テーブルの並べ替えを選択できます。並べ替えを有効にすると、列見出しを昇順または降順で並べ替えることができます。複数レベルの並べ替えができます。ある列のデータを並べ替えた後に、別の列で並べ替えることができます。
書式設定	小数点以下の桁数を選択することで、書式を定義できます。定義した書式に応じて、値が更新されます。

UI 要素とオプション	説明
日付としての時間	時間を日付として表示する場合、このオプションを選択できます。選択した場合、UNIX タイムスタンプが通常の日付形式で表示されます。
列の色分け	列の色分けオプションを選択できます。 バックグラウンド - 背景色を表示する場合に選択します。 値 - 値を表示する場合に選択します。 範囲 - 範囲値(レベル 1, レベル 2, レベル 3)を指定します。メトリック値がこれらのレベルを超えた場合、定義した色オプションがグラフに付加されます。 色 - レベル 1, レベル 2, およびレベル 3 の色を選択します。 順序を反転 - 範囲値(レベル 1, レベル 2, およびレベル 3)の順序を反転します。

はじめに

以下の項では、OMi パフォーマンス・ダッシュボードの使用を開始するうえで実行する必要があるタスクについて説明します。

タスク 1: パフォーマンス・ダッシュボードの作成

パフォーマンス・ダッシュボードを作成できます。詳細については、[パフォーマンス・ダッシュボードの作成](#)を参照してください。

タスク 2: パフォーマンス・ダッシュボードの設定

パフォーマンス・ダッシュボードを作成したら、内容を追加し、パフォーマンス・ダッシュボードを設定する必要があります。詳細については、[パフォーマンス・ダッシュボードの設定](#)を参照してください。

タスク 3: パフォーマンス・ダッシュボードの起動

パフォーマンス・ダッシュボードを設定したら、パフォーマンス・ダッシュボードを起動して、パフォーマンス・メトリクスを視覚化できます。詳細については、「[パフォーマンス・ダッシュボードの起動](#)」(283ページ)を参照してください。

パフォーマンス・ダッシュボードの設計および管理の詳細については、[パフォーマンス・ダッシュボードの設計](#)および[パフォーマンス・ダッシュボードの管理](#)を参照してください。

パフォーマンス・ダッシュボードの設計

OMi パフォーマンス・ダッシュボードは、パフォーマンス・メトリクスを調べて視覚化するための標準設定のダッシュボードで構成されます。これに加えて、カスタマイズしたパフォーマンス・ダッシュボードを作成し、CI のパフォーマンス・メトリクスを視覚化することもできます。

OMi パフォーマンス・ダッシュボードを使用して、パフォーマンス・ダッシュボードを管理するための以下のタスクを実行できます。

[パフォーマンス・ダッシュボードの作成](#)

[パフォーマンス・ダッシュボードの設定](#)

[パフォーマンス・ダッシュボードでのイベントの視覚化](#)

[インスタンスのパラメータ化を使用して、システム全体のさまざまなインスタンスを管理する](#)

パフォーマンス・ダッシュボードの作成

パフォーマンス・ダッシュボードを作成してカスタマイズできます。[パフォーマンス] 表示枠を使用して、パフォーマンス・メトリクスを視覚化するためのパフォーマンス・ダッシュボードを作成できます。

OMi からパフォーマンス・ダッシュボードを作成するには、次の手順を実行します。


1. [ワークスペース] > [Performance Perspective] をクリックします。
2. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で、ドロップダウン・リストから [表示] を選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、そのビューに関連付けられた CI を表示できます。
3. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で、作成するパフォーマンス・ダッシュボードの対象となる CI をクリックします。
4. [パフォーマンス] 表示枠で、[新規作成] をクリックし、新しいパフォーマンス・ダッシュボードを作成します。
5. 行を作成し、グラフ、テーブル、円グラフ、単一の値、テキストなど、各種チャートをパフォーマンス・ダッシュボードに追加できます。詳細については、「[パフォーマンス・ダッシュボードの設定](#)」(275 ページ) を参照してください。

パフォーマンス・ダッシュボードの設定

本項では、パフォーマンス・ダッシュボードの作成および設定に関する詳細な手順について説明します。パフォーマンス・ダッシュボードを設定する前に、新しいパフォーマンス・ダッシュボードを作成する必要があります。詳細については、「[パフォーマンス・ダッシュボードの作成](#)」(275 ページ) を参照してください。

行および必要なグラフの追加

新しい行を追加した後、グラフ、単一の値、テーブル、円グラフ、またはテキストをパフォーマンス・ダッシュボードに追加できます。

1. [ワークスペース] > [操作コンソール] > [Performance Perspective] をクリックします。
2. [パフォーマンス] 表示枠で、 をクリックします。
3. [パフォーマンス] 表示枠で、

> **[グラフの追加]** をクリックします。

注 : グラフを別の行にドラッグ・アンド・ドロップすることもできます。

4. 必要なグラフをクリックします。たとえば、グラフを選択することができます。
5. グラフがパフォーマンス・ダッシュボードに追加されます。同様に、必要なグラフをパフォーマンス・ダッシュボードに追加できます。

グラフの編集

タイトルをクリックすると、グラフの編集と設定ができます。グラフの属性を変更できます。

1. [パフォーマンス] 表示枠で、編集するグラフのタイトルをクリックします。たとえば、編集するグラフのタイトルをクリックできます。
2. **[編集]** をクリックします。これで、メトリクス、軸とグリッド、および表示スタイルを追加または変更できます。
3. 属性を指定したら、**[ダッシュボードに戻る]** をクリックできます。グラフの編集の詳細については、**[グラフの編集]** (276 ページ) を参照してください。

パフォーマンス・ダッシュボードの保存

1. [パフォーマンス] 表示枠で、**[保存]** をクリックし、パフォーマンス・ダッシュボードを保存します。
2. 名前を指定し、**[保存]** をクリックします。

グラフの編集

グラフ(グラフ、単一の値、テキスト、円グラフ、およびテーブル)を編集してカスタマイズできます。グラフを編集する前に、パフォーマンス・ダッシュボードを作成するか、既存のパフォーマンス・ダッシュボードを起動する必要があります。パフォーマンス・ダッシュボードの作成方法については、**[パフォーマンス・ダッシュボードの作成]** (275 ページ) を参照してください。既存のパフォーマンス・ダッシュボードの起動方法については、**[パフォーマンス・ダッシュボードの起動]** (283 ページ) を参照してください。パフォーマンス・ダッシュボードを作成または起動したら、パフォーマンス・ダッシュボードを設定する必要があります。詳細については、**[パフォーマンス・ダッシュボードの設定]** (275 ページ) を参照してください。

グラフ(グラフ、単一の値、円グラフ、およびテーブル)の編集方法

グラフを編集するには、グラフのタイトルをクリックして**[編集]** をクリックします。グラフのタイプに応じて異なるオプションが表示されます。グラフの属性を指定するには、次の手順を実行します。

タスク 1: メトリクスの指定

[メトリクス] タブを使用して、メトリクスおよびほかの属性を指定できます。このタブは、「グラフ」、「単一の値」、「円グラフ」、および「テーブル」で使用できます。これらの属性を定義するには、次の手順を実行します。

1. グラフのタイトルを指定します。このタイトルはグラフの最上部に表示されます。
2. データ・ソースを選択します。データ・ソースとして、Operations Agent と SiteScope がサポートされます。このどちらかのデータ・ソースを選択できます。
3. 選択したデータ・ソースに応じて、クラス名が表示されます。リストからクラス名を選択できます。
4. 選択したクラス名に応じて、メトリック名が表示されます。リストからメトリック名を選択できます。

5. 選択したメトリック名に応じて、使用可能なインスタンス名が表示されます。リストからインスタンス名を選択できます。
6. 対応するクエリのグラフに表示するラベルを指定します。ラベルはグラフ内のこのメトリックを識別します。
7. <オプション> いずれかのオプションを選択して、次のアクションを実行します。
 - a. メトリックを非表示 - このオプションを使用すると、グラフ内でメトリックを非表示にできます。このオプションを有効にすると、メトリックがグラフに表示されません。このオプションを無効にすると、メトリックがグラフに表示されます。
 - b. メトリックを複製 - このオプションを使用すると、メトリック名とその属性を複製できます。同じメトリックの複数のインスタンスを定義するときに便利です。メトリックを複製するには、[メトリックを複製]オプションをクリックします。
 - c. メトリックを削除 - メトリックを削除します。
8. <オプション> さらにメトリクスを追加するには、[メトリックの追加]をクリックします。
9. <オプション> OMi 管理パックを使用しており、グラフ・テンプレートをインポートする必要がある場合は、**グラフテンプレートのイン...** をクリックできます。グラフ・テンプレートのインポートの詳細については、「[グラフ・テンプレートのインポート](#)」(285ページ)を参照してください。

タスク 2 : 軸とグリッドの指定

要件によっては、以下の属性を使用してグラフをカスタマイズすることができます。このタブは「グラフ」でのみ使用できます。[軸とグリッド]タブを使用して、軸、グリッド、範囲、凡例など、多くの属性を定義できます。これらの属性を定義するには、次の手順を実行します。

1. [左 Y および右 Y]に対して選択したオプションに基づいて、単位、グリッド属性、およびラベルがグラフに付加されます。


単位 : 次のいずれかの単位を選択できます。

- 単位 - [短い], [パーセント], または [なし] のいずれかを選択できます。
- 期間 - [ナノ秒 (ns)], [ミリ秒 (ms)], [マイクロ秒 (μs)], または [秒 (s)] を指定することで、期間を選択できます。
- データ - [ビット], [バイト], または [キロバイト] を指定することで、データ・サイズの形式を選択できます。
- データ速度 - [ビット/秒] または [バイト/秒] を指定することで、データ速度を選択できます。

グリッド最大 - このオプションを使用して、グリッドの値を指定できます。

ラベル - [左 Y および右 Y] 軸のラベルを指定できます。ラベルはグラフに表示されます。



2. [軸の表示] では、X 軸と Y 軸を選択できます (パフォーマンス・ダッシュボードにそれらを表示する場合)。
3. [範囲] では、範囲値 (レベル 1 とレベル 2) および色オプションを指定できます。メトリック値がレベル 1 またはレベル 2 あるいはその両方の値を超えた場合、グラフが更新されます。
 - a. **レベル 1** - レベル 1 の値を選択します。指定したレベル 1 の値をメトリック値が超えた場合、定義した色オプションを使用してグラフに色が付加されます。
 - b. **レベル 2** - レベル 2 の値を選択します。指定したレベル 2 の値をメトリック値が超えた場合、定義した色オプションを使用してグラフに色が付加されます。

- c.  をクリックして、レベル 1 とレベル 2 の色 オプションを選択します。メトリック値がレベル 1 またはレベル 2 を超えた場合、選択した色オプションがグラフに付加されます。
 - d. **ラインモード** - ラインモードを選択します。レベル 1 またはレベル 2 の値をメトリック値が超えた場合、グラフに線が付加されます。
4. [凡例]では、凡例設定を指定できます。
- 表示** - パフォーマンス・ダッシュボードに凡例を表示します。
- テーブル** - パフォーマンス・ダッシュボードに凡例をテーブルとして表示します。
- 右側** - パフォーマンス・ダッシュボードの右側に凡例を表示します。
- 空は表示しない** - 空の凡例を非表示にします。
5. [凡例値]では、グラフに表示する必要がある凡例値を選択できます。[最小]、[最大]、[平均]、[現状]、および[合計]を選択できます。この凡例値ごとに、対応するメトリック値がグラフに付加されます。

タスク 3 :スタイルの表示

[**スタイルの表示**]タブを使用して、グラフの表示スタイルをカスタマイズできます。このタブは「グラフ」でのみ使用できます。

1. [グラフのオプション]では、グラフのオプション(折れ線グラフ、棒グラフ、点グラフ)を選択できます。選択したオプションに応じて、メトリック値が折れ線グラフ、棒グラフ、または点グラフとして視覚化されます。
2. [線のオプション]では、[線塗りつぶし]と[線幅]を選択して、パフォーマンス・ダッシュボード内の線のオプションを指定できます。たとえば、[線塗りつぶし]で「6」を指定し、[線幅]で「4」を指定することができます。指定した値に応じて、グラフが更新されます。
3. [線のオプション]では、[Null ポイントモード]を[接続済み]、[Null]、または[ゼロとしてのNull]として定義し、グラフでの Null 値の表示方法を指定することもできます。
4. [線のオプション]で、階段線を選択すると、グラフを階段形式で視覚化できます。
5. [複数のメトリクス]では、グラフ内で複数のメトリクスを視覚化する方法を選択できます。[積み重ね]または[パーセント]を選択できます。[積み重ね]を選択すると、グラフ内でメトリック値が積み上げられます。[パーセント]を選択すると、メトリック値がパーセンテージとして表示されます。
6. [ツールチップ]では、パフォーマンス・ダッシュボード内でツールチップを表示する方法を選択できます。次のオプションを選択できます。

すべてのメトリクス - 共有十字を使用してすべてのメトリクスを同じツールチップ上に表示します。これは、すべてのメトリクスを追跡するのに役立ちます。
7. [メトリック固有の上書き]では、メトリック上書きを使用して、メトリックごとにカスタムの表示スタイルを追加できます。
 - a. [メトリック上書きルールの追加]をクリックします。メトリック上書きルールが表示されます。
 - b. ラベル・フィールド内をクリックし、使用可能なラベルのリストからメトリック・ラベルを選択します。
 - c.  をクリックして、表示スタイルを選択します。このオプションを使用して、特定のメトリック・ラベルに対して複数の表示スタイルを選択することもできます。たとえば、特定のメトリック・ラベルで、[棒グラフ]に「true」を選択し、[線塗りつぶし]に「4」を選択することができます。
 - d. グラフが棒グラフとして更新され、選択したメトリック・ラベルの線塗りつぶしが「4」になります。
 - e. <オプション> メトリック上書きルールを削除するには、 を選択します。

タスク 4 :オプションの指定

[**オプション**] タブを使用して、接頭辞または接尾辞のデータ、色分けオプション、値とテキストのマッピングを指定できます。このタブは、「単一の値」および「円グラフ」でのみ使用できます。これらの属性を定義するには、次の手順を実行します。

- [**大きな値**] では、次のオプションを指定できます。
 - 接頭辞 - 指定した接頭辞名が値の先頭に付加されます。たとえば、接頭辞として「Sample」を指定した場合、グラフは、Sample <値> として表示されます。
 - 値 - グラフに表示する必要がある値を選択できます。[最小]、[最大]、[平均]、[現状]、または[合計]を選択できます。
 - 接尾辞 - 指定した接尾辞名が値の末尾に付加されます。たとえば、接尾辞として「MB」を指定した場合、グラフは、<値>MB として表示されます。
- [**フォント サイズ**] では、接頭辞、値、および接尾辞の各データのフォント・サイズを選択できます。
- [**単位**] では、グラフに表示するオプションを次の中から選択できます。
 - 単位 - [短い]、[パーセント]、または[なし]のいずれかを選択できます。
 - 期間 - [ナノ秒(ns)]、[ミリ秒(ms)]、[マイクロ秒(μs)]、または[秒(s)]を指定することで、期間を選択できます。
 - データ - [ビット]、[バイト]、または[キロバイト]を指定することで、データ・サイズの形式を選択できます。
 - データ速度 - [ビット/秒]または[バイト/秒]を指定することで、データ速度を選択できます。
- [**色分け**] では、次の範囲オプションと色分けオプションを選択できます。
 - バックグラウンド** - 背景色を表示する場合に選択します。
 - 値** - 値を色分けする場合に選択します。
 - 範囲** - 範囲値(レベル1、レベル2、レベル3)を指定します。メトリック値がこれらのレベルを超えた場合、定義した色オプションがグラフに付加されます。
 - 色** - レベル1、レベル2、およびレベル3の範囲値の色を選択します。
 - 順序を反転** - 範囲値(レベル1、レベル2、およびレベル3)の順序を反転します。
- [**スパークライン**] では、履歴データを表示できます。これにより、役に立つ背景情報を一目で確認できます。この情報に x 軸や y 軸は含まれません。次のオプションを指定できます。
 - 表示** - スパーク・ラインを表示します。
 - バックグラウンドモード** - バックグラウンドを表示します。
 - 線の色** - スパーク・ラインの線の色を指定します。
 - 塗りつぶしの色** - スパーク・ラインの塗りつぶしの色を指定します。
- [**テキストマッピングへの値**] では、値をテキストにマップできます。たとえば、「該当なし」と表示するように値「12」をマップできます。これを行うには、次のオプションを使用します。
 - x** - 値とテキストのマッピングを削除します。
 - 値** - テキストにマップする必要がある値を指定します。
 - テキスト** - テキストを指定します。
 - +** - 値とテキストのマッピングを追加します。

タスク 5 :スタイルの指定

[スタイル] タブを使用して、テーブル属性を指定できます。このタブは「テーブル」でのみ使用できます。これらの属性を定義するには、次の手順を実行します。

1. [テーブルの種類] では、テーブルの種類として[時系列]または[構造化]を選択できます。[時系列]を選択すると、特定の期間のメトリック値が表示されます。[構造化]を選択すると、最新のメトリック値が表示されます。
2. [スタイル指定オプション] では、列の幅を選択できます。
3. [並べ替え] では、テーブルの並べ替えを行うかどうかを選択できます。並べ替えを有効にすると、列見出しを昇順または降順で並べ替えることができます。複数レベルの並べ替えができます。ある列のデータを並べ替えた後に、別の列で並べ替えることができます。
4. [書式設定] では、小数点以下の桁数を選択することで、書式を定義できます。定義した書式に応じて、値が更新されます。
5. [日付としての時間] では、日付として時間を表示するかどうかを選択できます。選択した場合、UNIX タイムスタンプが通常の日付形式で表示されます。
6. [列の色分け] では、範囲、色分けオプションなどを選択できます。次の設定ができます。
 - a. **バックグラウンド** - 背景色を表示する場合に選択します。
 - b. **値** - 値を表示する場合に選択します。
 - c. **範囲** - 範囲値(レベル 1, レベル 2, レベル 3)を指定します。メトリック値がこれらのレベルを超えた場合、定義した色オプションがグラフに付加されます。
 - d. **色** - レベル 1, レベル 2, およびレベル 3 の色を選択します。
 - e. **順序を反転** - 範囲値(レベル 1, レベル 2, およびレベル 3)の順序を反転します。

タスク 5 :リンクの指定

このオプションを使用して、グラフをパフォーマンス・ダッシュボードにリンクできます。このタブは、「グラフ」および「円グラフ」でのみ使用できます。

1. [リンクラベル] では、リンク・ラベルの名前を指定します。このリンクを使用して、グラフをパフォーマンス・ダッシュボードにリンクします。
2. [ダッシュボード] では、グラフのリンク先のパフォーマンス・ダッシュボードを指定します。
3. [ダッシュボードに戻る] をクリックします。[パフォーマンス] 表示枠のパフォーマンス・ダッシュボードの下部にリンク・ラベル付きの矢印が表示されます。
4. リンクをクリックすると、指定したパフォーマンス・ダッシュボードに移動します。

テキスト・グラフの編集方法

テキスト・グラフを使用して、グラフ・データの理解に役立つ情報を追加できます。テキスト・グラフの情報を指定するには、次の手順を実行します。

1. テキスト・グラフを編集するには、グラフのタイトルをクリックし、[編集] をクリックします。
2. [タイトル] で、テキスト・グラフのタイトルを指定します。この情報はテキスト・グラフの最上部に表示されます。
3. [モード] では、[Markdown]、[テキスト]、または[HTML]を選択します。選択したオプションに基づいて、テキストを記述できます。
4. [コンテンツ] では、指定した形式で内容を記述できます。この内容はテキスト・グラフに表示されま

す。

5. [閉じる]をクリックして終了し、パフォーマンス・ダッシュボードに戻ります。


パフォーマンス・ダッシュボードでのイベントの視覚化

イベント・オーバーレイ機能を使用すると、パフォーマンス・ダッシュボードに示された時間枠の中で特定の重大度のイベントがいつ発生したかを視覚化できます。このようなイベントを視覚化することで、特定の問題を診断できます。

ユース・ケース: メトリックにスパイクが存在する場合、そのスパイクを、生成されるイベントとともにパフォーマンス・ダッシュボードに重ねることができれば、それは、パフォーマンス・エキスパートにとって、スパイクおよび生成されるイベントの情報を相関するうえで役に立ちます。パフォーマンス・エキスパートは診断し、対策を講じることができます。

パフォーマンス・ダッシュボードでイベントを視覚化する方法

イベントは、新しいパフォーマンス・ダッシュボードまたは既存のパフォーマンス・ダッシュボードで視覚化できます。パフォーマンス・ダッシュボードの作成方法については、「[パフォーマンス・ダッシュボードの作成](#)」(275 ページ)を参照してください。既存のパフォーマンス・ダッシュボードの起動方法については、「[パフォーマンス・ダッシュボードの起動](#)」(283 ページ)を参照してください。

1. [パフォーマンス]表示枠で、 をクリックします。[ダッシュボードの設定]が表示されます。
2. [ダッシュボードの設定]で、[イベント オーバーレイ]をクリックします。
3. パフォーマンス・ダッシュボード内で視覚化するイベント・タイプを選択します。

重要警戒域 - 選択した時間範囲内の重要警戒域イベントをパフォーマンス・ダッシュボードに表示します。重要警戒域イベントはオレンジ色で強調表示されます。

危険域 - 選択した時間範囲内の危険域イベントをパフォーマンス・ダッシュボードに表示します。危険域イベントは赤色で強調表示されます。

警戒域 - 選択した時間範囲内の警戒域イベントをパフォーマンス・ダッシュボードに表示します。危険域イベントは黄色で強調表示されます。

注意域 - 選択した時間範囲内の注意域イベントをパフォーマンス・ダッシュボードに表示します。注意域イベントは青色で強調表示されます。

4. [閉じる]をクリックします。
5. [パフォーマンス]表示枠では、選択したオプションに基づいてパフォーマンス・ダッシュボードでイベントを視覚化できます。


インスタンスのパラメータ化を使用して、システム全体のさまざまなインスタンスを管理する

パフォーマンス・ダッシュボードでインスタンス・パラメータを定義することで、さまざまなシステムで実行されている複数の異なるインスタンスを管理できます。たとえば、システム A にメトリック・クラス X の 3 つのインスタンスがあり、システム B にメトリック・クラス X の 4 つのインスタンスがあるとします。この場合、メトリック・クラス X のインスタンス・パラメータを持つパフォーマンス・ダッシュボードを作成し、そのパフォーマンス・ダッシュボードを両方のシステムで再利用できます。インスタンス・パラメータは、システムに基づいて、メトリック・クラス X のインスタンスで動的に更新されます。


ユース・ケース: 多数のディスクまたはアプリケーション・インスタンスがあり、その一部のディスクまたはアプリケーション・インスタンスのみのパフォーマンス・メトリクスを視覚化する場合、インスタンスのパラメータ化を使用して、一部のインスタンスのパフォーマンス・メトリクスを視覚化できます。

インスタンス・パラメータを定義する方法


インスタンス・パラメータは、新しいパフォーマンス・ダッシュボードまたは既存のパフォーマンス・ダッシュボードで定義できます。パフォーマンス・ダッシュボードの作成方法については、「[パフォーマンス・ダッシュボードの作成](#)」(275ページ)を参照してください。既存のパフォーマンス・ダッシュボードの起動方法については、「[パフォーマンス・ダッシュボードの起動](#)」(283ページ)を参照してください。

1. [パフォーマンス] 表示枠で、 をクリックします。[ダッシュボード構成] ページが表示されます。
2. [パラメータ化] タブをクリックします。[パラメータ化] ページが表示されます。
3. [追加] タブをクリックして、インスタンス・パラメータを定義します。
4. [追加] タブで、パラメータ名 やほかのフィールドを指定できます。
5. データ・ソースを選択できます。ビュー・エクスプローラで選択した CI に基づいて、使用可能なデータ・ソースの一覧が表示されます。
6. クラス名を選択できます。ビュー・エクスプローラで選択した CI に基づいて、使用可能なクラス名の一覧が表示されます。
7. クラス名を選択したら、そのクラス名に対して使用可能なインスタンスが表示されます。
8. regex フィールドで正規表現を指定することで、インスタンス名をフィルタできます。たとえば、「test*」と指定すると、キーワード「test」で始まるすべてのクラス名を取り込むことができます。
9. [追加] をクリックして、パラメータを追加します。
パラメータ名 がパラメータ・タブに表示されます。

パフォーマンス・ダッシュボードでインスタンス・パラメータを表示する方法

1. [パフォーマンス] 表示枠で、 をクリックし、パフォーマンス・ダッシュボードをクリックして表示します。たとえば、標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードをクリックできます。
2. [パフォーマンス] 表示枠にパラメータが表示され、ドロップダウン・リストでインスタンスを確認できます。
3. パフォーマンス・メトリクスの視覚化の対象となるインスタンスをドロップダウン・リストから選択できます。ドロップダウン・リストには次のオプションも含まれます。
 - a. すべて選択 - すべてのインスタンスを選択します。
 - b. すべて選択解除 - インスタンスを表示しません。

定義したインスタンス・パラメータを使用する方法

1. [パフォーマンス] 表示枠で、 をクリックし、パフォーマンス・ダッシュボードをクリックして、その内容を表示します。たとえば、任意の標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードをクリックして、そのパフォーマンス・ダッシュボードの内容を表示できます。
2. パネルをクリックし、[編集] をクリックします。
3. [メトリクス] タブをクリックし、すべてのフィールド(データ・ソース、メトリック名、クラス名)を指定します。
4. インスタンス名を指定します。この場合は、パラメータ名を指定する必要があります。パラメータ名には、「\$」というプレフィックスを付加する必要があります。
5. [ダッシュボードに戻る] をクリックします。

グラフがインスタンスによって更新されます。

パフォーマンス・ダッシュボードの管理

本項では、パフォーマンス・ダッシュボードの管理に関連するタスクについて説明します。

OMi パフォーマンス・ダッシュボードを使用して、パフォーマンス・ダッシュボードを管理するための以下のタスクを実行できます。

[パフォーマンス・ダッシュボードの起動](#)

[パフォーマンス・ダッシュボードの保存](#)

[パフォーマンス・ダッシュボードのエクスポート](#)

[パフォーマンス・ダッシュボードのインポート](#)

[お気に入りの追加と使用](#)

[Business Value Dashboard\(BVD\)へのデータ転送](#)

[日付範囲/パネルを使用して時間指定データを視覚化する](#)

[ダッシュボード JSON の使用](#)


[パフォーマンス・ダッシュボードの削除](#)

パフォーマンス・ダッシュボードの起動

標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードおよび自分で作成したパフォーマンス・ダッシュボードを起動できます。次のいずれかの方法を使用して、パフォーマンス・ダッシュボードを起動できます。

パフォーマンス・パースペクティブの使用

特定の CI に関するダッシュボードの一覧を表示するには、次の手順を実行します。

1. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で、[表示] を選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、「System_Infrastructure」に関連する CI を表示できます。
2. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で、表示するパフォーマンス・ダッシュボードの対象となる特定の CI を選択できます。
3. [パフォーマンス] 表示枠で  をクリックすると、特定の CI に対して利用可能なダッシュボードが表示されます。
4. アイテムをクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを表示します。たとえば、標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードをクリックできます。また、検索オプションでタイトルを指定することで、パフォーマンス・ダッシュボードを検索することもできます。

パフォーマンス・ダッシュボードが [パフォーマンス] 表示枠に表示されます。

注 :標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードを削除することはできません。このため、標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードに削除オプションはありません。

[Event Perspective] タブの使用

1. [ワークスペース] > [操作コンソール] > [Event Perspective] をクリックします。

2. パフォーマンス・ダッシュボードを表示する対象のイベントを[イベント ブラウザ]表示枠でクリックします。
3. [アクション]表示枠で、[パフォーマンス ダッシュボードを表示]をクリックしてパフォーマンス・ダッシュボードを表示します。

マイ・ワークスペースの使用

次の手順に従って、OMi パフォーマンス・ダッシュボードを[マイ ワークスペース]ページにコンポーネントとして追加できます。

1. ページ管理ツールバーの[新規ページ]ボタンをクリックします。OMi パフォーマンス・ダッシュボードコンポーネントを既存のページに追加できます。
2. [分割]ボタンをクリックします。(任意指定)レイアウト領域を多数の垂直または水平の表示枠に分割できます。
3. [コンポーネントの追加]アイコンをクリックします。[コンポーネント ギャラリー]ウィンドウで、[パフォーマンス ダッシュボード]をダブルクリックするか、それをドラッグして表示枠の1つに配置します。
または、ページ管理ツールバーの[コンポーネント]ボタンをクリックします。コンポーネント・ギャラリーから[パフォーマンス管理]>[パフォーマンス ダッシュボード]を選択し、ページ上の任意の領域にドラッグします。
4. (任意指定)コンポーネント・ギャラリーから[ビュー エクスプローラ]を選択し、ページ上の任意の領域にドラッグします。ほかのUI マッシュアップ・コンポーネントからCI 情報を得ることができます。



パフォーマンス・ダッシュボードの保存

保存オプションを使用して、次のアクションを実行できます。

- パフォーマンス・ダッシュボードをホーム・ページとして保存する
- パフォーマンス・ダッシュボード JSON を表示する
- パフォーマンス・ダッシュボードをエクスポートする

パフォーマンス・ダッシュボードを保存するには、次の手順を実行します。


パフォーマンス・パースペクティブの使用

1. [ビュー エクスプローラ]表示枠で[表示]を選択し、CI を選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、「System_Infrastructure」に関連するCI を表示できます。
2. [パフォーマンス]表示枠で[新規作成]をクリックし、パフォーマンス・ダッシュボードを作成します。
パフォーマンス・ダッシュボードの作成方法については、[パフォーマンス・ダッシュボードの作成](#)を参照してください。
3.  をクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを保存します。[保存]ページが次のオプションとともに表示されます。
 - a. ホームとして保存 - パフォーマンス・ダッシュボードをホーム・ページとして保存します。
 - b. ダッシュボード JSON - ダッシュボード JSON を保存するには、これを選択します。
 - c. ダッシュボードのエクスポート - パフォーマンス・ダッシュボードをエクスポートするには、これを選択します。
4. パフォーマンス・ダッシュボードの名前を指定して、 をクリックします。
パフォーマンス・ダッシュボードが保存されたことを示すメッセージが表示されます。

パフォーマンス・ダッシュボードのエクスポート

パフォーマンス・ダッシュボードをエクスポートして、パフォーマンス・ダッシュボードの内容を編集またはレビューできます。

パフォーマンス・ダッシュボードをエクスポートするには、次の手順を実行します。

1. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で [表示] を選択し、CI を選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、「System_Infrastructure」に関連する CI を表示できます。
2. [パフォーマンス] 表示枠で [新規作成] をクリックし、パフォーマンス・ダッシュボードを作成します。
パフォーマンス・ダッシュボードの作成方法については、[パフォーマンス・ダッシュボードの作成](#)を参照してください。
3.  をクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを保存します。[保存] ページが次のオプションとともに表示されます。
 - a. ホームとして保存 - パフォーマンス・ダッシュボードをホーム・ページとして保存します。
 - b. ダッシュボード JSON - ダッシュボード JSON を保存するには、これを選択します。
 - c. ダッシュボードのエクスポート - パフォーマンス・ダッシュボードをエクスポートするには、これを選択します。
4. [ダッシュボードのエクスポート] をクリックします。パフォーマンス・ダッシュボード内にすでに存在するインスタンスを含める場合は、[インスタンスを含む] を選択します。
パフォーマンス・ダッシュボードがローカルに保存されます。

注: Microsoft Excel または TSV グラフを選択する場合、Microsoft Excel および TSV ファイルを表示できるようブラウザを設定する必要があります。


グラフ・テンプレートのインポート

グラフ・テンプレートを OMi 管理パックから OMi パフォーマンス・ダッシュボード にインポートできます。これは、多数のアプリケーションのパフォーマンス・ダッシュボードとしてパフォーマンス・メトリクスを視覚化するのに役立ちます。

グラフ・テンプレートをインポートする方法

グラフ・テンプレートは、新しいパフォーマンス・ダッシュボードまたは既存のパフォーマンス・ダッシュボードにインポートできます。新しいパフォーマンス・ダッシュボードの作成方法については、[「パフォーマンス・ダッシュボードの作成」\(275ページ\)](#)を参照してください。

グラフ・テンプレートを既存のパフォーマンス・ダッシュボードにインポートするには、次の手順を実行します。

1. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で [表示] を選択し、CI を選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、「System_Infrastructure」に関連する CI を表示できます。
2. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で、表示するパフォーマンス・ダッシュボードの対象となる特定の CI を選択できます。
3.  をクリックして、特定の CI で利用可能なパフォーマンス・ダッシュボードを表示します。
4. アイテムをクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを表示します。たとえば、標準設定のパフォーマ

ンス・ダッシュボードをクリックできます。また、検索オプションでタイトルを指定することで、パフォーマンス・ダッシュボードを検索することもできます。

パフォーマンス・ダッシュボードが[パフォーマンス]表示枠に表示されます。


5. パフォーマンス・ダッシュボードにすでにグラフが含まれている場合は、グラフのタイトルをクリックして[編集]をクリックすることができます。グラフ・オプションが表示されます。

グラフが含まれていない場合は、パフォーマンス・ダッシュボードを設定してグラフを追加する必要があります。詳細については、「パフォーマンス・ダッシュボードの設定」(275ページ)を参照してください。

6. [グラフテンプレートのインポート]をクリックします。特定の管理バックに移動し、適切なグラフ・テンプレートを選択します。
7. [インポート]をクリックします。グラフ・テンプレートがパフォーマンス・ダッシュボードにインポートされます。

グラフの複製

パフォーマンス・ダッシュボード内でグラフを複製できます。この機能を使用すると、編集とカスタマイズを容易に行うことができる、グラフのコピーを作成できます。

1. [ビューエクスプローラ]表示枠で[表示]を選択し、CIを選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、「System_Infrastructure」に関連するCIを表示できます。
2. [ビューエクスプローラ]表示枠で、ダッシュボードを表示する特定のCIを選択できます。
3.  をクリックして、特定のCIで利用可能なパフォーマンス・ダッシュボードを表示します。
4. アイテムをクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを表示します。たとえば、標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードをクリックできます。また、検索オプションでタイトルを指定することで、パフォーマンス・ダッシュボードを検索することもできます。


パフォーマンス・ダッシュボードが[パフォーマンス]表示枠に表示されます。

5. パフォーマンス・ダッシュボードにすでにグラフが含まれている場合は、グラフのタイトルをクリックして[複製]をクリックすることができます。グラフのコピーが作成され、パフォーマンス・ダッシュボードの結果行に追加されます。

パフォーマンス・ダッシュボードのインポート

インポート機能を使用して、パフォーマンス・ダッシュボードをインポートできます。

パフォーマンス・ダッシュボードをインポートするには、次の手順を実行します。

1. [ビューエクスプローラ]表示枠で[表示]を選択し、CIを選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、「System_Infrastructure」に関連するCIを表示できます。
2. [パフォーマンス]表示枠で  をクリックし、[インポート]をクリックします。
3. [参照]をクリックし、インポートする必要があるパフォーマンス・ダッシュボードを選択します。
4. [開く]をクリックします。


パフォーマンス・ダッシュボードが正常にインポートされます。

5. パフォーマンス・ダッシュボードをインポートしたら、[保存]をクリックして現在のCIに対する内容をロードする必要があります。

パフォーマンス・ダッシュボードの共有

ダッシュボードまたはグラフ(グラフ、単一の値、テーブル、テキスト、および円グラフ)の URL を共有し、[マイワークスペース] ページまたは任意の UI マッシュアップ・ページに埋め込むことができます。この機能を使用すると、パフォーマンス・ダッシュボードまたはグラフをすばやく簡単に共有できます。

パフォーマンス・ダッシュボードの共有方法

1. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で [表示] を選択し、CI を選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、「System_Infrastructure」に関連する CI を表示できます。
2. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で、ダッシュボードを表示する特定の CI を選択できます。
3.  をクリックして、特定の CI で利用可能なダッシュボードを表示します。
4. アイテムをクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを表示します。たとえば、標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードをクリックできます。また、検索オプションでタイトルを指定することで、パフォーマンス・ダッシュボードを検索することもできます。

パフォーマンス・ダッシュボードが [パフォーマンス] 表示枠に表示されます。

5. パフォーマンス・ダッシュボードにすでにグラフが含まれている場合は、**グラフのタイトル**をクリックし、[共有] をクリックすることができます。次のオプションが表示されます。
 - 現在の時間の範囲 - URL を使用してパフォーマンス・ダッシュボードを共有する場合、現在の時間範囲を使用します。このオプションを選択しない場合、すでに保存されている時間範囲でパフォーマンス・ダッシュボードを共有できます。
 - 現在のグラフのみ - URL を使用してパフォーマンス・ダッシュボードを共有する場合、現在のグラフのみを表示します。このオプションを選択しない場合、パフォーマンス・ダッシュボードにすべてのグラフが含まれます。
 - パラメータを含む - URL を使用してパフォーマンス・ダッシュボードを共有する場合、既存のパラメータを表示します。このオプションを選択しない場合、パラメータは含まれません。グラフにパラメータが含まれない場合、この設定は適用されません。

必要なオプションを選択し、パフォーマンス・ダッシュボードの URL をコピーして共有できます。

作成したパフォーマンス・ダッシュボードにグラフが含まれていない場合は、パフォーマンス・ダッシュボードを設定してグラフを追加する必要があります。詳細については、[「パフォーマンス・ダッシュボードの設定」\(275 ページ\)](#)を参照してください。

お気に入りの追加と使用


お気に入り機能を使用すると、頻繁に監視する CI のパフォーマンス・メトリクスを簡単に視覚化できます。お気に入りは、さまざまな CI のグラフのグループで構成されます。たとえば、A および B の CI を監視しています。最初の CI については、CPU 使用率をグラフ形式で視覚化し、もう一方の CI については、CPU パーセンテージ・ブレイクダウンをテーブル形式で視覚化する必要があります。この場合、特定の CI のグラフとテーブルをお気に入りに追加しておくと、パフォーマンス・データをすばやく視覚化できます。

標準設定では、「**自分のお気に入り**」が用意されています。ユーザ定義のお気に入りを無限に追加でき、さまざまな CI のパフォーマンス・メトリクスをすばやく視覚化することができます。標準設定の「自分のお気に入り」は、すべてのユーザが使用できます。各ユーザは自分が追加したグラフを表示できます。ユーザ

定義のお気に入りには、ユーザに固有のもので、あるユーザが作成したお気に入りを、別のユーザが使用することはできません。


ユース・ケース: あなたは管理者として、ビジネス・クリティカルなすべてのサーバとアプリケーションのパフォーマンスを 1 つのパフォーマンス・ダッシュボードに表示することを考えています。この情報を視覚化するのに、複数の異なるダッシュボードを表示することは考えていません。お気に入り機能を使用すれば、1 つのパフォーマンス・ダッシュボードにビジネス・クリティカルなサーバのパフォーマンス・メトリクスを表示できます。

お気に入りの追加方法およびユーザ定義のお気に入りの作成方法


1. [ビューエクスプローラ] 表示枠で、ドロップダウン・リストから [表示] を選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、そのビューに関連付けられた CI を表示できます。
2. [ビューエクスプローラ] 表示枠で、作成するパフォーマンス・ダッシュボードの対象となる CI をクリックします。
3. [パフォーマンス] 表示枠で  をクリックし、パフォーマンス・ダッシュボードをクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを表示します。たとえば、任意の標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードをクリックして、その内容を表示できます。
4. [パフォーマンス] 表示枠でグラフのタイトルをクリックし、[お気に入りの追加] をクリックします。お気に入りが選択オプションとともに表示されます。標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードおよびユーザ定義のお気に入りへのお気に入りの追加や、新しいユーザ定義のお気に入りの作成ができます。新しいユーザ定義のお気に入りを作成するには、次の手順を実行します。
 - a. ユーザ定義のお気に入りを作成するには、[+] をクリックします。
 - b. ユーザ定義のお気に入りの名前を指定します。
5. [保存] をクリックします。



注: ほかのお気に入りグラフを追加する場合も、同じ手順を実行できます。

お気に入りを表示する方法

[パフォーマンス] 表示枠で  をクリックし、[自分のお気に入り] またはユーザ定義のお気に入りをクリックして、お気に入りのグラフを表示します。たとえば、[自分のお気に入り] をクリックしてお気に入りグラフを表示することができます。頻繁に使用される CI とともに [自分のお気に入り] が表示されます。

お気に入りのパフォーマンス・ダッシュボードを削除する方法

[パフォーマンス] 表示枠で、 をクリックします。パフォーマンス・ダッシュボードとお気に入りのリストが表示されます。

1. 削除するお気に入りの上にマウスを重ねて、 をクリックします。たとえば、「自分のサンプルお気に入り」の上にマウスを重ねて、 をクリックすることができます。
2. [はい] をクリックします。お気に入りの削除を示すメッセージが表示されます。



注: 標準設定のお気に入り(「自分のお気に入り」)を削除することはできません。

Business Value Dashboard(BVD)へのデータ転送

OMi パフォーマンス・ダッシュボードは BVD との統合をサポートします。さまざまなデータソースからの重要なパフォーマンス・メトリクスを OMi パフォーマンス・ダッシュボードから Business Value Dashboard(BVD)に転送します。このパフォーマンス・メトリクスを BVD で視覚化できます。このオプションは、お気に入り機能と連携することでのみ使用できます。BVD へのデータ転送を有効にする前に、お気に入りを追加するた

めのタスクを完了する必要があります。詳細については、「[お気に入りへの追加方法およびユーザ定義のお気に入りへの作成方法](#)」(288ページ)を参照してください。BVD にデータを転送する前に、BVD のインフラストラクチャ設定を定義していることを確認します。を参照してください。詳細については、OMi 管理ガイドの「OMi パフォーマンス・ダッシュボードのインフラストラクチャ設定」の項を参照してください。

BVD へのデータの転送方法

1. [パフォーマンス] 表示枠で、 をクリックし、[自分のお気に入り] ページまたはユーザ定義のページをクリックして、お気に入りグラフを表示します。たとえば、[自分のお気に入り] をクリックしてお気に入りグラフを表示することができます。頻繁に使用される CI とともに [自分のお気に入り] ページが表示されます。
2. [パフォーマンス] 表示枠で  をクリックして、BVD の有効化と無効化を切り替えます。OMi パフォーマンス・ダッシュボード がデータを BVD に転送します。

注 :BVD の使用方法については、BVD のドキュメントを参照してください。



日付範囲パネルを使用して時間指定データを視覚化する

日付範囲パネルを使用して、日付および時間の特定の範囲でパフォーマンス・データを視覚化できます。日付範囲パネルを使用して、次の操作を実行できます。

- 指定した開始日と終了日の範囲内で、スライダを使用して特定の日付範囲と時間範囲を選択する。
- カスタム範囲オプションを使用して、カレンダーから開始日と終了日を選択し、時間指定のカスタム・データを視覚化する。
- 相対時間オプションを使用して、データを視覚化する。過去 5 分間や過去 1 時間などの相対時間オプションを選択できます。

注 :時間指定データを視覚化するには、日付範囲パネルまたはリアルタイムを使用できます。日付範囲パネルを使用してデータを視覚化する場合、リアルタイム・オプションは無効になります。

日付範囲パネルを使用してこれらの操作を実行する場合は、以下の手順を実行します。

1. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で、ドロップダウン・リストから [表示] を選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、そのビューに関連付けられた CI を表示できます。
2. [ビュー エクスプローラ] 表示枠で、対象の CI (パフォーマンス・ダッシュボードを開いて日付範囲パネルを使用する対象の CI) をクリックします。
3. [パフォーマンス] 表示枠で  をクリックし、いずれかのパフォーマンス・ダッシュボードをクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを表示します。たとえば、任意の標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードをクリックして、その内容を表示できます。
4.  をクリックして、日付範囲パネルを表示します。
5. 指定した開始日と終了日の範囲内で、スライダを使用して特定の日付範囲と時間範囲のパフォーマンス・データを表示できます。スライダをドラッグして、特定の日付範囲と時間範囲を選択できます。
6. ドロップダウンを選択して、使用可能なさまざまなオプションを表示できます。カスタム・オプション(開始日、終了日、および特定の期間)を選択するには、次の手順を実行します。

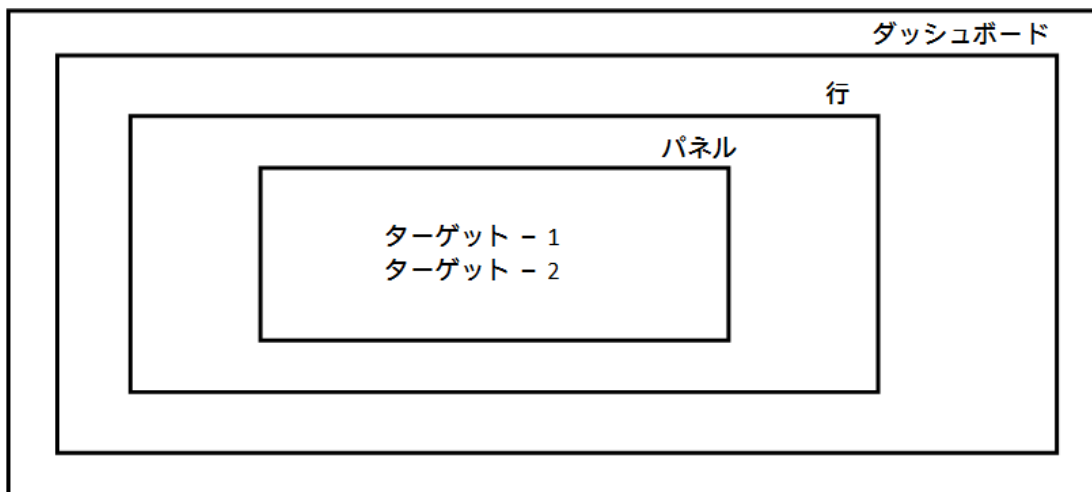
- a. 日付の期間を選択するには、[開始日]と[終了日]を指定します。たとえば、2015 年 10 月 2 日を開始日、2015 年 10 月 3 日を終了日として選択し、時間指定データを視覚化できません。
 - b. すでに指定した日付のタイムラインを選択することもできます。
 - c. [適用]をクリックして変更します。日付範囲と時間範囲の変更はスライダに表示されます。
 - d. これで、指定した開始日と終了日の範囲内で、スライダを使用して日付範囲と時間範囲を選択できます。選択した内容に応じて、パフォーマンス・ダッシュボードが視覚化されます。
7. ドロップダウンを使用して、データを視覚化するための相対時間を選択することもできます。たとえば、過去 5 分間や過去 1 時間などをクリックできます。選択した相対時間に応じて、パフォーマンス・ダッシュボードが視覚化されます。

ダッシュボード JSON の使用

ダッシュボード JSON を使用して、パフォーマンス・ダッシュボードのメタデータまたは属性を表示できます。たとえば、ダッシュボード JSON を使用して、メトリック名を確認できます。

ダッシュボード JSON の例

次の図に、パフォーマンス・ダッシュボード JSON の構造に関する情報を示します。



ダッシュボード JSON

パフォーマンス・ダッシュボード JSON には、次の属性が含まれます。


要素	属性	説明
行	タイトル	行のタイトルを指定できます。
	高さ	行の高さを指定できます。
グラフ	タイトル	グラフのタイトルを指定できます。
	長さ	1~12 の範囲でグラフの幅を指定できます。

要素	属性	説明
ターゲット	データ・ソース	データ・ソースを指定できます。
	クラス名	クラス名を指定できます。
	メトリック	メトリック名を指定できます。
	インスタンス	インスタンス名を指定できます。

パフォーマンス・ダッシュボードの削除

自分で作成したパフォーマンス・ダッシュボードを削除できます。標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードを削除することはできません。

パフォーマンス・ダッシュボードを削除するには、次の手順を実行します。

- [ビュー エクスプローラ] 表示枠で [表示] を選択し、CI を選択します。
たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、「System_Infrastructure」に関連する CI を表示できます。
- [パフォーマンス] 表示枠で  をクリックして、既存のパフォーマンス・ダッシュボードを表示します。
- パフォーマンス・ダッシュボードに移動し、[削除] をクリックします。
- [はい] をクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを削除します。
パフォーマンス・ダッシュボードが削除されたことを示すメッセージが表示されます。

リアルタイム・データの視覚化



リアルタイム機能を使用すると、パフォーマンス・ダッシュボードでリアルタイム・データを視覚化できます。履歴データからリアルタイム・データにすばやく切り替えることができます。標準設定では、リアルタイム・データを 30 分の時間範囲で利用できます。また、リアルタイム・データを視覚化するための時間範囲を定義することもできます。リアルタイム・データは 5 秒ごとに自動的に更新されます。リアルタイムを有効にした場合、日付範囲パネルで選択した時間指定データは、パフォーマンス・ダッシュボード内でリアルタイム・データで上書きされます。リアルタイムを無効にした場合、日付範囲パネルで選択した時間指定データをパフォーマンス・ダッシュボードで利用できます。標準設定では、リアルタイムを選択した場合、リアルタイム・データはパフォーマンス・ダッシュボード内で青の背景色で表示されます。リアルタイム機能は次のデータ・ソースでのみ使用できます。

- HPE Operations Agent
- SiteScope

リアルタイムを有効または無効にする方法

リアルタイム・データの視覚化を有効または無効にする前に、パフォーマンス・ダッシュボードを作成するか、既存のパフォーマンス・ダッシュボードを開く必要があります。リアルタイム・データの視覚化を有効または無効にするには、次の手順を実行します。

- [ビュー エクスプローラ] 表示枠で [表示] を選択し、CI を選択します。たとえば、「System_Infrastructure」を選択して、「System_Infrastructure」に関連する CI を表示できます。
- [ビュー エクスプローラ] 表示枠で、ダッシュボードを表示する特定の CI を選択できます。

3.  をクリックして、特定の CI で利用可能なパフォーマンス・ダッシュボードを表示します。
4. アイテムをクリックして、パフォーマンス・ダッシュボードを表示します。たとえば、標準設定のパフォーマンス・ダッシュボードをクリックできます。
パフォーマンス・ダッシュボードが[パフォーマンス]表示枠に表示されます。
5. [パフォーマンス]表示枠で、 をクリックします。リアルタイム機能を選択すると、パフォーマンス・ダッシュボードでのリアルタイム・データの視覚化が有効になります。この選択をキャンセルすると、リアルタイム・データは表示されなくなり、日付範囲パネルで選択した以前の設定に戻ります。
これで、パフォーマンス・ダッシュボード内でリアルタイム・データが視覚化されます。

リアルタイムに関する SiteScope の設定

SiteScope バージョン 11.22 以上では、リアルタイムがサポートされます。

SiteScope からリアルタイム・データを取得するには、次の手順を実行します。

1. SiteScope サーバの UI に移動します。
2. [プリファレンス]オプション > [検索フィルタ/タグ] をクリックします。
3. [新規タグ] をクリックします。タグ名を指定します。たとえば、「PMiDefault」と指定できます。
4. [新規値] をクリックします。値の名前と説明を入力します。たとえば、値の名前および説明として「PMiDefault」を指定できます。
5. [OK] をクリックし、[モニタ] をクリックします。表示するリアルタイム・データの対象となるグループまたは特定のモニタを選択し、[プロパティ] をクリックして、[検索/フィルタ] タグをクリックします。
6. 作成したタグを選択して、[保存] をクリックします。
7. [プリファレンス] > [統合プリファレンス] に移動します。
8. [新規作成] をクリックし、[データ統合] を選択して、次の詳細情報を指定します。
 - a. 名前を入力します。たとえば、「PMiDefault」という名前を指定できます。
 - b. レシーバ URL を「`http://<OMi_GateWay_Server_host_name>/OVPM/SiteScopeDataReceiver`」として入力します。
 - c. [エンコード] を「UTF-8」として入力します。
 - d. [報告間隔] を 15 秒として入力します。
 - e. [時刻同期の間隔] を 10 分として入力します。
 - f. [GZIP 圧縮のみ] を選択します。
 - g. Web サーバ・セキュリティ設定 - OMi サーバで基本認証を使用するように設定する場合は、OMi サーバ UI のユーザ名とパスワードを入力します。それ以外の場合は、空白のままにします。
 - h. レポート タグ - 新しく作成したタグを選択して、[OK] をクリックします。

リアルタイムに関する SiteScope の設定の詳細については、SiteScope ヘルプで、[データ統合プリファレンス] ダイアログ・ボックスに関する項を参照してください。

RTM に関する HPE Operations Agent の設定

Operations Agent バージョン 11.x を使用している場合、Operations Agent で RTMD サービスを実行する必要があります。Operations Agent バージョン 12.00 を使用している場合、Operations Agent で HPCS を実行する必要があります。詳細については、HPE Operations Agent のドキュメントを参照してください。

データ・ソース

データ・ソースとは、エージェント、エージェント・コンポーネント、またはデプロイ先のエンティティや要素を監視するエージェントレス・コレクタなどです。

OMi パフォーマンス・ダッシュボード は、次のデータ・ソースをサポートしています。

- HPE Operations Agent
- SiteScope
- BSM Connector
- Application Performance Management (APM)
- Virtualization Performance Viewer (vPV)

OMi パフォーマンス・ダッシュボード は、RTSM 内で **Monitored_by** 属性に対して設定されているデータ・ソースを検証し、一覧中のデータ・ソースからのみデータを収集します。たとえば、CI が SiteScope のみによって監視されている場合、OMi パフォーマンス・ダッシュボード は SiteScope データ・ソースからのみデータを収集します。**Monitored_by** 属性に値が設定されていない場合、OMi パフォーマンス・ダッシュボード は HP Operations Agent のデータ・ソースへの接続を試みます。

データ・ソースは、監視対象の要素に関するデータを継続的に収集し、将来使用するためにデータ・ストアに格納します。パフォーマンス・グラフ作成を使用して、永続的なデータ・ストアに格納されたこの履歴データを表示できます。

注: HPE Operations Agent (11.00) のリアルタイム・メトリック・アクセス・コンポーネントを使用すると、監視対象の要素に関するパフォーマンス・データにリアルタイムでアクセスできます。詳細については、HPE Operations Agent のドキュメントを参照してください。

メトリクス

メトリックとは、リソースの運用状況およびパフォーマンスを示す測定値のことです。これは、監視対象リソースの状況、パフォーマンス、可用性を監視して測定するために使用できるパラメータまたは一連のパラメータです。

OMi パフォーマンス・ダッシュボードを使用して、このデータをグラフやテーブルなど、いくつかの形式で視覚化できます。パフォーマンス・ダッシュボードは、選択したメトリクスで利用できるデータ・ポイントで構成されています。メトリック・クラスとは、報告するデータ・タイプに基づいてグループ化された関連のある一連のメトリクスです。

HPE Operations Agent および HPE Performance Agent によって収集されたメトリック値により、監視対象システムに関する次の情報が得られます。プロセス、アプリケーション、トランザクション、CPU、ファイルシステム、ディスク、ネットワーク・インターフェース、論理システム。こうした詳細により、監視対象システムの運用効率および状況が示されます。さらに、さまざまなスマート・プラグイン (SPI) でこうしたエージェントが補完され、これらの管理対象システムで実行されるさまざまなアプリケーションに関する詳細情報が得られます。

SiteScope は、エージェント・ソフトウェアに頼らずにさまざまなシステムからメトリクスを収集します。SiteScope によって収集されたメトリック値によって、サーバ状況、URL の可用性、Web サービス、データベース、アプリケーション・サーバに関する情報が得られます。これらの収集されたパラメータにより、IT インフラストラクチャの可用性とパフォーマンスが示されます。

BSM Connector では、サードパーティ・システム(通常は、Enterprise Management System)によって収集されたデータを OMi に統合します。BSM Connector によって収集されたメトリクスにより、サードパーティ・ソフトウェアによって監視されるシステムおよびアプリケーションに関する情報が得られます。

詳細については、『OMi 統合ガイド』を参照してください。

トラブルシューティング

本項では、OMi パフォーマンス・ダッシュボードの追跡、ログ・ファイル、およびトラブルシューティング・シナリオについて説明します。

追跡

OMi パフォーマンス・ダッシュボードのトラブルシューティングを行うには、追跡を有効にすることができます。log4j.properties で OMi パフォーマンス・ダッシュボードの Debug または Trace ログ・レベルを有効にするには、次の場所に移動します。

Windows の場合 : %TOPAZ_HOME%\conf\core\Tools\log4j\pmi\log4j.properties

Linux の場合 : \$TOPAZ_HOME/conf/core/Tools/log4j/pmi/log4j.properties

すべての log4j.category を DEBUG または TRACE に設定する必要があります。

ログ・ファイル

OMi パフォーマンス・ダッシュボードと BVD のログ・ファイルは次の場所にあります。

OMi パフォーマンス・ダッシュボード

Windows の場合 : %TOPAZ_HOME%\log\pmi\pmi.log

Linux の場合 : \$TOPAZ_HOME/log/pmi/pmi.log

BVD

OMi パフォーマンス・ダッシュボードと BVD の統合に関連するログ・ファイルを確認するには、次の場所を確認します。

Windows の場合 : %TOPAZ_HOME%\log\pmi\bvd.log

Linux の場合 : \$TOPAZ_HOME/log/pmi/bvd.log

トラブルシューティング・シナリオ

イベント・オーバーレイが適切に動作しない

問題: イベントがグラフに表示されません。

解決策: この問題を解決するには、イベントに焦点を当てて確認する必要があります。イベントが重複している可能性があります。

リアル・タイムのグラフでエラー・メッセージが表示される

問題: リアル・タイムのグラフで、「No data found error.... in OMi Performance Dashboard」という

エラー・メッセージが表示されます。

解決策 : この問題を解決するには、次の手順を実行します。

Operations Agent バージョン 12 の CI の場合:

1. 次の URL を使用して HPCS が実行されているかどうかを確認します。
http://<systemname:portno>/hpcs/lwistatus(例 :
http://hostname1:383/hpcs/lwistatus)
2. 次の URL を実行して、システムからデータがロードされるかどうかを確認します。
http://<systemname:portnumber>/hpcs/v2/Metrics/all(例 :
http://hostname1:383/hpcs/v2/Metrics/all)
3. HPCS が実行されていない場合、次のコマンドを使用して HPCS サービスを開始します。
ovc -restart hpsensor
4. **HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU** ライセンスが有効になっていることを確認します。
oalicense -get -all
5. **HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU** ライセンスが有効になっていない場合、次のコマンドを使用して、CI に対して HP Compute センサ・ライセンスを有効にすることができます。
oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU
6. 次のコマンドを使用して HPCS サービスを再起動します。
ovc -restart hpsensor

Operations Agent バージョン 11 の CI の場合:

1. 次のコマンドを使用して、**HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU** ライセンスが有効になっていることを確認します。
oalicense -get -all
2. **HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU** ライセンスが有効になっていない場合、次のコマンドを使用して、CI に対して RTM ライセンスを有効にします。
oalicense -set -type PERMANENT "HP Ops OS Inst to Realtime Inst LTU
LTU が正常に設定されます。
3. perfcd コンポーネントと rtmcd コンポーネントを再起動します。
4. ノードで Operations Agent の RTM コンポーネントが実行されているかどうかを確認します。
5. ノードで perfcd と rtmcd が実行されていることを確認します。
6. これらのコンポーネントが実行されている場合、ノードで perfcd コンポーネントと rtmcd コンポーネントを開始します。

リアルタイムのグラフが 5 秒ごとに更新されない

問題 : Operations Agent バージョン 12 の CI については、OMi パフォーマンス・ダッシュボード内でリアルタイムのグラフが 5 秒ごとに更新されません。

解決策 : この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. HPCS 構成ファイルを編集して、HPCS データ収集間隔を変更します。
#vi /var/opt/perf/hpcs.conf
2. collection_interval の値(秒単位)を変更し、ファイルを保存します。
3. 次のコマンドを使用して HPCS サービスを再起動します。

```
# ovc -restart
```

4. Operations Agent から OMi パフォーマンス・ダッシュボードを再起動します。
5. OMi パフォーマンス・ダッシュボードに移動し、[パフォーマンス] 表示枠で[更新]をクリックします。
6. [キャッシュのクリア]オプションを選択し、HPCS から OMi パフォーマンス・ダッシュボードのデータ収集を再ロードします。

パフォーマンス・ダッシュボードがロードされない

問題: パフォーマンス・ダッシュボードがロードされず、期待どおりに動作しません。

解決策: ネットワーク・ログを確認し、URL の呼び出しに障害がないかどうかをチェックします。

ネットワーク・ログを確認するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザで F12 キーを押し、デバッグ・パネルを表示します。
2. デバッグ・パネルの[ネットワーク]タブを選択します。

パフォーマンス・ダッシュボードに表示されるデータに整合性がない

問題: パフォーマンス・ダッシュボードに表示されるデータに整合性がありません。

解決策: この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. [パフォーマンス] 表示枠で[更新]をクリックします。
2. ドロップダウンから[更新]オプションを選択します。パフォーマンス・ダッシュボードが最新データで更新されます。
3. 次の URL を使用して、必要な時間間隔でデータが受信されていることを確認できます。

```
http://<HOST_NAME>/OVPM/rest/1.0/data/graphdata?ciid=<CI_ID>&class=<CLASS>&ds=<DATASOURCE>&endtime=<END_TIME>&instances=<INSTANCE_NAME>&interval=<INTERVAL>&metrics=<METRIC_NAME>&starttime=<START_TIME>
```

インスタンスが CI に追加されたが、インスタンスを OMi パフォーマンス・ダッシュボードで使用できない

問題: CI ではインスタンスを使用できますが、OMi パフォーマンス・ダッシュボードにインスタンスを表示することができません。

1. [パフォーマンス] 表示枠で[更新]をクリックします。
2. ドロップダウンから[キャッシュのクリア]を選択します。

CI タイプ・ツリーが表示されない

問題: [パフォーマンスダッシュボード マッピング] の左表示枠に、CI タイプ・ツリーが表示されません。

解決策: この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザに Adobe Flash Player がインストールされているかどうかを確認します。
2. Adobe Flash Player がインストールされている場合は、それが有効になっているかどうかを確認します。無効になっている場合は、有効にします。

CI タイプ・ツリーのロード時にエラー・メッセージが表示されます

問題: CI タイプ・ツリーのロード時にエラー・メッセージが表示されます

解決策: この問題を解決するには、OMi からログアウトし、OMi にログインする必要があります。

[保存] アイコンが有効になっていない

問題: [パフォーマンス ダッシュボード マッピング] で, [保存] アイコンが有効になっていません。

解決策: この問題を解決するには, 次の手順を実行します。

1. 何か変更を加えると, [保存] オプションが有効になります。
2. CI 属性または割り当てられたダッシュボードを編集することで, [保存] オプションを有効にすることができます。

[パフォーマンス ダッシュボード マッピング] で, Internet Explorer のロケールが変わらない

問題: [パフォーマンス ダッシュボード マッピング] で, Internet Explorer のロケールが変わりません。

解決策: この問題を解決するには, 次の手順を実行します。

1. ブラウザのすべてのタブを閉じます。
2. ブラウザを再度開きます。
3. OMi コンソールを開きます。
4. 資格情報を使用してログオンします。
5. [管理] > [操作コンソール] > [パフォーマンス ダッシュボード マッピング] をクリックします。

リアルタイム・グラフ・ウィンドウで更新の受信が停止する

問題: RTM データ・ソースをホストするノードで HPE Operations Agent(またはエージェントの RTM コンポーネント)が実行を停止すると, RTM データ・ソースから取得されたメトリクスで描画されたパフォーマンス・ダッシュボードは更新の受信を停止します。パフォーマンス・ダッシュボードのタイトル・バーにデータ・ポイントが表示されません。

解決策: HPE Operations Agent(またはエージェントの RTM コンポーネント)がノードで再び実行を開始すると, パフォーマンス・ダッシュボード・ウィンドウで, 更新されたデータの表示が開始されます。

SiteScope のリアル・タイムが機能しません

問題: SiteScope のリアル・タイムが機能しません

解決策: この問題を解決するには, 次の手順を実行します。

1. 設定した SiteScope バージョンが 11.22 以上であるかどうかを確認します。
2. OMI サーバから SiteScope サーバへの接続を確認します。SiteScope が起動されて実行中であることを確認する必要があります。
3. OMi で Selected CI の monitored_by 属性に SiteScope が含まれていることを確認します。SiteScope を使用できない場合, SiteScope と OMi 間で同期の問題が発生した可能性があります。SiteScope チームまたは OMi チームにお問い合わせください。
4. 次の場所で統合 XML を使用できるかどうかを確認します。

Windows の場合: %ovdatadir%\shared\server\conf\perf\pmiworkdir\data\SiteScope_RTM_GC_Integration.xml

Linux の場合: /var/opt/OV/shared/server/conf/perf/pmiworkdir/data/SiteScope_RTM_GC_Integration.xml

5. SiteScope で [プリファレンス] をクリックし, 次の手順を実行します。

検索/フィルタ タグ

- a. フィルタが作成されているかどうかを確認します。
- b. モニタが含まれているグループをクリックし、[プロパティ]>[検索/フィルタ タグ]をクリックします。フィルタの一覧が表示されているかどうか、およびオプションが有効になっているかどうかを確認します。
- c. [プロパティ]>[モニタの実行設定]>[頻度]をクリックし、OMi パフォーマンス・ダッシュボードに RTM データが表示されないモニタに対して、頻度が 15 秒に設定されているかどうかを確認します。

統合プリファレンス

- a. [統合プリファレンス]をクリックします。データ統合が追加されているかどうかを確認します。データ統合が追加されていない場合は、SiteScope のドキュメントを参照してください。
- b. データ統合を利用できる場合は、データ統合を選択し、[編集]をクリックして、次の設定を確認します。
 - i. レシーバ URL が OMi パフォーマンス・ダッシュボード・リスナの URL であるかどうかを確認します。例: `http://<OMI_HOST_NAME>/OVPM/SiteScopeDataReceiver`
 - ii. [エンコード]が[UTF-8]であるかどうかを確認します。
 - iii. [レポート間隔]が[15 秒]であるかどうかを確認します。
 - iv. [時刻同期の間隔]が[10 分]であるかどうかを確認します。
 - v. GZIP 圧縮のみかどうかを確認します。
 - vi. Web サーバセキュリティ設定を確認します。基本認証を使用するように OMi パフォーマンス・ダッシュボードが設定されている場合、OMi パフォーマンス・ダッシュボードにアクセスするためのユーザ名とパスワードを指定します。それ以外の場合は、空白のままにします。
 - vii. [レポート タグ]で、モニタ上で割り当てられているフィルタが選択されているかどうかを確認します。
6. SiteScope のインストール先のマシンの `data_integration.log` ファイル内にエラーがある場合、設定したレシーバ URL が SiteScope 内にあるかどうかを確認します。
 - a. `<Sitescope_Installed_Folder>\log\data_integration.log` ファイルを確認します。エラーがある場合、設定されたレシーバ URL が間違っています。詳細については、SiteScope のドキュメントを参照してください。
 - b. ログ・ファイルにエラーがない場合、SiteScope データ統合のログ・ファイルのデバッグ・モードを有効にします。
 - c. `<Sitescope_Installed_Folder>\conf\core\Tools\log4j\PlainJava\log4j.properties` ファイルで、次のテキストを


```
log4j.category.dataIntegration=${loglevel}, data.integration.appender
```

 次のように変更します。


```
log4j.category.dataIntegration=DEBUG, data.integration.appender
```
 - d. `log4j.properties` で OMi パフォーマンス・ダッシュボードの Trace ログ・レベルを有効にします。

Windows の場合 : `%TOPAZ_HOME%\log\pmi\pmi.log`

Linux の場合 : `$TOPAZ_HOME/log/pmi/pmi.log()`
6. 選択したモニタの RTM データが、次のテキストのようにログ記録されているかどうかを確認します。


```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSRTMDataReceiver:doPost() -> RTM XML Content
```

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<performanceMonitors collector="SiteScope" collectorHost="martellvm8">
<group name="Demo_Monitors">
<monitor type="Memory" target="IWFVM00127.hpswlab.adapps.hp.com"
targetIP="16.183.88.177" time="1417567245958" quality="1" name="Memory monitor
on iwfv00127">
<counter value="49" name="percent used"/>
</monitor>
</group>
</performanceMonitors>
```

SiteScope の履歴データが機能しない

問題: SiteScope の履歴データが機能しません

解決策: この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. 設定した SiteScope バージョンが 11.22 以上であるかどうかを確認します。
2. [OMi] > [管理] > [セットアップと保守] > [接続サーバ] で、SiteScope サーバが設定されているかどうかを確認します。
3. OMi サーバから SiteScope サーバへの接続を確認します。SiteScope が起動されて実行中であることを確認する必要があります。
4. 選択された CI の monitored_by 属性に SiteScope が含まれていることを確認します。SiteScope を使用できない場合、SiteScope と OMi 間で同期の問題が発生しています。
5. 次の場所で統合 XML を使用できるかどうかを確認します。

Windows の場合: %ovdatadir%\shared\server\conf\perf\pmiworkdir\data\SiteScope_GC_Integration.xml

Linux の場合: /var/opt/OV/shared/server/conf/perf/pmiworkdir/data/SiteScope_GC_Integration.xml

6. OMi パフォーマンス・ダッシュボードのログ・ファイルを分析して、エラーまたは例外がないかどうかを確認します。

Windows の場合: %TOPAZ_HOME%\log\pmi\pmi.log

Linux の場合: \$TOPAZ_HOME/log/pmi/pmi.log

ログ・ファイルで以下の確認を行います。

- a. 接続サーバの API が SiteScope サーバのデータを返しているかどうかを確認します。
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:loadMeta() -> Sitescope
Connected Server size :1
- b. RTSM API が、選択された CI のデータをモニタに返しているかどうかを確認します。
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:loadMeta() -> Number of
Serversthe selected CI associated with 1
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:loadMeta() -> Selected CI's
Serve Name martellvm8.ind.hp.com
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:loadMeta() -> Selected CI's
Topology Monitor Map size 2

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:loadMeta() -> Selected CI's
Monitor Name Demo_Monitors/CPU Monitor on iwfv00127
```

- c. SiteScope DAL の API がデータを OMi パフォーマンス・ダッシュボードに返しているかどうかを確認します。

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:loadMeta() -> Querying
Sitescope DAL API with query parameters
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:getMonitorsForASiSServer()
-> Full Server Name martellvm8.ind.hp.com
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:getMonitorsForASiSServer()
-> Short Server Name martellvm8
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSHelper:getHistoryData() -> Getting SiS
History data
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSHelper:getHistoryData() -> Server Name
martellvm8
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:getMonitorsForASiSServer()
-> SiS history mapsize 1
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:getMonitorsForASiSServer()
->Monitor List size.3
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:loadMeta() -> Monitor
Output size via DAL 3
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:loadMeta() -> Final Output
size 2
```

7. SiteScope サーバが停止している場合、ログ・ファイルに次のような接続拒否例外が含まれます。

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSDAMetricAdapter:loadMeta() -> Querying
Sitescope DAL API with query parameters
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSHelper:getDataFromDALApi() -> Error getting
data from Sitescope DAL API;; nested exception is:
java.net.ConnectException:Connection refused: connect
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSHelper:getDataFromDALApi() -> AxisFault
faultCode:{http://schemas.xmlsoap.org/soap/envelope/}Server.userException
faultSubcode:
```

```
faultString: java.net.ConnectException:Connection refused:connect
```

8. データ要求エラーがある場合、ログ・ファイルに次のような例外が含まれます。

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.SiSHelper:getDataFromDALApi() -> Error getting
data from Sitescope DAL API:
```

```
com.mercury.sitescope.api.data.exception.RequestDataExceedLimitException:Error
Code:77104.
```

```
Error Description:Request from start date Tue Sep 02 04:06:14 IST 2014 to Wed
Sep 03 04:06:14 IST 2014 resources are over the configured maximum limit: 20 MB
(approximate request resources size is 660MB).
```

```
Process succeed for time range: Tue Sep 02 04:06:14 IST 2014 to Tue Sep 02
04:49:39 IST 2014.
```

リソース・サイズの制限を変更する必要があります。SiteScope のインフラストラクチャ・プリファレンスに移動し、データ取得 API の単一要求のサイズ値を変更します。

- 現在の時間から過去 1 日間以内に SiteScope サーバでこのモニタのデータが **good** ステータスで記録されているかどうかを確認します。

<Sitescope_Installed_Folder>\logs\Sitescope.log

別々の CI の同一メトリクスを比較するためのお気に入りでデータが表示されない

問題: 別々の CI の同一メトリクスを比較するためのお気に入りでデータが表示されません。これが起きるのは、メトリクスの比較対象である CI のシステム時刻が地域のタイム・ゾーンに従って設定されていない場合です。

解決策: お気に入りでデータが表示されるようにするには、CI が位置する地域のタイム・ゾーンに合わせてシステム時刻を設定します。

OMi パフォーマンス・ダッシュボードが BVD エンド・ポイントにデータを転送しない

問題: OMi パフォーマンス・ダッシュボード が BVD エンド・ポイントにデータを転送しません。

解決策: この問題を解決するには、次の手順を実行します。

- OMi で、エンド・ポイントの詳細が `bvdconf.json` ファイルで設定されているかどうかを確認します。

Windows : %0vDataDir%shared\server\conf\opr\bvdconf.json

Linux : /var/opt/0V/shared/server/conf/opr/bvdconf.json

- OMi で、**[管理]** > **[セットアップと保守]** > **[インフラストラクチャ設定]** をクリックします。[アプリケーション] リストで、**[パフォーマンスダッシュボード]** を選択します。
- 次の項目が設定されていることを確認します。
 - エンドポイント名** - OMi パフォーマンス・ダッシュボードのデータの転送先のエンドポイントの名前。これは、`bvdconf.json` ファイルで指定されたエンドポイント名と一致する必要があります。
 - エンドポイントへのデータ転送をオンにします(true に設定します)。
- OMi で、**[ワークスペース]** > **[操作コンソール]** > **[Performance Perspective]** をクリックし、お気に入りを使用できるかどうか、およびお気に入りに対して**[BVDへのデータ転送の有効化/無効化]** オプションが設定されているかどうかを確認します。
- これらの設定がすべて完了しても、OMi パフォーマンス・ダッシュボードが依然としてエンドポイントにデータを転送しない場合は、`bvd.log` ファイルをチェックして、エラーまたは例外がないかどうかを確認します。

Windows の場合 : %TOPAZ_HOME%\log\pmi\bvd.log

Linux の場合 : \$TOPAZ_HOME/log/pmi/bvd.log

- エンドポイントに関連する解析例外がある場合、適切な json エンドポイントの詳細が `bvdconf.json` ファイルに追加されていることを確認します。
- ログ・ファイルに次のエラーまたは例外が含まれていないかどうかを確認します。

BVD - データをポストできません。つまりデータソースからデータを利用できません - データを取得できないことに関してデータソースのトラブルシューティングを行う必要があります。

BVD - エンドポイントにデータをポストできません。ステータスコード : - エンド・ポイントに OMi サーバからアクセスできるかどうかを確認する必要があります。アクセスできない場合は、`bvdconf.json` にプロキシ設定を追加します。

BVD - エンドポイントへのデータのポストでエラーが発生しました - 設定したエンドポイント URL が有効であるかどうか、およびプロキシの詳細が有効であるかどうかを確認します。

NIC を選択したときに、定義済みのパフォーマンス・ダッシュボードが表示されない

問題: ビュー・エクスプローラから CI として NIC の MAC アドレスを選択したときに、対応する定義済みのパフォーマンス・ダッシュボードが表示されません。原因は、パフォーマンス・ダッシュボード・マッピングの作成時に、NIC 名が、MAC アドレスではなく、定義済みのパフォーマンス・ダッシュボードにマップされるためです。

解決策: 定義済みのパフォーマンス・ダッシュボードを表示するには、対応するホストを選択することができます。

vPV 統合の問題

問題: OMi パフォーマンス・ダッシュボード を vPV と統合できません。

説明: この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. OMi で、選択された CI の `monitored_by` 属性に vPV が含まれていることを確認します。vPV が含まれていない場合、vPV と OMi 間で同期の問題が発生した可能性があります。vPV チームにお問い合わせください。
2. 次の場所で統合 XML を使用できるかどうかを確認します。

Windows : %ovdatadir%\shared\server\conf\perf\pmiworkdir\data\vPV_GC_Integration.xml

Linux : /var/opt/OV/shared/server/conf/perf/pmiworkdir/data/vPV_GC_Integration.xml

3. OMi と vPV の両方で、設定された時間が同じであるかどうかを確認します。
4. RTSM 応答内のインスタンス情報を確認します。

```
<graphParameters>
<systemNames>
<systems>
<systemName>16.184.47.225</systemName>
<port>8444</port>
</systems>
<systems>
<systemName>martell.ind.hp.com</systemName>
</systems>
</systemNames>
<instanceNames>
<instance>
<instanceName>martell.ind.hp.com</instanceName>
<graphParameters>
<systemNames>
<systems>
<systemName>16.184.47.225</systemName>
```

```
<port>8444</port>
</systems>
<systems>
<systemName>martell.ind.hp.com</systemName>
</systems>
</systemNames>
<instanceNames>
<instance>
<instanceName>martell.ind.hp.com</instanceName>
```

- Rest API を使用した vPV サーバへのクエリによりメタデータが正常に返されたかどうかを確認します。

```
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:loadMeta() -> In
loadMeta - The selected CI id c751a5dccc27daafd9922abcae1580b4
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:loadMeta() -> The
selected CI type unix
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:loadMeta() -> The
selected CI Name syspulsevm200.ind.hp.com
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:loadMeta() -> The
selected CI's Server Name 16.184.47.225
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:loadMeta() -> The
selected CI's Server Port 8444
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getRestOutputData()
-> The rest url
https://16.184.47.225:8444/PV/api/v1/loadmeta?name=syspulsevm200.ind.hp.com&typ
e=unix&context=PMI
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:queryRestAPI() ->
The response status code 200
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getRestOutputData()
-> Connection to vPV Rest url is success
```

- Rest API を使用したクエリが失敗すると、ログ・ファイルに次のエラーが含まれます。

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getRestOutputData() -> The
rest url
https://goldrch7vm8.ind.hp.com:8444/PV/api/v1/loadmeta?name=goldrch7vm7.ind.hp.
com&type=unix&context=PMI
com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:queryRestAPI() -> Error
occured while connecting to vPV rest url.
com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getRestOutputData() ->
Failed to get response from the vPV rest url with status code 0
com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:loadMeta() -> vPV Output
for the selected CI is null or empty
```

- URL を確認するには、OMi を起動するブラウザと同じブラウザで新しいタブを開きます。新しいタブに URL をコピーして実行します。

8. 有効な JSON 応答を取得する必要があります。

9. Rest API からのクエリにより vPV サーバからデータが正常に返されたかどうかを確認します。

```
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getDataRows() -> In
GetDataRows
```

```
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getDataRows() ->
Instance Full Name 16.184.47.225/VCENTER_HOST__2
```

```
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getDataRows() ->
Instance Name VCENTER_HOST__2
```

```
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getRestOutputData()
-> The rest url
```

```
https://16.184.47.225:8444/PV/api/v1/getdatarows?instanceId=VCENTER_HOST__
2&className=VCENTER_
HOST&metrics=CPUPhysTotalUtil&summarizeMins=5&startEpochMillis=1448321439000&en
dEpochMillis=1448364639000
```

```
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:queryRestAPI() ->
The response status code 200
```

```
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getRestOutputData()
-> Connection to vPV Rest url is success
```

```
INFO : com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getDataRows() -> Get
data rows row count 143
```

10. OMi を起動するブラウザと同じブラウザで新しいタブを開きます。新しいタブに URL をコピーして実行します。有効な JSON 応答を取得する必要があります。

11. vPN 内で設定された initstring が正しくない場合、ログ・ファイルに次のような例外が含まれます。

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getRestOutputData() -> The
rest url
```

```
https://goldrch7vm8.ind.hp.com:8444/PV/api/v1/loadmeta?name=goldrch7vm7.ind.hp.
com&type=unix&context=PMI
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:queryRestAPI() -> Error
occured while connecting to vPV rest url.
```

```
com.hp.pm.core.adapter.metric.AbstractMetricAdapter:getRestOutputData() ->
Failed to get response from the vPV rest url with status code 401 (forbidden
access)
```

12. SSO(シングル・サインオン)が vPV サーバ内で OMi と同様に適切に設定されているかどうかを確認します。

13. OMi で、[管理]>[ユーザ]>[認証管理]>[シングルサインオン構成]をクリックします。

14. トークン作成キー(initString)があるかどうかを確認します。vPV サーバ・マシンにログオンし、次の場所

```
/opt/OV/www/webapps/PV/WEB-INF/classes/lwssofmconf.xml
```


第20章: OMi 状況ステータス

[OMi 状況ステータス]タブには、OMi デプロイメントの状況情報が表示されます。OMi では、効率的な運用を行うために、そのコンポーネントの状況が追跡され、問題が報告されます。これにより、是正処置や予防処置を講じることができます。

[OMi 状況ステータス]には、OMi 自己監視コンポーネントの状況ステータスを提供する表示枠、関連イベントのリストを表示する表示枠、選択したオブジェクトの状況ステータスがビューの関連オブジェクトの状況にどのように影響するかを示す表示枠があります。

• 監視ダッシュボード - OMi 状況ステータス

各 OMi オブジェクトの状況ステータスの表示では、簡易ステータス、円、履歴の各ウィジェットを使用します。各ウィジェットは、状況関連の情報が表示される OMi 領域を参照したり、すべての自己監視オブジェクトの全体的な状況ステータス・サマリを提供したりします。

ウィジェットでは、最も致命的なイベントの重要度を反映した色分け表示(たとえば、重要度が危険域の場合は赤)により、監視対象の領域のステータスを迅速に判断できます。重要度ごとのイベントの数も表示されます。

各ウィジェットはイベント・フィルタやビューを参照し、フィルタの基準に一致し、参照ビューに含まれている構成アイテムに関連しているイベントのステータスのみを表示します。ウィジェットをクリックすることで、関連する OMi 自己監視領域に関する情報がイベント・ブラウザとトップ・ビュー・コンポーネントに渡されます。そのため、イベント・ブラウザには、一致するイベントのみが表示され、トップ・ビューには、ウィジェットに関連付けられているビューが表示されます。

ウィジェットと監視ダッシュボードの詳細については、「[監視ダッシュボード](#)」(233ページ)を参照してください。

次のウィジェット・グループは、[OMi 状況ステータス]監視ダッシュボードの[OMi Server]自己監視領域に含まれます。

◦ イベント処理

このウィジェットには、イベント処理の状況に関するステータス情報が表示されます。多数の OMi ログ・ファイル(OMi Marble ステータス計算や OMi JMS バスのイベント・キューの処理のログ・ファイルなど)を監視します。イベント・ブラウザに表示されるイベントは、重要度 ERROR の監視対象ログ・ファイル・エントリに対して作成されます。

◦ Job Handling

このウィジェットには、デプロイメント・ジョブの状況に関するステータス情報が表示されます。イベント・ブラウザに表示される重要なイベントは、さまざまなジョブ・デプロイメントの問題(OMi サーバから監視対象ノードへのポリシー・テンプレートの転送の失敗や、ノードからサーバへの割り当て情報の転送の問題など)に関連する可能性があります。

◦ OMi Server Processes

このウィジェットには、OMi サーバ・プロセスの状況に関するステータス情報が表示されます。イベント・ブラウザに表示されるイベントは、OMi Nanny プロセス・ログ・ファイルを監視したり、Nanny プロセス自体が起動して実行されているかどうかを監視したりすることで生成されます。

注: OMi Nanny プロセスは、OMi システムで実行されているすべてのプロセスを監視します。

OMi プロセスが失敗すると、Nanny はこのプロセスを自動的に再起動し、この情報を個別のログ・ファイルに記録します。

- **OMi Server Infrastructure**

このウィジェットには、OMi サーバ・インフラストラクチャの状況に関するステータス情報(ディスクIO 操作やシステムの領域使用率を監視することで生成される)が表示されます。

[**OMi サーバ**]の横にあるステータス・インジケータは、関連するウィジェットで表示されるすべてのステータスを統合します。最も重要なステータスが全体的なステータスとして反映されます(ある領域で重要な問題が検出がされた場合、そのインジケータの色が赤に変わります)。

次のウィジェット・グループは、[OMi 状況ステータス]監視ダッシュボードの[**Operations Agent**]自己監視領域に含まれます。

- **Agent Health**

このウィジェットには、HPE Operations Agent の状況に関するステータス情報が表示されます。イベント・ブラウザに表示されるイベントは、エージェントによって送信される内部メッセージから生成されます(イベントには、エージェントの通信の問題や失敗したプロセスが含まれる場合があります)。

- **Agent Connectivity**

このウィジェットには、HPE Operations Agent の接続ステータスに関する情報が表示されます。[イベント・ブラウザ]に表示されるイベントは、エージェントのハートビート・チェックに関連しています。設定した間隔内にエージェントからハートビート・イベントが送信されない場合、問題が発生したことを示すイベントが作成されます。

[**履歴**]グラフは、重要度および時間ごとのイベントの数を表示するステータス・トレンド・ウィジェットです。

[**全体**]グラフは、一定期間に発生したすべてのイベントの重要度の概要が表示される円グラフ・ウィジェットです。これは、色付けされたステータスのスライスに分けられ、各スライスは、[危険域]、[注意域]、[正常域]の状態のイベントの数を表します。

注: [Monitoring Dashboard - OMi Health Status]で選択したウィジェットにより、イベント・ブラウザに表示されるイベントやトップ・ビューとして選択されるビューが決まります。

- **イベント・ブラウザ**

OMi 自己監視環境で発生するイベントの詳細な概要を表示します。イベントのリストは、[Monitoring Dashboard - OMi Health Status]のウィジェットの選択に基づいて、動的に更新されます。詳細については、[「イベント・ブラウザ」\(28ページ\)](#)を参照してください。

- **Top View**

[**イベント ブラウザ**]表示枠に表示されるイベントの影響を受ける構成アイテム(CI)のトポロジ・ビューが表示されます。ビューには、監視オブジェクトであるCI間の関係が示され、それらの現在の状況ステータスが示されます。トップ・ビューに表示されるオブジェクトの色は、そのオブジェクトの最も重要なステータスが反映されます。少なくとも1つの重要な問題が検出されると、全体的なCIが赤でマークされます(使用される色はビューでの設定によります。たとえば、[正常域]の状態に緑を、[危険域]の状態に赤を設定できます)。

OMi 自己モニタリングと統合される2つのビューは、[**OMi Deployment**]と[**OMi Deployment with Operations Agent**]です。

トップ・ビューの詳細については、[「トップ・ビュー・コンポーネント」\(163ページ\)](#)を参照してください。

注: [OMi 状況ステータス] タブのすべての表示枠のサイズは手動で変更できます。[展開] ボタンおよび[折りたたみ] ボタンを使用して、表示形式を定義済みの設定に変更したり、新しいウィンドウで各表示枠を開いたりできます。

ドキュメントのフィードバックの送信

このドキュメントに関するご意見は、電子メールで[ドキュメント・チーム](#)までお寄せください。このシステムで電子メール・クライアントが設定されている場合、上記のリンクをクリックすると、件名の行に次の情報を含む電子メール・ウィンドウが開きます。

OMi ユーザ・ガイド (Operations Manager i 10.10)に関するフィードバック

フィードバックを電子メールに追加し、[送信]をクリックしてください。

電子メール・クライアントを使用できない場合は、上記の情報を Web メール・クライアントで新しいメッセージにコピーし、フィードバックを ovdoc-asm@hpe.com に送信してください。

ご意見ありがとうございます。



Go OMi!